

講義科目名称： 心理学

授業コード： 1S001

英文科目名称： Psychology

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
伊藤 栞			

授業形態	講義（一部ワークやグループワークを行う）	担当者
授業計画	<p>第1回</p> <p>心理学の歴史と方法 心理学の歴史と研究方法について学び、本講義の到達目標について展望する。 key words：哲学における心理学、実験心理学の始まり（ヴント）、ヴント批判（ゲシュタルト心理学、行動主義、精神分析）</p>	伊藤 栞
	<p>第2回</p> <p>脳と心理学 脳科学と心理学は密接な関係にある。本講義では、心の働きの基盤となる脳と神経の基礎的な仕組みと働きについて学習する。 key words：人間の脳の構造、脳の働き、睡眠</p>	伊藤 栞
	<p>第3回</p> <p>発達1 年齢によって人間の一生を大まかに分け、それぞれの区分における特徴や変化に焦点を当てて、これらの方向性や順序性を明らかにしていく心理学の分野は「発達心理学」とよばれている。本講義では、身体的な発達、認知的な発達について学ぶ。 key words：感覚機能の発達、運動機能の発達、認知的な発達（ピアジェ理論）</p>	伊藤 栞
	<p>第4回</p> <p>発達2 年齢によって人間の一生を大まかに分け、それぞれの区分における特徴や変化に焦点を当てて、これらの方向性や順序性を明らかにしていく心理学の分野は「発達心理学」とよばれている。本講義では、心理社会的な発達について学び、生涯発達についての理解を深める。 key words：心理社会的な発達（エリクソンの理論）、生涯発達心理学</p>	伊藤 栞
	<p>第5回</p> <p>感覚と知覚 人間が外界に適応した行動をとるためには、外界を理解する必要がある。本講義では、我々が外界の情報を受容し、それを利用する手段である感覚と知覚について学ぶ。 key words：感覚、視知覚、錯覚</p>	伊藤 栞
	<p>第6回</p> <p>学習 一般に学習というと、学校における教科学習を想像するが、心理学において学習とは「経験によって生ずる行動の変容」と定義される。本講義では、行動主義が提唱した学習原理を概観する。 key words：古典的（レスポナドント）条件づけ（パブロフ）、オペラント条件づけ（スキナー）</p>	伊藤 栞
	<p>第7回</p> <p>記憶 私たちは一生の間に数多くの様々な事柄を自らの記憶にとどめ、時に応じてそれらを思い出す。しかしながら、思い出そうとして思い出せないことや、忘れようとしても忘れられないことも多くある。本講義では、心理学における記憶の知見について学ぶ。 key words：記憶のしくみ、記憶の種類、記憶の多重貯蔵モデル、記憶の障害</p>	伊藤 栞
	<p>第8回</p> <p>言語と思考と知能 人は思考し、言語を生産する。私たちの日常的な思考においては、言語の役割は非常に大きく、言語はより抽象的な思考を可能にする。本講義では、言語心理学や思考の方法、知能について学ぶ。 key words：言語発達、問題解決、意思決定、知能</p>	伊藤 栞
	<p>第9回</p> <p>パーソナリティ 私たちはそれぞれ、他の人とは違うその人らしい考え方、感じ方、そして行動の仕方（行動様式）を持っている。このような考え方や行動の仕方は、時や場所のような状況を越えて、比較的一貫し、安定している。このことから、私たちには、このような個人の独自性と統一性をもたらすものが存在すると考えられ、それは「パーソナリティ」とよばれる。本講義では性格の代表的な理論である類型論と特性論について学ぶ。講義の後半では、臨床の現場で用いられる性格検査を体験する（予定）。 key words：類型論、特性論、性格の5因子モデル、パーソナリティ検査の信頼性と妥当性</p>	伊藤 栞

	<p>第10回 感情・情動と動機づけ 私たちが行動を起こそうとするとき、そこには感情や動機（づけ）が関わっている。本講義では、感情・情動と動機づけの諸理論について学ぶ。 key words：感情と情動，古典的な感情理論，現代の感情理論，動機づけと欲求，欲求階層説</p> <p>第11回 対人関係と集団1 人は生きていく中で、様々な他者と出会い、交流しながら関係を築いていく。人間は本質的に一人では生きていくことのできない存在だからである。しかし、他者とともにあることは、人生を豊かにする半面、様々な苦悩の源泉ともなる。本講義では、私たちが他者をどのようにとらえ、関わっているか、他者からどのような影響を受けているかを学習する。 key words：対人認知，対人感情，対人関係の成立基盤</p> <p>第12回 対人関係と集団2 人は生きていく中で、様々な他者と出会い、交流しながら関係を築いていく。人間は本質的に一人では生きていくことのできない存在だからである。しかし、他者とともにあることは、人生を豊かにする半面、様々な苦悩の源泉ともなる。本講義では、私たちが他者をどのようにとらえ、関わっているか、他者からどのような影響を受けているかを学習する。 key words：援助行動，攻撃行動，集団内過程・集団間過程</p> <p>第13回 異常 異常（abnormal）心理学は、こころの異常現象の諸相とその成り立ちの解明を目的とするもので、精神病理学とほぼ同じ意味を持っている。本講義では、こころの病をもつ人において、その本質を理解するための異常心理学における現象について学ぶ。 key words：欲求・意思・行動の異常，感情の異常，知覚・表象の異常</p> <p>第14回 健康 健康心理学では、健康に関連する様々なトピクスがある。本講義では、健康とストレスおよびパーソナリティとの関連について学ぶ。 key words：ストレスサー，ストレス反応，ストレスコーピング，タイプA，タイプB，タイプC</p> <p>第15回 心理学の社会的展開 これまで様々な心理学の知見や研究について学んできた。本講義では、心理学の知見や技術を社会でどのように実践、活用しているのか学ぶ。 key words：チーム医療，障害者福祉，心の健康教育，少年院，ストレスチェック制度</p>	<p>伊藤 栞</p> <p>伊藤 栞</p> <p>伊藤 栞</p> <p>伊藤 栞</p> <p>伊藤 栞</p> <p>伊藤 栞</p>
科目の目的	心理学を学ぶことにより、社会を見つめる感性や現代を生きる人間としての生き方について考える力を養う。自己および他者への理解を深め、社会の中で適応的に生活するために必要な心理学の知識を身に付けることを目的とする。 ディプロマポリシー：【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】	
到達目標	1. 心理学諸理論による人間理解を深めるとともに自分について振り返る。 2. 心理学的援助の概要と方法について理解し、自らの専門分野に活かす。	
関連科目	【教養・共通基盤科目群】教育学，教育心理学，生命倫理，哲学，人間と宗教，家族社会学，生活文化と医療，人口知能・ロボットと社会，人間関係・コミュニケーション論，基礎統計学，情報処理，情報リテラシー，データサイエンス入門，大学の学び入門，大学の学びー専門への誘いー，多職種理解と連携 【専門基礎科目群】医学概論，基礎生理学，小児科学，精神医学，リハビリテーション医学，言語医学，聴覚医学，臨床心理学，生涯発達心理学，学習・認知心理学，心理測定法，言語学，聴覚心理学，言語発達学，チーム医療とリハビリテーション，地域社会学 【専門科目群】地域リハビリテーション学，失語症学，高次脳機能障害学，失語・高次脳機能障害評価法，失語・高次脳機能障害支援論，言語発達障害学，言語発達障害評価法，言語発達障害支援論	
成績評価方法・基準	定期試験（レポート形式・70％）に毎回の講義後に作成する小レポート等の評価（30％）を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	教科書の授業に関連するトピックについて読み、どのような内容について学ぶのか事前におさえておく。不明な点や気になる点があれば、授業時に理解がすすむようにノートなどにまとめるなど準備をしておく。予習時間は4時間程度。	
教科書	繁枘算男（2018）「公認心理師の基礎と実践2 心理学概論」遠見書房	
参考書	内山靖・藤井浩美・立石雅子（編）（2020）リハベーシック心理学・臨床心理学 医歯薬出版	
オフィス・アワー	講義後の教室において、もしくは事前にe-mailで予約のうえ、随時対応します。	
国家試験出題基準	なし	
履修条件・履修上の注意	講義中の私語，スマートフォン・携帯電話の使用，講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や、それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ、その回の講義の出席を認めない場合もあります。	
アクティブ・ラーニングの実施	実施する	

ナンバリング

SBa-101

講義科目名称： 教育学

授業コード： 1S002

英文科目名称： Education

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
安藤 哲也			

授業形態	講義（グループディスカッション、グループワーク等を含みます） 15回		担当者
授業計画	第1回	なぜ「教育学」を学ぶのか？ 本講義の目的、展開予定、受講上の注意に関する説明と本講義の到達目標の展望。 自分にとって教育学を学ぶことの意味について考える。	安藤哲也
	第2回	教育とは？ 先人(大村はま、斎藤喜博、東井義雄)の教育観や教育実践を知り、自身が経験してきた教育を振り返ることを通して、教育の在り方について考える。	安藤哲也
	第3回	戦後日本の学校教育 学習指導要領の変遷を基に、改訂当時の社会状況などを知ることを通して、それぞれの時期に目指した学校教育の有り様の背景について考える。	安藤哲也
	第4回	現在の学校教育が目指すもの 近年の中教審答申や学習指導要領を基に、自身が経験した教育内容を振り返ることを通して、現在の学校教育が目指す教育の有り様について考える。	安藤哲也
	第5回	世界の教育思想Ⅰ ※提出課題あり 代表的な先人(コメニウス、ロック、ルソー)の教育思想について調べ、交流することを通して、社会の有り様と教育との関連や現代の教育との関連について考える。 提出された課題は、学習資料として全体で共有し、学びを広げる。	安藤哲也
	第6回	世界の教育思想Ⅱ ※提出課題あり 代表的な先人(ペスタロッチ、ヘルバルト、デューイ)の教育思想について調べ、交流することを通して、社会の有り様と教育との関連や現代の教育との関連について考える。提出された課題は、学習資料として全体で共有し、学びを広げる。	安藤哲也
	第7回	潜在的なカリキュラムとは？ 複数の事例を基に潜在的なカリキュラムが及ぼす影響について考えることを通して、教育行為の基盤となるものにまで視野を広げる。	安藤哲也
	第8回	子どもの思いに基づく教育 子どもの自発性や主体性を大切にする幼児教育に焦点を当て、その基本を理解することを通して、自身の専門領域における指導の在り方を考える。	安藤哲也
	第9回	子どもの思いを理解する ビデオ映像を基に、一連の保育場面における子どもの思いを読み取ることを通して、子ども理解の方法とその重要性について具体的に考える。	安藤哲也
	第10回	子どもの思いを指導に活かす ビデオ映像を基に、子どもの思いを環境構成や保育者の関わり方に重ね合わせることを通して、子どもへの指導の在り方を具体的に考える。	安藤哲也
	第11回	活動を通して学ぶということ 自身の学校経験を振り返るとともに、特別活動を具体的に体験することにより、活動を通して学ぶことの意義を見出す。	安藤哲也
	第12回	集団で活動することの意義 小集団での活動を具体的に体験することにより、特別活動を指導する上で重要視する3つの視点から、子どもにとっての困難さや意義について考える。	安藤哲也
	第13回	特別活動で何を育てるのか？ 特別活動を具体的に体験し、活動を通しての学びを実感することにより、教師の視点から特別活動の意義や指導の在り方を考える。	安藤哲也
	第14回	チームの重要性 前回までの活動に基づくカンファレンスを通して、教職員同士の協働性や同僚性、学び合いの大切さについて考える。	安藤哲也
	第15回	「教育学」をどう活かすか？ ※課題レポートあり 「教育学」で得た学びの活かし方に関する考えを交流することを通して、自身のキャリア形成について幅広い視野から考えを深める。	安藤哲也

科目の目的	学校教育を中心とした自身の教育経験を対象化し、教育内容や教育方法、教師の資質などについて、幅広い視点から振り返り、具体的に考察することを通して、対人援助職に共通して必要となる知識を見出すことを目的とします。【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】
到達目標	本授業で得た教育に関する学びを自身の専門領域に引き寄せ、何を、どのように活かせるかについて考えを深め、自分の言葉で述べるができる。
関連科目	教育心理学
成績評価方法・基準	①毎回の授業で使用するワークシートの内容（課題解決過程や振り返りの内容）と②課題レポートの内容を総合して評価します。配点は、①が70%、②が30%です。 ①は、毎回のめあてに近づく思考がなされているか、鍵概念を理解できているかという観点で評価します。そして、次回の授業の冒頭で、参考例を示しつつ評価の観点から解説を行い、個々の学びを深めていきます。 ②は、本授業のまとめとして作成し、本授業での学びを自分の将来像(生き方)に意味付けているかという観点で評価します。第15回に他者と交流することを通して、幅広い視点から自分の学びを見つめ直します。その上で、評価の観点に基づいたコメントを付し、個々に返却します。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前に配布する講義資料を基に予習をするとともに、授業中に記述したワークシートを基に復習をしましょう。予習・復習に必要な時間の目安はそれぞれ90分程度です。
教科書	教科書は使用しません。必要な資料は適宜配布します。
参考書	参考書は授業内で適宜、紹介します。
オフィス・アワー	授業の前後(場所:非常勤講師室)でお願いします。
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	講義で使用する資料は、原則として前回授業の翌日にActive Academyにより事前配布します。各自、事前に取得しておいて下さい。
アクティブ・ラーニングの実施	グループディスカッション、グループワーク等
ナンバリング	SBa-102

講義科目名称： 教育心理学

授業コード： 1S003

英文科目名称： Educational Psychology

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
伊藤 栞			

授業形態	講義（一部、ワークを実施する予定である）	担当者
授業計画	<p>第1回 教育心理学を学ぶ意義 教育心理学とは何かについて学び、本講義の到達目標について展望する。 key words：教育心理学</p>	伊藤 栞
	<p>第2回 発達1 教育心理学の枠組みのもと、発達について概観する。本講義では、定型発達の内容について詳しく知り、発達の特徴を考慮した上での医療従事者としての具体的な関わりについて考える。 key words：こころの発達理論、アンとサリーの課題</p>	伊藤 栞
	<p>第3回 発達2 本講義では、エリクソンの発達課題について学ぶ。さらに、自分史グラフを作成することによって、自らの発達の過程を振り返り、これまでの成長において周囲の援助があったことを再確認するとともに、周囲の人への感謝の気持ちを確認する。 key words：心理社会的発達理論（エリクソンの発達課題）、自分史</p>	伊藤 栞
	<p>第4回 記憶に残る知識をつくるには 心理学における記憶の知見について学ぶ。そのうえで、記憶に残る知識をつくるためのアプローチについて検討を行う。 key words：展望記憶、エビングハウスの忘却曲線</p>	伊藤 栞
	<p>第5回 学習内容の理解と応用 新しい知識を身につけるという意味での学習に関して、学習内容の理解とその応用のためにはどのようにアプローチすればよいか検討する。 key words：理解過程、自己学習力、メタ認知</p>	伊藤 栞
	<p>第6回 動機づけ 心理学における動機づけの知見について学ぶ。そのうえで、学習を支えるための動機づけのためのアプローチ方法について検討する。 key words：欲求、動機、学習性無力感、自己効力感</p>	伊藤 栞
	<p>第7回 教育相談 教育相談について理解を深めるために、日本において教育相談に求められていること、教育相談と近接する支援活動との関係、教育相談の実施者と実施機関の概要について学ぶ。 key words：教育相談の目的、実施者・実施機関、対象となる人</p>	伊藤 栞
	<p>第8回 いじめの実情とその課題・支援 いじめの実情とその課題を知り、具体的な支援方法を検討する。 key words：現代のいじめの特徴、いじめに関連する要因、いじめの予防</p>	伊藤 栞
	<p>第9回 自傷・自死とその課題・支援 自傷・自死の実情とその課題を知り、具体的な支援方法を検討する。 key words：自傷・自殺の実態、自傷行為、自殺企図</p>	伊藤 栞
	<p>第10回 非行とその課題・支援 非行の実情とその課題を知り、具体的な支援方法を検討する。 key words：犯罪少年、触法少年、虞犯少年、再非行の防止、学校外所機関との連携</p>	伊藤 栞
	<p>第11回 児童虐待の種類と実情 児童虐待の実情とその課題を知り、具体的な支援方法を検討する。 key words：身体的虐待、性的虐待、心理的虐待、ネグレクト、虐待による心身への影響</p>	伊藤 栞
	<p>第12回 不登校とその課題・支援 不登校の実情とその課題を知り、具体的な支援方法を検討する。 key words：不登校の実態、不登校のタイプ、個別的要因、社会的要因</p>	伊藤 栞

	<p>第13回 発達障害 発達障害とは、脳機能に障害があり、その症状が通常低年齢において発現するものである。本講義では代表的な発達障害である自閉スペクトラム症、ADHD、学習障害の特徴について学び、各状態像が抱えやすい困難について検討を行う。加えて、二次的障害と言われる自己肯定感の低下、周囲の人への反発や攻撃も生じやすいことについて理解を深める。 key words：自閉スペクトラム症、ADHD、学習障害、二次的障害</p> <p>第14回 特別支援教育 特別支援教育に至る経緯について知る。発達障害だけではなく、医療的ケアの必要な子ども、また身体障害、身体疾患、いじめ、虐待等様々な配慮を必要とする子どもへの取り組みが、特別支援教育であることを知る。 key words：特別支援教育</p> <p>第15回 キャリア教育 キャリア教育では、一段と変化が増す環境の中で自立的に生きるため、従来に増して「生きる力」の育成が不可欠であるという価値観に立つ。キャリア教育についての理解を深める。 key words：キャリア教育、キャリア発達</p>	伊藤 栞
科目の目的	自分や周囲が体験してきた教育を振り返り、その心理的意味を考察することで、人間を理解し、人との関係の取り方や自分自身の有り様を見つめる。 ディプロマポリシー：【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	教育心理学の概要を自分および周囲の人々の体験から理解し、自分自身を考察し、他者との効果的な関係づくりを習得するとともに、支援の必要な子どものための援助方法について習得する。	
関連科目	【教養・共通基盤科目群】教育学、教育心理学、社会学、大学の学び入門、大学の学びー専門への誘いー、多職種理解と連携 【専門基礎科目群】臨床心理学	
成績評価方法・基準	定期試験（レポート形式・55%）に、毎回の受講後に作成する小レポートの評価（45%）を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習として、授業で扱うテーマについて事前に調べておく。復習として、授業後に学んだ知識の整理を行うとともに、日常生活で活かしてみる。（予習、復習ともに4時間程度）	
教科書	なし	
参考書	繁枅算男（2018）「公認心理師の基礎と実践2 心理学概論」遠見書房 ※科目「心理学」で使用する教科書	
オフィス・アワー	授業前後	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や、それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ、その回の講義の出席を認めない場合もあります。	
アクティブ・ラーニングの実施	実施する	
ナンバリング	SBa-103	

講義科目名称：健康スポーツ理論

授業コード：1S004

英文科目名称：Sports Science

対象カリキュラム：2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
衣川 隆			

授業形態	講義（14回）・演習（1回）	担当者
授業計画	第1回 健康管理概論 1. ヘルスプロモーション（健康づくり） 2. 予防医学 3. 生活習慣病（NCD）概論	衣川隆
	第2回 健康づくり施策概論 1. 健康日本21（2011）のこれまでの取り組み 2. 健康日本21（第二次）（2013）とは？ 1. 健康日本21（2011）のこれまでの取り組み 3. 日常生活の歩数の増加 日常生活のなかで積極的に体を動かそう 4. ライフスタイルと生活習慣病	衣川隆
	第3回 生活習慣病（NCD） 1. メタボリックシンドローム 2. 高血圧 3. 糖尿病 4. ロコモティブシンドローム 5. 悪性新生物（がん） 6. 認知症	衣川隆
	第4回 運動生理学 1. 呼吸・循環器系と運動 2. 脳・神経系と運動 3. 骨格筋系と運動	衣川隆
	第5回 機能解剖学 1. ハムストリングスの肉離れ ～アスリートを悩ます重大な障害～ 2. 筋肉の種類や分類法	衣川隆
	第6回 健康づくり運動の理論（トレーニングと筋肥大・栄養・骨） 1. 体力トレーニングの原理と原則 2. 強度の条件（主にコンセントリック） 3. 筋トレセット間の休憩時間 4. 筋力トレーニングと栄養（トレーニング50対栄養50） 5. 骨について	衣川隆
	第7回 健康づくり運動の理論（ストレッチ） 1. ストレッチングの種類は大きく分けて2種類	衣川隆
	第8回 スポーツ障害と予防健康管理概論 1. スポーツ障害とは	衣川隆
	第9回 体力測定と評価 1. 体組成とは	衣川隆
	第10回 運動プログラムの実際 1. 健診結果と特定保健指導の基準値 2. メディカルチェック	衣川隆
	第11回 運動と心の健康増進 1. 喫煙とメンタルヘルス、運動 2. 多くの現代人を悩ませる「睡眠負債」とは？	衣川隆
	第12回 栄養摂取を考察する 1. 栄養素の種類と働きを考察する	衣川隆
	第13回 健康についての雑学（食事・栄養） 1. ダイエットに関する情報 2. 危険な4つの食べ物	衣川隆
	第14回 健康についての雑学（心・体） 1. 健康とこころ（心理学に学ぶ） 2. アナトミートレイン 3. その他	衣川隆

	第15回 スポーツ小テスト 1. 授業中に課題を出した柔軟性的小テスト（昨年度は前屈ストレッチング）を実施する 小テストの評価は、総合評価10/100とする 小テストの評価ポイントとして、広義には柔軟性であるが狭義には講義中に説明する	衣川隆
科目の目的	<p>「健康と運動」、「老化と運動」に関しその維持と増進方法について、なぜ運動が重要なのかを学ぶ。特に有酸素運動と筋トレの効果は、心肺機能、呼吸器の向上、筋力の向上と筋肥大だけでなく、肥満防止や生活習慣病の予防・改善、姿勢の改善、高齢者生活の障害を低減すること等を説明する。本講義では有酸素運動や、筋力トレーニングを体験しながらその効果をも医療従事者として、地域社会に発信できるよう基礎を学ぶ。</p> <p>またスポーツを行なうことや、その能力を高めることに心の問題は切り離せない。本講義では、スポーツ心理学の概要と自己の目標設定の考え方、情動の自己コントロールについて振り返り、起こり得る問題の対策を学習する。そして生涯にわたって専門分野を探求し、その発展に貢献できるよう考え方を学ぶ。</p> <p>【コミュニケーション能力】【論理的思考・多様性理解】【知的探求心と創造性】【社会に貢献する能力】</p>	
到達目標	「健康と運動」、「老化と寿命」等に関しその維持と増進方法について考えるにあたって、日常生活とスポーツ、機能的な筋力トレーニングやストレッチの方法を理解し、自発的に生涯に渡ってスポーツに取り組む心を身に付ける。またスポーツ心理学において、自己の目標設定と情動の自己コントロールを中心に学び、知識・行動を身に付ける。	
関連科目	健康スポーツ実技	
成績評価方法・基準	<p>定期試験（90%）、授業内的小テスト（10%）</p> <p>定期試験は100点満点で実施するが90点満点に換算。授業内的小テストは1回実施して10点満点とする。</p> <p>定期試験は講義で学んだ中から実施する。</p> <p>小テストは講義中に課題として出した柔軟性的小テスト（昨年度は前屈ストレッチング）を実施する。</p> <p>小テストの評価ポイントとして、広義には柔軟性であるが狭義には講義中に説明する。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1日（24時間）の生活リズムにおいての、自分自身の健康や体力、栄養について管理をしておくこと。よって1日1回はどこかで運動を行い、食事についてもタイミングと栄養について考えてもらいたい。	
教科書	アクティブアカデミーにて授業資料を配布します。	
参考書	<p>「トレーニング：健康・スポーツ科学講義 第2版」出村慎一監修 杏林書院</p> <p>「これから学ぶスポーツ心理学」荒木雅信監修 大修館書店</p>	
オフィス・アワー	講義室または体育棟で、講義の前後10分、お昼休み時間10分。	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	<p>正しい知識の修得ではなく、正解のない議論（課題）を通して問題解決へのアプローチ方法を身につける。</p> <p>具体的には、以下のことを講義に取り入れていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生は、授業を聞く以上の関わりをしていること 2. 学生は高次の思考（分析、総合、評価）に関わっていること 3. 学生が自分自身の態度や価値観を探求することに重きが置かれていること 4. 問題解決のために知識を使ったり、人に話したり書いたり発表したりすること 	
ナンバリング	SBa-104	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
衣川 隆			

授業形態	実技	担当者
授業計画	第1回 オリエンテーション アクティブ・ラーニングの実施説明する。 オリエンテーションと班編成&トレーニングの説明。	衣川隆
	第2回 球技・トレーニング 基礎体力作り：肩関節、股関節のベーシックストレッチング。このストレッチングは毎回実施するため、最終日の股関節ストレッチングポーズにつなげることを説明する。また前期の健康スポーツ理論の講義にも出てきた生涯にわたって正しい姿勢やスポーツ競技の向上、障害予防にも繋がるストレッチングである旨説明する。 班対抗戦：バレーボール。バレーボールは競技年数や運動能力においても差が出やすいスポーツであるため、ローカルルールを検討して競技を進めていく。その後も問題解決を急いだほうが良い場合には、試合中でも直ちにローカルルールを再度検討していく。バレーボール経験者や経験の浅い学生でも、だれもが楽しくスポーツを行うように検討していく。	衣川隆
	第3回 球技・トレーニング 基礎体力作り：肩関節、股関節のベーシックストレッチングとそれらを活用した、回内回外ストレッチングを行う。股関節のストレッチング効果も期待できる四股踏みも行う。 班対抗戦：バスケットボール。バスケットボールは接触プレーも多く、男女間の体格の差によってプレーにも差が出たりけがをする可能性もあるため、ローカルルールを検討して競技を進めていく。その後も問題解決を急いだほうが良い場合には、試合中でも直ちにローカルルールを再度検討する。バスケットボール経験者や経験の浅い学生でも、だれもが楽しくスポーツを行うように検討していく。	衣川隆
	第4回 体力測定記録会 体力測定記録会の種目（長座体前屈、握力、背筋力、立ち幅跳び、反復横跳び、プッシュアップ30秒、ボール投げ、上体起こし、20m）。 体力測定記録会は小テストになる。小テストの評価は、総合評価10/100とする。小テストの評価ポイントとして、記録会の成績を自己分析したレポートを提出する。 広義には「健康とスポーツ」であるが狭義には講義中に説明する。	衣川隆
	第5回 球技・トレーニング 基礎体力作り：肩関節、股関節のベーシックストレッチングとそれらを活用した、ペアで行うストレッチングをする。具体的に胸郭の柔軟性が肩関節にも影響を及ぼすことを理解できるストレッチングを行う。 班対抗戦：バドミントン。バドミントンは、老若男女において取り組みやすいスポーツであるため、生涯にわたって行っていくかのせいもあるスポーツである。授業でバドミントンを行うにあたって、学生たちの人数に対して試合場所が十分でない可能性もあるため、その中でローカルルールを検討して競技を進めていく。その後も問題解決を急いだほうが良い場合には、順次にローカルルールを再度検討する。バドミントン経験者や経験の浅い学生でも、だれもが楽しくスポーツを行うように検討していく。	衣川隆
	第6回 球技・トレーニング 基礎体力作り：肩関節、股関節のベーシックストレッチングとそれらを活用した、CKC（クローズキネティックチェーン）トレーニングをする。多関節筋との関係を説明する。 班対抗戦：フットサル。フットサルは接触プレーも多く、男女間の体格の差によってプレーにも差が出やすい。また強く蹴ったりするとけがをする可能性もあるため、ローカルルールを検討して競技を進めていく。その後も問題解決を急いだほうが良い場合には、試合中でも直ちにローカルルールを再度検討する。フットサル経験者や経験の浅い学生でも、だれもが楽しくスポーツを行うように検討していく。	衣川隆
	第7回 球技・トレーニング 基礎体力作り：肩関節、股関節のベーシックストレッチングとそれらを活用した、バックライン（アナトミートレイン）のストレッチングを行う。 班対抗戦：バレーボール。バレーボールは競技年数や運動能力においても差が出やすい。2回目のバレーボールで班の中でコミュニケーションも向上していると思われるため、競技型で試合で行うか楽しみ型で試合を行うのか検討する。その中で更にローカルルールを検討して競技を進めていく。 バレーボール経験者や経験の浅い学生でも、だれもが楽しくスポーツを行うように検討していく。	衣川隆

第8回	<p>球技・トレーニング 基礎体力作り：肩関節、股関節のベーシックストレッチングとそれらを活用した、体幹トレーニング①を行う。野球の投球、バレーボールのアタックやサーブ、テニス・バドミントンのサーブ等は体幹と上腕の運動連鎖であることを説明しながら行う。</p> <p>班対抗戦：バスケットボール。バスケットボールは接触プレーも多く、男女間の体格の差によってプレーにも差が出たりけがをする可能性もある。2回目のバスケットボールで班の中でコミュニケーションも向上していると思われるため、競技型で試合で行うか楽しみ型で試合を行うのか検討する。その中で更にローカルルールを検討して競技を進めていく。</p> <p>バスケットボール経験者や経験の浅い学生でも、だれもが楽しくスポーツを行うように検討していく。</p>	衣川隆
第9回	<p>球技・トレーニング 基礎体力作り：肩関節、股関節のベーシックストレッチングとそれらを活用した、ペアで行うストレッチングをする。具体的に股関節の柔軟性と回内回外を連動させたペアストレッチングはどのような影響を及ぼすのかを体験する。</p> <p>班対抗戦：バドミントン。授業でバドミントンを行うにあたって、学生たちの人数に対して試合場所が十分でない可能性もあるため、その中でローカルルールを検討して競技を進めていく。2回目のバドミントンで班の中でコミュニケーションも向上していると思われるため、前回と異なる練習方法（攻撃型や守り型）を検討する。</p> <p>バドミントンは、生涯にわたって取り組みやすいスポーツなので、未経験者も楽しくスポーツを行うように検討していく。</p>	衣川隆
第10回	<p>心肺持久力記録会 20mシャトルランを実施する。この心肺持久力記録会は小テストとする。心肺機能や走力の向上を図るとともに、有酸素運動とATPの関係も学ぶ。</p>	衣川隆
第11回	<p>球技・トレーニング 基礎体力作り：基礎体力作り：肩関節、股関節のベーシックストレッチングとそれらを活用した、反応トレーニングやスピードトレーニングを行う。</p> <p>班対抗戦：フットサル。フットサルは接触プレーも多く、男女間の体格の差によってプレーにも差が出やすい。また強く蹴ったりするとけがをする可能性もある。2回目のフットサルで班の中でコミュニケーションも向上していると思われるため、競技型で試合で行うか楽しみ型で試合を行うのか検討する。その中で更にローカルルールを検討して競技を進めていく。</p> <p>フットサル経験者や経験の浅い学生でも、だれもが楽しくスポーツを行うように検討していく。</p>	衣川隆
第12回	<p>球技・トレーニング 基礎体力作り：基礎体力作り：肩関節、股関節のベーシックストレッチングとそれらを活用した、地面反発トレーニングを行う。そこに肩甲骨の動きや母指球の動きも意識させて行う。</p> <p>班対抗戦：バレーボール。3回目のバレーボールで班の中でコミュニケーションも更に向上していると思われる。授業の中では最後のバレーボールになることを鑑み、どのような戦法で戦っていくのかを班の中で十分検討し試合に臨む。</p>	衣川隆
第13回	<p>球技・トレーニング 基礎体力作り：基礎体力作り：肩関節、股関節のベーシックストレッチングとそれらを活用した、ペアで行うぎっこんばったんストレッチングを行う。</p> <p>班対抗戦：バスケットボール。3回目のバスケットボールで班の中でコミュニケーションも更に向上していると思われる。授業の中では最後のバスケットボールになることを鑑み、どのような戦法で戦っていくのかを班の中で十分検討し試合に臨む。</p>	衣川隆
第14回	<p>球技・トレーニング 基礎体力作り：基礎体力作り：肩関節、股関節のベーシックストレッチングとそれらを活用した、全身の運動連鎖ストレッチングを行う。バックライン（アナトミートレイン）を中心に筋肉をマッサージしながら、次週がストレッチング小テストになるので、少し時間をかけて行う。</p> <p>班対抗戦：フットサル。3回目のフットサルで班の中でコミュニケーションも更に向上していると思われる。授業の中では最後のフットサルになることを鑑み、どのような戦法で戦っていくのかを班の中で十分検討し試合に臨む。</p>	衣川隆
第15回	<p>スポーツ小テスト 授業中に課題を出した柔軟性の小テスト（昨年度は股関節ストレッチングポーズ）を実施する。</p> <p>小テストの評価は、総合評価10/100とする。小テストの評価ポイントとして、広義には柔軟性であるが狭義には講義中に説明する。</p>	衣川隆
科目の目的	<p>運動やスポーツが得意な人もあまり得意でない人も、手軽にできるトレーニングやストレッチングを行い、体力をつけることを狙いとする。一人で簡単にできる筋力トレーニングやストレッチングを行って、少しずつ無理なく自分のペースでスポーツを楽しめるようにする。</p> <p>各種スポーツでの身体活動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、その保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活が送れるよう自覚を促す。スポーツを通して自己研鑽に励み、自ら疑問や課題を設定し、問題解決のために調査・検討・分析できる能力を身につける。</p> <p>各種室内での軽運動・スポーツ・トレーニング等に親しみ、積極的に参加し、将来健康で豊かなライフスタイルの形成を目指す。加えて、大学生活のスタート時が、より豊かで協同的な人間関係の構築と学生生活の充実の一助となるよう、そして多職種連携による問題解決の重要性の理解し、学生相互のコミュニケーションの学びを積み重ねた豊かで幅広い教養を身につける。</p>	

	【コミュニケーション能力】 【論理的思考・多様性理解】 【知的探求心と創造性】 【社会に貢献する能力】
到達目標	1. 健康と体力の重要性を理解し、維持向上をさせる。 2. 生涯にわたって健康と体力を維持向上するための知識・行動を身に付ける。 3. 自らの生活習慣を観察し、その問題点を把握して対策を立て心身の健康状態を整える。
関連科目	健康スポーツ理論
成績評価方法・基準	授業時間内の実技（80％）。小テスト（20％）。 実技の評価ポイントは、科目目的やアクティブラーニングに記載されていることが実施できているかを基準にする。 1回目の小テストの評価は、総合評価10/100とする。 小テストの評価ポイントとして、記録会の成績を自己分析したレポートを提出する。広義には「健康とスポーツ」であるが狭義には講義中に説明する。 2回目の小テストは、授業中に課題を出した柔軟性の小テスト（昨年度は股関節ストレッチングポーズ）を実施する。 小テストの評価は、総合評価10/100とする。小テストの評価ポイントとして、広義には柔軟性であるが狭義には講義中に説明する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1日（24時間）の生活リズムにおいて、心と体の健康管理と生活状況管理をしておくこと。よって1日1回は運動が出来るような生活リズムを心がけてほしい。
教科書	使用しない。
参考書	「トレーニング：健康・スポーツ科学講義 第2版」出村慎一監修 杏林書院 「運動学」伊東元 高橋正明編集 医学書院
オフィス・アワー	体育棟で授業の前後10分、お昼休み時間10分。
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	
アクティブ・ラーニングの実施	正しい知識の修得ではなく、正解のない議論（課題）を通して問題解決へのアプローチ方法を身につける。 具体的には、以下のことを講義に取り入れていく。 1. 学生は、授業を聞く以上の関わりをしていること 2. 情報の伝達より学生のスキルの育成に重きがおかれていること 3. 学生は高次の思考（分析、総合、評価）に関わっていること 4. 学生は活動（例：読む、議論する、書く）に関与していること 5. 学生が自分自身の態度や価値観を探究することに重きが置かれていること 6. 問題解決のために知識を使ったり、人に話したり書いたり発表したりすること
ナンバリング	SBa-105

履修条件・履修上の注意	授業開始時および授業中の私語禁止、授業中のスマートフォンおよび携帯電話の使用も禁止します。注意しても改善がみられない場合は退室を命じる場合があります。
アクティブ・ラーニングの実施	講義中の講師からの問いかけに答える、またディスカッションに参加するアクティブラーニングを実施。
ナンバリング	SBb-301

講義科目名称： 哲学

授業コード： 1S007

英文科目名称： Philosophy

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
赤羽 悠			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 イントロダクション 哲学とは何か 宗教と哲学	赤羽 悠
	第2回 古代哲学（1） 哲学と「対話」 【ソクラテス】	赤羽 悠
	第3回 古代哲学（2） 「真理」について考える 【プラトン／アリストテレス】	赤羽 悠
	第4回 古代哲学（3） 「生きる技術」を問う 【エピクロス派／ストア派】	赤羽 悠
	第5回 中世哲学 キリスト教と哲学 【トマス＝アキナスほか】	赤羽 悠
	第6回 近世・近代哲学（1） 「理性」について考える 【デカルト／スピノザ】	赤羽 悠
	第7回 近世・近代哲学（2） 「経験」について考える 【ロック／バークリー／ヒューム】	赤羽 悠
	第8回 近世・近代哲学（3） 「自律」について考える 【カント／ヘーゲル】	赤羽 悠
	第9回 近世・近代哲学（4） 「国家」について考える 【ホッブズ】	赤羽 悠
	第10回 近世・近代哲学（5） 「所有」について考える 【ロック】	赤羽 悠
	第11回 近世・近代哲学（6） 「社会契約」について考える 【ルソー】	赤羽 悠
	第12回 近代哲学の問い直し（1） 「真理」と「道徳」について問い直す 【ニーチェ】	赤羽 悠
	第13回 近代哲学の問い直し（2） 「意識」について問い直す 【フロイト／マルクス】	赤羽 悠
	第14回 現代哲学（1） 「全体主義」の経験から考える 【アーレント／フランクフルト学派ほか】	赤羽 悠
	第15回 現代哲学（2）／講義の総括 現代哲学のその後	赤羽 悠
科目の目的	哲学をすることは、日常からかけ離れた抽象的なことをあれこれ考えることではない。それは、身近な、しかし容易には答えの出ない問題を、普段よりもう一段掘り下げて考えてみることである。歴史上の偉大な哲学者が行ってきたことも、実はそのようなことにほかならない。この講義では、哲学者たちの思考の営みをたどりながら、受講者に、各々が生きていくなかで直面する問題を解きほぐすのに役立つ哲学的思考を身に着けてもらうことを目指す。	

	<p>講義は「授業計画」に従って進めるが、受講者の理解度・関心等をふまえて若干内容を変更する場 がある。また、基本的には古代から順を追って哲学の歴史を紹介していく形式をとるが、適宜、 現代の哲学者の議論や現代の問題も参照し、毎回ごとのテーマについて、受講者各人がじっくりと 考えられるような機会としたい。 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）における位置づけ：本科目は【基本的知識と技術】【コ ミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】に該当する。</p>
到達目標	<p>1. 歴史上の哲学者がどのような問いを立て、その問いにどのように取り組んできたのかを理解す る。 2. 1を通じ、哲学的に問いを立てることがどういうことかを学ぶ。 3. 以上を通じ、生きていくなかで直面する様々な問題に対処するにあたり必要とされる、哲学的 な思考を身に着ける。</p>
関連科目	<p>● 「人間と宗教」、「社会学」、「心理学」、「生命倫理」等の科目と関連を有する。</p>
成績評価方法・基 準	<p>● 期末筆記試験（論述）の成績による（100 %）。 ● 詳細については初回講義時に説明する。</p>
準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	<p>● 予習については特に求めない。講義の場で話を聞き、またそれについてその場で考えることに 集中してもらいたい。 ● 他方、授業後に内容を振り返り、扱われたテーマについて自分なりに考えをまとめる復習の作 業はおこなってほしい。そのために必要な学習時間については、概ね1時間程度を目安とする。</p>
教科書	<p>● 教科書は用いない。講義は講義資料（レジュメ）を配布し、それに基づいて行う。</p>
参考書	<p>● 竹田青嗣・西研編『はじめての哲学史』（有斐閣アルマ） ● 鷺田清一著『哲学の使い方』（岩波新書） ● その他の参考文献については、各回の講義の中で紹介する。</p>
オフィス・アワー	<p>● 講義の前後（場所：教室もしくは非常勤講師控室）</p>
国家試験出題基準	
履修条件・履修上 の注意	
アクティブ・ラー ニングの実施	実施なし
ナンバリング	SBb-201

講義科目名称： 現代文学

授業コード： 1S008

英文科目名称： Modern Literature

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
徳本 善彦			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 ガイダンス：「文学」とは何か 日本の近代化と「文学」について歴史的観点から学ぶ。</p> <p>第2回 文学テキストを（読む） 文学作品をテキストとして読む方法について、実践例を通して学ぶ。</p> <p>第3回 寺田寅彦「団栗」を読む 「写実」的な作品を通して、小説世界の時間・空間を整理し小説を立体的に読む。</p> <p>第4回 芥川龍之介「トロッコ」を読む 小説の物語的要素をとらえ、小説世界の構造を理解する。</p> <p>第5回 志賀直哉「焚火」を読む テキストをじっくり読むことで、ストーリーに頼らない小説の読み方を学ぶ。</p> <p>第6回 群馬県の作家：萩原朔太郎の詩を読む 日本の近代詩に多大な影響を与えた萩原朔太郎の詩を鑑賞する。</p> <p>第7回 川端康成「葬式の名人」を読む 小説に書かれた、言葉の身体／身体という言葉について考える。</p> <p>第8回 野上弥生子「茶料理」を読む ストーリーに抗って読むことで、小説の表現形式の特徴を理解する。</p> <p>第9回 小レポート：矢田津世子「茶粥の記」 矢田津世子「茶粥の記」を事前に読んだ上で、授業内小レポートに取り組む。</p> <p>第10回 解説：矢田津世子「茶粥の記」を読む 小レポートの講評と、課題小説の読解の一例を解説する。</p> <p>第11回 坂口安吾「アンゴウ」を読む 戦時下の出来事が戦後においてどのように語られるのか、短篇小説から読み解く。</p> <p>第12回 戦後詩を読む 『荒地』や『権』といった戦後の現代詩誌を中心に現代詩について学ぶ。</p> <p>第13回 石牟礼道子「死民たちの春」を読む 経済成長と公害、東京と地方など戦後社会の問題を文学を通して考える。</p> <p>第14回 古井由吉「祈りのように」を読む 小説の中でハッキリと語られないものについて、語りの形式に注目して読解する。</p> <p>第15回 村上春樹「アイロンのある風景」を読む とらえようのないものを比喩を通して語ること、災害と文学について考える。</p>	<p>徳本善彦</p>
科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文学作品を読み、不明な事柄を調べることで当時の時代状況や社会問題などを理解する。 2. テキストの中に問題を読み取り、深く考えることで筋道の通った読解を見出す。 3. 小レポートの作成を通して、自分の考察を論理的に表現する力を身につける。 <p>【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文学作品の書かれた当時の時代状況からの視点を体験することで、読む視点の複数性を理解する。 2. テキストの中に問題を見出すことを通して、情報を批判的に評価する読解力を養う。 3. 小レポート・期末レポートの作成に取り組むことで、自分の意見を客観的・論理的に表現する技術を身につける。 	
関連科目	芸術・哲学・社会学	
成績評価方法・基準	授業内小レポート（50%）、期末レポート（50%）。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前＝講義で使用するテキストを読み問題を整理する。（1.0時間） ・授業後＝授業内容の復習。（0.5時間） 	
教科書	教科書：使用しない（講義資料は1週間前を目処にActive Academyを通して配布します。各自で印刷して授業に持参して下さい）。	
参考書	斎藤美奈子『日本の同時代小説』（岩波新書、2018）。	
オフィス・アワー	授業の前後（非常勤講師室）。	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラー	実施なし	

ニングの実施	
ナンバリング	SBb-202

講義科目名称： 人間と宗教

授業コード： 1S009

英文科目名称： Human Beings and Religion

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
竹村 一男			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 宗教を学ぶにあたって 宗教を学ための必要な基礎的事項について説明する。講義の前半は宗教の種類、宗教の研究分野、さらに、3大宗教について、その概要と現状に言及する。後半は芸術作品や世界遺産の中から宗教に関する画像を中心に紹介する。</p>	竹村 一男
	<p>第2回 宗教本質論 宗教とは何か 過去から現在に至る哲学、神学、心理学などの代表的な思想や、昨今の脳科学は、宗教をどのように解釈してきたかを解説する。更に、最も難解なテーマである「宗教とは何か」について考えてみたい。</p>	竹村 一男
	<p>第3回 キリスト教概説 世界最多の宗教人口をもつキリスト教の教義と歴史、現状について講述する。また、その文化・歴史などを画像を交え解説する。特に新約聖書、福音書の解説については、ジョットの絵画による概要説明を行う。</p>	竹村 一男
	<p>第4回 イスラム教概説 イスラム教の教義と歴史、現状について講述する。その文化・歴史など画像を交え説明する。コーランの記述内容、スンニ派とシーア派の相違点、更に昨今の国際情勢におけるイスラームなどその現状にも言及する。</p>	竹村 一男
	<p>第5回 仏教概説 仏教の教義と歴史、現状について講述し、その文化・歴史や伝播の経緯など画像を交え説明する。インドにおける仏教の成立と展開を中心に、中国仏教、南伝仏教、チベット仏教にも言及する。</p>	竹村 一男
	<p>第6回 日本の仏教 日本の仏教の教義と歴史、現状について講述する。日本への仏教の伝来とその展開、各宗派による仏教思想の比較などを中心に解説し、更に寺院建築や仏像、曼荼羅など仏教文化遺産についても画像を交え解説する。</p>	竹村 一男
	<p>第7回 日本の民俗宗教 日本の宗教の基層をなす民俗宗教について、祖霊信仰や民俗神道、神社神道などを中心に、その文化と歴史について講述する。日本の民俗宗教には様々な儀礼や祭祀が含まれるが、仏教との神仏習合も多々みられる。それらの特徴的な事例についても、画像を交え紹介する。</p>	竹村 一男
	<p>第8回 世界の民族宗教 特定民族に受け継がれる民族宗教ユダヤ教とヒンドゥー教について、その文化・歴史などを講述する。ユダヤ教はキリスト教・イスラム教の、ヒンドゥー教は仏教の起源となった宗教であるが、現在においても多数の信徒をもつ。その経緯と、なぜ民族の枠内に留まったかについて解説し、旧約聖書の記述については、地球環境史との関係もふまえて、画像を交え解説する。</p>	竹村 一男
	<p>第9回 中国の民族宗教 中国の民族宗教である儒教と道教について、その文化・歴史など画像を交え講述する。特に儒教については礼教（道徳）面が強調されることが多いが、その宗教面についても解説する。さらに、両宗教が日本に与えた影響などにも言及する。</p>	竹村 一男
	<p>第10回 新宗教 1830年代以降に成立した新宗教について、天理教、創価学会、モルモン教会を例に、その概要と歴史、教義について講述する。現在はこれらの新宗教も多くの信徒を持つに至り、家庭の宗教として信仰される例も多い。上記以外の幾つかの宗教団体、海外の新宗教などについても画像を交え解説する。</p>	竹村 一男
	<p>第11回 宗教と科学 宗教研究の事例 宗教を対象とする研究には、神学などの信仰者の視点によるものと、比較宗教学のように中立的な視点からのものがある。本講座は後者に属するが、ここでは比較宗教学、宗教社会学、宗教心理学などの中立的な社会科学の視点からなされてきた研究学説について解説する。さらに、反社会的教団の特徴や、講師の研究事例なども交えて講述する。</p>	竹村 一男

	<p>第12回 宗教と文化・芸術 宗教文化と芸術について講述する。古来より、宗教は芸術にも様々な影響を及ぼしてきた。その中で、特に美術と音楽、舞踊について、画像や映像を参考に解説する。また、宗教史跡、宗教建造物などの文化遺産にも言及する。</p> <p>第13回 グローバル化と宗教 グローバル化が進む現在における宗教の諸問題について解説する。現状の宗教動向に加え、反社会的教団による事件、旧統一教会、IS問題、民族紛争などの事例について講述する。</p> <p>第14回 宗教と医療 宗教と医療に関する歴史や現状の諸問題について講述する。宗教団体と医療組織、特定教団の教義と輸血問題、終末医療などの医療現場における宗教の事例についても紹介する。</p> <p>第15回 神話・文学における宗教、及びまとめ 前半は、内村鑑三の宗教について講師の事例研究も交え講述する。後半は、聖典などに見られる印象的な言説や、文学作品における記述の紹介と、全講義のまとめを行う。</p>	<p>竹村 一男</p> <p>竹村 一男</p> <p>竹村 一男</p> <p>竹村 一男</p>
科目の目的	<p>宗教は私達の身近に存在する。多くの家庭には仏壇や神棚が置かれ、年中行事や冠婚葬祭も宗教により執り行われる。旅行などで各地に足を運ぶと、おおよそ神社仏閣、宗教施設が存在しない地域はない。その一方で、宗教戦争の様相を呈した民族紛争がニュースに登場することも多い。本講義においては、このように多くの諸相において人間に関わりをもつ「宗教」とは何かについて考え、さらに様々な宗教を取上げ、その教義、歴史、さらに文化社会的側面について講述する。宗教理解は私達人間の理解、さらに文化・社会の理解にも繋がる。</p> <p>なお、本講義は特定の宗教の視点によるものではなく、中立的な観点から広範に宗教を扱う。受講生各自の宗教観は人それぞれであろうが、医療現場における患者（被治療者）の宗教観も様々であるため、医療者には中立的かつ広範な視点での宗教理解が必要となってくる。医療に携わろうとする者はそのことを理解したうえで、私達人間に与えられた生命をまもること、与えられた生命をよりよく生きることが大切かと考える。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】</p>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ● それぞれの宗教を比較し、その歴史や教義、死生観などを分析、説明することが出来る。 ● 宗教にかかわる文化や時事問題などを理解し、適切に説明することが出来る。 ● 将来の医療現場において、患者や関係者の宗教観を理解し、適切かつ発展的な行動がとれる。 	
関連科目	哲学 心理学 社会学 芸術	
成績評価方法・基準	定期試験（100%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1時間程度（計15回15時間）、講義内容の再確認と復習を行う。より深く学びたい受講生には、興味のある教典・聖典や、宗教に関連した文学作品などの読書に加えて、比較宗教学による文献の読解もお勧めする。最初は簡単な概説書でもよいが、以下に推薦文献をあげる。文献例：『イスラーム文化』井筒俊彦（岩波文庫）、『ヒンドゥー教』森本達雄（中公新書）、『儒教とは何か』加地伸行（中公新書）、『神道とは何か』伊藤 聡（中公新書）、『日本の民俗宗教』宮家 準（講談社学術文庫）、『世界の宗教』岸本英夫編（大明堂 絶版）、『森林の思考・砂漠の思考』鈴木秀夫（NHKブックス）、『現代医学と宗教』日野原重明（岩波書店）など。また、信仰者以外の人にとっては「聖書」や「コーラン」は難渋な書物であろうが、聴講によって基礎知識を得た後に読むと、理解が変わってくる。	
教科書	教科書は使用しません。毎回、講義用のプリントを配付する予定です。	
参考書	<p>参考書1 『共同訳聖書』（日本聖書協会）</p> <p>参考書2 『ブッダの言葉』中村 元訳（岩波文庫）</p> <p>参考書3 『コーラン』井筒俊彦訳（岩波文庫） ※無理に購入する必要はありません。</p>	
オフィス・アワー	講義終了後の教室。または講師出校時の非常勤講師室。	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	毎回、講義用のプリントを配付しますが、同じものを事前にActive Academyにアップロードしておきます。	
アクティブ・ラーニングの実施	授業形態としての実施はなし。出席票での質問、口頭での質問は毎回受け付けます。	
ナンバリング	SBb-101	

講義科目名称： 芸術

授業コード： 1S010

英文科目名称： Art

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
東 晴美			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回</p> <p>ガイドダンス：オペラ、歌舞伎から現代演劇まで。舞台芸術の幅広さと、他の芸術ジャンルとの交流 舞台芸術は、言語、音楽、身体、美術などの要素を備えた総合芸術であることを紹介します。また、舞台芸術が様々なジャンルの芸術と深い関係があることを理解し、その上で舞台芸術を学ぶ意義について考えます。</p>	東 晴美
	<p>第2回</p> <p>ドラマ（物語）：創作された物語から、証言まで ギリシャ悲劇やシェイクスピアの作品において、ドラマはどのような構造を持っているかを考えます。またそのようなドラマを突き崩そうとしたベケットの作品や、ストーリーテリングや証言などポストドラマとしての現代演劇の取り組みを紹介します。</p>	東 晴美
	<p>第3回</p> <p>劇場：社会と劇場、劇場と舞台芸術の関係 ギリシャ劇場から額縁舞台を経て、現代に至る劇場の変遷が、西洋の舞台芸術の歴史と呼応していることを学びます。また、舞台芸術における劇場の役割を考察します。</p>	東 晴美
	<p>第4回</p> <p>観客：もう一人の作り手として 舞台芸術の観客は、他の芸術と異なり物語をともに作りあげる存在でもあります。舞台芸術と観客の関係性について、ギリシャ時代から現代までの変遷を考えます。</p>	東 晴美
	<p>第5回</p> <p>身体：身体文化とことばの関係 俳優によって登場人物が表現されるリアリティについて、近代に絶大な影響を与えた俳優訓練法・スタニスラフスキーシステムを例に考察します。また、物語をつむぎだす言葉と身体の関係性を再考する実践も紹介します。</p>	東 晴美
	<p>第6回</p> <p>ジェンダー：演じる性と演じられる性（小レポート） 演じる性として女優について考察します。また、舞台芸術では女性をどのように表現してきたか、演じられる性についても紹介します。翌週にレポートについてコメントをします。</p>	東 晴美
	<p>第7回</p> <p>能：物語のビジュアルイメージ化 能楽の基礎について学びます。また物語がビジュアルにイメージ化され定着していくことを平家物語を題材にした作品を例に考えます。また、600年前に生まれた芸能が、今もなお息づいている理由に迫ります。</p>	東 晴美
	<p>第8回</p> <p>狂言：笑いの表現 笑いは文化を象徴するキーワードです。笑いの芸能である狂言の基礎について学びます。またシェイクスピアの作品をもとにした新作狂言など、狂言師の新しい挑戦を紹介します。</p>	東 晴美
	<p>第9回</p> <p>歌舞伎：現代に生きる古典芸能 歌舞伎の基礎について学びます。歌舞伎は冷凍保存された古典ではなく、常に同時代のエンターテインメントであろうとしています。能の物語を継承しながら、江戸時代としての現代劇として再生した「京鹿子娘道成寺」を例に考えます。</p>	東 晴美
	<p>第10回</p> <p>文楽：人形の表現と語る表現（小レポート） 文楽の基礎について学びます。北野武の映画「ドールズ」を紹介しながら、今日における文楽の可能性を考えます。翌週にレポートについてコメントをします。</p>	東 晴美
	<p>第11回</p> <p>ゲームと物語：日本の物語の再生 日本の歴史上の人物の伝記がゲームのコンテンツとなり、さらにその物語が、アニメ、漫画、舞台へと展開しています。このような流れを例に取りながら、日本の物語の新たな再生について考察します。</p>	東 晴美
	<p>第12回</p> <p>アニメ・マンガ：絵画と文学、舞台メディアの交流史 欧米と異なり、大人も愛する日本のマンガ文化について、江戸時代における絵画、文学、演劇のメディアミックス文化を源流として考察します。また、能や、歌舞伎など日本の伝統的なコンテンツがどのようにアニメやマンガに取り入れられているかを探求します。</p>	東 晴美

	<p>第13回 「ライオンキング」と文楽 文楽の人形の技術は、世界的にも大きなインパクトを与え続けています。「ライオンキング」や「キングコング」など、文楽にインスパイアされた表現を紹介します。</p> <p>第14回 2.5次元ミュージカル 現代日本では、舞台芸術、アニメ、ゲームなどが、メディアの垣根を越え縦横に入り交じりつつあります。代表例として漫画「テニスの王子様」のアニメ、ゲーム、ミュージカル化を紹介します。また、二次創作と日本の著作権意識の源流について考察します。</p> <p>第15回 まとめ:ひろがる芸術の世界 ボーカロイド初音ミクによる近松門左衛門作「曾根崎心中」の道行きのパフォーマンスを例にとりながら、新しいメディアと既存の文化との関係について考察します。これまでの授業について振り返り、ポイントを整理します。その上で、講義全体を振り返ったレポートを書いてもらいます。</p>	東 晴美 東 晴美 東 晴美
科目の目的	<p>この授業では、オペラ、歌舞伎から現代演劇までを含む舞台芸術を例にとり、芸術について学びます。</p> <p>まず、他の芸術と異なる舞台芸術ならではの特色について、西洋舞台芸術の歴史を通して考えます。</p> <p>次に、西洋とは異なる独自の発展をとげた日本の舞台芸術を概観します。また、難解だと思われるがちな古典芸能の鑑賞のポイントも紹介します。</p> <p>最後に、漫画、アニメ、ゲーム、ミュージカルなどの現代の表象文化を、芸術の視点から考察します。</p> <p>これまでに舞台芸術が扱ってきたテーマを通して、人と社会に深い関心を持って、社会人としての教養を身につけます。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】</p>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台芸術を例に、芸術学の基本を学ぶ。 ・日本の芸能の特色を学ぶ。また、伝統芸能は、江戸時代以前の文化でありながら、近代以降も同時代の文化の影響も受けていることを理解する。 ・現代のメディアに、伝統的なコンテンツがどのように取り入れられているかを学ぶ。 ・舞台芸術が扱っているテーマを通して、人と社会に深い関心を持つ力を身につける。 	
関連科目	社会学	
成績評価方法・基準	授業中の小テスト（2回）各20%、期末教場レポート20%、授業中リアクションペーパー40%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	新聞、雑誌、テレビなどで紹介される舞台芸術や芸能に関する情報に関心を持つことがのぞましい。授業中のアンケートや授業後のレポートを提出に備えて1時間程度の学習をすることが望ましい。	
教科書	webポータルシステムにて講義資料をデータで配布(授業日前にデータを掲載、授業終了後1週間はダウンロード可)	
参考書	各回のテーマに関連する参考書を授業中に紹介する。	
オフィス・アワー	木曜日 12:30～13:00 (場所:非常勤講師室)	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	各テーマと、自分が現在関心をもっていることと関連づけながら学ぶことを求めます。	
アクティブ・ラーニングの実施	発見学習(教員が示した芸術の事例をもとに、自分が親しんでいる芸術ジャンルの特色を発見し考察する)	
ナンバリング	SBb-102	

講義科目名称： 法学(日本国憲法含む)

授業コード： 1S011

英文科目名称： Law(the Constitution of Japan)

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
道下 洋夫			

授業形態	講義形式にて行なう		担当者
授業計画	<p>第1回 法とは何か なぜ法を学ぶのか、法とは何かについて様々な角度から考える</p> <p>第2回 法と社会・法の種類 法と社会との関わりあい方、法と医療の関わり合い方について理解する</p> <p>第3回 日本の法システム 日本の法令にはどのようなものがあるか、どのような性質を持つかについて理解する</p> <p>第4回 日本の司法制度 法的責任、訴訟事件にはどのようなものがあるかについて理解する</p> <p>第5回 憲法1 憲法の基本理念及び構造について理解する</p> <p>第6回 憲法2 基本的人権（平等権、受益権、平和的生存権）について理解する</p> <p>第7回 憲法3 基本的人権（自由権、社会権、包括的基本権）について理解する</p> <p>第8回 憲法4 統治機構（三権分立、地方自治）について理解する</p> <p>第9回 民法1 私法とは何か、債権債務とは何か、契約とは何かについて理解する</p> <p>第10回 民法2 不法行為など契約外の債権について、及び債権の一般的な規則について理解する</p> <p>第11回 民法3 物権とは何か、担保とは何かについて理解する</p> <p>第12回 民法4 行為能力、時効など民法の一般的な規則について理解する</p> <p>第13回 刑法1 刑法の基本原則について理解する</p> <p>第14回 刑法2 個々の犯罪、および特別法について理解する</p> <p>第15回 刑法3 構成要件、違法性、責任とは何かについて理解する</p>	<p>道下 洋夫</p>	
科目の目的	<p>日本は、法治国家である。法治国家においては、法令が社会の仕組みを規定しており、その実施こそが社会を動かしているといつて過言ではない。</p> <p>したがって医療もまた法令の範囲内で行なわなければいけないし、そこから外れた医療を行なうことは許されない。かかる理由で医療従事者の国家試験には、法令の知識を直接問うもの、医療・福祉・保健の制度知識として間接的に法令の知識を問うもの、の双方が毎年多数出題されている。</p> <p>本科目ではそれらの法令理解に必要な基礎学力を学修する。</p> <p>【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・憲法を中心とした日本の法システムの概要について理解する。 ・憲法、民法、刑法を通じて実際の法規定を概観する。 ・社会人として生きていくのに必要な法知識を習得する。 ・2年生以降の専門領域における各種医療関係法規、医療倫理、社会保障制度につながる基礎知識を習得する。 		
関連科目	社会福祉制度・関連法規、生命倫理		
成績評価方法・基準	定期試験(100%)		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	前回講義で扱った内容について目を通しておくこと(90分程度)。		
教科書	教科書：特にないが適宜、資料・法令を配布するので、各自事前に印刷して用意すること。		
参考書	特になし。		
オフィス・アワー	質問等があれば、講義中あるいは講義後に受け付ける。 場所：講義室または非常勤講師室		
国家試験出題基準			

履修条件・履修上の注意	2年生以降の各種医療関係法規、医療倫理、社会保障制度の学習の前提となる。 ただし、習得すべき知識量が極めて多いことに留意すること。
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし
ナンバリング	SBC-201

講義科目名称： 家族社会学

授業コード： 1S012

英文科目名称： Family Sociology

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
坂本 祐子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 家族をとらえる（1） 近代家族の基本概念 近代家族の特徴 近代家族の誕生 家族とはなにか あなたが考える家族とは①（小レポート）</p> <p>第2回 家族をとらえる（2） 家族の変動 家族と世帯 世帯の動向 家族周期</p> <p>第3回 家族の機能（1） 近代家族が担ってきた基本機能=生活保障</p> <p>第4回 家族の機能（2） 生産機能 消費機能 社会的・個人的機能</p> <p>第5回 家族のつながり（1） 家族のつながりの変化と現状 家族行動の個別化</p> <p>第6回 家族のつながり（2） 家族のつながりの変化による影響 子育て負担の偏り</p> <p>第7回 家族をめぐる制度 “夫婦別姓”とはどういう問題か あなたが考える家族とは（小レポート）</p> <p>第8回 家庭経済（1） 家庭経済内部の4つの活動とその循環（小レポートのフィードバック含む）</p> <p>第9回 家庭経済（2） 生活とお金 ワーキングプア</p> <p>第10回 性別役割分業（1） 性別役割分業の始まり</p> <p>第11回 性別役割分業（2） 社会保障とジェンダー</p> <p>第12回 ワーク・ライフ・バランス（1） ワーク・ライフ・バランス 働く人の生活への配慮</p> <p>第13回 ワーク・ライフ・バランス（2） 家庭責任をもつ人の仕事への支援</p> <p>第14回 ワーク・ライフ・バランス（3） 看護職としての成長と私生活の運営・充実 求められる家族への支援とは何か</p> <p>第15回 ふりかえり 家族とは 「家族」の存在や意味・社会のあり方</p>	坂本 祐子 坂本 祐子
科目の目的	<p>学生は皆、家族関係の中にあり、今後その多くは自ら新しい家族を形成していく。また、保健医療サービスの対象者の多くは家族関係の中にあり、サービス提供にあたっては、その人だけでなく、家族や家族関係をも対象とすることが必須である。この科目は、職業人、生活者、市民としての家族に関する見識と“家族する力”の養成と、家族を踏まえた適切な保健医療サービスの提供を可能にする知識の形成を目的とする。</p> <p>【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】</p>	
到達目標	<p>1. 近代家族の特徴、家族機能など、家族を理解し、考察し、ひいては将来サービス対象とするための基本的な概念を習得する</p> <p>2. 自分と定位家族、自らが将来つくるかもしれない家族、そこにおける家庭生活、家庭生活と職業生活のバランス等についてより具体的に考えられるようになる</p> <p>3. サービス対象者が家族関係の中にあることや、当事者だけでなく家族関係もサービス対象となることが認識できる</p>	
関連科目	<p>法学（日本国憲法含む） 生命倫理、人間と宗教、生活文化と医療、経済学、人工知能・ロボットと社会、人間関係・コミュニケーション論、地域ボランティア活動論、大学の学び入門、大学の学び一専門への誘い、多職種理解と連携</p>	
成績評価方法・基準	<p>講義時間内に、何度か小レポートを実施（次回講義以降に返却）。定期試験70%・小レポート30%</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>Active Academyにより資料を配布するので、資料内の不明な用語等を調べてくること。また、前回講義の重要事項を見直しておくこと。日頃から新聞に目を通すことを習慣にし、1週間で4時間半以上を自己学習に必要な時間の目安とする。</p>	
教科書	<p>使用しない</p>	
参考書	<p>岩間暁子（2015）『問いからはじめる家族社会学』有斐閣ストゥディア その他、講義内でも随時紹介</p>	
オフィス・アワー	<p>授業の前後（場所：非常勤講師室）</p>	

国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	Active Academyにより資料を配布するので（前回講義翌日から当該日まで）、各自講義中に使用できるように準備しておくこと。
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし
ナンバリング	Sbc-202

講義科目名称： 生活文化と医療

授業コード： 1S013

英文科目名称： Culture and Medicine in Life

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
鈴木 英恵			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回</p> <p>オリエンテーション 本講義の目的および到達目標と授業の進め方（第1回から第15回までの講義内容）を説明します。講義の後半で、簡単なアンケート用紙配布しますので、皆さんが考える生活文化と医療について教えてください。</p>	鈴木 英恵
	<p>第2回</p> <p>患者にとってのお守り 医療従事者が経験、あるいは見聞した患者とお守りのエピソードを紹介し、患者にとってのお守りとはどのような力を発揮するのでしょうか。皆さんも一緒に考えてみましょう。</p>	鈴木 英恵
	<p>第3回</p> <p>死生観について 人は皆、自分の死生観を持っています。ここでは「死生観とは何か」を考え、死とじっくり向き合う時間を設けます。あわせて、GWのレポート課題「死生観」の説明とレポートの書き方、文章の組み立ての方法等のお話をします。</p>	鈴木 英恵
	<p>第4回</p> <p>名づけとキラキラネーム 近年、簡単に読めない名前が医療現場でも問題になっているようです。名づけの方法と意味を考えながら、伝統的な名づけとキラキラネームの命名法の特徴をみていきましょう。</p>	鈴木 英恵
	<p>第5回</p> <p>医療民俗学とは？！ 人が日々の生活で病気や経験し、それを治そうとして身に付けた知識が医療習俗として成り立ってきました。医療民俗学が対象とする事柄を知り、生活文化と医療の特徴を考えます。</p>	鈴木 英恵
	<p>第6回</p> <p>医療民俗学からみた年中行事 日本の四季では、季節の節目に病魔や災厄を払う年中行事が存在します。ここでは年中行事の意味を考えながら、病気除けの行事や祭りをみていきます。</p>	鈴木 英恵
	<p>第7回</p> <p>民間信仰からみた道祖神 路傍に佇む地蔵や道祖神などの石仏は、地域によっては「病気を治してくれる」と人びとの信仰対象でもありました。ここでは群馬県高崎市倉沢町の道祖神を取り上げ、近世に盛んに建てられた道祖神信仰をみていきます。あわせて、現代における道祖神の役割も考えてみます。</p>	鈴木 英恵
	<p>第8回</p> <p>映像鑑賞 盲目の旅芸人瞽女 かつて越後や北陸地方の村をめぐる盲目の女性、瞽女さんがいました。幼いころに目を患うと自立した生活を送るために、幼少時から師匠に付いて三味線と唄の技術を身につける女兒もいました。ここでは、瞽女さんの生活様式をみていきましょう。</p>	鈴木 英恵
	<p>第9回</p> <p>いのち観と人生儀礼 授業の前半部では、テキストを中心にいのちの捉え方を『徒然草』、熊野観心十界曼荼羅図から人の一生のあり方を考えます。授業の後半部では、人の「いのち」についてじっくり考える時間を持ちます。テキストの内容をもとに、赤子の出生における誕生儀礼を中心にお話をします。</p>	鈴木 英恵
	<p>第10回</p> <p>課題レポート「生活文化と医療」の説明 本講義では、「生活文化と医療」をテーマにしたレポート課題があります。近い将来、皆さんは医療従事者として患者やその家族と接する機会があると考えます。レポートでは、皆さん自身の生活に目を向けてもらい、医療に関連する事柄をまとめてもらいます。あわせて、レポートの書き方についてもお話しします。</p>	鈴木 英恵
	<p>第11回</p> <p>病気をめぐる民俗 テキストを中心にお見舞いの品やカレンダーの暦と病気の関係など、病気をめぐる治癒祈願の方法を理解します。あわせて、看取りと臨終についても取り上げます。</p>	鈴木 英恵
	<p>第12回</p> <p>ものに宿る靈魂 普段私たちが何気なく使うもの、たとえば食事で使う箸にはその人自身の靈魂が宿るといわれています。テキストの内容を中心に、ものに宿る靈魂観とは何かを考えてみます。</p>	鈴木 英恵

	<p>第13回 老人観と長寿祝い テキストから全国各地の長寿祝いの方法を学びます。高齢化社会を象徴する儀礼の特徴をみていきます。老いと福祉に関する回想法についても理解します。</p> <p>第14回 老いと健康をめぐる現代の民俗 群馬県地域では獅子舞が盛んです。高崎市はその伝承数も多く、たくさんの高齢者が獅子舞の継承者として活躍しています。ここでは地域文化の担い手として活躍する高齢者の一面をご紹介します。</p> <p>第15回 まとめ 死生観のまとめとして、テキストを中心に伝統的な葬送儀礼から生者と死者の関係性をみていきます。看取り、供養の意味合いを考えながら、故人を偲ぶ方法をみていきます。</p>	<p>鈴木 英恵</p> <p>鈴木 英恵</p> <p>鈴木 英恵</p>
科目の目的	<p>本講義では、科学的医療ではなく伝統的な医療習俗を取り上げます。伝統的な医療習俗とは、世間一般の人びとの間で理解される病気の捉え方、経験に基づき伝承されている治療方法など、いわゆる民間療法が対象となります。民間療法は、医師や医療従事者より古い時代から存在し、私たちの生活に根付いてきました。このような民間療法の特徴を知ること、人はどのように病気を捉え、健康を取り戻そうとしてきたのか、その心意や治療方法を学ぶことができます。医療技術は日々進歩し、病院や医療機関等では科学的医療が施されますが、その一方で、人は重い病気や完治の困難な病気を抱えたと、お守り、お札（護符）など神仏の力、さらには家族や周りの友人に頼って、それらを心の拠り所にして病気と向き合います。よりよい健康状態を求めようとする人びとの心意こそが、伝統的な医療習俗に属します。本講義をとおり、私たちの生活と医療とのかかわりを実感し、患者やその家族を支えるような思慮深い保健医療従事者になることを目的とします。 【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】</p>	
到達目標	<p>現代医療に通じる伝統的な医療習俗を学ぶことは、いまの生活の質を向上させる可能性を持っています。今後、医療従事者を目指す皆さんは赤子から高齢者まで、さまざまな世代の患者やその家族と接する機会がきます。伝統的な医療習俗や地域医療の対象となる人びとの生活文化を、知識として有していれば、患者らとの円滑なコミュニケーションを取ることが期待できます。本講義では、「死生観」と「生活文化と医療」に関するレポート課題がありますが、履修者の課題に対する取り組みへの姿勢とその内容を鑑み、成績に反映させます。レポート課題を達成した後、履修者が獲得できる能力は①患者の視点に立って物事をみる力を養うこと、②患者やその家族らの心の動きが理解できることの2点と考えます。医療技術のみならず、患者らの気持ちに寄り添えるような保健医療従事者となる能力の獲得を目標とします。</p>	
関連科目	生命倫理、家族社会学	
成績評価方法・基準	<p>死生観に関するレポート課題（40%）、生活文化と医療に関するレポート課題（40%）、講義内容について理解できているのかを測るミニテスト（20%）を実施します。2つレポート課題（死生観に課するレポート及び、生活文化医療に関するレポート）の提出は必須です。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>日常生活の中から病気、健康などに関すること（衣食住で病気にならないように気を付けていること、健康維持の方法など）に興味を持ってください。そして日々の時間の中で、本講義の名称「生活文化と医療」に関連するキーワードを自分で探し出してみてください。人は生きている限り、常に病いと向き合って生きていきます。皆さんは身体の体調が悪いときや怪我をしたとき、どのようにして健康な身体を取り戻すでしょうか。自分を含み、身近な人たち（父母、祖父母、友人、知人など）は如何にして病気と向き合い、健康を取り戻しているのかを注意深くみてみましょう。そこには身体から病気を排除するような意識が働いているはずですが、必要な学習時間ですが、授業前までに、90分ほど時間をかけてテキストをじっくり読み、授業内容と合わせて自分なりの考えをまとめてみてください。</p>	
教科書	教科書：『叢書・いのちの民俗学3 生死 看取りと臨終の民俗 ゆらぐ伝統的生命観』 板橋春夫（2019 社会評論社）	
参考書	<p>参考書1：『図解案内 日本の民俗』 福田アジオ・内山大介・小林光一郎・鈴木英恵・萩谷良太・吉村風編（2019 吉川弘文館）</p> <p>参考書2：『医療民俗学論』根岸謙之助（1991 雄山閣）</p> <p>必要に応じて、講義に関する資料を配布します。</p>	
オフィス・アワー	授業の前後（場所：非常勤講師室）	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	<p>本講義では、履修者の能動的な学修への参加を望むためアクティブ・ラーニングを行います。think, Pair, Shareを重視します。講義内で「生活文化と医療」に関連する質問を皆さんに投げかけますので、それに対する自分の意見を考え（Think）を持ってください。その後に、隣・前後の履修者と2～3名（Pair）でその内容について話し合ってください。そして、数名の履修者に質問に対する自分の考えを発表してもらうことで、全体で共有（Share）したいと思います。</p>	
ナンバリング	SBc-203	

講義科目名称： 経済学

授業コード： 1S014

英文科目名称： Economics

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
飯島 正義			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 経済学で何を学ぶのか 経済学を学ぶことの意義、授業内容と進め方、成績評価等について説明します。	飯島 正義
	第2回 経済学の歩み アダム・スミスからケインズまでの流れを取り上げます。	飯島 正義
	第3回 国民経済の仕組み 経済の3主体（家計・企業・政府）とその関係について説明します。	飯島 正義
	第4回 市場メカニズム 市場メカニズムとは何か、市場メカニズムのメリット・デメリットについて説明します。	飯島 正義
	第5回 政府の役割 市場の失敗の是正について説明します。	飯島 正義
	第6回 景気循環 景気循環とは何か、日本の「景気指標」を読んでいきます。	飯島 正義
	第7回 物価 物価とは何か、物価指数、インフレ・デフレと私たちの生活について説明します。	飯島 正義
	第8回 金融政策と経済の安定化 金利政策、公開市場操作、預金準備率操作、ゼロ金利政策、金融の量的緩和等について説明します。	飯島 正義
	第9回 財政政策と経済の安定化 税制、財政支出、日本の財政状況について説明します。	飯島 正義
	第10回 国内総生産（GDP）（1） 国内総生産とは何か、三面等価の原則について説明します。	飯島 正義
	第11回 国内総生産（GDP）（2） 「国民経済計算」（内閣府）のデータを読んで日本のGDPの状況を確認します。	飯島 正義
	第12回 経済成長 経済成長とは何か、成長の要因、日本の経済成長の推移を確認します。	飯島 正義
	第13回 貿易・国際収支 貿易に関する理論、国際収支とは何か、日本の貿易・国際収支の現状を「国際収支表」で確認します。	飯島 正義
	第14回 為替レート 為替レートとは何か、為替レートの変動と日本経済への影響について説明します。	飯島 正義
	第15回 少子高齢化と日本経済 少子高齢化とは何か、少子高齢化が今後の日本経済にどのような影響を及ぼすのかについて説明します。	飯島 正義
科目の目的	経済学は、私たちの経済生活の中に存在する本質を明らかにすることを目的とした学問です。したがって、経済学を学ぶということは、私たちの経済生活そのものを知ることにつながります。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】	
到達目標	1. 経済学の基礎知識を身につけることができます。 2. 経済学の基礎知識を使って、現実の経済ニュース等を理解できるようになります。	
関連科目	特にありません。	
成績評価方法・基準	授業内における復習プリント40%（3～4回、授業資料参照可）、授業内試験60%で総合的に評価します。 なお、復習プリントのプリントは授業時に回収し、次週返却します。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業資料で前回の授業内容を復習するとともに、次回の授業内容をシラバス、Web上の資料で大筋をつかんでおいて下さい。その際、授業で紹介する参考文献等を利用して2時間復習・予習にあてて下さい。	
教科書	教科書は使用しません。授業ではWebに添付する授業資料を使います。また、参考書については必要に応じて紹介します。	
参考書	必要に応じて紹介します。	
オフィス・アワー	授業の前後の時間に非常勤講師室で対応します。	
国家試験出題基準	該当しません。	

履修条件・履修上の注意	授業資料をWeb上に添付しますので、各自印刷して持参して下さい。なお、資料の添付期間は前回授業翌日から2週間とします。
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし。
ナンバリング	SBe-204

講義科目名称： 人工知能・ロボットと社会

授業コード： 1S015

英文科目名称： Artificial Intelligence, Robots, and Society

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
佐藤 満			

授業形態	講義15回	担当者
授業計画	第1回 人工知能の定義，ロボットの定義 未来社会に多大な変革をもたらす技術とされる人工知能技術、およびロボット技術の位置づけを類似従来技術との差から考察することで、人工知能、ロボットの技術的特徴を理解する。	佐藤 満
	第2回 人工知能の歴史 これまでの人工知能技術開発の歴史と経過を考察し、その折々での技術水準と技術の限界を確認することで、現在の人工知能技術の到達水準と弱点を理解する。	佐藤 満
	第3回 人工知能の仕組みとその学習方法 人工知能技術の仕組みとしての人工ニューロンのネットワークの概念を理解する。また人工知能に学習させる方法の種類とその特徴について理解する。	佐藤 満
	第4回 身のまわりにある人工知能技術① 我々の日々の暮らしのまわりには、すでに多くの人工知能技術が導入されている。これらの事例に関してグループ単位で割り当てられたキーワードを頼りに自己探索による能動的学習の学習項目を決定する。	佐藤 満
	第5回 身のまわりにある人工知能技術② 人工知能技術の社会応用事例に関してグループ単位で割り当てられたキーワードを頼りに決定した学習項目の資料探索を各自で行い、その成果をサマリーに集約して提出する。	佐藤 満
	第6回 身のまわりにある人工知能技術③ 人工知能技術の社会応用事例に関して個人で学習した成果をグループ内で共有し、必要に応じて不足している学習内容を追加で探索して、グループとしての成果報告居を作成する。	佐藤 満
	第7回 身のまわりにある人工知能技術④ 前回までにグループでまとめた自己探索学習の成果を発表し、討論を経ることで、人工知能の社会応用に関する学習成果へのフィードバックを得る。	佐藤 満
	第8回 人工知能技術と医療① 人工知能技術の応用は、医療とリハビリテーションの分野にも技術的進歩をもたらすと予想されている。これらの事例に関してグループ単位で割り当てられたキーワードを頼りに自己探索による能動的学習の学習項目を決定する。さらに学習項目の資料探索を行い、成果をサマリーに集約する。	佐藤 満
	第9回 人工知能技術と医療② 人工知能技術の医療応用事例に関して学習した成果をグループで共有し、グループとしての成果報告居を作成する。	佐藤 満
	第10回 人工知能技術と医療③ 前回までにグループでまとめた自己探索学習の成果を発表し、討論を経ることで、人工知能の医療応用に関する学習成果へのフィードバックを得る。	佐藤 満
	第11回 ロボットと社会 ロボット技術の応用により、社会のあり方も大きく変化すると予想されている。既に社会に実装されている事例と、研究段階あるいは応用が試みられている事例を概観することで、ロボット技術が近未来社会に与える影響について理解する。	佐藤 満
	第12回 ロボットと医療① ロボット技術の応用は、医療とリハビリテーションの分野にも技術的進歩をもたらすと予想されている。これらの事例に関してグループ単位で割り当てられたキーワードを頼りに自己探索による能動的学習の学習項目を決定する。さらに学習項目の資料探索を行い、成果をサマリーに集約する。	佐藤 満
	第13回 ロボットと医療② ロボット技術の医療応用事例に関して学習した成果をグループで共有し、グループとしての成果報告居を作成する。	佐藤 満

	<p>第14回 ロボットと医療③ 前回までにグループ単位でまとめた自己探索学習の成果を発表し、討論を経ることで、ロボットの医療応用に関する学習成果へのフィードバックを得る。</p> <p>第15回 人工知能とロボットの未来 人工知能やロボット技術が際限なく進歩すると、人間や社会との共存という視点からさまざまな問題が生じると予想されている。それら課題を踏まえて、今後の社会生活と職業領域に与える変化とその対応について検討し理解する。</p>	<p>佐藤 満</p> <p>佐藤 満</p>
科目の目的	<p>本科目はこれからの医療と社会に大きな変革をもたらす人工知能とロボット技術に関して医療人として必要な基礎的知識と教養を身に付けることが目的です。また、主体的に疑問や課題を発見して、主体的に調査や検討を実施する課題解決のプロセスを通して、将来的に人工知能とロボット技術に適切に向き合うことができる能力を身に付けます。以上より、リハビリテーション学部のデュプロマ・ポリシーの「人間や社会に関する幅広い教養に根差し、リハビリテーションを取り巻く諸問題を認識できる能力」および「自己研鑽に励み、人格的成長を目指す姿勢」の獲得を目的とします。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】</p>	
到達目標	<p>人工知能技術やロボット技術がもつ特色、期待される役割、技術の到達レベルを説明することができる。</p> <p>人工知能技術（生成AI含む）が医療の進歩や社会の発展に与える効果や影響を説明することができる。</p> <p>ロボット技術が医療の進歩や社会の発展に与える効果や影響を説明することができる。</p> <p>人工知能技術やロボット技術が多大な進歩を遂げた際に生じる課題や問題を説明することができる。</p>	
関連科目	<p>教養科目群・共通基盤科目群：基礎統計学 専門基礎科目群：医学概論、リハビリテーション医学</p>	
成績評価方法・基準	<p>成績は講義内で作成する課題（60%）と定期試験（40%）にて評価します。定期試験の出題範囲は全ての講義で扱った内容とし、講義資料だけでなく講義で言及した内容を含めます。講義内で作成する課題は講義中に発表します。その際に課題へのフィードバックを行います。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>事前にシラバスの講義内容に目を通し、関連する単語や概念について調べてください（90分程度）。講義中に十分理解できなかった内容については、講義後に調べてください（90分程度）。それでも解決しなかった際にはメール等の手段を用いて積極的に質問してください。</p>	
教科書	<p>指定しません。</p>	
参考書	<p>講義の中で紹介します。</p>	
オフィス・アワー	<p>日時:講義日の17:50~18:20 場所:1号館6階611研究室</p>	
国家試験出題基準	<p>該当しません。</p>	
履修条件・履修上の注意	<p>講義開始前までに講義資料を配布します。</p>	
アクティブ・ラーニングの実施	<p>グループによる自己探索型学習を実施します（3回：計10コマ）。</p>	
ナンバリング	<p>SBc-101</p>	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
一柳 大輔			

授業形態	講義8回、ボランティアに関する実習レポート1回		担当者
授業計画	第1回	ガイダンス、ボランティアの現状、ボランティアの歴史について 本講義の目的、授業の流れ等ガイダンスの説明。日本におけるボランティアの現状、ボランティアの定義、日本・欧米におけるボランティアの歴史について説明する。 また「民生委員・児童委員」「NPO」といった多様なボランティアの歴史を説明する。	一柳
	第2回	ボランティアに関する情報収集、ボランティアセンターの役割について ボランティア活動をスタートするにあたり、必要となる情報収集の方法について説明する。ボランティアセンターの組織や活動内容について説明し、各市区町村に設置されているボランティアセンターの活用方法を理解する。また、申請までのロールプレイングを行い、ボランティア参加までの流れを理解する。	一柳
	第3回	寄付と還元について 共同募金(赤い羽根共同募金)を例に寄付文化とその還元について説明する。寄付がどのようなかたちで使われているか、実際の事業を紹介し理解を深める。	一柳
	第4回	性的マイノリティとボランティア活動について 性的マイノリティに関連する団体の事業を紹介する。また、居場所事業・相談支援事業・啓発活動に関する紹介を通してボランティアとしてどう関わられるかを考察する。また、「アライ(支援者)」として性的マイノリティの方との交流を支援的側面に特化して説明する。	一柳
	第5回	生活課題を抱えた方への支援とボランティア活動について “複合的な課題”、“重層的な課題”等の生活課題を抱えている地域住民の事例紹介、そういった住民を対象とした居場所事業やコーディネート実践の紹介を通してボランティアとしてどう関わられるかを考察する。	一柳
	第6回	“ごみ屋敷”とボランティアについて ごみ屋敷の住人の多くは複合的な課題を抱えており、支援のあり方は非常に複雑であり、様々な専門職やボランティアが関わるケースが多い。ごみ屋敷の住人の支援において、ボランティアがどのように関わるかという視点で実際の事例をもとに説明をする。	一柳
	第7回	災害現場における災害ボランティアセンターの役割、災害ボランティアの活動について 我が国では、毎年、各地で自然災害が発生しておりこれらにより多くの人命や財産等が失われている。災害が発生した際に設置される災害ボランティアセンターの役割と災害ボランティアの活動について説明し、医療専門職としてのかかわり方を考察する。	一柳
	第8回	ボランティア体験の実践発表、ボランティアに関する企業の取り組みの紹介 講義をとおした学びとボランティア体験レポートの発表を行う。様々な背景を持つ学生同士で知見を共有、考察する。また、民間企業の社会貢献活動の取り組みを紹介し、卒後の専門職キャリアを歩むうえでのボランティア活動の捉え方を考察する。	一柳
科目の目的	1. ボランティア活動の多様なあり方を理解する 2. ボランティアに関連するステークホルダーを知り、他者を尊重し、自身のかかわり方を考察する 3. 専門職として地域社会に主体的かつ創造的に貢献できる人材の育成 【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】		
到達目標	1. ボランティア活動の基本概念、歴史、現在の多様なニーズを理解し、ボランティアの意義を説明できる状態 2. 実践、体験を通して、地域社会のニーズやボランティア活動について説明できる状態 3. ボランティア・市民活動の実践を振り返り、専門職としての職業観の確立の基礎作りに寄与できている状態		
関連科目	なし		
成績評価方法・基準	ボランティア体験レポート(50%)・授業内レポート(50%)		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	個人、専門職としてどのようにボランティアと関わるかを自身なりに整理し、言語化できるようにしておくこと。テーマに沿って自身の気になるトピックスを学習しておくこと。準備学習に必要な時間の目安：1コマあたり2時間		

教科書	使用しない
参考書	なし
オフィス・アワー	授業の前後（教室もしくは非常勤講師室）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	
アクティブ・ラーニングの実施	体験学習、教室内での演習
ナンバリング	SBe-205

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
伊藤 栞			

授業形態	授業のはじめの30分程度講義を行い、残りの時間は講義で取り上げた内容について演習（個別・グループ）を行う。	担当者
授業計画	<p>第1回 自分を知る 対人援助職において、相手の価値観を知り、その人について理解を深めることは、被援助者との間に望ましい人間関係を築いていく上で実りの多いことである。しかし、相手の価値観を知る前に、まずは自分の価値観を意識化しておく必要がある。本講義で、SCT（文章完成法を行い、「自分とは何か」という問いに対する答えを考える。 key words：自己理解，SCT</p> <p>第2回 心理療法（1） 「心の天気」 私たちは、いろいろなことを感じて、それを誰かに聞いてもらいたかったり、表現したかったりする。しかし、なかなか上手く言えなかったり、聞いてもらえなかったりする。表現することをあきらめてしまうことがよくある。そうすると、しまいには、自分が何を感じているのか自分でもわからなくなってしまい、落ち着きがなくなったり、わけもなく不安になったりする。 本講義では、「こころの天気」というワークを通じ、こころを天気に例えてみることで、今の自分の感じをわかりやすく表現し、今の自分のこころはどのような状態なのかきちんと把握する体験をする。 key words：こころの天気，からだの感じ調べ</p> <p>第3回 心理療法（2） 「自律訓練法」 私たちのこころと体は密接な関係があり、不安やストレスが原因で体に症状が出ることもある。逆に、体の緊張を解きほぐすことでこころが穏やかになり、リラックスできることも考えられる。本講義では「不安階層表」を作成することにより自分が不安になる場面を想起し、一時的に不安状態になったところで自己催眠法である「自律訓練法」を実施し、不安を緩和する体験をする。 key words：不安階層表，自立訓練法，基本公式，第一公式，第二公式</p> <p>第4回 心理療法（3） 「LAC法」（1） 大学入学後、本業である学業に対して無気力となり、サークル活動やアルバイト、余暇活動などに没頭するということは、誰でも経験し得ることである。そのような時は、自分の人生・生活全体を詳しく丁寧に分析して振り返り、自発的に自分の人生（生活）の目的（やりたいこと・やるべきこと）を設定して、意欲的に目的の達成に取り組んでいくことが必要である。本講義では、そのような取り組みを支援する方法である生活分析的カウンセリング(life analytic counseling)について、事例を通して実施方法や臨床への活用方法について学ぶ。 key words：生活分析的カウンセリング，スチューデント・アパシー</p> <p>第5回 心理療法（4） 「LAC法」（2） 前回の講義で学んだLAC法を体験する。 key words：生活分析的カウンセリング，必要性，可能性，平均</p> <p>第6回 心理療法（5） 「ストレスマネジメント」 対人援助職が他者に対して支援を行う際、まずは自らの心身の健康を保つことが求められる。同じ体験をしても、ストレスを強く感じる人と、それほど感じない人がいるが、その一因としてストレスへの対処法の得手・不得手が挙げられる。本講義では、質問紙への回答を通して、ストレスを引き起こす原因である「ストレスサー」が自分の身の回りにどれくらいあるかを把握し、ストレスマネジメントのワークを通してストレスサーによって「ストレス反応」が生じさせられることを防ぐための対処法を体験する。 key words：ストレスサー，ストレス反応，ストレスコーピング</p> <p>第7回 心理療法（6） 「解決志向ブリーフセラピー」 カウンセリングや心理療法において、クライアントの問題が解消するまでにかかる時間はクライアントによってまちまちであり、中には何年も時間を要するケースもある。ブリーフセラピーとは、クライアントとカウンセラーができるだけ協力して、効率的な問題解決を目指す心理療法である。本講義ではそのエッセンスを活用した「解決志向ブリーフセラピー」を体験し、日常生活で抱えている問題の解決の糸口を見つけ出すことを目指す。 key words：ブリーフセラピー，スケーリングクエスチョン，コーピングクエスチョン，エクセプチョンクエスチョン，ミラクルクエスチョン</p>	伊藤 栞 伊藤 栞 伊藤 栞 伊藤 栞 伊藤 栞 伊藤 栞 伊藤 栞

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	準備学習の内容については前回の講義時に指示をする。各単元について、1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。
教科書	なし
参考書	<p>繁杵算男（2018）「公認心理師の基礎と実践2 心理学概論」 遠見書房 ※科目「心理学」で使用する教科書</p> <p>横田正夫（編）（2016）「ポテンシャル臨床心理学」 サイエンス社 ※科目「臨床心理学」で使用する教科書</p>
オフィス・アワー	講義前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や、それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ、その回の講義の出席を認めない場合もあります。
アクティブ・ラーニングの実施	毎回60分程度の体験学習を行う。
ナンバリング	SBc-206

講義科目名称： 環境学

授業コード： 1S018

英文科目名称： Environmental Studies

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
西菌 大実			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 環境とは 環境問題の範囲と背景、SDGs 第2回 地球の環境の構造 地球の自然の成り立ち 第3回 生活を支える資源と持続可能社会 再生可能資源と再生不能資源、持続可能性とは 第4回 環境問題の変遷 公害問題から地球環境問題へ 第5回 典型七公害 大気・水・土壌の汚染、足尾鉍毒、四大公害病 第6回 有害物質による環境汚染 イタイイタイ病を事例として 第7回 水質汚濁（Ⅰ） 水質汚濁の原因、生活排水、BOD 第8回 水質汚濁（Ⅱ） 水質汚濁の対策、下水道と浄化槽、多自然川づくり 第9回 気候変動（Ⅰ） 気候変動の具体的な影響、豪雨・熱中症・感染症等の増加 第10回 気候変動（Ⅱ） 温室効果ガス、気候変動の状況と将来予測 第11回 気候変動（Ⅲ） 予防原則、先進国・途上国の責任、パリ協定 第12回 エネルギー問題と低炭素社会への流れ 1次エネルギー、再生可能エネルギー 第13回 廃棄物問題と循環型社会への流れ 一般廃棄物・産業廃棄物・感染性廃棄物と3R 第14回 低炭素社会と循環型社会の融合 再生可能エネルギー・再生可能資源を中心とした社会づくり 第15回 持続可能社会の構築をめざして 低炭素社会と循環型社会を具体化した未来社会の在り方を考える	西菌 大実 西菌 大実
科目の目的	環境問題への認識は、現代社会を生きていくために不可欠の要素である。また、疾病の発症するバックグラウンドとして、その時代の環境が色濃く反映している。環境理解を深めることによって、社会人としてよりよく生き、適切な保健医療サービスを提供できるようになることを目指す。 【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	1. 環境問題の背景と発生原因を理解する 2. 公害問題、地球環境問題とその対策の考え方を理解する 3. 資源・エネルギーの適切な利用と低炭素社会・循環型社会・持続可能社会構築への認識を持つ	
関連科目	特になし	
成績評価方法・基準	定期試験（100%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義資料をもとに授業該当箇所の予習・復習（自筆ノートの整備）を行う。 準備学習に必要な学習時間の目安は1コマ当たり4時間。	
教科書	使用しない（プリント配布）	
参考書	新版 新しい環境科学 鈴木孝弘 駿河台出版社 ISBN978-4-411-04039-8C3040	
オフィス・アワー	授業の前後（場所：非常勤講師室）	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	特になし	
アクティブ・ラーニングの実施	教室内でのグループ・ディスカッション	
ナンバリング	SBd-101	

講義科目名称： 基礎生物学

授業コード： 1S019

英文科目名称： Basic Biology

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
嶋田 淳子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 ヒトへの進化 生命を支える物質 (1) ①生命の誕生と進化、ヒトへの進化について概説 ②生命現象の普遍的な特質、一様性、多様性、連続性について ③生命活動に主要な役割を持つ構成成分(1) ・水の重要性 ・タンパク質</p> <p>第2回 生命を支える物質 (2) 生命活動に主要な役割を持つ構成成分(2) ・炭水化物 (糖質) ・脂質 ・核酸 ・無機質 (無機塩類)</p> <p>第3回～4回 生命の単位 ①ウイルス、原核細胞 (細菌類を含む)、真核細胞 ②真核細胞の構造と機能 ・細胞膜の構造と機能 ・細胞質基質の役割 ・核の構造と機能 ・粗面小胞体の構造と機能 ・滑面小胞体の構造と機能 ・ゴルジ体の構造と機能 ・リソソーム ・ペルオキシソーム ・ミトコンドリア ・色素体 ・細胞骨格の種類とその役割</p> <p>第5回 DNA ①DNA複製のしくみ ②DNAの変異と修復 ③遺伝情報発現のしくみ</p> <p>第6回 受精、発生、分化 ①無性生殖と有性生殖、減数分裂 ②受精 ③初期発生と分化のしくみ ④形態形成とアポトーシス</p> <p>第7回 生体防御と免疫 ①免疫細胞 ②サイトカイン</p> <p>第8回 ヒトの染色体と遺伝子、メンデルの法則と形質の遺伝 ①ヒトの染色体と遺伝子 ②メンデルの法則と形質の遺伝 ③遺伝病の原因—遺伝子変異</p>	<p>嶋田 淳子</p>
科目の目的	<p>高等学校「生物基礎」履修済みを前提に、医療系専門職の専門課程の学習を理解するために必要な生命現象の基礎知識を深めることを目的とする。特に基礎生物学では生体を構成する基本単位である細胞について、その構造と機能、細胞の増殖と生殖細胞の形成などを学び、さらに生命の連続性を担保する受精、発生、形質の遺伝について知識を深めることを目的とする。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】</p>	
到達目標	<p>ヒトの生命活動の全体像を理解するために次の事項を理解し、説明できる力を身につける。 ①生命の起源からヒトへの進化、生命現象の特質について理解する。 ②細胞構成成分である水の重要性を理解し、タンパク質、糖、脂質、核酸、無機質について説明できる ③細胞の構造、細胞構成成分、細胞内小器官の働きや仕組みを理解する ④体細胞分裂と減数分裂を図示して詳細に説明できる。 ⑤生殖、発生、分化のしくみ、形態形成とアポトーシスについて理解する。 ⑥ヒトの染色体と遺伝子、メンデルの法則とヒト正常形質の遺伝について説明できる。</p>	
関連科目	化学、解剖学 I、生理学 I、生化学	
成績評価方法・基準	定期試験の成績 (80%) 及び講義終了時に提出するリアクションペーパー (20%) により評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回ともシラバスの講義内容に一致する高等学校生物の教科書または補助教材を 1 時間程度復習しておくこと。特に、授業範囲の専門用語についてわからないときには生物学事典 (岩波書店、東京化学同人社など) で調べ、理解しておくこと。	

教科書	「人の生命科学」 佐々木史江、堀口 毅、岸 邦和、西川純雄 (医歯薬出版株式会社)
参考書	1. 「Essential細胞生物学原書第4版」中村桂子、松原謙一 監訳 (南工堂) 2. アメリカ版 大学生物学の教科書1巻～3巻」 D. サダヴァ他著 ブルーバックス (講談社) 3. 「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」 和田 勝 (羊土社)
オフィス・アワー	授業終了後に教室・非常勤講師室で、または随時e-mailで質問を受ける。
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	基礎生物学分野の研究が医療に生かされている現状、ヒトの遺伝などを理解するために、教科書、講義資料等で予習後、履修することが望ましい。
アクティブ・ラーニングの実施	授業の中でグループワークを行う。
ナンバリング	SBd-102

講義科目名称： 生物学

授業コード： 1S020

英文科目名称： Biology

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
嶋田 淳子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回・2回 遺伝子の転写・翻訳 ①遺伝子の転写 ②遺伝子の翻訳 ③原核生物と真核生物における遺伝情報発現コントロール ④エピジェネティクス</p> <p>第3回・4回 遺伝子の複製 ①遺伝子の複製 ②染色体の分配 ③染色体異常 ④遺伝病 ⑤細胞周期</p> <p>第5回・6回 がんとかん遺伝子 ①がんの原因 ②がん遺伝子とかん抑制遺伝子</p> <p>第7回・8回 細胞科学の先端研究と医療への応用 ①オミックス解析の現状と課題 ②細胞内タンパク質の再利用 ・ユビキチン-プロテアソーム系 ・オートファジー ③iPS細胞 基礎研究と応用研究の進捗状況 ④細胞分裂の限界と老化</p>	<p>嶋田 淳子</p> <p>嶋田 淳子</p> <p>嶋田 淳子</p> <p>嶋田 淳子</p>
科目の目的	<p>高等学校「生物基礎」履修済みを前提に、保健医療の専門職として、先進・高度化しつつある専門領域の学習を理解するために必要な生命科学の基礎知識を深めることを目的とする。本講義では、基礎生物学で学んだ知識をベースに、生命活動を支えるエネルギー獲得、真核細胞のDNA複製や遺伝子の情報発現、情報発現の調節などを詳しく学ぶ。また、ヒトの遺伝病、先天異常について学ぶ。さらに医療分野に直接関連する生物学分野の研究進捗状況について理解する。【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】</p>	
到達目標	<p>基礎生物学の学習内容を基礎として次の事項を理解し、説明できる力を身につける。 ①真核細胞におけるDNAの複製、遺伝情報発現、発現調節、DNAの変異などについて知識を深める。 ②ヒトにおける染色体異常、および遺伝病について学び、説明できる。 ③がんの原因、がん遺伝子、がん抑制遺伝子について学ぶ。 ④細胞科学の先端基礎研究と医療分野との関連について理解し、説明できる力を身につける。</p>	
関連科目	基礎生物学、基礎化学、解剖学Ⅰ、生理学Ⅰ、生化学	
成績評価方法・基準	定期試験の成績（90%）及び講義終了時に提出するリアクションペーパー（10%）により評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回ともシラバスの講義内容に一致する高等学校生物の教科書または補助教材を1時間程度復習しておくこと。特に、授業範囲の専門用語についてわからないときには生物学事典（岩波書店、東京化学同人社など）で調べ、理解しておくこと。	
教科書	「人の生命科学」 佐々木 史江、堀口 毅、岸 邦和、西川 純雄 （医歯薬出版株式会社）	
参考書	<p>1. 「Essential細胞生物学原書第4版」 中村桂子、松原謙一 監訳（南工堂） 2. アメリカ版 大学生物学の教科書1巻～3巻」 D. サダヴァ他著 ブルー-バックス（講談社） 3. 「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」 和田 勝 （羊土社）</p>	
オフィス・アワー	授業終了後に教室・非常勤講師室で、または随時e-mailで質問を受ける	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	基礎生物学を履修していることが望ましい。	
アクティブ・ラーニングの実施	授業の中でグループワークを行う。	
ナンバリング	SBd-103	

講義科目名称： 基礎数学

授業コード： 1S021

英文科目名称： Basic Mathematics

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
井上 浩一			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 数と式 展開・因数分解を復習する。 第2回 方程式と不等式 1次不等式, 2次方程式の復習をする。 第3回 2次関数 2次関数とそのグラフ, 2次関数の最大・最小, 2次関数のグラフと2次方程式・2次不等式の関係性を復習する。 第4回 図形と計量 三角比, 正弦定理と余弦定理, 図形の計量を復習する。 第5回 個数の処理 順列, 組合せを復習する。 第6回 確率 事象と確率, 確率の性質, 反復試行の確率, 条件つき確率を復習する。 第7回 論理と命題 集合とその要素の個数, 命題と条件, 逆, 裏, 対偶を復習する。 第8回 データの分析 データの整理と特徴的な値(平均, 分散, 相関係数など)を復習する。	井上 浩一 井上 浩一 井上 浩一 井上 浩一 井上 浩一 井上 浩一 井上 浩一 井上 浩一
科目の目的	高校数学の基礎を復習し、数学の各分野の概念を再確認し、それを医療を含む生活での現象に結びつけて応用するセンスと技能を伸ばし、将来、医療従事者として数理現象を見出し、定量的に表現し、その上で分析、評価するための基礎的な能力を磨く。具体的には、数と式、方程式と不等式、二次関数、図形と計量、場合の数と確率、論理と命題、基礎統計学について学ぶ。【コミュニケーション能力】【論理的思考・多様性理解】【知的探求心と創造性】【社会に貢献する能力】	
到達目標	1. 基礎的な数学の概念の復習をする。 2. 数学の概念や道具を自力で扱えるようにする。 3. 定量的なものごとを評価するセンスを磨く。	
関連科目	基礎統計学, 物理学, 化学, 情報処理, データサイエンス	
成績評価方法・基準	筆記試験(90%) + 小テスト(10%) なお、社会情勢に応じて、筆記試験の代わりにレポート試験をすることもありうる。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	・高校数学の教科書の相当部分を読んでおく。(30分程度) ・プリントや問題集の問題を解く。(90分程度)	
教科書	教科書：特になし 毎回、講義内容のプリントをActive Academyで配布する 配布期間：前回授業翌日から当該日まで 持参方法：各自印刷して授業に持参すること	
参考書	高校数学IAの教科書	
オフィス・アワー	授業前後の休憩時間（場所：非常勤講師室）	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	実施しない	
ナンバリング	SBd-104	

講義科目名称： 基礎統計学

授業コード： 1S022

英文科目名称： Basic Statistics

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
富田 浩			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 オリエンテーションおよび度数分布表とヒストグラムのつくり方 授業方法・学生評価方法等の説明，度数分布表およびヒストグラムについて学ぶ 第2回 データの中心をはかる指標 各指標の求め方，長所・短所などについて学ぶ 第3回 データの散らばりをはかる指標 各指標の求め方，長所・短所などについて学ぶ 第4回 順列と組み合わせ 順列および組合せの考え方，算出方法について学ぶ 第5回 確率 確率の求め方と確率の基本定理について学ぶ 第6回 確率変数と確率分布 主に，二項分布，正規分布について学ぶ 第7回 母平均の区間推定 標本の情報から母集団の平均を推定する方法について学ぶ 第8回 母比率の区間推定 標本の情報から母集団の比率を推定する方法について学ぶ	富田浩 富田浩 富田浩 富田浩 富田浩 富田浩 富田浩 富田浩
科目の目的	データを見る，処理する時に必要となる統計的な見方・考え方を学び，将来，仕事などで統計を用いる際の土台をつくる。【コミュニケーション能力】【論理的思考・多様性理解】【知的探求心と創造性】【社会に貢献する能力】	
到達目標	基本統計量のもつ意味が説明できる 主な確率分布の概要について説明できる 母平均・母比率の区間推定ができる	
関連科目	基礎数学，データサイエンス入門	
成績評価方法・基準	筆記試験(100%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習：教科書（各回授業該当部分）を確認する（60分程度） 復習：授業内容と教科書の再確認，練習問題を解く（120分程度）	
教科書	「初歩からの統計学 第2版」白砂堤津耶（日本評論社）	
参考書	「Excelによるメディカル/コ・メディカル統計入門」勝野恵子・井川俊彦（共立出版）	
オフィス・アワー	講義日の12:10-12:50	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	例題・練習問題の実施	
ナンバリング	SBd-105	

講義科目名称： 基礎化学

授業コード： 1S023

英文科目名称： Basic Chemistry

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
日置 英彰			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 化学の立場から医療を考える 歴史的に重要な化学物質を取り上げて、化学物質がどのように医療に貢献してきたか考える。</p> <p>第2回 物質の成り立ち 物質を構成している分子と原子の構造、原子軌道、分子軌道について解説する。</p> <p>第3回 元素と周期表 自然にはどのような元素があるのか、元素の分類と周期表の読み方について解説する。</p> <p>第4回 イオン イオンとイオン結合の原理、生体内でのイオンの役割について解説する。</p> <p>第5回 共有結合化合物と有機分子 生体を構成している物質のほとんどは有機分子である。有機分子の結合様式、特異な形、一般的な性質について解説する。</p> <p>第6回 水の性質と物質の状態変化 ヒトの体の半分以上を占める水の性質と物質の三態（気体、液体、固体）について解説する。</p> <p>第7回 物質の変化における速度論と平衡論 物質の変化は、速度論と平衡論の両面から考察する必要がある。これらについて概説する。</p> <p>第8回 放射線と放射能 放射性崩壊と半減期、医療における放射性同位体の利用について解説する。</p>	日置 英彰 日置 英彰 日置 英彰 日置 英彰 日置 英彰 日置 英彰 日置 英彰 日置 英彰
科目の目的	地球上に生きるすべての生命を持つものを物質から見れば、巨視的に見えるものから究極を突き詰めれば見えないものは原子や分子の世界まで行きつくことになる。本科目では、物質の科学であると言われる化学について、物質についての基本的な事項を高校化学の基礎にさかのぼり学び、専門課程で学修する内容を体系的に理解するための基礎的知識を身につけることを目的とする。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】	
到達目標	専門課程で学習する内容を体系的に理解するために、化学分野の基礎的知識を習得する。	
関連科目	生化学	
成績評価方法・基準	試験（80%）、毎講義ごとのリアクションペーパー（Active Academyのアンケート機能を利用）の提出（20%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習は必要ありませんが、毎回の講義の理解度を確保するために、講義ごとに出題されるチェックテストを活用して復習してください。また、講義の中で疑問に感じて自分で調べたこと、講義に関連する内容についてさらに深く学習したことについて、毎講義ごとにリアクションペーパー（Active Academyのアンケート機能を利用）を提出してもらいます。講義を通して30時間分の学習が必要です。	
教科書	看護系で役立つ化学の基本 有本淳一・西沢いづみ著 化学同人	
参考書	特に指定なし	
オフィス・アワー	講義前後の時間（場所：非常勤講師室）	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	特にありません。	
アクティブ・ラーニングの実施	受講内容に関連することで興味を持ったことを積極的に調べるなど、能動的な学習を行ってください。各回ごとに提出するリアクションペーパーにはその内容を記述してください。	
ナンバリング	SBd-106	

講義科目名称： 化学

授業コード： 1S024

英文科目名称： Chemistry

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
日置 英彰			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 病気と闘う化学物質 くすりは体の中でどのように作用するのか概説しながら、医療と化学がどのように関わっているのか考える。	日置 英彰
	第2回 生体内ではたらく有機化合物 ホルモンや神経伝達物質をはじめ多くの有機化合物が生命活動を維持する上で重要な役割を果たしている。これら有機化合物の性質を官能基別に解説する。	日置 英彰
	第3回 酸と塩基 酸、塩基、緩衝液について解説する。	日置 英彰
	第4回 酸化と還元 物質の酸化と還元、生体内での酸化還元反応について解説する。	日置 英彰
	第5回 生体高分子 糖、タンパク質、核酸の化学構造とその性質について解説する。	日置 英彰
	第6回 触媒と酵素 生体内の化学反応は酵素が触媒している。化学反応における触媒の役割、酵素の構造と触媒作用について解説する。	日置 英彰
	第7回 合成高分子 医療材料には多くの高分子素材が使われている。各種高分子の性質と医療材料への応用について解説する	日置 英彰
	第8回 拡散と浸透現象 細胞への物質の出入りや人工透析などを考える上で重要な拡散と浸透現象の原理について解説する。	日置 英彰
科目の目的	医療と化学の関係は深い。生命活動自身が秩序だった化学反応であり、医薬品、医用材料、臨床検査薬等を扱うには化学的な見方・考え方は重要である。本講義ではその基本的知識を習得する。 【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	生体関連物質、医薬品、医用材料など医療に密接に関係している化学物質の性質や反応を理解する。	
関連科目	生化学	
成績評価方法・基準	試験（80%）、毎講義ごとのリアクションペーパー（Active Academyのアンケート機能を利用）の提出（20%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習は必要ありませんが、毎回の講義の理解度を確認するために、講義ごとに出題されるチェックテストを活用して復習してください。また、講義の中で疑問に感じて自分で調べたこと、講義に関連する内容についてさらに深く学習したことについて、毎講義ごとにリアクションペーパー（Active Academyのアンケート機能を利用）を提出してもらいます。講義を通して30時間分の学習が必要です。	
教科書	看護系で役立つ化学の基本 有本淳一・西沢いづみ著 化学同人	
参考書	特になし	
オフィス・アワー	講義前後の時間（場所：非常勤講師室）	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	特にありません。	
アクティブ・ラーニングの実施	受講内容に関連することで興味を持ったことを積極的に調べるなど、能動的な学習を行ってください。各回ごとに提出するリアクションペーパーにはその内容を記述してください。	
ナンバリング	SBd-107	

講義科目名称： 基礎物理学

授業コード： 1S025

英文科目名称： Basic Physics

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
丸山 星			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 物理量と単位 物理学で使用する数値や単位の表し方、理解に必要な数学的知識について学ぶ。	丸山 星
	第2回 運動 位置と変位、速度・加速度について学ぶ。	丸山 星
	第3回 さまざまな力とその働き① 物体にはたらく力とそのつり合い、運動の法則について学ぶ。	丸山 星
	第4回 さまざまな力とその働き② 落体の運動、水平面・斜面上の物体の運動について学ぶ。	丸山 星
	第5回 仕事とエネルギー 力学的エネルギーとその保存について学ぶ。	丸山 星
	第6回 温度と熱 温度と熱、内部エネルギーについて学ぶ。	丸山 星
	第7回 波の運動 波の性質、音と振動について学ぶ。	丸山 星
	第8回 電気と力 電流と抵抗、電気とエネルギーについて学ぶ。	丸山 星
科目の目的	医療従事者にとって最低限必要な一般教養としての基礎物理学を網羅的に学習する。 高等学校で物理基礎を履修していない学生が、物理学の基本的概念と標準的な問題解決方法を身につけることを目的とする。 【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	物理学の基礎的概念を理解している。 物理学に関係する基本的な問題を論理的に解決できる。	
関連科目	物理学	
成績評価方法・基準	定期試験（100%） 手書きの自作ノートのみ持ち込み可	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義資料や確認問題をもとに事前学習（60分）・事後学習（60分）を行うこと。	
教科書	指定しない	
参考書	指定しない	
オフィス・アワー	メールにて随時対応します（maruyama.gchs@gmail.com）	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	特になし	
アクティブ・ラーニングの実施	問題解決学修	
ナンバリング	OBd-108	

講義科目名称： 物理学

授業コード： 1S026

英文科目名称： Physics

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
丸山 星			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 力のつり合いと運動の法則 力のモーメント、剛体の回転運動とつり合いについて学ぶ。 第2回 運動量と力学的エネルギー 運動量とその保存、衝突する物体の運動について学ぶ。 第3回 円運動と単振動 円運動する物体にはたらく力と、振動する物体について学ぶ。 第4回 熱力学 気体分子の運動と圧力の関係について学ぶ。 第5回 波の運動 波の屈折や反射、回折、干渉、音のドップラー効果について学ぶ。 第6回 電磁気（電気と力） 電界と電位、コンデンサのはたらきについて学ぶ。 第7回 電磁気（電流と磁界） 電流と磁界の関係、電磁誘導について学ぶ。 第8回 原子の構造と放射線 原子核の崩壊と放射線の種類について学ぶ。	丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星
科目の目的	医療従事者にとって必要な物理学を学習する。 高等学校で物理基礎を履修していない学生が、物理学全体の基礎的な理解を深めることを目的とする。この科目の学習を通して、科学的・論理的な考え方を養い、物理現象を定性的・定量的に取り扱えるようにする。 【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	物理学の考え方が身につき、重要な概念を理解している。 物理学に関する問題を解決でき、物理現象を定量的・定性的に取り扱うことができる。	
関連科目	基礎物理学	
成績評価方法・基準	定期試験（100%） 手書きの自作ノートのみ持ち込み可	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義資料や確認問題をもとに事前学習（60分）・事後学習（60分）を行うこと。	
教科書	指定しない	
参考書	指定しない	
オフィス・アワー	メールにて随時対応します（maruyama.gchs@gmail.com）	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	問題解決学修	
ナンバリング	OBd-109	

講義科目名称： 英語リーディング

授業コード： 1S027

英文科目名称： General English Reading

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
井上 まゆみ			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 Introduction Lesson 1 Communication 授業の説明 自己紹介 現在形	井上 まゆみ
	第2回 Lesson 2 Friendship 過去形	井上 まゆみ
	第3回 Lesson 3 Health and Environment 現在完了形	井上 まゆみ
	第4回 Lesson 4 Gender Equality 未来表現	井上 まゆみ
	第5回 Lesson 5 Fashion 助動詞①	井上 まゆみ
	第6回 Lesson 6 Food 助動詞②	井上 まゆみ
	第7回 Lesson 7 The History of YouTube 比較をする表現①	井上 まゆみ
	第8回 Lesson 8 Study Abroad 比較をする表現②	井上 まゆみ
	第9回 Lesson 9 College Life in the U. S. 受け身、使役	井上 まゆみ
	第10回 Lesson 10 Olafur Eliasson 関係詞①	井上 まゆみ
	第11回 Lesson 11 Volunteer Work 関係詞②	井上 まゆみ
	第12回 Lesson 12 Career 形容詞用法	井上 まゆみ
	第13回 Lesson 13 Travel 仮定法	井上 まゆみ
	第14回 Lesson 14 Culture 話法	井上 まゆみ
	第15回 Lesson 15 An International World ディスコース標識	井上 まゆみ
科目の目的	専門分野の英語に取り組むための基礎力、特にリーディング力、リスニング力を養成する。英語を学ぶことを通じて、将来の医療人として人間や社会に対する興味・関心の幅を広げ、関心・興味を持った事柄に関して調べ、自分の考え・意見を持ち、それらを表現する。【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストや各自の力と興味に合わせた本を読むことを通じて、多くの英文に接し、構文を正しく理解し、英文の内容を理解することができる。 ・テキストのトピックについて調べ、自分の考え・意見を持ち、グループやペアでの話し合いを通じて、他者の考え・意見も聞き、最終的に自分の考え・意見をまとめ、表現することができる。 ・テキスト教材の音声を聞いて、単語や文章を聴き取り、発音することができる。 ・extensive readingの目標は10,000words。易しい英文を楽しみながら読むことができ、口語表現、日常生活での英語表現が理解できる。 	
関連科目	医療英語会話、医療英語リーディング、英語会話、英語アカデミックリーディング・ライティング	
成績評価方法・基準	定期試験 (60%) 課題(30%) extensive reading(10%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習：次回に学習する範囲の英文を読んで、わからない単語は辞書で調べ、英文の大まかな内容をつかむ。どこがわからないのかを明確にする。exercise等もあらかじめやっておく。 復習：その日に学習したことを整理し、英文を理解する。課題を行う。予習復習合わせて約1時間。 extensive readingについては、目標達成に向けて、各自のペースで計画的に進める。	
教科書	教科書：Journeys: Communication for the Global Age 阿野幸一ほか4名 (朝日出版社)	
参考書	なし	
オフィス・アワー	授業の前後 (場所：非常勤講師室)	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上	高校までの基本的英文法は理解しておいてください。	

の注意	
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし
ナンバリング	SBe-101

講義科目名称： 医療英語会話

授業コード： 1S028

英文科目名称： Medical English Conversation

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
David Andrews			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 Introduction/Icebreaking イントロダクション、本授業について（シラバスや成績評価方法等）。 初対面で使う表現および授業中よく使われる表現の紹介、練習。	David Andrews
	第2回 Unit 1: Meeting patients	David Andrews
	第3回 Body Partsの小テスト（1） + Unit 2: Taking a medical history	David Andrews
	第4回 Unit 2の小テスト + Unit 3: Assessing symptoms	David Andrews
	第5回 Unit 3の小テスト + Unit 4: Taking vital signs および第1回目のプレゼンテーション準備	David Andrews
	第6回 第1回目のプレゼンテーション + Unit 4: Taking vital signs	David Andrews
	第7回 Unit 4の小テスト + Unit 5: Taking a specimen	David Andrews
	第8回 Unit 5の小テスト + Unit 6: Conducting a medical examination	David Andrews
	第9回 Body Partsの小テスト（2） + Unit 7: Assessing pain	David Andrews
	第10回 Unit 7の小テスト + Unit 8: Advising about medication および第2回目のプレゼンテーション準備	David Andrews
	第11回 第2回目のプレゼンテーション + Unit 8: Advising about medication	David Andrews
	第12回 Unit 8の小テスト + Unit 9: Improving Patients' mobility	David Andrews
	第13回 Unit 9の小テスト + Unit 10: Maintaining a good diet	David Andrews
	第14回 Body Partsの小テスト（3） + Unit 12: Coping with emergenciesおよび第3回目のプレゼンテーション準備	David Andrews
	第15回 第3回目のプレゼンテーション + Unit 12: Coping with emergencies	David Andrews
科目の目的	現在、医療は、間違いなくグローバルな分野であり、「国際語」である英語を通じて様々なアイデアが世界中に共有されている。本授業では、医療分野において必要な医療用語や表現を知識として身に付け、実際の場で使えるように実用的なコミュニケーションスキルを学ぶ。[キーワード：【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】]	
到達目標	医療業界において様々なシチュエーションに対応できるようになる。また、医療業界でよく使われている専門用語や表現等を聞き取り、言えるようになる。	
関連科目	英語会話、医療英語リーディング、英語リーディング、英語アカデミックリーディング・ライティング	
成績評価方法・基準	小テスト（30%）、第1回目のプレゼンテーション（15%）、第2回目のプレゼンテーション（20%）、第3回目のプレゼンテーション（35%） 授業中に小テストの結果を毎回確認させ、プレゼンテーションへのフィードバックを口頭で行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	復習：前回の授業で学んだことを定着させる。予習：テキストに目を通して、オーディオを聞き、練習問題をする。学習時間は合わせて1.5時間程度。また、プレゼンテーションの準備時間は合わせて6時間程度。	
教科書	教科書：Caring For People	
参考書	なし	
オフィス・アワー	授業日の昼休み（12:10～13:00）（1号館 ANNEX 6階619研究室）	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	予習は必ずすること。授業に辞書を持ってくる。	
アクティブ・ラー	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション	

ニングの実施	
ナンバリング	SBe-102

講義科目名称： 医療英語リーディング

授業コード： 1S029

英文科目名称： Medical English Reading

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
井上 まゆみ			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 Introduction Test Your Reading Skill 授業の説明、各自のreading skillのチェック、単語力のチェック。 第2回 Unit 1 How Food Passes Through Our Body topicの英文読解、内容の把握。 第3回 Unit 2 Coping with Cancer topicの英文読解、内容の把握。 第4回 Unit 3 Where Medicine Meets Religion topicの英文読解、内容の把握。 第5回 Unit 4 Before Calling It Malpractice topicの英文読解、内容の把握。 第6回 Unit 5 How Are Drugs Developed? topicの英文読解、内容の把握。 第7回 Unit 6 What Comes First when Helping Others topicの英文読解、内容の把握。 第8回 Unit 7 How to Identify Reliable Health Information topicの英文読解、内容の把握。 第9回 Unit 8 What Is "Upstream" Thinking? topicの英文読解、内容の把握。 第10回 Unit 9 Actions Speaks Louder than Words topicの英文読解、内容の把握。 第11回 Unit 10 Genetic Counseling as an Emerging Field topicの英文読解、内容の把握。 第12回 Unit 11 Can Medical Tourism Be a White Knight? topicの英文読解、内容の把握。 第13回 Unit 12 Hopes in Regenerative Medicine topicの英文読解、内容の把握。 第14回 Unit 13 Traditional Medicine in the Modern World topicの英文読解、内容の把握。 第15回 Unit 14 Japan's Healthcare System Is the Envy of the World Reading Skill のチェック topicの英文読解、内容の把握。各自のreading skillの再チェック。単語力の再 チェック。	井上 まゆみ 井上 まゆみ
科目の目的	専門分野の英語に取り組むためのリーディング力、リスニング力、表現力の養成と強化。医療系の基本的英語語彙力と英語表現力の強化。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療全般に関するトピックを読み、構文を正しくとらえ、内容を理解することができる。 ・トピックの内容をまとめ、関連する事柄について、自分の意見・考えを表現できる。 ・テキストの音声聞いて単語や文章を正しく聞き取ることができる。 ・医療の基本的英単語、英語表現を覚え、声に出して読んで書くことができる。 	
関連科目	英語リーディング 医療英語会話 英語会話 英語アカデミックリーディング・ライティング	
成績評価方法・基準	定期試験 (70%) 課題(20%) 医療英単語テスト(10%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習：次回に学習する範囲の英文、英単語の音声を聴く。英文を読んで、わからない単語は辞書で調べ、英文の大まかな内容をつかむ。どこがわからないのかを明確にする。 復習：その日に学習したことを整理し、英語構文を理解する。英単語、英語表現は覚え、正しく発音できるように音声教材をよく聴き、また、正しく書けるまで練習する。課題を行う。 予習復習合わせて約1時間。	
教科書	教科書：Medical World Walkabout 大野直子&ダシルヴァ石田牧子 (成美堂)	
参考書	なし	
オフィス・アワー	授業の前後 (場所：非常勤講師室)	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	高校までの基本的英文法は理解しておいてください。	

アクティブ・ラーニングの実施	実施なし
ナンバリング	SBe-201

講義科目名称： 英語会話

授業コード： 1S030

英文科目名称： General English Conversation

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
David Andrews			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 Course introduction/Icebreaking Explanation of the syllabus and grading. Introduction of phrases that will commonly be used in the class.	David Andrews
	第2回 Unit 1: I'm sorry. What's your name again? Talking about yourself, your hobbies, and your interests.	David Andrews
	第3回 小テストU1 および Unit 2: Where would you like to visit? Talking about countries and places that interest you.	David Andrews
	第4回 小テストU2 および Unit 3: Let's talk about money Expressing money amounts, dealing with currency exchange, and using an ATM.	David Andrews
	第5回 小テストU3 および Unit 4: Let's go to Hawaii! (part 1) + 第1回目のプレゼンテーション準備 Making reservations and checking in to a hotel + プレゼンテーションの準備。	David Andrews
	第6回 第1回目のプレゼンテーション + Unit 4: Let's go to Hawaii! (part 2) 第1回目のプレゼンテーション + Making reservations and checking in to a hotel (continued)	David Andrews
	第7回 小テストU4 および Unit 5: Let's do this! Talking about resort activities and making plans.	David Andrews
	第8回 小テストU5 および Unit 6: How do I get to the Koi Pond? Asking and giving directions.	David Andrews
	第9回 小テストU6 および Unit 7: Where are you headed? Asking for a taxi and making small talk.	David Andrews
	第10回 小テストU7 および Unit 8: Let's take a tour! (part 1) + 第2回目のプレゼンテーション準備 Talking about various island tours and activities + プレゼンテーションの準備	David Andrews
	第11回 第2回目のプレゼンテーション + Unit 8: Let's take a tour! (part 2) 第2回目のプレゼンテーション + Talking about various island tours and activities (continued)	David Andrews
	第12回 小テストU8 および Unit 9: How much is this T-shirt? Going shopping and buying things.	David Andrews
	第13回 小テストU9 および Unit 10: Let's go out to eat! Ordering food at a restaurant.	David Andrews
	第14回 小テストU10 および Unit 11: Lost and Found + 第3回目のプレゼンテーション準備 Describing an item you have lost + プレゼンテーションの準備。	David Andrews
	第15回 第3回目のプレゼンテーション + Unit 12: How was your vacation? 第3回目のプレゼンテーション + Talking about your experiences	David Andrews
科目の目的	本授業では、英語でコミュニケーションをとる際に役立つ用語や表現、異文化に対する寛容さを身に付け、様々な状況や場面で使えるように実用的なコミュニケーションスキルを学ぶ。【キーワード：【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】】	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことや身の回りのことについて英語で伝えることができる。 ・様々な場面において実用的なコミュニケーションスキル(要求、指示など)を習得する。 ・英語圏の文化や風習を理解する。 	
関連科目	医療英語会話、英語リーディング、医療英語リーディング、英語アカデミックリーディング・ライティング	
成績評価方法・基準	小テスト (30%)、第1回目のプレゼンテーション (15%)、第2回目のプレゼンテーション (20%)、第3回目のプレゼンテーション (35%) 授業中に小テストの結果を毎回確認させ、プレゼンテーションへのフィードバックを口頭で行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	復習：前回の授業で学んだことを定着させる。学習時間は1.5時間程度。また、プレゼンテーションの準備時間は合わせて6時間程度。	
教科書	教科書：使用せず 適宜、教材用資料を配布	

参考書	なし
オフィス・アワー	授業日の昼休み（12:10～13:00）（1号館 ANNEX 6階619研究室）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	予習は必ずすること。授業に辞書を持ってくる。
アクティブ・ラーニングの実施	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション
ナンバリング	SBe-202

講義科目名称： 中国語

授業コード： 1S031

英文科目名称： Chinese

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
深町 悦子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 ガイダンス、中国語とは？ 発音、漢字、声調	深町 悦子
	第2回 中国語の発音のきまり 単母音、複合母音、声調	深町 悦子
	第3回 子音の発音と音節 母音、子音、音節表の読み方	深町 悦子
	第4回 発音のまとめ 自分の名前を中国語で読む練習	深町 悦子
	第5回 第1課の学習 第1課 自己紹介 単語 本文 ポイント 練習	深町 悦子
	第6回 第1課の復習と第2課の学習 第2課 教室で 単語 本文 ポイント 練習	深町 悦子
	第7回 第2課の復習と第3課の学習 第3課 キャンパスで 単語 本文 ポイント 練習	深町 悦子
	第8回 発音の総合復習と第1課から第3課までの復習 中間レポート提出	深町 悦子
	第9回 第3課の復習と第4課の学習 第4課 友達と 単語 本文 ポイント 練習	深町 悦子
	第10回 第4課の復習と第5課の学習 第5課 ファストフード店で 単語 本文 ポイント 練習	深町 悦子
	第11回 第5課の復習と第6課の学習 第6課 待ち合わせ 単語 本文 ポイント 練習	深町 悦子
	第12回 第6課の復習と第7課の学習 第7課 旅行 単語 本文 ポイント 練習	深町 悦子
	第13回 第7課の復習と第8課の学習 第8課 アルバイト 単語 本文 ポイント 練習	深町 悦子
	第14回 第8課の復習と第9課の学習 第9課 風邪 単語 本文 ポイント 練習 文法 単語 本文 置換練習	深町 悦子
	第15回 第1課から第9課までの復習 総合復習	深町 悦子
科目の目的	現代のグローバル化の社会の中で、一国際人として、多言語ができる人材を育成する。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】	
到達目標	日常生活及び仕事の中で、簡単な会話ができること。	
関連科目	特になし	
成績評価方法・基準	期末に筆記試験を行う。基準は筆記試験が80%、授業内にレポート及び感想文の提出が20%。提出されたレポートについては次回授業内でフィードバックを行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業前の予習と授業後の復習をすること。1時限ごとに30分ぐらい必要である。発音の練習は必ずしっかりする事、特に四声については、音声ファイルを聞きながら発声して覚えるように。	

教科書	教科書：キャンパスで始める中国語（白帝社）
参考書	参考書：なし
オフィス・アワー	講義の前後（場所：非常勤講師室）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	教科書の購入が必要である
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし
ナンバリング	SBf-101

講義科目名称： コリア語

授業コード： 1S032

英文科目名称： Korean

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
青木 順			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 ハングルの読み方 基本母音 朝鮮半島、ソウル市などを簡単に紹介し、ハングルの由来、構造を簡単に説明。 基本母音10個の読み方、基本母音を含んだ単語、挨拶言葉等を学習する。	青木 順
	第2回 ハングルの読み方 基本子音 基本子音4個の読み方、その基本子音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。 文化として伝統料理を紹介する。	青木 順
	第3回 ハングルの読み方 基本子音 基本子音4個の読み方、その基本子音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。 文化として「混ぜる食文化」を紹介する。	青木 順
	第4回 ハングルの読み方 激音（濃音と比較しながら） 濃音と比較しながら激音5個の読み方、激音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。 文化として伝統茶、伝統服を紹介する。	青木 順
	第5回 ハングルの読み方 濃音（激音と比較しながら） 激音と比較しながら濃音5個の読み方、濃音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。 文化として韓国の包む文化～「サム料理」を紹介する。	青木 順
	第6回 ハングルの読み方 合成母音 合成母音11個の読み方、合成母音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。	青木 順
	第7回 ハングルの読み方 パッチム パッチムの読み方、パッチムを含んだ単語、挨拶言葉を学習する。 文化として食事のマナー、1歳の誕生日を紹介する。	青木 順
	第8回 「私は青木順です」① サンパッチム、連音の説明、練習を行う。	青木 順
	第9回 「私は青木順です」② 「は」「です」「～と申します」という文法の学習、関連会話文の読み、訳を行う。 文化として伝統家屋、伝統舞踊を紹介する。	青木 順
	第10回 「私は青木順です」のまとめと「何人家族ですか？」① 韓国語での自己紹介を一人一人行う。 関連単語、「ます」「ますか」等の文法の学習と練習を行う。 文化として伝統的結婚式、楽器等を紹介する。	青木 順
	第11回 「何人家族ですか」② 「お～になります」「が」「と」などの文法の学習と練習を行う。	青木 順
	第12回 「何人家族ですか」③ 固有数字、関連会話文の読み、訳、会話練習等を行う。 文化として伝統遊びを紹介する。	青木 順
	第13回 「すみません」① 関連単語、「～してください」、意志を含んだ「ます」等の文法の学習と練習を行う。	青木 順
	第14回 「すみません」② 「いる（いない）」「ある（ない）」の説明と練習。 固有数字を使う助数詞、関連会話文の読み、訳を行う。 文化として伝統刺繍を紹介する。	青木 順
	第15回 「すみません」③とまとめ 会話練習、文法のまとめ、試験問題の説明を行う。	青木 順
科目の目的	グローバルな視点を養い、限定的な場面でのコミュニケーション能力を身に付けることができる。 【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ハングル文字を正確に読み書きできるようになる。 ・正確な発音をマスターする。 ・挨拶をはじめ、簡単な日常会話を身につける。 	
関連科目	特になし。	

成績評価方法・基準	課題への取り組み (40%) ・期末テスト (60%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業で学習した内容はその都度復習しておくこと。 外国語の学習は反復・継続することが何より大切なので、毎日10分でもよいので、積極的に取り組むこと。
教科書	講師作成教材使用予定(コピー)
参考書	特になし。
オフィス・アワー	コリア語の授業のある日12:30~12:50非常勤教員室
国家試験出題基準	特になし。
履修条件・履修上の注意	講師作成の教材を使用する。 配布期間：前回の授業翌日から当該日まで。 持参方法：各自印刷して授業に持参すること（課題も含まれているため、印刷必須）。
アクティブ・ラーニングの実施	二人一組で、与えられた課題に取り組む方法をとる。
ナンバリング	SBf-102

講義科目名称： ドイツ語

授業コード： 1S033

英文科目名称： German

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
菅谷 優			

授業形態	講義	担当者
授業計画	Lektion1 動詞の現在人称変化1	菅谷 優
	Lektion2 名詞と冠詞の格変化	菅谷 優
	Lektion3 名詞の複数形・人称代名詞	菅谷 優
	Lektion4 動詞の現在人称変化2・命令法	菅谷 優
	Lektion5 定冠詞類・不定冠詞類	菅谷 優
	Lektion6 前置詞	菅谷 優
	Lektion7 話法の助動詞・未来形・非人称動詞	菅谷 優
	Lektion8 分離動詞と非分離動詞・接続詞	菅谷 優
	Lektion9 動詞の三基本形・過去人称変化	菅谷 優
	Lektion10 現在完了・再帰表現	菅谷 優
	Lektion11 形容詞の格変化	菅谷 優
	Lektion12 形容詞と副詞の比較変化・zu不定詞	菅谷 優
	Lektion13 関係代名詞・指示代名詞	菅谷 優
	Lektion14 受動態	菅谷 優
	Lektion15 接続法	菅谷 優
科目の目的	ドイツ語の基礎文法を一巡する。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】	
到達目標	講師のいない独習においても辞書と教科書を用いてドイツ語の文章が理解できるようにする。	
関連科目	健康スポーツ実技 現代文学 英語リーディング 医療英語会話 中国語 コリア語 ポルトガル語 情報処理	
成績評価方法・基準	期末試験100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各文法事項一課につき予習復習込みで二時間	
教科書	教科書は郁文堂からでているDeutsche Grammatik System und Praxis Leicht ISBN978-4-261-01272-9を使用。辞書は郁文堂：新キャンパス独和辞典978-4-261-07306-5をお買い求めください。	
参考書	CD付き オールカラー超入門！書いて覚えるドイツ語ドリル（ナツメ社）978-4816362538	
オフィス・アワー	授業終了後、教室前、あるいは非常勤講師室にて	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし	
ナンバリング	SBf-103	

	第15回 Exam Let's see how much you learned from the previous classes.	Hilda Harumi Handa
科目の目的	<p>ポルトガル語は主にブラジルで話される言語で、1万人以上のブラジル系住民が生活する群馬県内でも接する機会が多い言語です。群馬県内(特に東毛地区)において地域に関わる仕事(例えば、公務員や教員、医療関係など)を希望している学生にはポルトガル語の習得をお薦めします。</p> <p>また、ポルトガル語はブラジル以外の国々でも公用語とされているところがあり、国際的に活動したいという際にも役立てることができます。</p> <p>ポルトガル語は英語に近い構造のヨーロッパ言語で、英文法や語彙の知識が応用できる項目もあり、一方で英語の理解にも役立ちます。</p> <p>本授業の目標はポルトガル語の入門にとどまりますが、初級、中級へと学習を進めるためのきっかけとなると同時に、「英語以外のヨーロッパ言語」に関心を持っていただくこと、加えて可能な限り、ブラジルを中心としたポルトガル語圏の文化についても授業内で紹介し、ポルトガル語に関わる事柄の知見を広めることも目指します。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】</p>	
到達目標	<p>本授業では欧州言語共通参照枠(CEFR)のA1レベルを習熟目標とし、ポルトガル語の基本中の基本となる以下の基礎文法と基礎的なコミュニケーション表現を習得することを目指します。</p> <p>(1)ポルトガル語を読める (2)名詞や形容詞の性数の考え方が理解できる (3)挨拶など基礎的な表現ができる (4)基礎的な語彙を使うことができる (5)動詞の活用ができる</p> <p>これらに加え、とりわけブラジル人との日常的なコミュニケーションに関わる文化の知識(食文化、交通など)を身につけることも目標とします。</p>	
関連科目	特になし	
成績評価方法・基準	50% from final exam, and 40% participation (not attendance) in class, 10% assignments.	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	No special knowledge is required for it's a class for beginners. However, students should prepare by reviewing the handouts from the previous class and reading the newspapers or magazines mentioned in class. Students are advised to study about 2-3 hours per week in preparation for each 90-minute lesson.	
教科書	Teacher will provide handouts.	
参考書	Students will be encouraged to read some books, newspapers or magazines, that will be mentioned during class.	
オフィス・アワー	Students can communicate through email that will be provided on the first class. 場所：非常勤講師室	
国家試験出題基準	特になし	
履修条件・履修上の注意	<p>5回以上の欠席がある場合は期末試験を受けられません。 また、特別な事情がない場合の30分以上の遅刻は欠席と見なします。 就職活動や特別な事情による欠席は考慮いたします。</p> <p>大学生として相応な英語力と意欲、情熱があることが望ましいです。</p>	
アクティブ・ラーニングの実施	discussion , conversation and pair work	
ナンバリング	SBf-104	

講義科目名称： 情報処理

授業コード： 1S035

英文科目名称： Information Processing

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
米持 圭太			

授業形態	演習	担当者
授業計画	第1回 本講義の概要と授業準備 本講義の概要とパーソナルコンピュータの利用について	米持 圭太
	第2回 コンピュータの基礎 ハードウェアとソフトウェア ソフトウェア 情報システム	米持 圭太
	第3回 情報の形態と収集の方法 情報の形態 情報蓄積の形態 クラウド環境の情報 検索エンジン 情報収集の技術 情報収集の応用	米持 圭太
	第4回 インターネットの仕組みとWebシステム インターネットの概要 通信機能の階層化 IPアドレスの仕組み パケット通信の仕組み 通信の経路を選ぶ仕組み データを確実に送り届ける仕組みと素早く送り届ける仕組み アプリケーション層のプロトコル 直接接続する機器の通信 Webアプリケーションの仕組み クラウドコンピューティング	米持 圭太
	第5回 情報の伝達 ソーシャルネットワーキングサービス ブログ 電子掲示板 電子メール ソーシャルメディア 電子書籍	米持 圭太
	第6回 レポートの作成と編集 レポートとは 主題を決める 構造化を考える 内容を作り込む 数式表記 創造的レポートに向けて	米持 圭太
	第7回 レポートの作成演習 レポート作成の演習 ワープロによる文章作成	米持 圭太
	第8回 情報のデータ化と分析・マイニング 情報とデータ データの整理 データの可視化 データマイニング テキストマイニング	米持 圭太
	第9回 情報のデータ化と分析・マイニング演習 情報のデータ化と分析の演習 スプレッドシートによる分析	米持 圭太
	第10回 モデリングとシミュレーション モデルとデータ 確率的現象 傾向と予測 未来を予測する	米持 圭太

	第11回	モデリングとシミュレーション演習 モデリングとシミュレーションの演習 スプレッドシートによる予測	米持 圭太
	第12回	プレゼンテーションの方法 シナリオシートの作成と基本的な操作 プレゼンテーションの実際 技術の進歩とプレゼンテーションの変化	米持 圭太
	第13回	プレゼンテーション演習 プレゼンテーションの演習 プレゼンテーションの作成	米持 圭太
	第14回	セキュリティと法令順守 情報セキュリティ 情報漏えい対策法 インターネット社会の特性 情報社会の法令 デジタルコミュニケーション	米持 圭太
	第15回	ICT活用の問題解決 問題解決の基本的手順とICTの役割 情報を客観的にとらえる インターネットを利用した情報発信 問題解決におけるシミュレーションの利用	米持 圭太
科目の目的	現代社会には情報があふれており、私たちは様々なメディアから情報を取得し活用する。情報活用や情報操作を行うスキルを身につけるため、コンピュータやコンピュータネットワークの基本的概念と構成、仕組みを理解し、情報社会における情報の意味を理解することが求められる。本科目では大学での学び（学習と研究や臨床実践）をより充実させるため、パーソナルコンピュータやマルチメディアの基本的な操作を学ぶ。具体的には、Wordを使用した文書作成・編集の基本技術、Excelの基本、計算機能、ビジュアルな文書作成、インターネットの活用、ワークシートの活用などについて学び、合計、平均の計算、関数の活用、最大・最小、グラフ作成、データベースの基本事項、データのソート、検索、集計、Power Point、プレゼンテーションなどについての演習を行う。 【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】		
到達目標	情報社会におけるコンピュータやインターネットの仕組み理解し、情報の活用、意味、伝達の意義について学習する。 個別目標： 1. 情報の基本的概念について説明できる。 2. コンピュータとコンピュータネットワークの仕組みについて説明できる。 3. ワードプロセッサ、スプレッドシート、プレゼンテーション・アプリケーションを用いて情報表現、情報操作が行える。		
関連科目	情報リテラシー、データサイエンス入門		
成績評価方法・基準	演習課題（50%） ミニテスト（50%）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業（90分）、事前自己学習（60分）、関連項目の事後学習（60分）		
教科書	標準教科書 改訂新版 よくわかる情報リテラシー 岡本敏雄 監修 技術評論社 2022		
参考書	入門情報処理 ―データサイエンス、AIを学ぶための基礎― 寺沢 幹雄・福田 収 著 オーム社 2022		
オフィス・アワー	授業の前後（場所：非常勤講師室） 事前にE-mail にて予約		
国家試験出題基準			
履修条件・履修上の注意	MS-Office（MS-Word, MS-Excel, MS-PowerPoint）、ウェブブラウザをインストールしたPC（WindowsPC、Mac等）を持参してください。		
アクティブ・ラーニングの実施	課題作成に際して調査学習を取り入れた演習を行う。		
ナンバリング	SBg-101		

講義科目名称： 情報リテラシー

授業コード： 1S036

英文科目名称： Information Literacy

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
米持 圭太			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 本講義の概要と授業準備 本講義の概要と授業準備として、パソコンの利用方法、具体的な活用について学ぶ Windowsへのサインイン、基本操作 Macの基本操作	米持圭太
	第2回 文字入力 メモ帳、テキストエディットによるテキスト処理 日本語の入力	米持圭太
	第3回 インターネットの利用 Web、メールの利用、アカウント連携について ビジネスメールのマナー	米持圭太
	第4回 お絵かきソフトとファイル操作 ペイント、GIMPによるグラフィック処理 ファイル操作、フォルダーによるファイル管理 クラウドストレージの利用 USBメモリの賢い使い方	米持圭太
	第5回 アプリケーションソフト（文章作成） ワープロの利用 ワープロによるレポート作成	米持圭太
	第6回 アプリケーションソフト（表計算） 表計算ソフトの利用 グラフ作成 計算、集計、並べ替え オープンデータの利用	米持圭太
	第7回 アプリケーション（プレゼンテーション） プレゼンテーションソフトウェアによる情報表現 良いプレゼンテーションの仕方	米持圭太
	第8回 情報の探索とまとめ方 サーチエンジンの利用 インターネットによる情報収集 図書館の利用 レポート・論文作成	米持圭太
	第9回 コンピュータとネットワーク コンピュータの仕組み コンピュータネットワークの構成	米持圭太
	第10回 情報とセキュリティ セキュリティ 脆弱性と対策 コンピュータウイルス、マルウェアによる驚異 USBメモリの危険性 パソコン、スマホのセキュリティ対策	米持圭太
	第11回 情報と法律 著作権法 個人情報保護法 不正アクセス禁止法	米持圭太
	第12回 データ処理 Rとは Rによるデータ処理 Rによるグラフ処理	米持圭太
	第13回 プログラミング Pythonとは Pythonによるプログラミング	米持圭太

	第14回 データサイエンス データサイエンスとは 医療とデータサイエンス AIと情報科学	米持圭太
	第15回 情報リテラシーのまとめ 情報リテラシーのまとめ この科目を通して、学んだこと習得した知識、技術を確認しよう。	米持圭太
科目の目的	情報通信技術の発展に伴い、その技術に通じることは現代社会で生きていくためには不可欠な要素となっている。情報通信技術は便利で欠かせないものではあるが、その使い方を一歩誤ると、他者を傷つけたり、犯罪となったり、あるいは犯罪に巻き込まれたりすることになる。大きな社会問題に発展するケースも少なくない。 本科目では、情報通信機器にあふれた現代社会を生きる一員として、情報通信技術を使う際の基本的なルールやモラルについて学ぶ。また学生各自が自らの学習や研究、将来医療専門職として仕事に利用するための情報セキュリティの考え方を学ぶ。 【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	情報と意思決定の関係やメディアリテラシーの重要性を理解する。 個別目標： 1. さまざまな情報メディアを通して情報を活用する能力を身につける。 2. マルチメディアによる情報表現の手法を理解し、基本的ルールやモラルを説明できる。 3. 情報表現における倫理を理解し、情報セキュリティを实践できる。	
関連科目	情報処理、データサイエンス入門	
成績評価方法・基準	演習課題50% ミニテスト50%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前学習（45分） 事後学習（45分）	
教科書	改訂第5版 基礎からわかる情報リテラシー コンピュータ・インターネットと付き合う基礎知識 奥村晴彦・森本尚之 技術評論社	
参考書	標準教科書 改訂新版 よくわかる情報リテラシー 岡本敏雄 監修 技術評論社 2022	
オフィス・アワー	授業の前後、昼休み、4号館7階研究室または非常勤講師室 事前にE-mail にて予約(s-hoshino@paz.ac.jp)	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	MS-Office (MS-Word, MS-Excel, MS-PowerPoint) ウェブブラウザをインストールしたPC (WindowsPC、Mac等) を持参してください。	
アクティブ・ラーニングの実施	課題作成に際して調査学習を取り入れた演習を行う。	
ナンバリング	SBg-102	

講義科目名称： データサイエンス入門

授業コード： 1S037

英文科目名称： Introduction to Data Science

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
星野 修平			

授業形態	講義と演習	担当者
授業計画	第1回 社会におけるデータ・AI利活用 データサイエンスとは/社会における変化/本講義の概要と授業準備として、パソコンの利用方法、具体的な活用について学ぶ	星野修平
	第2回 社会で活用されているデータ	星野修平
	第3回 データ・AIの活用領域	星野修平
	第4回 データ・AI利活用のための技術	星野修平
	第5回 データ・AI利活用の現場	星野修平
	第6回 データ・AI利活用の最新動向	星野修平
	第7回 時系列データの可視化	星野修平
	第8回 平均、標準偏差の算出とその可視化	星野修平
	第9回 大量のデータを扱う方法	星野修平
	第10回 基本統計量の算出と箱ひげ図	星野修平
	第11回 度数分布表とヒストグラムの作成	星野修平
	第12回 散布図の作成と相関係数の算出	星野修平
	第13回 定性データの扱い方とクロス集計	星野修平
	第14回 データ・AIを扱う上での留意事項	星野修平
	第15回 データを守る上での留意事項	星野修平
科目の目的	現代社会においては、ICTの進歩に伴い、大容量データの収集、蓄積と解析によって、様々な情報・知識を得ることが可能となった。ビッグデータやAI、機械学習などを経て、様々な問題解決を行うデータサイエンスの基礎を学び、そのために必要なコンピュータの利用、統計学の知識、データ処理の手法を理解する。 【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	データサイエンスに関する基礎的概念について理解し、コンピュータによってデータ解析が実践できる。 個別目標： ・データサイエンスについて基礎的概念を説明できる。 ・データサイエンスに必要なコンピュータの基本的操作が行える。	
関連科目	情報処理・情報リテラシー・統計学・医療統計学	
成績評価方法・基準	授業中に実施するミニテスト（50%）と演習課題（50%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前学習（90分）で理解し、授業を通して学んだことの事後学習（45分）	
教科書	基礎学習 AIデータサイエンスリテラシー入門 吉岡剛志, 小林領, 照屋健作 共著 2022. 技術評論社	
参考書	データサイエンスの考え方 小澤 誠一・斎藤 政彦 共著、オーム社	
オフィス・アワー	授業の前後、昼休み、4号館7階研究室 事前にE-mail にて予約(s-hoshino@paz.ac.jp)	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上	MS-ExcelをインストールしたPC（WindowsPC、Mac等）を持参してください。	

の注意	
アクティブ・ラーニングの実施	演習、事前課題、事後課題なその課題演習にて、学生の招待的な学びを実践的にこなう。
ナンバリング	SBg-103

講義科目名称： 大学の学び入門

授業コード： 1S038

英文科目名称： Introduction to College Learning

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
星野 修平	星野修平	峯村優一	伊藤 栞

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 大学の学び入門とは ・科目の目的・目標・進め方 ・高校生までの学習・生活と大学生の学習・生活の違い ・アカデミック・スキル、スチューデント・スキルとは	星野修平
	第2回 学ぶスキル（1） ・ノートの取る ・講義に参加する	星野修平
	第3回 学ぶスキル（2） ・本を読む ・文献を探索する ・図書館を活用する	星野修平
	第4回 学ぶスキル（3） ・オンラインコミュニケーション ・メールの活用、SNSの活用と課題 ・クラウドサービスの利用	星野修平
	第5回 学ぶスキル（4） ・大学の理念、教育の理念 ・群馬パース大学の教育の理念を聞き、大学の学びを考える	星野修平
	第6回 学ぶスキル（5） ・保健・医療・福祉の理念 ・医療専門職を目指す入学動機を検証し、学習、生活両面の自分自身の目標を見つける 特別講義：國元文生群馬パース病院長	星野修平
	第7回 書くスキル（1） レポートの書き方1 ・レポートとは何か、レポート作成の手順、よいレポートとは	峯村優一
	第8回 書くスキル（2） レポートの書き方2 ・論文作法	峯村優一
	第9回 書くスキル（3） レポートの書き方3 ・講義レポートの形式	峯村優一
	第10回 リサーチスキル（1） ・リサーチスキルの意味 ・インターネットの利用とデータ収集	星野修平
	第11回 リサーチスキル（2） ・データを集めて集計する ・データから基本統計量を計算する	星野修平
	第12回 生きるスキル（1） ・相手の話を聴く ・ロールプレイを通して基本的なカウンセリングの技法を体験する	伊藤栞
	第13回 生きるスキル（2） ・自分の気持ちや考えを伝える ・グループワークを通し、自分の感情や意思をわかり易く伝える練習をする	伊藤栞
	第14回 生きるスキル（3） ・協力して作業する ・これまでのワークを通して身につけたスキルを活用し、周囲と協力して課題を達成する	伊藤栞

	第15回 生きるスキル（4） ・自身の人生とライフスタイルを考える ・他者の意見を聞き、自ら考える 特別講義：樋口建介理事長	星野修平
科目の目的	大学での学習形態や学問に対する姿勢、大人としての生活態度を認識、理解し、高校生までの学習・生活から大学生の学習・生活に移行することができるように、基本的なスキル、姿勢を学ぶ。 1. 与えられた知識や技術を身に付けていく高校までの学習から、自ら課題を見つけ、それを解決していく大学の学習のためのスキルの習得、姿勢の理解 2. 高校までの大人に守られた生活から、責任ある大人としての生活のためのスキルと姿勢の理解。 【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	1. 大学での学習に必要な学習習慣・学習技術（アカデミック・スキル、情報処理に関するスキル、ルール、マナー）を理解し、授業やレポートで実践できる。 2. 責任ある大人としての生活に必要な、基本的な生活習慣を身につけ、大学生生活で実践できる。（スチューデント・スキル、コミュニケーションスキル）	
関連科目	全科目	
成績評価方法・基準	星野担当分：課題（50%、課題に対するフィードバックはAAにて掲示を行う） 峯村担当分：課題（25%、課題はコメントと共に後日返却する） 伊藤担当分：課題（25%、課題である意見文・感想文の内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	前回授業の重要事項を見直しておくこと。約45分間。	
教科書	18歳からの「大人の学び」基礎講座、向後千春 著 北大路書房	
参考書	参考書：講義等で随時紹介いたします。	
オフィス・アワー	星野：授業の前後、昼休み、4号館7階研究室 峯村：授業の前後、昼休み、4号館8階研究室 伊藤：授業の前後、昼休み、研究室	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	講義資料はActive Academy上で配布しますので、各自プリントアウトして授業に持ってきてください。配布期間は授業の前後1週間。	
アクティブ・ラーニングの実施	・課題提出に際し、発見学習を取り入れて実施。 ・ロールプレイ、グループワークを取り入れて実施。	
ナンバリング	SCh-101	

講義科目名称： 大学の学び－専門への誘い－

授業コード： 1S039

英文科目名称： Introduction to Healthcare Profession

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
白坂 康俊	齊藤 吉人	神山 政恵	三浦 康子
	丹下 弥生	岡野 由美・遠藤 俊介	酒井 哲郎・及川 翔

授業形態	演習 (15回)			担当者
授業計画	第1回	日本語表現演習 (AS) 言語聴覚療法の啓発 (言語障がい者の権利ならびに支援のために必要な情報) AS、座学		白坂、齊藤、神山、三浦、丹下、岡野、遠藤、酒井、及川
	第2回	日本語表現演習 (AS) ディスカッション (AS) 情報を共有するためにどのような方法がよいか?		白坂、齊藤、神山、三浦、丹下、岡野、遠藤、酒井、及川
	第3回	日本語表現演習 (AS) ディスカッション (AS) 臨床で言語聴覚士が果たすべき責任と、それを障がいのある方にどう伝えるか?		白坂、齊藤、神山、三浦、丹下、岡野、遠藤、酒井、及川
	第4回	日本語表現演習 (AS) ディスカッション (AS) AS 啓発活動の準備		白坂、齊藤、神山、三浦、丹下、岡野、遠藤、酒井、及川
	第5回	日本語表現演習 (AS) ディスカッション (AS) AS 啓発活動の準備		白坂、齊藤、神山、三浦、丹下、岡野、遠藤、酒井、及川
	第6回	日本語表現演習 (AS) 地域貢献活動 (AS) AS 啓発活動の実践		白坂、齊藤、神山、三浦、丹下、岡野、遠藤、酒井、及川
	第7回	日本語表現演習 (AS) 地域貢献活動 (AS) AS 啓発活動の実践		白坂、齊藤、神山、三浦、丹下、岡野、遠藤、酒井、及川
	第8回	日本語表現演習 (AS) ディスカッション (AS) 日本語表現演習 (AS) グループ 毎の発表とディスカッション 半分のグループ (AS) 成果発表		白坂、齊藤、神山、三浦、丹下、岡野、遠藤、酒井、及川
	第9回	日本語表現演習 (AS) ディスカッション (AS) 日本語表現演習 (AS) グループ 毎の発表とディスカッション 残り半分のグループ (AS) 成果発表		白坂、齊藤、神山、三浦、丹下、岡野、遠藤、酒井、及川
	第10回	日本語表現演習 (AS) 言語聴覚士の現場 - 小児 - 小児の現場におけるコミュニケーションの方法、内容、特徴		齋藤 吉人

	第11回	日本語表現演習 (AS) 言語聴覚士の現場 - 成人 - 成人の現場におけるコミュニケーションの方法、内容、特徴	白坂 康俊
	第12回	日本語表現演習 (AS) ディスカッション (AS) ASと座学	神山 政恵
	第13回	日本語表現演習 (AS) ASと座学	三浦 康子
	第14回	日本語表現演習 (AS) ASと座学	丹下 弥生
	第15回	日本語表現演習 (AS) AS	白坂、齊藤、神山、三浦、丹下、岡野、遠藤、酒井、及川
科目の目的	課題学習、グループディスカッション、発表を通して専門関連の課題を理解し、チームアプローチのためのコミュニケーション能力ならびにプレゼンテーション能力を育成する。言語聴覚学科独自のアクティブラーニング・ゼミ方式を理解し、慣れる。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】		
到達目標	他の学生と協調してグループ学習ができる。テーマに合わせて課題を選択し、その解決方法を見つけることができる。自主的に学習するとともに、グループの他のメンバーを尊重し、協働することができる。		
関連科目	言語聴覚障害学概論、言語聴覚障害学演習、ICFとリハビリテーション、地域リハビリテーション学		
成績評価方法・基準	聴講票20%、ALの参加状況20%、ALの内容、発表60%とする。それぞれ、60/100点以上をとることが必要である。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	グループ内でのコミュニケーションをしっかりとる。グループ学習において他者の意見を聞くのはもちろんだが、それを尊重しながら発信する。また、他者の学修に対する姿勢なども参考にする。今後4年間の基礎的学習となる。AL=アクティブラーニング、AS=アクティブラーニング・ゼミ		
教科書	教科書は使用しない。必要な資料を授業時、または前の回の授業時に配布する。		
参考書	なし		
オフィス・アワー	研究室620 火曜日の昼休み。		
国家試験出題基準			
履修条件・履修上の注意			
アクティブ・ラーニングの実施	ディスカッション、テーマに沿った調査学習、実践		
ナンバリング	SCh-102		

講義科目名称： 多職種理解と連携

授業コード： 1S040

英文科目名称： Multidisciplinary Understanding and Cooperation

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
白坂 康俊	村田 和香・佐藤 満	矢島 正栄・中島 久美子	松下 誠・渡邊 浩・近土 真由美
	金谷 春代・宗宮 真	藤井 裕哉・石井 純子・平井 正利	

授業形態	講義および演習（グループ・ディスカッション）		担当者
授業計画	第1回	理学療法領域における最近のトピックス 科目ガイダンス含	佐藤 満
	第2回	看護師の役割および看護領域における最近のトピックス	矢島 正栄
	第3回	臨床工学技士の役割および臨床工学領域における最近のトピックス	近土 真由美
	第4回	診療放射線技士の役割および診療放射線領域における最近のトピックス	渡邊 浩
	第5回	臨床検査技士の役割および臨床検査領域における最近のトピックス	松下 誠
	第6回	医療の各領域と言語聴覚領域の連携・言語聴覚領域における最近のトピックス	白坂 康俊
	第7回	作業療法領域における最近のトピックス	村田 和香
	第8回	保健師の役割および地域保健における最近のトピックス	矢島 正栄
	第9回	助産師の役割および妊娠出産に関わる最近のトピックス	中島 久美子
	第10回	リハ医の役割およびリハビリテーション医学領域の最近のトピックス	宗宮 真
	第11回	社会福祉士の役割および最近のトピックス	金谷 春代
	第12回	精神保健福祉士の役割および最近のトピックス	藤井 裕哉
	第13回	ケア・マネージャーの役割および最近のトピックス	石井 純子
	第14回	義肢装具士の役割および最近のトピックス	平井 正利
	第15回	多職種との連携に関する総括	白坂 康俊
科目の目的	リハビリテーションは多数の職種が参加するチームで展開される。より良いチームアプローチのためには、コミュニケーションと目標の共有が大切である。専門職間のコミュニケーションを高め、互いの専門性に対する理解を深め、どのように連携し、チームを推進するのか、他の専門職の役割や最近のトピックスなどを学ぶ。 【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】		
到達目標	1. 各専門職種の業務内容の実際と期待される活動内容を述べることができる。 2. 地域における多職種連携について、職種、連携の方法を述べることができる。		
関連科目	言語聴覚学概論		
成績評価方法・基準	レポート100% 60%以上で合格とする		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業前学習として、各専門職団体および本学HPを確認しておくこと。 わかりにくい概念などをチェックし、復習時に確認すること。 目安となる時間は約30分程度。		
教科書	特に指定しないが、授業資料が提供される可能性がある。		
参考書	無し		
オフィス・アワー	全ての先生：講義終了後		
国家試験出題基準			
履修条件・履修上の注意			
アクティブ・ラーニングの実施	言語障害の体験学習		
ナンバリング	SCh-201		



講義科目名称： 医学概論

授業コード： 1S041

英文科目名称： Survey of Medical Science

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
湯本 真人			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 医学の定義・使命・歴史と医の倫理 医学とは何か, 医学の使命, 歴史, 医の倫理, 脳死判定と尊厳死について学ぶ	湯本 真人
	第2回 人体の構造と機能 人体の構造と機能について学ぶ	湯本 真人
	第3回 臨床医学総論 主要症状からその原因を探る手法・考え方を学ぶ	湯本 真人
	第4回 臨床医学各論1 (呼吸・循環・消化・代謝・腎臓・血液・造血器) 臨床医学各論のうち, 呼吸・循環・消化・代謝・腎臓・血液・造血器疾患を学ぶ	湯本 真人
	第5回 臨床医学各論2 (神経・精神・アレルギー・膠原病・感染・中毒・運動器・皮膚) 臨床医学各論のうち, 神経・精神・アレルギー・膠原病・感染・中毒・運動器・皮膚疾患を学ぶ	湯本 真人
	第6回 臨床医学各論3 (婦人科・産科・小児・眼・耳鼻咽喉・メタボリックシンドローム) 臨床医学各論のうち, 婦人科・産科・小児・眼・耳鼻咽喉科疾患およびメタボリックシンドロームを学ぶ	湯本 真人
	第7回 人口統計・疾病動態・健康と受療・医療保障制度 人口統計・疾病動態・健康と受療・医療保障制度について学ぶ	湯本 真人
	第8回 医療施設の種類と現状・保健医療対策・関係法規 医療施設の種類と現状・保健医療対策・関係法規を学ぶ	湯本 真人
科目の目的	医学の概要及び歴史を学び、医の倫理や医療従事者としての職業的倫理観を身につける。また、代表的な臓器における疾患について、その病気の成り立ちのメカニズム、症状、検査、診断、治療（外科を含む）といった臨床的問題解決過程について学ぶ。さらに言語聴覚療法に関連する代表的な病気を取り上げ、その症状や病態、治療等の概要から疾病と言語療法との関わり、及びわが国の保健・医療・福祉制度を総論的に学んで言語聴覚士の役割を概念化する。【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医の倫理や医療安全に関して、医療人としてとるべき対応を答えることができる。 ・代表的な感染症に関して、その感染経路や感染対策を簡潔に答えることができる。 ・代表的な疾患に関して、その発症メカニズム、症状、検査、診断、治療を簡潔に答えることができる。 ・難聴や摂食嚥下障害に対する言語聴覚士としての介入に関し、簡潔に答えることができる。 	
関連科目	解剖学総論、基礎生理学、基礎病理学、内科学、小児科学、精神医学、リハビリテーション医学、耳鼻咽喉科学、神経内科学、臨床心理学、音声学、言語学、音響音声学	
成績評価方法・基準	定期試験100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の講義内容を教科書を用いて1時間程度予習・復習することが望ましい	
教科書	教科書：コメディカルのための専門基礎分野テキスト 医学概論（中外医学社）	
参考書	図書館にある関連図書	
オフィス・アワー	講義後10分間、講義室にて	
国家試験出題基準	I-1-A-a~f I-1-B-a~c I-1-C-a~e I-1-D-a~b I-1-E-a~b I-1-F-a~c I-1-G-a I-1-H-a I-1-I-a I-1-J-a~b I-1-K-a~c	
履修条件・履修上の注意	講義資料がある回は、AAAを介して事前配布	
アクティブ・ラー	回によりグループディスカッションあり	

ニングの実施	
ナンバリング	SFi-101

講義科目名称： 解剖学総論

授業コード： 1S042

英文科目名称： Introduction to Human Anatomy

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
後藤 遼佑			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 解剖学総論 解剖学の位置付け；人体の階層性；基準面；方向と位置を示す用語 第2回 筋骨格系 運動器の顕微構造；全身の主要な骨と筋 第3回 循環器系 体循環と肺循環；冠状血管系；主要な血管の走行と分布 第4回 呼吸器系、消化器系 気道部と呼吸部の基本構造；消化管の基本構造；肝臓、胆嚢、膵臓の基本構造；門脈系 第5回 泌尿器系、内分泌系 腎臓と膀胱の基本構造；生殖器の基本構造 第6回 感覚器 神経系の概要；眼の基本構造；内耳の基本構造 第7回 神経系1 中枢神経系の基本構造；大脳と小脳の皮質と神経核；脳幹と脳神経核 第8回 神経系2 脳神経と脊髄神経の起始、走行、分布；神経叢の基本構造	後藤 遼佑 後藤 遼佑 後藤 遼佑 後藤 遼佑 後藤 遼佑 後藤 遼佑 後藤 遼佑 後藤 遼佑
科目の目的	人体を構成する各器官系の位置と構造を学び、医療職に必要な基礎知識を身につける。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】	
到達目標	(1) 解剖学用語を正しく使うことができる。 (2) 各器官系が人体に占める位置を説明できる。 (3) 各器官系の構造と機能を説明できる。	
関連科目	局所解剖学、基礎生理学	
成績評価方法・基準	試験100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前学習として一時間程度をかけ教科書の該当範囲を精読すること。	
教科書	教科書：「言語聴覚士のための解剖・生理学 第1版」小林靖（医歯薬出版株式会社）	
参考書	参考書：ネッター頭頸部・口腔顎顔面の臨床解剖学アトラス 原著第3版 前田健康監訳（医歯薬出版株式会社）	
オフィス・アワー	毎週月曜日昼休み（12:10-13:00）にM614教室で質問を受け付ける。	
国家試験出題基準	I-2-A-a I-2-B-a~b I-2-C-a~h I-2-D-a~b	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし	
ナンバリング	SF1-102	

講義科目名称： 局所解剖学（言語・聴覚・発声・嚥下）

授業コード： 1S043

英文科目名称： Topographic anatomy (Speech and hearing)

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
浅見 知市郎			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 骨格系 頭蓋を構成する骨について 第2回 筋系 発語、咀嚼、嚥下に関係する筋について 第3回 神経系 1 言語・聴覚を中心とする中枢神経系について 第4回 神経系 2 言語・聴覚に関する脳神経を中心とする末梢神経について 第5回 消化器系 口腔を中心とする諸器官について 第6回 呼吸器系 鼻腔・咽頭・喉頭を中心とする諸器官について 第7回 感覚器系 聴覚器（外耳・中耳・内耳）について 第8回 発生学 頭頸部の形成を中心とする発生学について	浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎
科目の目的	リハビリテーション専門職に重要と考えられる言語・聴覚・発声・嚥下に関わる頭頸部の局所解剖学を習得する。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】	
到達目標	言語・聴覚・発声・嚥下に関わる頭頸部の器官を解剖学的に説明できる。	
関連科目	解剖学総論	
成績評価方法・基準	試験100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	シラバスをもとに授業該当箇所の予習と復習を合計2時間行う必要がある。	
教科書	「ネッター 頭頸部・口腔顎顔面の臨床解剖アトラス（原著第3版）」Neil S. Norton著 前田健康監訳 医歯薬出版	
参考書	「入門人体解剖学(改訂第6版)」藤田恒夫著 藤田信也改訂（南江堂）	
オフィス・アワー	火曜日、木曜日の昼休み12：30～12：50の間に浅見の研究室(615)。	
国家試験出題基準	【言語聴覚士】 I-2-C-d, e, f 3-B-a, b, c, d, e, f C-b E-a, b I-a, b, c, d	
履修条件・履修上の注意	Active Academyによる講義資料の配付期間：講義の1週間前から学期末まで。	
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし	
ナンバリング	SF1-103	

講義科目名称： 基礎生理学

授業コード： 1S044

英文科目名称： Fundamentals of Physiology

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
洞口 貴弘			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 ガイダンス からだの構造と機能の基本 本講義を受講するにあたっての心構えや、人体を構成する分子、細胞、組織とそれらのはたらきについて概説する 第2回 筋系、血液と免疫系 骨格筋の機能、血液の機能 第3回 循環器系 心臓と血管の機能について概説する 第4回 呼吸器系、消化器系 呼吸器系の機能、消化器系の機能について概説する 第5回 泌尿器系、内分泌系 泌尿器系の機能、内分泌系の機能について概説する 第6回 感覚器系 感覚器系の機能について概説する 第7回 神経系1 神経系の機能について概説する 第8回 神経系2 神経系の機能について概説する	洞口 貴弘 洞口 貴弘 洞口 貴弘 洞口 貴弘 洞口 貴弘 洞口 貴弘 洞口 貴弘
科目の目的	人体の各部分の構造と機能を学び、医療職に必要な基礎知識を身につける(ディプロマポリシー【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】)	
到達目標	正常な人体の機能やそれを生み出すしくみの基礎について、選択肢の中から正しく選択できる	
関連科目	解剖学総論、局所解剖学、基礎病理学 他	
成績評価方法・基準	期末テストのみ(100%) で最終的な成績を決定する	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業内容および期末テストの内容は、配布資料に準ずる。また、配布資料は下記教科書から作成している そのため、教科書や配布資料を中心とした予習・復習が単位認定のカギとなる(約4時間)	
教科書	「言語聴覚士のための解剖・生理学 第1版」(医歯薬出版株式会社)	
参考書	「シンプル生理学 第7版」(南江堂) 「標準生理学」(医学書院) 「人体の正常構造と機能」(日本医事新報社) 「トートラ 人体の構造と機能」(丸善) 他	
オフィス・アワー	講義実施日の18:00~19:00(1号館6階 604室)	
国家試験出題基準	I-3-A-a~g I-3-B-a~f I-3-C-a~e I-3-D-a~b I-3-E-a~b I-3-F-a I-3-G-a~d I-3-H-a~d I-3-I-a~d I-3-J-a~c I-3-K-a~b I-3-L-a~b	
履修条件・履修上の注意	7.5コマ講義なので、3回の欠席で履修放棄となるので注意	
アクティブ・ラーニングの実施	実施しない	
ナンバリング	SFi-104	

講義科目名称： 基礎病理学

授業コード： 1S045

英文科目名称： Fundamentals of Pathology

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
田村 遵一			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 病理学序論・医学における病理学の位置付け 病理学の定義と他領域との関連性	田村遵一
	第2回 病理学の基本四分類と細胞障害 アポトーシス、壊死	田村遵一
	第3回 炎症（基礎編） 炎症の原因と変化	田村遵一
	第4回 腫瘍（基礎編） 腫瘍の特徴と分類	田村遵一
	第5回 循環障害（基礎編） 循環障害の原因と結果	田村遵一
	第6回 変性（基礎編） 代謝異常、	田村遵一
	第7回 遺伝子と免疫の異常（基礎編） 遺伝病、自己免疫疾患等	田村遵一
	第8回 病理学まとめ これまでに学んだ病理学等について小論文を作成	田村遵一
科目の目的	病理学とは疾病の原因、発生メカニズムなど、疾病の本態を解明する学問である。病理学総論として代謝障害、循環障害、炎症、腫瘍について疾病で生じる変化、経過、疾病の予後を捉え、理解ができるようにする。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】	
到達目標	1. 疾病の原因、経過、治療法、予後を説明できる。 2. 疾病の検査事項を説明できる。 3. 疾病の病理所見を説明できる。	
関連科目	解剖学総論	
成績評価方法・基準	定期試験成績（80％）と出席点（20％）成績を評価する。試験形態は筆記試験とする。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について予習、復習を行うこと。準備学習に必要な時間は1時間程度とする。	
教科書	教科書：講師が配布する資料（授業ごとに配布する）	
参考書	参考書：なるほどなっとく！病理学 病態形成の基本的な仕組み 小林正伸著 南山堂	
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。	
国家試験出題基準	I-4-A-a [~] b I-4-B-a [~] f I-4-C-a [~] I-4-D-a [~] b	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	特になし	
ナンバリング	SF1-105	

講義科目名称： 医療危機管理（窒息・誤嚥・吸引含む）

授業コード： 1S046

英文科目名称： Medical Risk Management

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
湯本 真人			

授業形態	講義のみ	担当者
授業計画	第1回 医療安全総論 医療安全の考え方、歴史 第2回 チーム医療 医療安全におけるチーム医療の根幹となる各職種の役割と連携 第3回 安全管理の仕組み 医療安全を管理する仕組み、体制づくり 第4回 医療事故が起きた場合 発生した医療事故に対する取り組み方 第5回 情報の取り扱い 臨床現場における情報の取り扱いについて 第6回 医療機器や医療ガスの取り扱い 臨床の現場で遭遇する医療機器や医療ガスの注意点 第7回 リハビリテーション中止の目安 リハビリテーションの中止を考える場合 第8回 院内感染対策(基礎) 感染症の総論 第9回 院内感染対策(発生時) 感染症各論、病原微生物 第10回 院内感染対策(予防) 感染症対策、院内感染対策 第11回 誤嚥と窒息 誤嚥と窒息の違い、原因となる疾患 第12回 院内肺炎・介護医療肺炎・誤嚥性肺炎 肺炎の病態と検査、治療について 第13回 急変時の対応(準備) 緊急時に必要になる物品、緊急時の基本 第14回 急変時の対応(誤嚥・窒息) 目前で誤嚥、窒息を起こした際の対処法 第15回 急変時の対応(心肺停止) 心肺停止時の蘇生処置の基本と応用について	湯本 真人 湯本 真人
科目の目的	診療の場で求められる安全対策、感染対策、緊急時の対応の基礎知識の習得【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】	
到達目標	現代の医療現場で求められる医療安全の概念と実践するための基礎知識の習得 1. 医療安全の歴史的背景と関連法規の概説が出来る。 2. 医療安全におけるチーム医療について具体的に説明できる。 3. 院内感染の原因と対策について説明できる。 4. 緊急時の対処について順を追って具体的に説明できる。	
関連科目	耳鼻咽喉科学、内科学、多職種理解と連携	
成績評価方法・基準	定期試験(100%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習・復習各30分程度	
教科書	教科書：使用しない	
参考書	参考書1：「医療安全管理テキスト第4版：医療安全管理者必携」飯田修平編 日本規格協会 参考書2：「改訂第4版日本救急医学会ICLSコースガイドブック」山畑 佳篤 羊土社 参考書3：「病気がみえる vol.4 呼吸器」医療情報科学研究所編 メディックメディア	
オフィス・アワー	授業の前後に講義室にて対応	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	回によりグループディスカッションあり	

ナンバリング

SFi-106

講義科目名称： 内科学

授業コード： 1S047

英文科目名称： Internal Medicine

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
岩崎 俊晴			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 概論 1 ＜内科疾患の分類、薬物療法、食事療法＞内科疾患の分類、薬物療法の実際。薬物の作用、濃度。処方箋、医薬品に関する法令。薬用量。食事療法の目的。栄養と疾患の関係。各種病態と食事療法の基本方針。病院食とは。嚥下と栄養補給。</p> <p>第2回 概論 2 一般検査。血液検査。生化学検査。内分泌検査。感染症検査。免疫的検査。腫瘍マーカーとは。生理学的検査。画像検査。</p> <p>第3回 消化器疾患 1 消化器疾患の食事・栄養療法。口腔、食道、胃疾患、腸疾患。</p> <p>第4回 消化器疾患 2 肝、胆のう、膵臓疾患。腹膜疾患。急性腹症。</p> <p>第5回 呼吸器疾患 1 感呼吸器疾患総論、染性呼吸器疾患。気管支疾患。産業界呼吸器疾患。</p> <p>第6回 呼吸器疾患 2 間質性肺炎。COPD。肺腫瘍。肺循環障害。サルコイドーシス。</p> <p>第7回 アレルギー、自己免疫疾患。 アレルギーとは。アレルギー性鼻炎。気管支喘息。アレルギー性肺疾患。膠原病。</p> <p>第8回 循環器疾患 1 心不全。不整脈。</p> <p>第9回 循環器疾患 2 虚血性心疾患。弁膜症。心筋炎。リウマチ熱。</p> <p>第10回 循環器疾患 3 高血圧症。大動脈疾患。末梢動脈疾患。静脈・リンパ系の疾患。</p> <p>第11回 内分泌・代謝疾患 1 内分泌疾患の特徴。間脳、下垂体疾患。甲状腺、副甲状腺疾患、副腎疾患。</p> <p>第12回 内分泌・代謝疾患 2 糖代謝異常（糖尿病、低血糖）</p> <p>第13回 内分泌・代謝疾患 3 脂質代謝異常。尿酸代謝異常。その他の代謝異常。</p> <p>第14回 血液疾患 血液量の異常。脱水。貧血、多血症。血小板の異常。白血球の異常。</p> <p>第15回 内科学における遺伝性疾患。環境因子と内科疾患。 遺伝性疾患の形式。家族性高コレステロール血症について。公害病について。原発事故における健康被害。</p>	<p>岩崎</p>
科目の目的	<p>臨床医学の中で内科学はすべての疾患を知る上で重要な学問である。特に、疾患の病理生理、診断、治療を学ぶことは臨床の現場で患者の状況を理解し、的確な判断に基づいて検査、治療を施す上で重要である。</p> <p>【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】</p>	
到達目標	<p>疾病の病態生理、診断、治療を一連の流れの中で理解する力を養う。国家試験に役立つ疾患について理解を深め、実際の問題に対応できるようにする。</p>	
関連科目	<p>解剖学総論、基礎生理学、基礎病理学</p>	
成績評価方法・基準	<p>試験とレポートの総合評価（レポート30%、ミニテスト30%、試験40%） [2023.4.25 訂正]</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>毎回の講義内容をよく復習し、重要事項を頭にしておくこと。講義前に授業資料に目を通し、どのような流れの授業なのかを把握しておくこと。授業内容を深く理解するためには30分以上の予習が必要である。</p>	
教科書	<p>なし</p>	
参考書	<p>「病気が見える」シリーズ</p>	
オフィス・アワー	<p>講義の後20分ほど非常勤講師室に滞在している。講義した内容に質問があれば出席表を利用する。</p>	
国家試験出題基準	<p>＜臨床医学＞Ⅱ-1</p>	

履修条件・履修上の注意	特になし。
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし
ナンバリング	SFj-201

講義科目名称： 小児科学

授業コード： 1S048

英文科目名称： Pediatrics

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
秋元 かつみ			

授業形態	講義(15回) 授業の前後にプレテスト、ポストテストを施行 授業終了後に内容についての問題1問作成	担当者
授業計画	<p>第1回 小児科学概論 成長発達、神経反射、小児と成人の相違（構造、生理）、健康診断</p> <p>第2回 新生児、低出生体重児 低出生体重児、早産児の生理と合併症、マスキリーニング、母児感染</p> <p>第3回 先天異常 染色体異常、遺伝子異常、代謝異常などの原因と診断と治療</p> <p>第4回 神経、筋、骨疾患 てんかん、先天性の筋疾患や骨系統疾患の診断と治療</p> <p>第5回 循環器疾患 先天性の構造異常、川崎病、不整脈などの病態と診断</p> <p>第6回 感染症 小児期に罹患しやすい感染症の特徴と治療と予防法、ワクチン</p> <p>第7回 血液、腫瘍疾患 小児の白血病などの血液疾患と固形腫瘍の特徴と治療予後</p> <p>第8回 自己免疫疾患、アレルギー アトピー性皮膚炎、喘息、食物アレルギーなどの最新の知見をふまえた病因や治療</p> <p>第9回 消化器疾患 先天性の構造異常や炎症性疾患の診断と治療</p> <p>第10回 外科疾患 先天性消化器、生殖器疾患などの病態や脳腫瘍などの後天性疾患の治療、整形外科疾患の診断と治療</p> <p>第11回 呼吸器疾患 感染症やアレルギーを病因とした疾患と先天性構造異常疾患などの病態と診断および治療</p> <p>第12回 腎、泌尿器疾患 先天性や遺伝性疾患、ネフローゼ症候群やIgAなどの後天性疾患の診断と治療 先天性や遺伝性の腎疾患やネフローゼ症候群や IgA血管炎などの後天性疾患の診断と治療</p> <p>第13回 代謝、内分泌疾患 低身長や性分化異常などの内分泌異常やウイルソン病などの代謝異常の診断と治療</p> <p>第14回 精神疾患 自閉症スペクトラム、ADHD、トウレット症候群、神経性やせ病などの概要と診断</p> <p>第15回 脳性麻痺、医療的ケア児、在宅医療 脳性麻痺の病態と診断、在宅医療を含めた医療的ケア児の治療</p>	<p>秋元かつみ</p>
科目の目的	<p>将来言語聴覚士として小児の訓練を行う場合、基礎として、新生児期からの成長発達及び先天異常など小児特有の疾患について理解を深め理学療法に役立てることを目的とする。 ディプロマポリシー：【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】</p>	
到達目標	<p>1) 新生児期からの正常な身体的、神経学的発達を学び成長発達障害の診断ができる。2) 小児特有な感染症、先天異常、染色体異常、代謝異常、精神疾患などについて要点を理解する。3) 問題提起と解決能力を身につける。4) 積極的に発言できるスキルを身につける。</p>	
関連科目	解剖学総論、基礎生理学、基礎病理学	
成績評価方法・基準	定期試験 100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義資料を前日までに目を通しておくこと。1コマの授業に1時間ほどかけて要点を理解し疑問点を列記しておくこと。	
教科書	教科書：使用しない	

参考書	「標準理学療法学・作業療法学小児科学(第6版)」奈良勲/鎌倉矩子 2023年1月発行 医学書院 病気が見える vol.15小児科 第1版 2022年10月発行 メディックメディア
オフィス・アワー	授業の前後10分間を講義室で待機します。
国家試験出題基準	II-2
履修条件・履修上の注意	講義開始5分後までは出席扱い。その後は遅刻とします。
アクティブ・ラーニングの実施	症例についてグループごとに討議し臨床感覚による深い理解を達成する
ナンバリング	SFj-202

講義科目名称： 精神医学

授業コード： 1S049

英文科目名称： Psychiatry

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
石井 良和	井田 逸朗		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 精神医学とは 精神医学の定義・概念・歴史 第2回 精神障害の成因と分類 精神と精神症状の理解 第3回 精神疾患の診断と評価 第4回 脳器質性精神障害（てんかんを含む） 症状性精神障害 第5回 統合失調症 第6回 気分障害・神経症・摂食障害・心身症等 第7回 精神作用物質 アルコール、睡眠薬等の薬物関連障害 第8回 精神科医療 治療・薬の副作用・入院の種類	井田逸朗・石井良和 井田逸朗・石井良和 井田逸朗・石井良和 井田逸朗・石井良和 井田逸朗・石井良和 井田逸朗・石井良和 井田逸朗・石井良和 井田逸朗・石井良和 井田逸朗・石井良和
科目の目的	広汎な精神障害の概要を学び、将来言語聴覚士としての役割を学習する。【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】	
到達目標	言語聴覚士として将来遭遇する症例の実像を理解できる。	
関連科目	内科学 小児科学	
成績評価方法・基準	筆記試験（100%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	次回講義の該当ページを読んでおくこと。学習時間の目安は1コマあたり60分。	
教科書	教科書：「標準理学療法学作業療法学 精神医学」編：上野武治（医学書院）	
参考書	参考書：特になし	
オフィス・アワー	授業当日は18時まで。それ以降は石井までアポイントメントをとって随時可能。	
国家試験出題基準	II-3-A-a~b II-3-B-a~b II-3-C-a~b II-3-D-a~j II-3-E-a~c II-3-F-a~c	
履修条件・履修上の注意	特になし	
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし	
ナンバリング	SFj-101	

講義科目名称： リハビリテーション医学

授業コード： 1S050

英文科目名称： Rehabilitation Medicine

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
宗宮 真			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 リハビリテーション診療の概要 障害学、病期別リハビリテーション、診察、評価、検査、治療について学ぶ。</p> <p>第2回 障害の病態生理と評価・治療（1） 廃用症候群について学ぶ。</p> <p>第3回 障害の病態生理と評価・治療（2） 循環機能障害、呼吸機能障害について学ぶ。</p> <p>第4回 障害の病態生理と評価・治療（3） 運動障害、歩行障害について学ぶ。</p> <p>第5回 障害の病態生理と評価・治療（4） 摂食・嚥下障害について学ぶ。</p> <p>第6回 障害の病態生理と評価・治療（5） 高次脳機能障害について学ぶ。</p> <p>第7回 障害の病態生理と評価・治療（6） 老化による障害（老年症候群）、発達障害について学ぶ。</p> <p>第8回 疾患とリハビリテーション（1） 脳血管障害について学ぶ。</p> <p>第9回 疾患とリハビリテーション（2） 脊髄損傷について学ぶ。</p> <p>第10回 疾患とリハビリテーション（3） 神経筋疾患について学ぶ。</p> <p>第11回 疾患とリハビリテーション（4） 骨関節疾患について学ぶ。</p> <p>第12回 疾患とリハビリテーション（5） 切断と義肢について学ぶ。</p> <p>第13回 疾患とリハビリテーション（6） 呼吸器疾患、循環器疾患について学ぶ。</p> <p>第14回 疾患とリハビリテーション（7） 内部障害、悪性腫瘍について学ぶ。</p> <p>第15回 疾患とリハビリテーション（8） 小児疾患（脳性麻痺など）について学ぶ。</p>	<p>宗宮 真</p>
科目の目的	<p>1. 運動障害、廃用症候群、循環・呼吸機能障害、嚥下障害、高次脳機能障害、老年症候群、発達障害などの病態生理・評価・リハビリテーションの概要や注意点について理解する。</p> <p>2. 脳血管障害、脊髄損傷、神経筋疾患、骨関節疾患、切断と義肢、呼吸器疾患、循環器疾患、内部障害、悪性腫瘍、小児疾患などの疾患の病態とリハビリテーションの概要や注意点について理解する。</p> <p>【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】</p>	
到達目標	リハビリテーションの対象となる障害や疾患の病態生理・評価およびリハビリテーションを行う際の注意点について説明できる。	
関連科目	解剖学総論、局所解剖学、基礎生理学、基礎病理学、内科学、神経内科学、小児科学、脳神経外科学、ICFとリハビリテーション、高次脳機能障害学、耳鼻咽喉科学	
成績評価方法・基準	定期試験（筆記試験。90%）、授業中の質問や確認問題への回答（10%）。確認問題については、講義内で解説を行うなど、フィードバックを行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業で解説した重要事項について、主に復習を中心とした自己学習を行い、次回授業までに、重要事項については自ら説明できるレベルまで理解しておくこと。1コマあたり、4時間（実時間数180分）の授業外学習の時間を確保すること。	
教科書	教科書：使用しない。	
参考書	参考書：各授業の際に適宜提示する。	
オフィス・アワー	講義終了後または水曜日昼休み（12時10分～50分、場所：6階研究室）。質問の内容により、別に時間を設定する場合がある。	
国家試験出題基準	<p>Ⅱ-4-A-a, b</p> <p>Ⅱ-4-B-a, b, c, d</p> <p>Ⅱ-4-C-a, b, c, d, e, f, g</p> <p>Ⅱ-4-D-a, b, c, d, e, f, g, h, i, j, k</p>	
履修条件・履修上の注意	前回講義の復習に利用する場合があるため、前回の配布資料を持参すること。	

アクティブ・ラーニングの実施	実施なし
ナンバリング	SFj-203

講義科目名称： リハビリテーション関連領域実技実習

授業コード： 1S051

英文科目名称： Practical Training in Activities of Daily Living

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
浅田 春美	鈴木 学	黒川 望	吉岡 和哉
	近藤 健	石代 敏拓	

授業形態	講義 2 回, 演習 6 回		担当者
授業計画	第1回	講義：リハビリテーションにおける姿勢と動作 人の姿勢と基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行）の意義	浅田
	第2回	講義：移動補助具（1本杖・松葉杖、車いす） 移動補助具の種類、適応、使用方法（杖の合わせ方、歩行パターン、車いすの基本構造）	浅田
	第3回	演習：移動補助具（車いす） 1 移動補助具車いすの使用方法（車いすの広げ方、たたみ方）、車いす操作、介助方法、キャスター上げ	浅田、鈴木、黒川、吉岡、近藤、石代
	第4回	演習：移動補助具（車いす） 2 移動補助具車いすの使用方法（車いすの広げ方、たたみ方）、車いす操作、介助方法、キャスター上げ 講義に関する課題①（AAにて提出） 次回、講義時にFB	浅田、鈴木、黒川、吉岡、近藤、石代
	第5回	演習：移動補助具（1本杖・松葉杖） 1 移動補助具の実践（杖の合わせ方、歩行パターン、歩行練習、介助のしかた、階段昇降）	浅田、鈴木、黒川、吉岡、近藤、石代
	第6回	演習：移動補助具（1本杖・松葉杖） 2 移動補助具の実践（杖の合わせ方、歩行パターン、歩行練習、介助のしかた、階段昇降） 講義に関する課題②（AAにて提出） 次回、講義時にFB	浅田、鈴木、黒川、吉岡、近藤、石代
	第7回	演習：基本動作と介助法 1 基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり）練習、介助方法、移乗動作（車いす⇄ベッド）	浅田、鈴木、黒川、吉岡、近藤、石代
	第8回	演習：基本動作と介助法 2 基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり）練習、介助方法、移乗動作（車いす⇄ベッド） 講義に関する課題③（AAにて提出） 掲示にてFB	浅田、鈴木、黒川、吉岡、近藤、石代
科目の目的	臨床で対象となる高齢者や身体障がい者の姿勢や動作の特徴を理解し、その介助方法など学習する。 具体的には、高齢者、中枢神経疾患、骨・関節疾患（変形性関節症）などの移動・移乗動作の介助方法や歩行補助具（杖の合わせ方、杖の付き方）の使用法、車いすの操作方法や介助方法などを習得する。その際、対象者が安楽で安心して安全な方法で行えるようになることを目的とする。 【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】		
到達目標	1. 高齢者、片麻痺者、骨・関節疾患（変形性膝・股関節症）の障害像をイメージできる 2. 1本杖の合わせ方、つき方（代表的な歩行パターン）を説明し、杖歩行練習を実践できる 3. 車いすのパーツの名称を言うことができ、安全に車いすを操作できる（車いすの介助） 4. 寝返り、起き上がり、立ち上がりなどの基本動作の際の介助法を実践できる		
関連科目	チーム医療とリハビリテーション、リハビリテーション医学、運動系障害演習		
成績評価方法・基準	演習終了後の課題提出 3 回（30%）、定期試験<実技試験>（70%）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	技術習得を目標とするため、講義後の実技練習30分程度。扱う杖や車いすなどの基本的な構造や操作方法などの学習として30分程度の復習を要する。		
教科書	教科書：特になし（資料配布）		
参考書	1. 飛松好子編著：新イラストによる安全な動作介助の手引き第3版，医歯薬出版株式会社，2016 2. 木村哲彦著：新イラストによる安全な動作介助のてびき第2版，医歯薬出版株式会社2005 3. 臼田茂編：CrossLink理学療法学テキスト 日常生活活動学，医歯薬出版株式会社MEDICAL VIEW. 2020		
オフィス・アワー	講義日の12：10～13：00		

国家試験出題基準	Ⅱ-4-b-a~d Ⅱ-4-C-d~g
履修条件・履修上の注意	演習では、実技中心となりますので、動きやすい服装と実習用靴に履き替えて受講して下さい。
アクティブ・ラーニングの実施	実技演習（グループワーク，体験学習）
ナンバリング	SFj-102

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
鎌田 英男	村田考啓	鎌田英男	

授業形態	講義 パワーポイントを主体として行う。適宜動画や録音などを用いて理解を深める。	担当者
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、関連領域の人体発生学 今後の授業の進め方、レポート提出、期末試験についての概略の説明を受け理解する。耳鼻咽喉科の関係する疾患は耳・鼻・咽喉頭・気管・食道が相互に関係する場合が多く、相互の関連性を学習することが非常に重要であることを理解する。授業はパワーポイント使用による講義が主体であるが、適宜動画の供覧も行って、視覚的な教育も並行して行うことにより、学習の強化を行う。人体発生学のうち、耳鼻咽喉科に関連の深い耳・鼻・咽喉頭・気管・食道の人体組織の成り立ちと相互の組織学および機能的な共通点を学ぶ。 気管食道疾患は耳鼻咽喉科のみならず、呼吸器内科・外科そして消化器内科・外科とも関連のある分野である。それらの知識を得ることはすべての医療職にとって大切なことである。ここでは気管食道の構造と機能の概略を学び、臨床に生かせる知識を理解する。今後の授業の進め方、レポート提出、期末試験についての概略の説明を受け理解する。耳鼻咽喉科の関係する疾患は耳・鼻・咽喉頭・気管・食道が相互に関係する場合が多く、相互の関連性を学習することが非常に重要であることを理解し説明できる。</p> <p>第2回 気管食道科学Ⅱ：気管食道科学の臨床とその検査法、頭頸部腫瘍：良性・悪性腫瘍 耳鼻咽喉科疾患に関連の深い全身疾患や症候群を理解し、その医学的な知識を学び、将来の言語聴覚士の臨床等に生かせるよう理解する。また人の名前の付いた症候群も多く、国家試験には出題しやすい症候群が多いことも知っておく必要がある。気管食道疾患の病態と治療方法そしてリハビリテーションを学び、患者さまに適切な指導とアドバイスができるようその病態と治療を学ぶ。 頭頸部に発生する良性・悪性腫瘍につき部位毎の症状、言語聴覚、嚥下に関連する事象につき理解し、説明できるようになる。 【国試出題基準】気道・食道異物、食道疾患、気管切開と気道確保、良性・悪性腫瘍（聴器、鼻・副鼻腔、口腔・咽頭、喉頭、唾液腺など）</p> <p>第3回 口腔咽頭科学Ⅰ：口腔・咽頭の構造と機能、口腔・咽頭の病態とその検査法 口腔と咽頭ならびに味覚の構造とその機能を学び、歯および口蓋・舌が発声やしゃく嚥下に関してどのように働いているかを理解し、その機能が失われた場合にどのような不自由が生じるかを学び説明できるようになる。</p> <p>第4回 口腔咽頭科学Ⅱ：口腔・咽頭の病態とその検査法、口腔咽頭の疾患および治療・リハビリテーション 口腔・咽頭の疾患の病態を学び、その治療と検査法およびリハビリテーションを理解する。また手術的手段によりその機能が失われた場合の代用機器および摂食・嚥下のリハビリテーションを学び理解し説明できる。 【国試出題基準】口腔疾患（舌炎、口内炎、口腔・舌腫瘍、口唇裂、口蓋裂）、咽頭疾患（急性扁桃炎、慢性扁桃炎、扁桃肥大、アデノイド増殖症、睡眠時無呼吸症候群）、唾液腺疾患（急性耳下腺炎、ムンプス、唾石症）、鼻咽腔閉鎖不全をきたす疾患、味覚とその障害</p> <p>第5回 耳科学Ⅰ：耳の構造と機能 外耳、中耳、内耳、聴覚・平衡神経路、大脳の聴覚野などの構造と機能の概要を学び、聴覚および平衡覚の神経信号がどのように大脳に至り理解されるかを学ぶ。</p> <p>第6回 耳科学Ⅱ：耳の病態と治療・リハビリテーション 外耳、中耳、内耳および聴覚・平衡神経路の代表的疾患について、その病態と治療を学び、言語聴覚士の関わりとその重要性を理解する。</p> <p>第7回 耳科学Ⅲ：耳の検査法と補聴器・人工聴覚器 耳科学での代表的な検査法（聴覚・平衡覚検査）を学ぶ。聴覚の補助装置として、補聴器および人工聴覚器がある。言語聴覚士が知っておくべき補聴器の種類・構造・適応および人工聴覚器の構造・適応について概要を学ぶ。</p> <p>第8回 鼻科学Ⅰ：鼻・副鼻腔の構造およびその機能とその検査法 固有鼻腔および副鼻腔ならびに嗅覚の構造と機能を学び、それらが呼吸および発声・発語にどのような影響を及ぼしているかを理解する。またそれが阻害された場合にどのような状態が生ずるかを学ぶ。そしてその障害の内容は発生時期によっても異なることを理解する。それぞれの検査法についても理解し説明ができるようになる。機能（換気機能、鼻腔共鳴、嗅覚）。</p>	<p>鎌田 英男</p> <p>鎌田 英男</p> <p>鎌田 英男</p> <p>鎌田 英男</p> <p>村田 考啓</p> <p>村田 考啓</p> <p>村田 考啓</p> <p>鎌田 英男</p>

	<p>第9回 鼻科学Ⅱ：鼻・副鼻腔疾患の病態および治療 鼻・副鼻腔の疾患の病態を学び、どのような影響を日常生活に生じるかを理解する。鼻疾患は生命に影響するような疾患は多くはないが、QOLに大きな影響を及ぼすため生活をするのに不快感や集中力の低下、しいては社会生活での行動にも影響がおよぶ。その影響の重大さを理解し、改善する方法を考えることが重要である。治療に関しては対症的な治療と根本的な治療があるが、その選択に関しても適切なアドバイスができるようにする。 【国試出題基準】鼻・副鼻腔疾患（急性鼻炎、慢性鼻炎、鼻アレルギー、急性副鼻腔炎、慢性副鼻腔炎、後鼻孔閉鎖症、嗅覚障害）</p> <p>第10回 喉頭科学Ⅰ：喉頭の構造と機能・検査法 喉頭の構造と機能を学び、それらが呼吸、発声・発語にどのような影響を及ぼしているかを理解する。また、喉頭機能を評価する検査法について概要を学ぶ。</p> <p>第11回 喉頭科学Ⅱ：喉頭の疾患の病態と治療・リハビリテーション 喉頭に生じる代表的疾患について、その病態と治療およびリハビリテーションを理解する。また手術的治療によりその機能が失われた場合の代用機器およびリハビリテーションは言語聴覚士の重要な職務であり、それらをを学び理解する。</p> <p>第12回 音声言語医学Ⅰ：音声医学の基礎・臨床 言語聴覚士が直接関わるということが非常に多い音声言語医学の基礎知識を習得する。音声言語医学Ⅰでは、音声医学についての基礎・臨床について概説する。</p> <p>第13回 音声言語医学Ⅱ：言語医学の基礎・臨床 音声言語医学Ⅱでは、聴覚障害とも関連し言語聴覚士が専門性を発揮する言語障害について、言語医学の基礎・臨床を概説する。</p> <p>第14回 気道確保と気道疾患、嚥下障害 気道確保の方法、気道疾患について学び説明できるようになる。嚥下障害とその病態、検査法について理解し説明できるようになる。最後に講義時間内でこれまでの講義で疑問点の質問討論を行う。 【国試出題基準】気管切開と気道確保、嚥下障害</p> <p>第15回 耳鼻咽喉科関係の全身疾患およびまとめと過去の国家試験問題の検討、頭頸部腫瘍の手術・再建術による変化 耳鼻咽喉科領域での言語聴覚士国家試験出題基準の再確認、過去問題について解説する。気道確保や頭頸部腫瘍による手術・再建術による変化についても復習する。言語聴覚士が参加するチーム医療についても理解する。</p>	<p>鎌田 英男</p> <p>村田 考啓</p> <p>村田 考啓</p> <p>村田 考啓</p> <p>村田 考啓</p> <p>鎌田 英男</p> <p>鎌田 英男</p>
科目の目的	<p>言語聴覚士と耳鼻咽喉科のつながりはかなり長い歴史がある。言語聴覚士法が制定されるかなり前より、耳鼻咽喉科医は言語聴覚療法に関わってきた。ここでは言語聴覚士として知っておかなくてはならない耳鼻咽喉科領域器官の構造・機能・疾患・治療およびリハビリテーションを学ぶ。 【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】</p>	
到達目標	<p>以下の点を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 耳鼻咽喉科各疾患の概略を説明し、その治療および言語聴覚療法の概略と進め方を説明できる。 2. 実際の言語聴覚療法を施行するにあたり、その人の持つ特性、他の障害の特性も考慮し、実施できる。 3. 耳鼻咽喉科学的な訓練の実施内容、その成果に関し、正確にカルテに記録を記載できる。 	
関連科目	局所解剖学、基礎生理学、神経内科学、歯科・口腔外科学、口腔運動医学、言語医学、聴覚医学	
成績評価方法・基準	<p>レポート課題(30%)、および期末試験(70%)にて総合評価する。各講義で出席をとるので注意すること。総合評価にて60点未満は追試験の対象となる。 レポートは講義中に数題を提示する。全レポートを30点満点とし各レポートを点数化し、総合成績に加算する。期末試験は70点満点とし、総合成績に加算する。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>次の講義内容を教科書・参考書などで準備学習をする。学習時間の目安は30分とし、重要点は後に見直すように内容を記入する。</p>	
教科書	「病気がみえる13巻 耳鼻咽喉科」医療情報科学研究所編 メディックメディア	
参考書	「耳鼻咽喉科疾患 ビジュアルブック第2版」落合慈介、中尾一成他編著、学研プラス 「言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学第2版」鳥山稔、田内光編 医学書院	
オフィス・アワー	鎌田：授業終了後10分 村田：授業終了後10分（場所：非常勤講師室）	
国家試験出題基準	<p>Ⅱ-5-B-a～e、Ⅱ-5-C-a～h Ⅱ-5-D-a～c、Ⅱ-5-E-a～h Ⅱ-5-F-a～b</p>	
履修条件・履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義は全講義を受講すること。遅刻・早退も原則として認めない。 2. やむを得ない事由（病気・弔事・天災など）により欠席する場合は、所定の手続きを取るとともに、次の講義日時の初頭に口頭にて講師に申し出ること。 3. 上記2.の場合は、追加のレポート提出を命ずる場合がある。 4. 正当な理由がなく欠席・遅刻・早退した場合は単位取得が不能となる場合がある。 5. 授業中のスマホ・携帯電話の使用は禁止する。 	
アクティブ・ラーニングの実施	本科目では数回グループ討論（ワーク）を行う。	

ナンバリング	SFj-103
--------	---------

講義科目名称： 神経内科学

授業コード： 1S053

英文科目名称： Neurology

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
宗宮 真			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 総論 神経症候と神経学的診察法の概要について学習する。	宗宮 真
	第2回 脳血管障害1 脳血管障害の概要と脳出血について学習する。	宗宮 真
	第3回 脳血管障害2 脳梗塞1 病態と症候を中心に学習する。	宗宮 真
	第4回 脳血管障害3 脳梗塞2 検査と治療を中心に学習する。	宗宮 真
	第5回 脳血管障害4および外傷性疾患 くも膜下出血と頭部外傷について学習する。	宗宮 真
	第6回 神経変性疾患1 認知症疾患について学習する。	宗宮 真
	第7回 神経変性疾患2 大脳基底核障害（錐体外路系疾患）1 パーキンソン病を中心に学習する。	宗宮 真
	第8回 神経変性疾患3 大脳基底核障害（錐体外路系疾患）2 パーキンソン病以外の疾患について学習する。	宗宮 真
	第9回 神経変性疾患4 脊髄小脳変性症について学習する。	宗宮 真
	第10回 神経変性疾患5 運動ニューロン疾患について学習する。	宗宮 真
	第11回 脱髄疾患 多発性硬化症などの脱髄疾患について学習する。	宗宮 真
	第12回 末梢神経障害 ギラン・バレー症候群などの末梢神経障害について学習する。	宗宮 真
	第13回 筋疾患 筋ジストロフィーなどの筋疾患について学習する。	宗宮 真
	第14回 神経筋接合部疾患、機能的疾患 重症筋無力症などの神経筋接合部疾患、てんかんなどの機能的疾患について学習する。	宗宮 真
	第15回 感染性疾患 髄膜炎・脳炎などの感染性疾患について学習する。	宗宮 真
科目の目的	神経内科疾患の病態、症状、検査、診断、治療についての知識を習得する。【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	神経内科疾患の病態、症状、検査、診断、治療およびリハビリテーションを行う際の注意点について説明できる。	
関連科目	解剖学総論、局所解剖学、基礎生理学、基礎病理学、内科学、小児科学、脳神経外科学、ICFとリハビリテーション、高次脳機能障害学、耳鼻咽喉科学、リハビリテーション医学	
成績評価方法・基準	定期試験（筆記試験。90%）、授業中の質問や確認問題への回答（10%）。確認問題については、講義内で解説を行うなど、フィードバックを行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業で解説した重要事項について、主に復習を中心とした自己学習を行い、次回授業までに、重要事項については自ら説明できるレベルまで理解しておくこと。1コマあたり1時間（実時間数45分）の授業外学習の時間を確保すること。	
教科書	教科書： 使用しない。	
参考書	参考書1：「神経内科学テキスト（改訂第4版）」江藤文夫、飯島節（南江堂） 参考書2：「神経疾患のリハビリテーション（初版）」江藤文夫、和田直樹（南山堂）	
オフィス・アワー	講義終了後または水曜日昼休み（12時10分～50分、場所：6階研究室）。質問の内容により、別に時間を設定する場合がある。	
国家試験出題基準	II-6-C-a, b, c, d, e II-6-D-a, b, c II-6-E-a, b, c, d II-6-F-a, b, c II-6-G-a, b, c II-6-H-a, b, c	

	II-6-I-a, b, c II-6-J-a, b, c, d, e II-6-K-a, b, c
履修条件・履修上の注意	前回講義の復習に利用する必要があるため、前回の配布資料を持参すること。
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし
ナンバリング	SFj-204

講義科目名称： 形成外科学

授業コード： 1S054

英文科目名称： Plastic and Reconstructive Surgery

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
浜島 昭人	古賀 康史	佐々木 淑恵	渋谷 健
	中嶋 ひかり	正田 晃基	

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 形成外科総論 形成外科とは、扱う疾患 第2回 創傷治癒 創傷治癒について 第3回 形成外科の基本手技 切開縫合、植皮、皮弁、筋皮弁、遊離組織移植など 第4回 顔面外傷 症状、診断と治療 第5回 顔面神経麻痺 症状、診断と治療 第6回 熱傷 症状、診断と治療 第7回 褥瘡、難治性潰瘍 症状、診断と治療 第8回 口唇口蓋裂1 分類、発生、治療 第9回 口唇口蓋裂2 手術法 第10回 口唇口蓋裂3 二次手術 第11回 頭蓋・顔面の先天異常1 顔面の先天異常 第12回 頭蓋・顔面の先天異常2 頭蓋骨早期癒合症 第13回 頭頸部再建手術 手術法 第14回 瘢痕・ケロイド・瘢痕拘縮 症状、診断と治療 第15回 総括 これまで学習した内容を総括する	浜島 昭人 佐々木 淑恵 正田 晃基 渋谷 健 中嶋 ひかり 正田 晃基 正田 晃基 佐々木 淑恵 佐々木 淑恵 古賀 康史 浜島 昭人 渋谷 健 古賀 康史 中嶋 ひかり 浜島 昭人
科目の目的	形成外科で扱う疾患、特に顔面に関連する外傷や再建、先天異常などを中心として学習するとともに、形成外科で扱う疾患や様々な治療法を学習する。特に口唇口蓋裂などの多職種で治療を行う疾患を学ぶことで、治療における言語聴覚士の役割を理解する。	
到達目標	1. 形成外科で治療を行う疾患について説明できる。 2. 創傷治癒、形成外科の基本手技を理解する。 3. 口唇口蓋裂などの多職種で治療を行う疾患を理解する。	
関連科目	歯科口腔外科、耳鼻咽喉科	
成績評価方法・基準	定期試験（筆記試験）100%により成績を評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業はスライド閲覧を中心とするため、予習より復習に重点を置くこと。授業内容、配布資料や参考書などで1時間程度。	
教科書	「言語聴覚士テキスト 第3版」大森 孝一、永井 知代子、深浦 順一、渡邊 修（編）、医歯薬出版	
参考書	「標準形成外科（第6版）」平林慎一、鈴木茂彦（編）、医学書院 「こどもの口唇裂・口蓋裂の治療とケア」大久保文雄、メディカ出版	
オフィス・アワー	講義の前後（場所：非常勤講師室）	
国家試験出題基準	臨床医学 II-6-A～G	
履修条件・履修上の注意	講義の順序・担当者は、都合により変更となる場合があります。	
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし	

ナンバリング

SFj-205

講義科目名称： 脳神経外科学

授業コード： 1S055

英文科目名称： Neurosurgery

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
湯本 真人			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 臨床解剖 脳神経外科領域の臨床解剖の基礎を学ぶ 第2回 診断法 神経眼科・耳科症候と大脳・脳幹・小脳・脊髄の局在機能の診かたと撮影法・検査法を学ぶ 第3回 頭痛・けいれん・頭蓋内圧亢進・意識障害 頭痛・けいれんの診断と治療，意識障害の診断と治療を学ぶ 第4回 脳腫瘍 代表的な脳腫瘍の症候・診断・治療を学ぶ 第5回 脳血管障害 代表的な脳血管障害の症候・診断・治療を学ぶ 第6回 外傷・先天奇形・水頭症 頭蓋・脳外傷と先天奇形，水頭症について学ぶ 第7回 炎症性疾患・機能的疾患 中枢神経系感染症とてんかんについて学ぶ 第8回 脊髄・脊椎・末梢神経 脊髄・脊椎疾患と末梢神経傷害の局在診断を学ぶ	湯本 真人 湯本 真人 湯本 真人 湯本 真人 湯本 真人 湯本 真人 湯本 真人 湯本 真人
科目の目的	脳神経外科学の対象領域の臨床解剖，診断法，各種撮影法と検査法の基礎を押さえ，頭痛，けいれん，頭蓋内圧亢進，意識障害，脳腫瘍，脳血管障害，頭部外傷，先天奇形，水頭症，炎症性疾患，機能的疾患，脊髄・脊椎・末梢神経疾患の症候・診断・治療法を学ぶ。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】	
到達目標	言語聴覚士が臨床の現場で活躍する際に必要不可欠な，脳神経外科領域の知識を獲得する。	
関連科目	医学概論、解剖学総論、基礎生理学、基礎病理学、内科学、小児科学、精神医学、リハビリテーション医学、耳鼻咽喉科学、神経内科学、臨床心理学、音声学、言語学、音響音声学	
成績評価方法・基準	定期試験100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習30分、復習30分	
教科書	教科書なし	
参考書	標準脳神経外科学（医学書院）	
オフィス・アワー	講義の前後	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	なし	
ナンバリング	SFj-206	

講義科目名称： 歯科・口腔外科学

授業コード： 1S056

英文科目名称： Dental and Oral Surgery

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
戸谷 麻衣子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 歯科概論 歯・口腔・顎・顔面の形態と構造 歯科医療の概要について説明する。歯・口腔・顎・顔面の形態、構造について理解する。	戸谷麻衣子
	第2回 顔面・口腔・歯の発生、歯・口腔・顎・顔面の機能 顔面・口腔・歯の発生について理解する。歯・口腔・顎・顔面の咀嚼・摂食嚥下・構音機能について理解する。	戸谷麻衣子
	第3回 口腔の診察法、う蝕・歯髄炎・根尖性歯周炎 う蝕の原因、重症度、治療法について理解する。歯髄炎、根尖性歯周炎について理解する。診察法やスタンダードプリコーションについて理解する。	戸谷麻衣子
	第4回 歯周病 歯列不正 歯の欠損 歯の萌出 歯周疾患の原因、重症度、治療法について理解する。歯列不正や歯の欠損、萌出について理解する。	戸谷麻衣子
	第5回 口腔・顎・顔面の先天異常、発育異常 口唇裂、口蓋裂を中心とした先天異常、発育異常について理解する。治療法・手術について理解する。	戸谷麻衣子
	第6回 顎骨の先天異常・発育異常 顎骨の先天異常・発育異常をきたす疾患の病態と治療法について理解する。	戸谷麻衣子
	第7回 口腔・顎・顔面の外傷、炎症 口腔・顎・顔面の外傷、炎症、感染症の病態と治療法の概要を理解する。	戸谷麻衣子
	第8回 口腔・顎・顔面の嚢胞及び類似疾患 口腔・顎・顔面に発生する嚢胞および類似疾患の病態と治療法の概要を理解する。	戸谷麻衣子
	第9回 口腔・顎・顔面の腫瘍及び類似疾患 口腔・顎・顔面に発生する良性腫瘍および悪性腫瘍の病態と治療法の概要を理解する。	戸谷麻衣子
	第10回 唾液腺疾患、顎関節疾患、口腔粘膜疾患、血液疾患、神経系疾患 唾液腺疾患、顎関節疾患、口腔粘膜疾患、血液疾患、神経系疾患の病態と治療法の概要を理解する。	戸谷麻衣子
	第11回 口腔ケア 口腔ケアの意義、目的、口腔環境に及ぼす影響と効果について理解する。	戸谷麻衣子
	第12回 口腔機能障害に対する歯科医学的対応 口蓋裂言語及び口腔癌切除後の言語障害等に対する歯科医学的対応、手術療法や鼻咽腔補綴物について理解する。	戸谷麻衣子
	第13回 口腔機能発達不全症に対する歯科医学的対応 口腔機能発達不全症の症状及び対応について理解する。	戸谷麻衣子
	第14回 中枢性疾患による口腔機能障害と歯科医学的対応 中枢性疾患にみられる口腔機能障害の特徴及び歯科医学的対応について理解する。	戸谷麻衣子
	第15回 加齢による口腔機能障害と歯科医学的対応 加齢による口腔機能障害を理解して全身と口腔の関係について理解する。	戸谷麻衣子
科目の目的	言語聴覚士が言語聴覚療法を実施するために必要な口腔・顎・顔面の疾患について、病態、検査法、治療法を学ぶ。また、口腔・顎・顔面の機能障害の治療法と歯科口腔外科領域における言語聴覚士の役割を学ぶ。(DP1～DP4) 言語聴覚士として必要とされる科学技術や知識を備え、地域包括ケアの視点から、関連職種と連携しチーム医療を実践できる能力を身につけている。【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	1. 歯・口腔の構造・機能の概要が説明できる。2. 口腔の構造と構音摂食嚥下機能の関連と構音摂食嚥下障害に対する歯科的治療が説明できる。3. 誤嚥性肺炎の発生機序、予防のための口腔ケアについて説明できる。4. 口腔外科で取り扱う疾患と治療の概要について理解する。5. 唇顎口蓋裂の病態と治療法を説明できる。6. 各種の口腔外科疾患により生じる言語障害と治療法を理解する。	
関連科目	解剖学総論 局所解剖学（言語・聴覚・発声・嚥下） 口腔運動医学	
成績評価方法・基準	定期試験100%：60点以上を合格とし、誤りの多かった設問について解説を行う。	

準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業当該日までにActiveAcademyに資料を事前配布する。予習は予習用資料で授業内容について概要を理解しておく(20分)。復習は復習用資料を利用して講義内容の理解を深め知識の定着をはかること(40分)。事前配布資料の持参は必須ではないが、復習用資料は授業で使用するスライドを含むため、メモを取るなど授業で利用したい場合は各自印刷等して持参してもよい。
教科書	「最新言語聴覚学講座 臨床歯科医学・口腔外科学」道健一 (医歯薬出版)
参考書	「言語聴覚士のための基礎知識 臨床歯科医学・口腔外科学」 夏目長門 (医学書院)
オフィス・アワー	授業後(場所:非常勤講師室)
国家試験出題基準	【言語聴覚士】Ⅲ-1-A-a~d, Ⅲ-1-B-a~b, Ⅲ-1-C-a~b, Ⅲ-1-D-a~b, Ⅲ-1-E-a~c, Ⅲ-1-F-a, Ⅲ-2-A-a~j, Ⅲ-2-B-a~c, Ⅲ-2-C-a~c, Ⅲ-2-D-a~c, Ⅲ-2-E-a~c
履修条件・履修上の注意	
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし
ナンバリング	SFk-201

講義科目名称： 口腔運動医学

授業コード： 1S057

英文科目名称： Phoniatics

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
二宮 洋			

授業形態	講義 パワーポイントを主体として行うが、適宜動画や録音などを用いて理解を深める。 一部、調査学習などアクティブラーニング形式で行う。	担当者
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、口腔・咽頭の構造と機能 出席率、今後の授業の進め方、レポート提出。期末試験についての概略。 摂食・嚥下機能、呼吸機能、発語のための構音機能。歯科・口腔外科学と共通する分野。歯科衛生士との連携。</p> <p>第2回 口腔・咽頭の病態と疾患 口腔・咽頭の疾患（歯科・口腔外科の領域との関係の理解）。構音への影響と治療におけるSTの役割。舌癌とその治療を含む。</p> <p>第3回 喉頭の構造と機能 発声器官としての喉頭の解剖学的構造を理解し発声のメカニズムを学習する。喉頭に対する諸検査の実際と意義について。</p> <p>第4回 喉頭の病態と疾患 嗄声をきたす喉頭疾患の診断と鑑別点及び治療法について学習する</p> <p>第5回 呼吸器、気管、食道の構造と機能 発声のための声道としての呼吸器気管の解剖学的構造及び機能について、また嚥下機能の第3相で役割を担う食道の構造と機能を学習する。</p> <p>第6回 呼吸器、気管、食道の病態と疾患 発声および摂食・嚥下に関して様々な影響をおよぼす、呼吸器、気管、食道疾患の病態と診断・治療法を学習する</p> <p>第7回 気管切開。喉頭摘出術後の代用医療 気道確保の手段としての気管切開術の適応と実際の手技、気管カニューレの種類や気管切開術後の管理について学習する。喉頭全摘術後の音声障害に対する代用音声の種類やその指導方法について学ぶ。</p> <p>第8回 まとめと過去の国家試験問題の検討 口腔運動医学の重要点をまとめて再学習する。STがどのような疾患および治療とリハビリテーションに関わるかを理解する。また関連する分野の過去の国家試験問題を検討し、その解答と解説を理解し学習する。国家試験には発生頻度の多くない疾患も出題される場合もあり、その点を考慮し学習する。</p>	<p>二宮 洋</p>
科目の目的	<p>口腔運動医学は音声言語医学と大きく関連し、言語聴覚士としては非常に大切な分野の一つである。言語聴覚士としては臨床に携わる言語聴覚士のみではなく、教育や福祉方面で活躍する言語聴覚士にとっても重要な知識の一つである。その重要な課題であり、呼吸や言語にも関係する医学の教育を学習する。</p> <p>【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】</p>	
到達目標	<p>以下の点を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 摂食・嚥下・気管食道系疾患の概略を説明し、その治療および言語聴覚療法の概略と進め方を説明できる。 2. 関連した部位の検査の意義と目的を説明できる。 3. 対象の年齢や知的レベルに即した検査および言語聴覚療法を選択できる。 4. 関連した機能の検査や訓練の実施内容、その成果に関し、正確にカルテに記録を記載できる。 	
関連科目	耳鼻咽喉科学、局所解剖学、基礎生理学、歯学、口腔外科学、言語聴覚障害論、音声学、言語学	
成績評価方法・基準	<p>出席率、小レポート、および期末試験にて総合評価する。総合評価にて60点未満は追試験の対象となる。</p> <p>全レポートを20点満点とし各レポートを点数化し、総合成績に加算する。期末試験は80点満点とし、総合成績に加算する。欠席・遅刻・早退は成績評価の減点対象となる場合がある。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>今回の講義内容を参考書、インターネットなどを参考として準備学習をする。学習時間の目安は約2時間とする。</p>	
教科書	特に指定しない。	
参考書	<p>「新耳鼻咽喉科学」切替一郎原著、野村恭也監修、加我君孝編集 南山堂 「言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学第2版」鳥山稔、田内光編 医学書院 「言語聴覚士のための講義ノート 新耳鼻咽喉科学入門」中野雄一著 考古堂書店</p>	

オフィス・アワー	授業前後30分。(場所：非常勤講師室)
国家試験出題基準	IV-1-A-a~d IV-1-B-a~d IV-1-C-a~b IV-1-D-a~f IV-1-E-a~i IV-1-F-a~g IV-1-G-a~c IV-1-H-a~f IV-1-I-a~i IV-1-J-a~d IV-1-K-a~d IV-1-L-a~d
履修条件・履修上の注意	
アクティブ・ラーニングの実施	調査課題を実施する
ナンバリング	SF1-201

講義科目名称： 言語医学

授業コード： 1S058

英文科目名称： Logopedics

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
神山 政恵	神山政恵	高橋秀寿	

授業形態	講義 パワーポイントを主体として行うが、適宜動画や録音などを用いて理解を深める。	担当者
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、音声と言語の相違 音声と言語の関係やその共通点や相違点を学ぶ。運動の中核と末梢の経路、言語中枢。 小児の言語過程の障がいと成人の言語過程の障がいの違い。</p> <p>第2回 言語器官の構造と機能Ⅰ 失語症、高次脳機能障害、認知症の発症メカニズム、器官の構造と疾患、病態について</p> <p>第3回 言語器官の構造と機能Ⅱ 第2回の続き</p> <p>第4回 言語障害の病態 言語障害をもたらす疾患のうち、主として中枢(脳)の障害についてその障害部位と病名の関係を学ぶ。具体的には、失語症、高次脳機能障害、認知症。</p> <p>第5回 言語機能の検査法 失語症、高次脳機能障害、認知症の検査法。医学的意義とST的訓練支援との関係性。</p> <p>第6回 言語障害の治療 中枢性の言語障害は完全に治す治療法がないがリハビリテーションにより改善する疾患は多い。そこでの医学的治療とST的治療の関係。</p> <p>第7回 言語障害のリハビリテーション 対象年齢や疾患の特性に合わせたリハビリテーション。</p> <p>第8回 言語障害の生活・参加支援 まとめと国家試験の傾向 ICFにそった支援を医学的な視点から整理する。全体のまとめと国家試験の具体的な傾向。</p>	<p>神山政恵</p> <p>高橋秀寿</p> <p>高橋秀寿</p> <p>高橋秀寿</p> <p>神山政恵</p> <p>神山政恵</p> <p>神山政恵</p> <p>神山政恵</p>
科目の目的	<p>言語聴覚士の直接関わる言語療法について、基礎となる言語医学を学び、将来の職務に生かせるような知識を習得する。また対象は小児から成人そして高齢者へと幅広い年齢層であり、対象年齢により言語聴覚療法の方法を工夫することも大切な手技である。対象年齢に適した言語聴覚療法を行えるように自ら考え実行する能力を養う。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】</p>	
到達目標	<p>以下の点を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 言語医学に関連する各疾患の概略および言語聴覚療法の概略と進め方を説明できる。 2. 実際の言語聴覚療法を施行するにあたり、その人の持つ他の障害の特性も考慮し、実施できる。 3. 言語聴覚療法の実施内容、その成果に関し、正確にカルテに記録を記載できる。 	
関連科目	局所解剖学、基礎生理学、言語聴覚障害論、口腔運動医学、耳鼻咽喉科学、聴覚医学、言語発達学、リハビリテーション医学	
成績評価方法・基準	授業中のグループワーク貢献度20点、期末テスト（筆記試験）は80点として総合評価を行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	次回の講義内容を参考書・インターネットなどを参考とし準備学習をする。学習時間の目安は約2時間とする。	
教科書	特に指定しない。	
参考書	<p>参考書：「耳鼻咽喉科疾患 ビジュアルブック第2版」落合慈介、中尾一成他編著、学研プラス</p> <p>「言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学第2版」鳥山稔、田内光編 医学書院</p> <p>「新耳鼻咽喉科学」切替一郎原著、野村恭也監修、加我君孝編集 南山堂</p>	
オフィス・アワー	授業開始前 15分 授業終了後 30分（ただし質問がある場合は、授業終了後口頭にて講師に伝達すること）	
国家試験出題基準	<p>IV-3-A-a~g</p> <p>IV-3-B-a~c</p> <p>IV-3-C-a~b</p> <p>IV-3-D-a~f</p> <p>IV-3-E-a~c</p> <p>IV-3-F-a~f</p> <p>IV-3-G-a~c</p>	

	IV-3-H-a~c
履修条件・履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各講義は開始当初に出席を取るのので、全講義を受講すること。遅刻・早退も原則として認めない。やむを得ない理由により遅刻ないしは早退する場合には、口頭にて講師に申し出ること。 2. やむを得ない事由（病気・弔事・天災など）により欠席する場合は、所定の手続きを取るとともに、次の講義日時の初頭に口頭にて講師に申し出ること。 3. 上記1. または2. の場合は、追加のレポート提出を命ずる場合がある。 4. 正当な理由がなく欠席・遅刻・早退した場合は単位取得が不能となる場合がある。 5. 授業中のスマホ・携帯電話の使用は禁止する。
アクティブ・ラーニングの実施	一部アクティブラーニング。授業内でディスカッション。
ナンバリング	SF1-202

講義科目名称： 聴覚医学

授業コード： 1S059

英文科目名称： Audiology

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
長井 今日子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、外耳・中耳の構造と機能 出席率、今後の授業の進め方、レポート提出、期末試験についての概略の説明を受け理解する。 耳鼻咽喉科学にて学んだ基本的な外耳・中耳の構造と機能をさらに詳しく学ぶ。外耳においては耳介・外耳道の詳細な構造と機能、中耳においては鼓膜・耳小骨・などの詳細な構造と、音の機械的なエネルギーの増強や伝搬様式を学ぶ。 出席率、今後の授業の進め方、レポート提出、期末試験についての概略の説明を受け理解する。 耳鼻咽喉科学にて学んだ基本的な外耳・中耳の構造と機能をさらに詳しく学ぶ。外耳においては耳介・外耳道の詳細な構造と機能、中耳においては鼓膜・耳小骨・などの詳細な構造と、音の機械的なエネルギーの増強や伝搬様式を学ぶ。</p> <p>第2回 内耳・聴覚神経路・聴覚中枢の構造と機能 聞こえの経路である神経の解剖学的関係や生理学的な関係を学ぶ。音の機械的なエネルギーを神経信号に変換する仕組み、聴神経から聴覚神経路を経て聴覚中枢へ神経信号が伝達される仕組み、大脳の聴覚中枢によることばの認識そして大脳にある発語の中枢との神経の繋がりについて学ぶ。</p> <p>第3回 外耳・中耳の病態と治療 外耳・中耳に起こる先天性奇形、炎症、良性および悪性の腫瘍などの症状や治療を学ぶ。外耳・中耳の疾患は小児に発症することが多く、その影響などを考え適切なアドバイスが出来るように学習する。またその方法や内容を年齢相応に考え実施できるような知識を学習する。</p> <p>第4回 内耳・聴覚神経路・聴覚中枢の病態と疾患 内耳・聴覚神経路・聴覚中枢の神経路に起こる病態と疾患名を理解する。内耳より中枢の神経路の障害はその障害部位により症状や検査結果が異なってくる。神経経路の末梢か中枢かというようなどの部位による障害か、種々の検査結果を参考として障害部位の判断ができるような知識を学ぶ。</p> <p>第5回 聴覚の検査法 標準純音聴力検査、標準語音聴力検査、単語理解度検査など聴覚評価のための検査法およびその方法を学習する。聴覚の検査法は言語聴覚士の行う主要な検査法の一つである。また検査方法も対象となる年齢や知的な能力により工夫して適切に提示しなければいけない。それぞれの検査法について要点を学習する。</p> <p>第6回 補聴器と人工内耳、その他の聴覚補助手法と機器 難聴の補助具としては補聴器が代表であるが、その効果には限界がある。補聴器の機能と限界を学び聴覚障害を持つ人に適切にフィッティング出来るよう、その理論と調整方法の概略について学ぶ。また人工内耳の適応条件などを学び、人工内耳のマッピングに生かせるように理解する。また補助手段としては日常生活用具や手話そして指文字などがあるが、それらの効果と限界についても学ぶ。</p> <p>第7回 聴覚障害の療育とリハビリテーション 聴覚障害は小児と成人では理論やSTの方法が異なる。また対象となる人の知的レベルなどによっても個々に合わせた言語聴覚療法(ST)が必要となる。それらの個々の特性によって言語聴覚療法の方法を工夫できるように考え、個人に合った言語聴覚療法を行えるように理解し実施することを学習する。</p> <p>第8回 聴覚医学のまとめと過去国家試験問題の検討 聴覚医学の重要点をまとめて再学習する。また関連する分野の過去の国家試験問題を検討し、その解答と理由を理解し学習する。国家試験には発生頻度の多くない疾患も出題される場合もあり、その点を考慮し学習する。</p>	<p>長井 今日子</p>
科目の目的	<p>本講義ではSTの医療業務(保険診療業務)として重要な位置をしめる耳鼻咽喉科外来での種々の聴覚検査の種類と方法、聴覚の障害を起こす疾患、またその治療法とリハビリテーションなどを学ぶ。 将来の臨床や教育に生かせるようにその詳細を学習する。 【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】</p>	
到達目標	<p>医療現場にて聴覚検査の依頼があった場合に、的確な検査が出来るように学習する。また障害の種類や程度は対象となる患者さまの年齢や知的レベルによっても異なるため、そのような個々の特性を考慮した検査や言語聴覚療法が実施できるようにする。</p>	
関連科目	<p>局所解剖学、基礎生理学、耳鼻咽喉科学、聴覚医学、言語聴覚障害論、聴覚障害学</p>	

成績評価方法・基準	期末試験（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	今回の講義内容を参考書、インターネットなどを参考として準備学習をする。学習時間の目安は約2時間とする。
教科書	特に指定しない。
参考書	「耳鼻咽喉科疾患 ビジュアルブック第2版」落合慈介、中尾一成他編著、学研プラス 「言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学第2版」鳥山稔、田内光編 医学書院（古書） 「新耳鼻咽喉科学」加我君孝編 南山堂
オフィス・アワー	授業開始前15分 授業終了後30分 場所：非常勤講師室（ただし質問がある場合は、授業終了後口頭にて講師に伝達すること）
国家試験出題基準	IV-2-A-a [~] e IV-2-B-a [~] f IV-2-C-a [~] f
履修条件・履修上の注意	
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし
ナンバリング	SF1-203

講義科目名称： 臨床心理学

授業コード： 1S060

英文科目名称： Clinical Psychology

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
竹居田 幸仁			

授業形態	講義（一部ワークやグループワークを行う）		担当者
授業計画	第1回	臨床心理学とは何か 臨床心理学とは、こころをよりよい状態にすることを旨とし、心理学の理論や知識そして心理学的技法を用いて専門的援助を行う心理学の応用的な分野である。本講義では、臨床心理学の歴史や構造について学ぶ。（教科書第1章）	竹居田 幸仁
	第2回	心理アセスメントとは 臨床心理アセスメントは、対象となる事例の心理的側面に関する情報（データ）を収集し、その情報を統合し、事例の心理的問題についての総合的な査定を行う作業である。臨床心理アセスメントが精神医学的診断と同一のものとして混同されることがあるが、本質的には臨床心理アセスメントは精神医学的診断とは異なる特徴を持っている。本講義では、臨床心理アセスメントの技法について学び、精神医学的診断との違いについて理解を深める。（教科書第2章）	竹居田 幸仁
	第3回	心理検査 心理アセスメントの一つである心理検査とは何か、どんな検査があるのかについて知る。また、臨床場面での心理検査の実際について事例を通じて理解するとともに、被検査者体験をし（予定）、理解を深める。（教科書第3章）	竹居田 幸仁
	第4回	心理カウンセリング 臨床において面接は心理アセスメントと不可分の基本的な専門行為であり、カウンセリングまたは心理療法と称されることが多い。本講義では、心理カウンセリングを面接の基本と位置づけてその要諦を概説する。（教科書第4章）	竹居田 幸仁
	第5回	心理療法1 心理療法は精神分析の開祖フロイト（Freud, S.）を出発点としている。本講義では、三大心理療法の一つである、精神分析療法の概要を説明する。精神分析療法における理論や基本的な考え方について理解する。（教科書第4章）	竹居田 幸仁
	第6回	心理療法2 三大心理療法の一つである、行動療法および認知・行動療法の概要を説明する。行動療法および認知・行動療法における理論や基本的な考え方について理解する。（教科書第5章）	竹居田 幸仁
	第7回	心理療法3 三大心理療法の一つである、来談者中心療法の概要を説明する。来談者中心療法における理論や基本的な考え方について理解する。（教科書第5章）	竹居田 幸仁
	第8回	日本が発症の心理療法 日本発祥の独自の心理療法である、内観療法、森田療法、臨床動作法について、それぞれの技法の特徴と、その治療機序について知る。（教科書第6章）	竹居田 幸仁
	第9回	家族療法、集団心理療法、臨床心理的地域援助 個別ではなく集団を対象とした介入について知る。家族や地域への介入では、その対象が2人以上の集団であり、社会心理学の知見に見られるように、集団のなかの個人は集団の影響を重層的に受ける。そこでクライエントを生活者としてみる際には、集団を社会システムととらえてクライエントを理解しようとする方法について学ぶ。（教科書第7章）	竹居田 幸仁
	第10回	臨床心理学をとりまく概念 臨床心理学の取り扱う範囲は広がりをもってきている。そのような状況ではあるが、臨床心理学の基本的なところは、大きくは異ならないといえよう。本講義では、臨床心理学での基本的なテーマを具体的なエピソードを混じえながら、取りあげ、臨床心理学への理解を深めることを目的とする。（教科書第8章）	竹居田 幸仁
	第11回	子どもをとりまく問題 子どもをとりまく問題として、発達障害、不登校などを取りあげ、これらの問題が乳幼児期・児童期という発達段階にどのように関連しながら現れてくるのか、さらにその対応について理解を深める。（教科書第9章）	竹居田 幸仁
	第12回	思春期・青年期をとりまく問題 思春期・青年期をとりまく問題として、摂食障害、非行などを取りあげ、これらの問題が思春期・青年期という発達段階にどのように関連しながら現れてくるのか、さらにその対応について理解を深める。（教科書第10章）	竹居田 幸仁

	<p>第13回 成人期をとりまく問題 成人期は自分と他者のために、居場所を安定して維持することに取り組まねばならない時期であり、この時期におけるこころの問題について理解を深める。(教科書第11章)</p> <p>第14回 高齢期をとりまく問題 高齢期の身体・心理・社会的特徴について生物・心理・社会モデルに基づいて理解する。そのうえで、この時期におけるこころの問題について知るとともに、どのような心理支援が行われているのか理解を深める。(教科書第12章)</p> <p>第15回 臨床心理学の学習と倫理・法律、今後に向けて これまでの講義を通して学んだ知識や身に着けた技法について振り返り、自らの専門にどのように活かしていくかを検討する。(教科書第13章)</p>	<p>竹居田 幸仁</p> <p>竹居田 幸仁</p> <p>竹居田 幸仁</p>
科目の目的	<p>臨床心理学とは、心の不健康な人々を健康へと導くために、心理学の理論や知識そして心理学的技法を用いて専門的援助を行う心理学の応用的な一分野である。本講義では、臨床心理学の基礎について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得する。</p> <p>ディプロマポリシー：【コミュニケーション能力】【論理的思考・多様性理解】【知的探求心と創造性】【社会に貢献する能力】</p>	
到達目標	<p>1. 臨床心理学で用いられる基本的な心理支援の理論と方法を説明することができる。</p> <p>2. 臨床心理学で対象となる悩みや障害について、その特徴や心理支援について説明することができる。</p> <p>3. 保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得し、対人支援に活用することができる。</p>	
関連科目	<p>【教養・共通基盤科目群】心理学、教育学、教育心理学、生命倫理、哲学、人間と宗教、社会学、生活文化と医療、大学の学び入門、大学の学び―専門への誘い―、多職種理解と連携</p> <p>【専門基礎科目群】生理学Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生学、保健統計、人間関係・コミュニケーション論</p> <p>【専門科目群】全科目</p>	
成績評価方法・基準	<p>定期試験(レポート形式・50%)に、毎回の受講後に作成する小レポートの評価(50%)を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>教科書の該当章を読み、どのような内容について学ぶのか事前に抑えておく。不明な点や気になる点があれば、授業時に理解がすすむようにノートなどにまとめるなど準備しておく。予習時間は1時間程度。</p>	
教科書	<p>横田正夫編著(2016)「ポテンシャル臨床心理学」サイエンス社</p>	
参考書	<p>なし</p>	
オフィス・アワー	<p>講義の前後、または月・火・水・金曜の昼休み(1号館3階305研究室)</p>	
国家試験出題基準	<p>V-3-A~E</p>	
履修条件・履修上の注意	<p>講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業(他の科目の学習等)は禁止します。注意しても止めない場合や、それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ、その回の講義の出席を認めない場合もあります。</p>	
アクティブ・ラーニングの実施	<p>講義中、随時10分程度の小演習も取り入れる。</p>	
ナンバリング	<p>SFm-201</p>	

講義科目名称： 生涯発達心理学

授業コード： 1S061

英文科目名称： Life-Span Development Psychology

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
齊藤 吉人			

授業形態	講義15回 毎回の授業の最後に授業の「まとめ」を提出する。		担当者
授業計画	第1回	ヒトとは 直立二足歩行の直立・二足歩行からもたらされたヒト特有の疾患・ヒトの6大特徴	齊藤吉人
	第2回	生涯発達 発達の定義・人の生涯に影響を与える3つの要因・2025年問題・平均寿命と健康寿命の差・人間発達期の区分・成長・発達・成熟・発育の原則	齊藤吉人
	第3回	胎芽・胎児期 受精卵期・胎芽期・胎児期	齊藤吉人
	第4回	乳児期 ピアジェの認知構造・乳児実験における観察法・エリクソンのライフサイクル・コミュニケーションの発達段階・アタッチメント	齊藤吉人
	第5回	幼児期前期 粗大運動の発達・微細運動の発達・社会性・言語の発達・エリクソンの発達図式・児童虐待	齊藤吉人
	第6回	幼児期後期 粗大運動の発達・微細運動の発達・自己中心性・こころの理論・社会的遊びの発達の分類	齊藤吉人
	第7回	学童期 勤勉性と劣等感・脱中心化・向社会性	齊藤吉人
	第8回	青年期前期 思春期と青年期・自我同一性・モラトリアム・自己受容・エゴグラム性格診断テスト	齊藤吉人
	第9回	青年期後期 自我同一性・アイデンティティ・ステータス・マージナル・マン・ピーター・パン・シンドローム・シンデレラ・コンプレックス・合理的配慮・トランスジェンダー	齊藤吉人
	第10回	成人期前期 親密性と孤独・職業的アイデンティティ・仁術・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・ニート・人口置き換え水準	齊藤吉人
	第11回	成人期中期 世代性と停滞・コーピング・スタイル・M字カーブ・3歳児神話	齊藤吉人
	第12回	成人期後期 成熟期・同一性再確立・自己肯定感・熟年の自殺	齊藤吉人
	第13回	高齢期 統合と絶望・結晶性知能と流動性知能・人格の尖鋭化・サクセスフル・エイジング・プロダクティブ・エイジング・ロコモティブ症候群・サルコペニア・フレイル・地域包括ケア	齊藤吉人
	第14回	発達理論 単一要因説・生得説・経験説・双生児統制法・成熟優位説・レディネス・反射階層理論・行動主義心理学・輻輳説・相互作用説・横断研究・縦断研究・非線形打ち消し効果	齊藤吉人
	第15回	発達理論 複雑系科学・創発・ゲシュタルト心理学・最近接発達領域	齊藤吉人
科目の目的	人間を生涯にわたり発達する存在としてとらえ、生命の誕生から小児期、青年期、成人期(老年期)を経て死に至るまでの量的・質的变化について学ぶ。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】		
到達目標	人間の発達、受胎、胎生期、新生児期、乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老人期、死というライフステージに分けられる。障害のある人への支援を行う専門職には、機能障害の理解に加え、そうしたライフステージの特徴を踏まえて支援を行うことが求められている。そして、ライフステージの各時期に発現する行動を広く、深く理解し、各時期に生じやすい発達上あるいは健康上の課題を説明できることを目標とする。		
関連科目	臨床心理学, 学習・認知心理学, 心理測定法		

成績評価方法・基準	評価点＝毎回提出する「まとめ」（1点×15回＝15%）＋定期試験成績（85%）。100点満点換算で60点以上を合格とし単位を与える。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業計画に示される授業内容の教科書該当部分を予習する（各回45分程度）。授業後に配布される「標準的まとめ」を復習する（各回45分程度）。
教科書	山田弘幸（編著）：言語聴覚士のための心理学(第2版), 医歯薬出版, 2020.
参考書	鈴木光太郎著：ヒトの心はどう進化したのかー狩猟採集生活が生んだもの, 筑摩書房, 2013
オフィス・アワー	月～金の昼休み
国家試験出題基準	V-4-A-a [~] c V-4-B-a [~] c V-4-C-a [~] c V-4-D-a [~] c V-4-E-a [~] e
履修条件・履修上の注意	1回の「まとめ」の提出に対し1点を与えられる。ただし、正答が60%を超えない場合、「まとめ」とは認めない。毎回の授業終了後、「標準的まとめ」をActive Academyにて配信する。定期試験は「標準的まとめ」から出題される。
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし
ナンバリング	SFm-101

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
竹居田 幸仁			

授業形態	講義を中心とする		担当者
授業計画	第1回	<p>学習心理学の歴史 一般に学習というと、学校における教科学習を想像するが、心理学において学習とは「経験によって生ずる行動の変容」と定義される。本講義では学習心理学の歴史を学び、学習心理学の2つの理論体系について理解する。</p> <p>key words：心理学実験室，行動主義，新行動主義</p>	竹居田 幸仁
	第2回	<p>学習の基礎 行動の変容について、遺伝的なものは成熟であり、経験によるものは学習である。経験による行動の変容である学習を生じさせるための手続きが「条件づけ」である。 本講義では様々な条件づけについて学び、日常生活で応用できる場面がないかを考察する。</p> <p>key words：古典的条件づけ，オペラント条件づけ，三項随伴性，強化と弱化</p>	竹居田 幸仁
	第3回	<p>技能学習と熟達化 技能学習とは、知覚系（環境情報の認知）と運動系（中枢からの骨格筋のコントロール）を協応させる学習である。本講義では、様々な技能学習と、その熟達化の方法について学ぶ。</p> <p>key words：技能学習，運動プログラム，学習曲線，熟達化</p>	竹居田 幸仁
	第4回	<p>社会的学習 社会的学習とは、社会のメンバーとして適切な行動がとれるよう、他者の影響を受けて、文化、慣習、規範、態度、価値観、言語、行動などを習得することである。ヒトは経験の中から様々なことを「学習」するが、このメカニズムに関する理論はこれまでに多数積み重ねられてきている。本講義では、社会的学習に関する理論を学び、日常生活において見られる社会的学習を探索する。</p> <p>key words：社会的学習，観察学習，モデリング，自己効力感，道徳的不活性化</p>	竹居田 幸仁
	第5回	<p>問題解決と学習の転移 問題解決を考えるためには、「問題」とは何か、「解決」とは何かを明確にする必要がある。本講義では、認知心理学における問題解決について理解し、日常生活で遭遇する様々な問題の解決方法について検討する。</p> <p>key words：初期状態，目標状態，オペレータ，問題スキーマ，類似，転移</p>	竹居田 幸仁
	第6回	<p>動機づけ 動機づけとは、行動や思考を喚起し、方向づけ、持続させ、完了へと導く心の働きである。動機づけは日々の生活の中で「意欲」や「やる気」などと呼ばれるものと対応した概念である。学習との関係の中での動機づけは、学習された行動の目標達成に向けた遂行や新しい行動の学習を促す心の働きと捉えられる。本講義では、動機づけの源と捉えられる欲求の類型について触れた後、動機づけの始発・維持および動機づけられた行動の推敲・制御に関わる処理過程について概観する。</p> <p>key words：動機づけ，欲求，内発的-外発的動機づけ，期待，価値，原因帰属，自己制御，認知コントロール</p>	竹居田 幸仁
	第7回	<p>認知心理学の歴史 認知心理学で扱われている対象については、古くから言及されている。例えば、古代ギリシャの哲学者プラトンやアリストテレスなどによっても人間の記憶の性質について語られている。しかし、認知に関する科学的研究の取り組みが開始されたのは19世紀に入ってからである。本講義では認知心理学の歴史を概観する。</p> <p>key words：ライプチヒ大学，ゲシュタルト心理学，行動主義，新行動主義，認知地図</p>	竹居田 幸仁
	第8回	<p>感覚 ヒトは思考し行動するために、まず感覚のプロセスによって外界からの情報を得る。本講義ではヒトの感覚プロセスや神経活動について理解し、それがどのように情動を引き起こしたり、行動のための運動システムに利用されるかを考察する。</p> <p>key words：視覚，聴覚，体性感覚，触覚，嗅覚，味覚，閾，多感覚統合</p>	竹居田 幸仁

	<p>第9回 視知覚 我々は、視覚によって外界の様子を素早く知り、行動し、または文字などの情報をものに意味的な理解を行うこともできる。本講義では、眼を通じて得た視覚情報を元に外界を知覚・認識する基礎的な働きについて解説をする。</p> <p>key words : 網膜, 錐体, 明るさ, 色, 恒常性, 顔の認識, 物体認識, 空間の近く, 奥行き, 両眼立体視, 運動, バイオロジカル・モーション</p> <p>第10回 聴知覚 我々の知覚は性質の異なる刺激を同時に受け入れることによって、様々な環境において、できるだけ多くの情報を素早く外界から得ようとしている。その中で、我々が生きていくうえで、聴覚が重要な役割を果たしている場面は多い。本講義ではまず、音の物理的な性質について理解をし、聴覚仕組みや音声の知覚について概観する。</p> <p>key words : 波形, スペクトル, 等間隔曲線, 補充現象, ソーン尺度, マスキング, 周期性, 両耳間時間差, 両耳間音圧差, 先行音効果, 聴覚情景分析</p> <p>第11回 感性 心理学において、「感性」という心の機能はどのように位置づけられるのであろうか。心理学の研究対象としての感性を語る際、感性は感性以外の心の機能との関係性の中で定期されるべきである。本講義では、何をどのように明らかにする研究活動が感性研究なのか、感性は他の心の機能とどう違うのかを検討する。</p> <p>key words : 感性, 印象, 曖昧さ, 想像, 見立て</p> <p>第12回 注意 我々の認知システムの処理能力（処理容量ともいう）には限界がある。身の周りにあるたくさんの情報のうち、一度に処理できるのはその一部であり、情報を取捨選択しなければならない。この時、情報の取捨選択に関わる働きを「注意」という。本講義では、「注意」には単一の機能ではなく、いくつもの側面があり、それぞれが異なる特性を持つことを学ぶ。</p> <p>key words : 注意, 意識, 無意識, ワーキングメモリ, トップダウン, ボトムアップ, 処理資源</p> <p>第13回 記憶 我々は外界の情報を取り入れ（記銘）、一定期間覚えておき（保持）、それを必要に応じて思い出す（想起）。この一連の心的過程やその内容を記憶という。この心的過程は、記銘に際して外界の情報を心内表現に変換する符号化（encoding）、その結果を保持する貯蔵（storage）、保持している内容を想起する検索（retrieval）という3つの段階からなる。本講義では、記憶の構造やシステム、記憶の種類、ワーキングメモリ、処理水準などについて概観する。</p> <p>key words : 感覚記憶, 短期記憶, 長期記憶, ワーキングメモリ, 処理水準説, 偽りの記憶, 回復された記憶</p> <p>第14回 認知の個人差 知覚や認知の研究では、ヒトが普遍的に持っている機能を明らかにするものが殆どで、個人差そのものに焦点が当てられることは少ない。個人差に焦点を当てる研究分野は差異心理学（differential psychology）と呼ばれている。本講義では、報告例が少ない「認知」に関する個人差に関する研究例を紹介し、今後の展望を行う。</p> <p>key words : 個人差, 差異心理学, 知能, 感情知性, ストループ干渉, 逆ストループ干渉</p> <p>第15回 知覚・認知の障害 高次脳機能障害は脳が損傷を受けたことによって生じるが、その症状の中には知覚や認知に関するものがある。本講義では知覚・認知の障害の症状を概観し、その支援方法について検討する。</p> <p>key words : 統覚型視覚失認, 連合型視覚失認, 半側空間無視, 半側身体失認, 前向き健忘, 逆行性健忘,</p>	<p>竹居田 幸仁</p>
<p>科目の目的</p>	<p>一般に学習というと、学校における教科学習を想像するが、心理学において学習とは「経験によって生ずる行動の変容」と定義される。本講義では、行動主義が提唱した学習原理と、社会的学習理論という2つの理論体系について理解することを目的とする。</p> <p>また、人間のこころについて、認知機能の側面から理解し、思考・言語の理解・産出・獲得、人間の記憶など、認知機能に関する理論・仮説や研究方法を理解し、人間の認知機能について概説できるようにすることも目的とする。</p> <p>ディプロマポリシー：【倫理観と幅広い教養】【基本的知識と技術】【地域リハビリテーションの理解・問題解決力】【自己研鑽・探求力】</p>	
<p>到達目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 行動の心理学の基本的な考え方と学習心理学の原理を理解し、説明することができる。 2. ヒトを含む動物の行動に興味を持ち、根拠を持って心と行動の素朴な関連性を疑うことができる。 3. 記憶や注意などの心理学的概念を理解することができる。 4. 言語に関連する認知心理学的知見を理解することができる。 	

関連科目	心理学、臨床心理学、教育心理学、心理測定法、人間関係コミュニケーション論
成績評価方法・基準	定期試験（レポート形式・50%）に、毎回の受講後に作成する小レポートの評価（50%）を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各単元について、1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。
教科書	【教科書】 山田弘幸（編）『言語聴覚士のための心理学第2版』 医歯薬出版株式会社
参考書	【参考書】 箱田裕司（編）『公認心理師の基礎と実践7 知覚・認知心理学』 遠見書房 楠見孝（編）『公認心理師の基礎と実践8 学習・言語心理学』 遠見書房
オフィス・アワー	講義後の教室において、もしくは事前にe-mailで予約のうえ、随時対応します。 月・火・水・金曜日の昼休み（1号館3階305教室）
国家試験出題基準	なし
履修条件・履修上の注意	講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や、それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ、その回の講義の出席を認めない場合もあります。
アクティブ・ラーニングの実施	講義中、随時10分程度の小演習も取り入れる。
ナンバリング	SFm-202

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
竹居田 幸仁			

授業形態	講義形態が中心であるが、講義の後半では主にExcelを利用した統計処理の演習を行う。		担当者
授業計画	第1回	<p>オリエンテーション 心理学の歴史を知ることを通じて、心理測定法の意義を学ぶ。</p> <p>key words：心理測定法，心理学研究法</p>	竹居田 幸仁
	第2回	<p>心理物理学的測定法 精神物理学的測定法で測定される刺激閾，弁別閾，主観的等価値などを学習し，閾値の概念について詳細に検討する。</p> <p>key words：精神物理学的測定法，閾値の測定</p>	竹居田 幸仁
	第3回	<p>データの種類の識別する われわれは，自分が問題とする現象・事象について実験や調査，検査，観察を行ってデータを得る。そしてそのデータを処理して，なにがしかの所見を得ようとする。しかし，どのような方法で処理するかは，データの種類によって異なる。本講義では，データ処理のために適当な方法を適用するために，自分のデータがどのような性質を持つかを識別できるようになることを目指す。</p> <p>key words：名義尺度，順序尺度，間隔尺度，比率尺度</p>	竹居田 幸仁
	第4回	<p>データを入力する データを分析するためには，標本集団から得られたデータを何らかの基準に従って数値化し，整理する必要がある。これはまず表の形にまとめられるが，この加工や編集をされていないデータを原データ（粗データ，素データ，raw data）という。本講義ではデータ処理の手始めとして，実験記録，観察記録，質問紙等で捉えた被験者（被検者，被調査者）の反応—原データをExcelに入力する演習を行う。</p> <p>key words：実験，観察，質問紙調査，原データ</p>	竹居田 幸仁
	第5回	<p>データを編集する データ処理の過程で，入力した値や算出した値に様々な手を加えて，新しい値を与えることがある。最も単純な加工としては，数値を四捨五入して適当な位に丸めたり，文字データを数値データに置き換えたり，いくつかの変数の合計値を求めたりといった作業が挙げられる。やや複雑な加工としては，標準化をしたり，対数変換，角変換等を行うことがある。本講義では，Excelでこれらの加工の演習を行う。</p> <p>key words：データの編集，データを丸める，データの変換，標準化</p>	竹居田 幸仁
	第6回	<p>データを集計し特徴を記述する データを集計する際，最も基本的な処理は，ある変量の値に従って観測を並べ替えることである。出席番号順に並べたり，肥満度の順番に個人を並べ替えたり，性別でグループ分けをしたりといった処理が該当する。本講義では，Excelを用いて様々なデータの集計方法についての演習を行う。</p> <p>key words：データの並べ替え，度数分布表，クロス集計，平均値，中央値，最頻値，散布度，GP分析</p>	竹居田 幸仁
	第7回	<p>グラフに表す 原データについてグラフを描くと，データの分布が概観できる。次の段階では，原データの集計表から度数を計測したり平均値等を算出し，標本の特徴について記述し，さらに高度・複雑な分析を施すこともある。本講義では，Excelを用い，様々なデータをグラフで表す演習を行う。</p> <p>key words：原データのグラフ化，グラフウィザード，ラベル，目盛線</p>	竹居田 幸仁
	第8回	<p>統計的検定① 表やグラフから傾向を読み取られた所見は，研究者自身の“読み”によるもので，そのような主観的な所見から示唆される差異や関係は，確率的に見て差がある，関係があると言えるのかどうかを数字の上で裏付ける必要がある。これが統計的検定と言われるものである。 本講義では，帰無仮説について学び，Excelを用いて二項検定やカイ二乗検定などの演習を行う。</p> <p>key words：帰無仮説，有意水準，二項検定，カイ二乗検定，自由度</p>	竹居田 幸仁

	<p>第9回 統計的検討② 2つの条件下において同一の測定・調査を行い、その条件感で測定値（平均値）に差があるかどうかを検定する方法について学ぶ。 講義の後半では、Excelを用い、F検定、t検定の演習を行う。</p> <p>key words：F検定、等分散、対応のあるt検定、対応のないt検定</p> <p>第10回 統計的検討？ 心理学実験で得られる測定値には、通常多くの変動＝バラつきが見られる。この変動がどのような要因（条件、変数）によって説明されるかを知るために、いくつかの影響因子をあらかじめ設定し、その要因が、偶然誤差による変動を見込んだ上でも、測定値全体の変動に影響を与えているのかどうかを検討する方法である分散分析について学ぶ。 講義の後半では、Excelを用い、様々な分散分析の演習を行う。</p> <p>key words：分散分析、一元配置、繰り返しのある二元配置、繰り返しのない二元配置</p> <p>第11回 類似性・関係の程度を数値で表す 2つの事象の間になんらかの関係＝共変関係、因果関係、一致、類似などが想定される場合がある。そのような関係の有無を検討するために、関係の程度を数値化する試みがなされている。これが相関係数である。本講義では、距離尺度を構成する2つの変量間の関連の程度を表す時に適用するピアソンの積率相関係数について学ぶ。 講義の後半では、Excelを用いて2変量間の相関係数を求める演習を行う。</p> <p>key words：ピアソンの積率相関係数、因果関係はない、有意水準、</p> <p>第12回 多変量を集約する 人の傾向を測る時、「ものさし」が一つでは、見落としている側面があるのではないかと危惧される。本講義では、まず、問題としている特性に関連すると思われる「ものさし」を多数あてはめ、その特性を測ろうとする重回帰分析について学ぶ。更に、多くの反応指標が同時に得られる場合、外的基準は存在せず、変量（尺度）間の相関係数からそれらの構造的関連を分析する方法である因子分析についても学習する。 講義後半では、Excelを用い、これらの分析方法について演習を行う。</p> <p>第13回 発達検査 発達検査とは、乳幼児の精神 発達（運動・身辺自立・言語・社会性など）の程度を測定する検査である。本講義では、わが国で使用されている代表的な発達検査を紹介する。</p> <p>key words：新版K式発達検査2020、遠城寺式乳幼児分析的発達検査法、デンバー発達判定法</p> <p>第14回 知能検査① ウェクスラーが知能を「目的的に行動し、合理的に思考し、能率的にその環境を処理しうる総合的・全体的能力」と定義している通り、知能とは単に頭の良さや勉強の出来具合を示す指標ではない。そして、知能検査とは、知能の程度を客観的・科学的に測定する検査である。 本講義では、わが国で使用されている代表的な知能検査の一つである田中ビネーV知能検査について紹介する。</p> <p>key words：知能、田中ビネーV知能検査、鈴木ビネー検査</p> <p>第15回 知能検査② 本講義では、世界的に使用されているウェクスラー系の知能検査（成人用であるWAIS-IVおよび児童用であるWISC-IV・WISC-V）について紹介する。</p> <p>key words：WAIS-IV、WISC-IV、WISC-V</p>	<p>竹居田 幸仁</p>
<p>科目の目的</p>	<p>心理学の領域では心に関する現象をデータに基づいて科学的に検証するために、様々な測定法が開発されてきた。この講義では、各測定法の方法論や特徴を学ぶことを通じて、データを読み解くための方法を理解することを目指す。</p> <p>ディプロマポリシー：【コミュニケーション能力】【論理的思考・多様性理解】【知的探求心と創造性】【社会に貢献する能力】</p>	
<p>到達目標</p>	<p>1. 心理学研究の基礎をなす測定法の理論や具体的測定方法について理解する。 2. 測定することの意味や各研究領域を代表する測定方法について理解を深め、将来研究を企画する際の基礎知識を身に付ける。</p>	
<p>関連科目</p>	<p>心理学、臨床心理学、教育心理学、学習・認知心理学、人間関係コミュニケーション論</p>	
<p>成績評価方法・基準</p>	<p>定期試験（レポート形式・50％）に、毎回の受講後に作成する小レポートの評価（50％）を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。</p>	
<p>準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安</p>	<p>各単元について、1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。</p>	
<p>教科書</p>	<p>遠藤健治 『Excelによるデータ処理入門－集計から編集、要約、グラフ化、検定〔増補改訂版〕ま</p>	

	でー』 北樹出版
参考書	山田弘幸（編）『言語聴覚士のための心理学第2版』 医歯薬出版株式会社 南風原朝和 『心理統計学の基礎』 有斐閣アルマ
オフィス・アワー	講義後の教室において、もしくは事前にe-mailで予約のうえ、随時対応します。 月・火・水・金曜日の昼休み（1号館3階305研究室）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や、それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ、その回の講義の出席を認めない場合もあります。
アクティブ・ラーニングの実施	実施する。
ナンバリング	SFm-301

講義科目名称： 言語学

授業コード： 1S064

英文科目名称： Linguistics

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
白坂 康俊			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 言語学概論。STにとっての言語学の必要性を理解する演習（言語処理過程） AL=アクティブラーニング	白坂 康俊
	第2回 言語学と言語障がいとの具体的な関連 AL	白坂 康俊
	第3回 日本語の特徴、構造を理解する。STが臨床を行うのに改めて日本語を学ぶ必要性 一部AL	白坂 康俊
	第4回 日本語の品詞、形態と役割 一部AL	白坂 康俊
	第5回 日本語の格助詞、形態と役割 一部AL	白坂 康俊
	第6回 日本語のテンス、形態と役割 一部AL	白坂 康俊
	第7回 日本語のボイス、形態と役割 一部AL	白坂 康俊
	第8回 日本語の人称、形態と役割 一部AL	白坂 康俊
	第9回 日本語の統語構造と「は」および従属節での格の標識の消失 一部AL	白坂 康俊
	第10回 障がい者にとっての日本語の習得 一部AL	白坂 康俊
	第11回 日本語の助詞と助詞の消失の習得のための訓練プログラム立案 一部AL	白坂 康俊
	第12回 言語の一般的特徴（音声・文字言語、恣意性、二重分節性など）、言語の種類 一部AL	白坂 康俊
	第13回 言語の一般的特徴（生成文法、共時論、通時論、生産性、線状性） 一部AL	白坂 康俊
	第14回 言語学の研究分野（音韻論、形態論、意味論、統語論、文字論、社会言語学） 一部AL	白坂 康俊
	第15回 言語理論と言語聴覚療法（言語処理過程、失語症）、言語の階層構造と神経科学） AL	白坂 康俊
科目の目的	患者様が習得、再学習する対象としての日本語について、言語聴覚士として評価課題や訓練課題において言語学的知識をどのように活用し、言語学的な分析をどのように行いうるかについて理解する。それにより、障がいを持つ方の発話や書いたものを分析し、必要な習得プログラム構築できるようにする。【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	言語学の基本的な概念を説明できる。日本語の特色、日本語のシンタックス、語彙、表記法（かな、カタカナ、漢字）などの規則と特徴を理解し、言語レベルの障がいの検査・評価・訓練にどのように応用できるかを理解する。	
関連科目	聴覚障害学、失語症学、高次脳機能障害学、言語聴覚障害学概論	
成績評価方法・基準	小レポート20%、ALの参加状況20%、筆記試験、60%とする。筆記試験は、100点満点換算で60点以上を合格とする。小レポートは、内容で評価し、また、出席した授業について未提出の場合は、0点とする。全体で、100点満点換算の60点以上を合格とする。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	毎回事前演習課題を提示するので、回答を準備すること。約1時間の準備を要する。基礎的な学問である言語学と言語障害がどう結びつくかをしっかり考えること。	
教科書	教科書：野田尚史「はじめての人の日本語文法」くろしお出版 1991年 配布資料	
参考書	無し	
オフィス・アワー	研究室620 月曜午後～木曜昼までの間の昼休み。	
国家試験出題基準	VI-4-A-a [~] c VI-4-B-a [~] b VI-4-C-a [~] b VI-4-D-a [~] e VI-4-E-a [~] d	

履修条件・履修上の注意	
アクティブ・ラーニングの実施	授業内でテーマを設定し、ゼミ単位のディスカッションを行う。
ナンバリング	SFn-101

講義科目名称： 音声学

授業コード： 1S065

英文科目名称： Phonetics

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
白坂 康俊			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 音を記述する体験（AL）。音声とは。調音とは。音声と言語療法の学問史。AL=アクティブラーニング</p> <p>第2回 発声発語器官の描画（AL）。発声発語器官を理解する。空気の流れの説明。</p> <p>第3回 発話障がい体験（AL）音声記号での記述と、その他の方法での記述の違い。</p> <p>第4回 母音と子音。アクセント。IPA。母音の三角形の自己観察・記述（AL）</p> <p>第5回 発声発語器官と機能：呼吸器と喉頭。軟口蓋。舌。顎。口唇。</p> <p>第6回 2重分節と音素、有声、無声、鼻音：母音と子音の違い。声道模型提示と説明。</p> <p>第7回 子音の構音点、構音方法、有声無声の観察記述（AT）。有声、無声、鼻音の産生の仕方解説。</p> <p>第8回 閉鎖音・摩擦音：閉鎖音・摩擦音とは何か、その産生の仕方。外国語も含む。</p> <p>第9回 母音：母音の三角形にそって、上下、前後の関係を知る。</p> <p>第10回 国際音声字母。構音検査と調音音声学の関連性を理解する。音声学と音韻論。</p> <p>第11回 音声記号と、他の記号での記述の違い（AL）。プロソディ定義と範囲。外国語も含めて。</p> <p>第12回 プロソディの機能。分析。日本語のプロソディ。プロソディの記述（AL）</p> <p>第13回 音韻の獲得とその順序。</p> <p>第14回 摂食・嚥下運動と構音運動（AL）。</p> <p>第15回 摂食・嚥下の獲得と異常</p>	<p>白坂康俊</p>
科目の目的	音声の産生の仕方について、発声発語の検査や訓練手技に繋がる実用的なレベルでの理解する。 【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	発声発語器官が説明でき、子音と母音の違いが説明できる。 国際音声記号にそって代表的な構音点、構音方法が説明できる。 プロソディとは何か説明できる。 言語障害の記述でなぜ国際音声記号を用いるか説明できる。	
関連科目	病理音声学。言語学。発声発語・嚥下障害評価法。器質性・機能的発話障害支援論。運動性発話障害支援論。非流暢性発話支援論。摂食・嚥下障害支援論。	
成績評価方法・基準	授業に関する小レポート（20%）、ALの参加状況とプレゼン内容（20%）、筆記試験（60%）。授業レポート、AL、筆記試験（各100点満点）の総合点（重み付けは、上記の比率とする）で評価するが、いずれか一つでも60点未満の場合は、不合格。また、小レポートの未提出（欠席時は除く）があれば、不合格とする。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	30分程度の毎回の予習。復習として授業に関する小レポート作成に30分。	
教科書	教科書 斎藤純男 日本語音声学入門(改訂版) 三省堂 2006年 参考書 広瀬肇他 「言語聴覚士のための運動障害性構音障害学」 医歯薬出版	
参考書	無し	
オフィス・アワー	火曜日12:10~13:00	
国家試験出題基準	VI 1 A-F	
履修条件・履修上の注意		

アクティブ・ラーニングの実施	各回のテーマについて、ゼミ単位でディスカッションし、発表する。
ナンバリング	SFo-201

講義科目名称：音響音声学

授業コード：1S066

英文科目名称：Acoustic Phonetics

対象カリキュラム：2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
富澤 晃文			

授業形態	講義形式	担当者
授業計画	第1回 音とは何か／音波の性質	富澤晃文
	第2回 音に関わる単位①（フーリエ解析と周波数）	富澤晃文
	第3回 音に関わる単位②（デシベル尺度）	富澤晃文
	第4回 音の計測、標本化、加工	富澤晃文
	第5回 音の分析と表示①（波形、スペクトル）	富澤晃文
	第6回 音の分析と表示②（スペクトログラム）	富澤晃文
	第7回 音声の生成とソース・フィルタ理論	富澤晃文
	第8回 音声の分節的／超分節的特徴	富澤晃文
科目の目的	言語聴覚障害学の専門基礎分野として、音響音声学に関する知識・方法を理解すること。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】	
到達目標	1. 音の物理学的性質を理解し、説明ができる。 2. 音を表す単位、解析法、表示法を理解し、解釈および説明ができる。 3. 音声生成に関わる音響理論を理解し、説明ができる。	
関連科目	聴覚心理学、音声学	
成績評価方法・基準	筆記試験（定期試験80%、授業内小テスト20%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	教科書・講義資料をもとに授業該当箇所の予習と復習を行う（30時間相当）。高校数学の対数を復習しておくこと。音響学、知覚心理、スピーチサイエンスなどに関連する書籍を読むなど、関心を高めつつ受講することが望ましい。	
教科書	ゼロから学ぶ音響学（講談社）：聴覚心理学と共通	
参考書	新ことばの科学入門 第2版（医学書院） 言語聴覚士の音響学入門 2訂版（海文堂） 音のなんでも小辞典（講談社ブルーバックス）	
オフィス・アワー	講義の前後（場所：非常勤講師室）	
国家試験出題基準	VI-2-A-a～f VI-2-B-a～c VI-2-C-a～e VI-2-D-a～c VI-2-E-a～c VI-2-F-a～d	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	なし	
ナンバリング	SFp-101	

講義科目名称： 聴覚心理学

授業コード： 1S067

英文科目名称： Psychology of Hearing

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
富澤 晃文			

授業形態	講義形式	担当者
授業計画	第1回 音と人間／音の知覚	富澤晃文
	第2回 音の心理物理学①（音の3要素）	富澤晃文
	第3回 音の心理物理学②（可聴範囲、等ラウドネス曲線）	富澤晃文
	第4回 音の心理物理学③（ラウドネスとピッチ）	富澤晃文
	第5回 マスキング	富澤晃文
	第6回 両耳聴	富澤晃文
	第7回 環境と聴覚①（知覚と情景分析）	富澤晃文
	第8回 環境と聴覚②（音環境と騒音）	富澤晃文
科目の目的	言語聴覚障害学の専門基礎分野として、聴覚心理学に関する知識を理解すること。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】	
到達目標	1. 音と精神物理学的关系を理解し、説明ができる。 2. 音の知覚に関わる単位、表示法を理解し、説明ができる。 3. 音環境と聴覚心理学に関わる理論を理解し、説明ができる。	
関連科目	音響学	
成績評価方法・基準	筆記試験（定期試験80%、授業内小テスト20%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	教科書・講義資料をもとに授業該当箇所の予習と復習を行う（30時間相当）。音響学、知覚心理、スピーチサイエンスなどに関連する書籍を読むなど、関心を高めつつ受講することが望ましい。	
教科書	ゼロから学ぶ音響学（講談社）：音響学と共通	
参考書	新ことばの科学入門 第2版（医学書院） 言語聴覚士の音響学入門 2訂版（海文堂） 音のなんでも小辞典（講談社ブルーバックス）	
オフィス・アワー	講義の前後（場所：非常勤講師室）	
国家試験出題基準	VI-3-A-a～f VI-3-B-a～b VI-3-C-a～b VI-3-D-a～c	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	なし	
ナンバリング	SFp-102	

講義科目名称： 言語発達学

授業コード： 1S068

英文科目名称： Development of Speech and Language

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
齊藤 吉人	遠藤 俊介		

授業形態	オムニバス方式／全15回 講義8時間 演習7時間		担当者
授業計画	第1回	音声言語の普遍的特徴とスピーチチェーン 音声言語の普遍的特徴・象徴性・恣意性・線状性・統語性・再帰性・形態素・形態素・音素・二重分節性・カテゴリー知覚・言語の構成要素	齊藤吉人
	第2回	音声言語の普遍的特徴とスピーチチェーン 音声言語の普遍的特徴・象徴性・恣意性・線状性・統語性・再帰性・形態素・音素・二重分節性・カテゴリー知覚・言語の構成要素	齊藤吉人
	第3回	前言語期の発達：コミュニケーション行動の発達、発声行動・言語音知覚の発達、感覚運動的知能の発達 コミュニケーション機能獲得段階・社会的参照・共同注意・喃語・分節化 ピアジェの発達段階論・感覚運動期・前操作期・具体的操作期・形式的操作期	齊藤吉人
	第4回	1～2歳の言語発達：初語の出現・語彙の増加、言語発達を促す大人の関わり、構文の発達、象徴機能の発達 過大汎用・語彙爆発期・即時マッピング・制約理論・発達の最近接領域・インリアル・アプローチ・記号・シグナル・インデックス・シンボル・延滞模倣・ふり遊び・見立て遊び・	齊藤吉人
	第5回	幼児前期の言語発達 語彙・構文の発達、談話能力の発達	遠藤俊介
	第6回	幼児後期の言語発達 文知覚のストラテジー・意味方略・語順方略・助詞方略・ディスコース・ナラティブ・会話の公理・こころの理論・音韻意識・特殊音節	遠藤俊介
	第7回	児童期の言語発達：読み書き能力の発達、読解・作文の発達、比喩・皮肉の発達 プレリテラシー・エマージェントリテラシー・ディスレクシア・尊敬語・謙譲語・比喩・皮肉文・推敲	遠藤俊介
	第8回	言語発達を説明する理論：学習説・生得説・認知説・社会・相互交渉説 学習説・生得説・行動主義心理学・オペラント条件づけ・生成文法・言語獲得装置・ピジン・クレオール・ウイリアムズ症候群・言語機能のモジュール性・領域一般性・外言・内言・発達の最近接領域・足場かけ・フォーマット・言語獲得援助システム	遠藤俊介
	第9回	言語発達を促す大人の関わり A. S.	齊藤吉人・遠藤俊介
	第10回	言語発達を促す大人の関わり A. S.	齊藤吉人・遠藤俊介
	第11回	言語発達を促す大人の関わり A. S.	齊藤吉人・遠藤俊介
	第12回	言語発達を促す大人の関わり A. S.	齊藤吉人・遠藤俊介
	第13回	言語発達を促す大人の関わり A. S.	齊藤吉人・遠藤俊介
	第14回	発表 A. S.	齊藤吉人・遠藤俊介
	第15回	発表 A. S.	齊藤吉人・遠藤俊介
科目の目的	小児の言語発達障害においては評価から診断・支援に至るまで、言語発達の正常と異常、背景にある阻害要因に関する知識を欠かすことはできない。言語発達学はその入門にあたる領域で、言語発達に関する基礎的知識を学ぶことを目的とする。 ディプロマポリシー：【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各言語期の発達の特徴が説明できる。 言語獲得を説明する理論について、大まかに述べる事が出来る。 言語発達を促す大人の関わりについて具体的に示す事が出来る。 		
関連科目	言語発達障害学、言語発達障害評価法、言語発達障害支援論、言語聴覚障害診断学		
成績評価方法・基準	成績評価＝毎回提出するまとめ(8%)＋ゼミ活動への貢献度(30%)＋定期試験成績(62%)。100点満点に換算して60点以上を合格とし単位を与える。		

準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	あらかじめ授業計画に示されている講義内容該当部分を教科書で確認しておく（毎回45分程度）。講義後は配布された「標準的まとめ」で復習をする（毎回45分程度）。
教科書	深浦順一等編：言語発達障害学, 第3版, 医学書院, 2021
参考書	大森孝一等編：言語聴覚士テキスト, 第3版, 医歯薬出版, 2018
オフィス・アワー	齊藤吉人：月～金の昼休み 遠藤俊介：月～木の昼休み
国家試験出題基準	VIAa～d VIBa～c VICa～d VIDa～c VIEa～c
履修条件・履修上の注意	AS=ゼミ単位でのアクティブ・ラーニング（発達段階に則した関わり・おもちゃの考案） 毎回の授業の最後に授業の「まとめ」を作成する。1回の「まとめ」の提出に対し1点が与えられる。毎回の授業終了後、講義資料と「標準的まとめ」をActive Academyにて配信する。
アクティブ・ラーニングの実施	「言語発達を促す大人の関わり」をテーマにAL及びASを実施する。
ナンバリング	SFq-201

講義科目名称： ICFとリハビリテーション

授業コード： 1S069

英文科目名称： ICF and Rehabilitation

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
齊藤 吉人	齊藤 吉人		

授業形態	講義8回, AS		担当者
授業計画	第1回	リハビリテーションとは rehabilitationの歴史と思想、定義	齊藤 吉人
	第2回	疾病と障がい 障がいとは何か、ICD, ICIDH, ICF	齊藤 吉人
	第3回	リハビリテーションの領域 医学的リハビリテーションとリハビリテーション関連職種, AS	齊藤 吉人
	第4回	リハビリテーションの領域 職業的リハビリテーション, 教育的リハビリテーション, AS	齊藤 吉人
	第5回	リハビリテーションの過程 疾病と障がい, 急性期～維持期, 医療としてのリハ, AS	齊藤 吉人
	第6回	障がいと社会制度 国際障害者権利条約, 障害者基本法, 身体障害者福祉法, 障害者手帳, 介護保険, AS	齊藤 吉人
	第7回	地域リハビリテーション 地域資源、行政サービス、在宅ケア, AS	齊藤 吉人
	第8回	障がい者と社会参加, まとめとレポート課題解説 バリアフリーとユニバーサルデザイン, 障がい者と地域, AS	齊藤 吉人
科目の目的	ICFでは障害を機能障害、生活制限、参加制約としており、機能障害だけを障害とはしていない。したがって、リハビリテーションの対象は機能障害へのアプローチみならず、生活制限や参加制約へのアプローチも含むものであることを理解する。【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】		
到達目標	ICFの概念を具体例を挙げて説明できる。リハビリテーションの全体的な体系を説明できる。		
関連科目	地域リハビリテーション学、チーム医療とリハビリテーション		
成績評価方法・基準	ASへの貢献度(30%)、聴講票(10%)、レポート課題(60%)。100点満点換算で60点以上得た者に単位を与える。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前に配布する講義資料の該当部分およびテキストの該当部分を予習する(各回45分程度)。各回の内容と演習を復習する(各回45分程度)		
教科書	上田敏著：ICFの理解と活用, きょうされん, 2005		
参考書	大森孝一等編：言語聴覚士テキスト, 第3版, 医歯薬出版, 2018		
オフィス・アワー	月～金の昼休み		
国家試験出題基準	I-1-A-b ^f II-4-A-a ^b VII-1-A-a ^b VII-1-B-a ^b VII-1-F-a ^k VII-1-G-a ^d VII-2-A-a ^b VII-2-B ^F VIII-1-A-a ^c VIII-1-B-a ^b VIII-1-C-a ^e		
履修条件・履修上の注意	AL=アクティブ・ラーニング AS=アクティブ・ラーニング・ゼミ		
アクティブ・ラーニングの実施	AL及び ASを実施する		
ナンバリング	SFr-101		

講義科目名称： AACと教材学

授業コード： 1S070

英文科目名称： Teaching and Learning Materials and AAC (Augme…) 対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
白坂 康俊	白坂 康俊	齊藤 吉人	丹下 弥生
	酒井 哲郎		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 AACの概要と教材作成の考え方	白坂康俊
	第2回 構音・音声障害のAAC	白坂康俊
	第3回 構音・音声障害の教材	白坂康俊
	第4回 言語系障害のAAC	齊藤吉人
	第5回 言語系障害の教材	齊藤吉人
	第6回 小児のAAC	酒井哲郎
	第7回 小児の訓練教材	丹下弥生
	第8回 嚥下障害のAACと教材	丹下弥生
科目の目的	機能訓練の限界を補う有効な手段としての拡大代替コミュニケーション（Augmentative and Alternative Communication :AAC）の概要を学修する。原語の処理過程毎に言語障害を聴覚系、言語系、運動系にわけ、どの処理過程のどういう障がい、どの程度の障がいに、AACをどう適用するか学修する。そのうえで、構音障がい、音声障がい、失語症、高次脳機能障害、認知症、嚥下障害それぞれのAACの種類と適応を学ぶ。また、成人と小児での適応の違いと小児のAACについて学修する。	
到達目標	言語処理過程にそって、障害された過程を補う方法を理解する。代行する方法と補完する方法の違いを説明できる。 AACの種類と代表的な機種について基本的に理解する。使用方法、適応の評価と判断、適応訓練の基本を説明できる。個々の障がい者の状態に合わせて、改修したり、新規に作成する必要性について理解する。	
関連科目	言語聴覚障害概論。言語聴覚障害診断学。病理音声学。音声学。	
成績評価方法・基準	小レポート20%、試験80%。いずれも60%以上で合格とする。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各時間で1時間程度の予習を必要とする	
教科書	なし	
参考書	なし	
オフィス・アワー	白坂昼休み、齋藤昼休み、酒井昼休み、丹下昼休み	
国家試験出題基準	VII 1 E c	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	AACの具体的な適応を、実際の機器を用いて行ったり、AACを試作する。	
ナンバリング	SFr-301	

講義科目名称： 臨床スキル論

授業コード： 1S071

英文科目名称： Clinical Skills

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
岡田 哲也	磯 忍		

授業形態	講義（5コマ）、演習（10コマ）		担当者
授業計画	第1回	コミュニケーショントイについての実践と考察① - 言葉を生み出すおもちゃ -	岡田 哲也
	第2回	身近な材料でおもちゃを作る① - 江戸時代のカラクリおもちゃを作る - アクティブラーニング=演習/体験・グループワーク	岡田 哲也
	第3回	身近な材料でおもちゃを作る② - 紙コップを使った手作りおもちゃ - アクティブラーニング=演習/体験・グループワーク	岡田 哲也
	第4回	コミュニケーショントイについての実践と考察② - 運動を促すおもちゃ - アクティブラーニング=演習/体験・グループワーク	岡田 哲也
	第5回	身近な材料でおもちゃを作る③ - 新聞紙を使った手作りおもちゃ - アクティブラーニング=演習/体験・グループワーク	岡田 哲也
	第6回	身近な材料でおもちゃを作る④ - 紙皿を使った手作りおもちゃ - アクティブラーニング=演習/体験・グループワーク	岡田 哲也
	第7回	アクティビティ・ケア概論① - 高齢者の人生歴を大切にするケア -	磯 忍
	第8回	アクティビティ・ケア概論② - アクティビティ・ケア宣言施設に学ぶ -	磯 忍
	第9回	アクティビティ・ケア概論③ - 食と口腔アクティビティ -	磯 忍
	第10回	アクティビティ・トイの実践と考察① - 高齢者向けおもちゃの体験 - アクティブラーニング=演習/体験・グループワーク	磯 忍
	第11回	アクティビティ・トイの実践と考察② - 高齢者向けおもちゃの意義 - アクティブラーニング=演習/体験・グループワーク	磯 忍
	第12回	アクティビティ・ケアの活動計画① - アクティビティ・ケアの計画法 - アクティブラーニング=演習/体験・グループワーク	磯 忍
	第13回	アクティビティ・ケアの活動計画② - アクティビティ・ケアの計画立案 - アクティブラーニング=演習/体験・グループワーク	磯 忍
	第14回	アクティビティ・ケアの活動計画③ - アクティビティ・ケアの計画発表 - アクティブラーニング=演習/体験・グループワーク	磯 忍
	第15回	アクティビティ・ケア総論 - 実践に向けて -	磯 忍
科目の目的	前半は子どもの成長・発達におけるおもちゃの役割や手作りおもちゃの指導法を学びながら、「遊ぶ力」「つくる力」「指導する力」を身に付けることができる。 後半は介護を必要とする高齢者や障がい者がQOLを向上し、ADLを維持するために、遊びや生きがいなどのアクティビティが大切なことを理解し、具体的な遊び体験等を通して、活動計画の立案に必要なスキルを取得することを目的とする。 【基本的知識と技術】 【知的探求能力】 【コミュニケーション能力】 【人間力と倫理観】		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自ら遊び、その楽しさを対象者に伝えることができるようになる ○ 遊びの要素を見つけ、作り出す考え方を身に付けることを目標とする ○ 遊びを通じて、他者と関わるコミュニケーションを深めることができるようになる ○ 身近な材料から、おもちゃを作る技術を習得する ○ 具体的な遊び体験を通して、対象者に合った楽しみ方を引き出すための援助法を学ぶ ○ 計画法を学び、企画立案、発表、グループディスカッションを通して、よりよいプログラムの企画法を学ぶ ○ この科目を修了し、単位を取得した者で以下の3つの要件を満たした場合「認定NPO法人 芸術と遊び創造協会」が認定する「おもちゃインストラクター」の両方またはいずれか一つの「アクティビティインストラクター」の資格の認定を受け、かつ資料を取得することができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 希望する者は、講義終了までの指定された期限までに取得の申請を行うこと 2. 希望する資格について、指定の期日までに、所定の認定料を芸術と遊び創造協会に支払うこと 3. 各資格取得に必要な出席日数（単位取得とは別に設定される）を満たすこと 条件の詳細は、講義内で講師が説明する 		
関連科目	AACと教材学、言語聴覚障害臨床論、地域参加支援総論、地域参加支援演習Ⅰ、地域参加支援演習Ⅱ、見学実習、観察実習、評価実習、統合実習		
成績評価方法・基準	授業内レポート 100% *遅刻や早退は30分までとし、以降については欠席とする		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容については前回の講義時に指示をする。 各単元について、1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。		

教科書	使用しない
参考書	使用しない
オフィス・アワー	授業終了後30分（場所：非常勤講師室）
国家試験出題基準	VII-1-F、VII-2
履修条件・履修上の注意	
アクティブ・ラーニングの実施	体験学習／グループ・ワーク等
ナンバリング	SFr-401

講義科目名称： リハビリテーション経済学

授業コード： 1S072

英文科目名称： Economics of Rehabilitation

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
高橋 克佳			

授業形態	講義8回	担当者
授業計画	<p>1回 高齢者・認知症高齢者と介護保険 高齢者・認知症高齢者と介護保険サービスと地域連携</p> <p>2回 高齢者・認知症高齢者と介護保険 高齢者世帯の経済状況と家族介護</p> <p>3回 高齢者・認知症高齢者の介護ケアについて 認知症高齢者の理解</p> <p>4回 高齢者・認知症高齢者の介護ケアについて 認知症高齢者の理解（BP S Dとケア）</p> <p>5回 高齢者・認知症高齢者の家族介護 家族介護の現状（グループディスカッション）</p> <p>6回 高齢者・認知症高齢者へのアクテビティケアについて アクテビティの視点</p> <p>7回 高齢者・認知症高齢者へのアクテビティケアについて アクテビティケアの取り組みと事例</p> <p>8回 高齢者・認知症高齢者の事例を通して グループディスカッション</p>	<p>高橋 克佳</p>
科目の目的	認知症高齢者を主体とした高齢者への介護について。介護保険の利用から認知症高齢者との関り、アクテビティケアについての学習【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】	
到達目標	<p>高齢者・認知症高齢者を取り巻く経済的な環境を理解し、高齢者を介護する家族の理解・対応の在り方がわかる。</p> <p>高齢者・認知症高齢者の対応の仕方がかわり方が理解できる</p> <p>高齢者・認知症高齢者とアクテビティケアを通じ高齢者のQOLの向上のかかわり方が理解できる</p>	
関連科目	多職種理解と連携	
成績評価方法・基準	定期テスト100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	高齢者・認知症高齢者の準備学習 アクテビティケアについて準備学習（1コマ当たり準備学習2時間）	
教科書	指定なし パワーポイント資料を事前に配布します	
参考書	なし	
オフィス・アワー	授業後30分程度（場所：非常勤講師室）	
国家試験出題基準	VII-1-A～D、VII-1-E-d、VII-2-A～F	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	グループディスカッション等	
ナンバリング	SFr-302	

講義科目名称： チーム医療とリハビリテーション

授業コード： 1S073

英文科目名称： Rehabilitation and Team Care

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
神山 政恵	馬場 順子 村田 和香	岡崎 大資 浅田 春美	三浦 康子
	丹下 弥生	岡田 直純	加茂 智彦

授業形態	講義（3）、演習（5）		担当者
授業計画	第1回	オリエンテーション 総論（講義） チーム・アプローチの必要性、保健医療チームの特徴、チームのタイプ	岡崎・浅田・加茂・村田・馬場・岡田・神山・三浦・丹下
	第2回	リハビリテーション・チームの役割（講義） 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の役割	岡崎・浅田・加茂・村田・馬場・岡田・神山・三浦・丹下
	第3回	グループ・ワークについて（講義） グループ課題情報共有、グループ分け	岡崎・浅田・加茂・村田・馬場・岡田・神山・三浦・丹下
	第4～7回	グループワーク（演習4回） 下記の課題を担当するグループを決定し、グループでの役割分担、情報収集、分析、ディスカッション、発表準備を行う。 課題① 高崎市間屋町を生活圏とするために 課題② 大学生活を快適にする方法 課題③ リハビリテーションを地域住民に知ってもらうために 課題④ 高齢者のための生活の工夫を考える 課題⑤ リハビリテーションの将来を考える	岡崎・浅田・加茂・村田・馬場・岡田・神山・三浦・丹下
	第8回	グループ発表（演習） グループ・ワークの結果をまとめ、その学習成果をポスター等により発表し、ディスカッションを行う。	岡崎・浅田・加茂・村田・馬場・岡田・神山・三浦・丹下
科目の目的	リハビリテーション学部ディプロマ・ポリシーで謳われている「多様化する地域社会の諸問題を理解し、多職種と連携してリハビリテーションを実践できる能力」を目指し、リハビリテーション学部の3学科の学生が共に学ぶ機会を得ることにより、お互いを尊重する姿勢を学ぶ。「リハビリテーション概論」の学修に基づき、学科横断的に編成するグループによる課題解決の過程を通して、チームの概念、チームワークの難しさと効果、リーダーシップ、他者理解の上での交流の在り方、組織管理について学修する。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】		
到達目標	①チーム医療の意味を説明できる。 ②リハビリテーション・チームの役割を説明できる。 ③グループ・ワークに積極的に参加することができる。 ④他者の意見を聞くこと、自らの意見を話すことができる。		
関連科目	多職種理解と連携、リハビリテーション概論、地域リハビリテーション学		
成績評価方法・基準	グループ・ワークの発表（50%）およびディスカッションを含めた課題をレポートにまとめる（50%）。 レポートのフィードバックは学科担当教員が行う。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義内容、およびグループでの作業を理解し、積極的にグループ・ワークに参加すること。 準備学習に必要な時間の目安は30分程度である。		
教科書	特に定めない。		
参考書	特に定めない。		
オフィス・アワー	グループ担当教員が昼休み（12：10～13：00）に対応。		

国家試験出題基準	I-1-C-b II-4-C-a [~] c VII-1-F-a [~] k VII-1-G-a [~] d VII-2-A-a [~] b VII-2-B [~] F VIII-1-C-d
履修条件・履修上の注意	
アクティブ・ラーニングの実施	アクティブ・ラーニングを実施する。
ナンバリング	SFr-102

講義科目名称： 地域社会学

授業コード： 1S074

英文科目名称： Community Sociology

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
丹下 弥生	馬場 清		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 地域リハビリテーションの社会的背景 第2回 リハビリテーションの各期で求められる言語聴覚士の役割① 医療制度の中での言語聴覚士 第3回 リハビリテーションの各期で求められる言語聴覚士の役割② 生活期の中での言語聴覚士、障害児・者の権利と医療倫理 第4回 レシテーション 演習問題、質疑応答 第5回 アクティブラーニング課題テーマ提示。 芸術と遊び創造協会について 第6回 小児領域(病児を含む)の「遊び・芸術」と地域 第7回 成人領域(認知症予防・フレイル予防を含む)の「遊び・芸術」と地域 第8回 アクティブラーニング課題発表・討論・総括	丹下 丹下 丹下 丹下 馬場・丹下 馬場・丹下 馬場・丹下 馬場・丹下
科目の目的	地域リハビリテーションの概念を理解し、超高齢社会の中で障害児・者、高齢者やその家族が地域で生き生きと生活していくための地域社会のあり方について学修する。また、地域におけるリハビリテーション職の役割、求められる力量、地域における連携の重要性を学び、自ら実践するための力を身につける 【基本的知識】 【リハビリテーションを取り巻く諸問題を認識できる能力】	
到達目標	地域リハビリテーションの社会的背景を理解し、地域包括ケアシステムについて概説できる 地域言語聴覚療法の概念と役割を理解できる 医療、福祉、介護、発達・教育関連の制度・システムを理解できる 地域リハビリテーションの実践例を通して、支援のプロセスや展開について理解できる	
関連科目	地域ボランティア活動論、ICFとリハビリテーション、リハビリテーション経済学、チーム医療とリハビリテーション、社会福祉制度・関連法規、地域リハビリテーション学、地域参加支援総論、地域参加支援演習I、地域参加支援演習II	
成績評価方法・基準	授業内筆記試験(40%)、聴講票やワーク課題(60%)。総合して60%以上のものに単位を与える	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前に配布する講義資料の該当部分を通読し、関連する部分は参考書を読んで強化する(各回15分程度)。各回の内容と演習を振り返り、理解できなかったところは聴講票の質問欄に記入して提出する(各回20分程度)	
教科書	教科書： 特に定めません(講義資料をAAAで配布)	
参考書	参考書： 「地域言語聴覚療法学」半田理恵子・藤田郁代編(医学書院) 「地域リハビリテーション原論Ver7」大田仁史著(医歯薬出版株式会社)	
オフィス・アワー	丹下：月～金の昼休み 616研究室 馬場：授業終了後30分非常勤講師控室	
国家試験出題基準	I-1—A、C、D VII—1—A～G	
履修条件・履修上の注意	講義資料はActive Academy Advanceで、当該授業前日から1週間配信します。各自PCにダウンロードして授業に持参してください。	
アクティブ・ラーニングの実施	PBL：支援のプロセスや展開について学んだあと、ゼミごとにグループワークを実施する AL：提示された課題について個人ワークを行い、その後全体で発表、討論を実施する	
ナンバリング	SFr-303	

講義科目名称： 社会福祉制度・関連法規

授業コード： 1S075

英文科目名称： Social Welfare System and Related Regulations

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
金谷 春代	魚屋 真佐江	坂井 勉	

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 社会福祉とは 自己紹介、授業目的、今後の授業の進め方、テキスト説明などオリエンテーション テキストP2からP12まで	金谷 春代
	第2回 社会福祉の歩み テキストP13からP28まで	金谷 春代
	第3回 社会保障制度と社会福祉を展開する組織 テキストP29からP44まで	金谷 春代
	第4回 子どもと家庭福祉 テキストP48からP69まで	坂井 勉
	第5回 障害者福祉 テキストP70からP87まで	魚屋 真佐江
	第6回 高齢者福祉 テキストP89からP102まで	魚屋 真佐江
	第7回 介護保険と介護保険制度 テキストP104からP120まで	魚屋 真佐江
	第8回 低所得者福祉 テキストP121からP134まで	坂井 勉
	第9回 地域福祉 テキストP135からP149まで	坂井 勉
	第10回 医療福祉・精神保健福祉 テキストP152からP177まで	魚屋 真佐江
	第11回 社会福祉施設の役割・社会福祉を担う人々 テキストP180からP199まで	坂井 勉
	第12回 相談援助の目的と方法 テキストP200からP208まで	坂井 勉
	第13回 社会福祉の実践事例 テキストP213からP220まで	魚屋 真佐江
	第14回 保健医療福祉に関する諸問題 テキストP222からP227まで	金谷 春代
	第15回 まとめ	金谷 春代
科目の目的	社会福祉的考え方の重要性、人を相手とする職業で必要な人権や権利擁護意識、在宅生活を支える地域包括ケアシステム制度や社会保障制度の理解、地域連携・多職種連携など「連携」の意義について学ぶ。 【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間性と倫理観】	
到達目標	1. 社会福祉全般について理解すること。 2. 人を支援するプロフェッショナルになる自覚を促す。	
関連科目	なし	
成績評価方法・基準	全講義終了後の筆記試験のみ（100%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前に次回講義部分を熟読しておくこと。 1コマ約1時間	
教科書	「コメディカルのための社会福祉概論第5版（講談社出版）」	
参考書	随時配付	
オフィス・アワー	講義終了後	
国家試験出題基準	VII-1-C-a [~] i VII-1-D-a [~] e VII-1-E-a [~] d VII-3-A-a [~] e	
履修条件・履修上の注意		

アクティブ・ラーニングの実施	実施なし
ナンバリング	SFr-103

講義科目名称： 言語聴覚障害学概論

授業コード： 1S076

英文科目名称： Introduction to Speech-Language-Hearing Disorders

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
白坂 康俊			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 コミュニケーションにおける言語という記号の役割と機能（スピーチチェーン）講義 グループ分け	白坂 康俊
	第2回 聴覚言語障がいとは 解説30分 テーマについてグループディスカッション (AS) 60分 AS:アクティブラーニング・ゼミ	白坂 康俊
	第3回 評価とは 解説30分 テーマについてグループディスカッション (AS) 60分 AD AS	白坂 康俊
	第4回 治療・機能訓練とは 解説30分 テーマについてグループディスカッション (AS) 60分 AS	白坂 康俊
	第5回 活動制限と支援 解説30分 テーマについてグループディスカッション (AS) 60分 AS	白坂 康俊
	第6回 参加制約と支援 解説30分 テーマについてグループディスカッション (AS) 60分 AS	白坂 康俊
	第7回 共生の社会とは 解説30分 テーマについてグループディスカッション (AS) 60分 AS	白坂 康俊
	第8回 聴覚障害 グループ発表 (AS)	白坂 康俊
	第9回 発達障害 グループ発表 (AS)	白坂 康俊
	第10回 失語症 グループ発表 (AS)	白坂 康俊
	第11回 高次脳機能障害 グループ発表 (AS)	白坂 康俊
	第12回 運動障害性構音障害 グループ発表 (AS)	白坂 康俊
	第13回 口蓋裂言語 グループ発表 (AS)	白坂 康俊
	第14回 吃音 グループ発表 (AS)	白坂 康俊
	第15回 音声障害 グループ発表 (AS)	白坂 康俊
科目の目的	言語聴覚障害は機能障がいとしてのコミュニケーションの問題だけでなく、日常行動の制限や社会参加の制約をもたらす。体験も通して、これらの困難、不自由さ、苦痛などを、知識ではなく感覚的なレベルで理解し、他者に発信する。 障がいのある方の評価と支援は、世界基準であるICF(国際生活機能分類)に基づいてなされることを理解し、それに基づいた言語聴覚障害の種類、特徴、治療・訓練法を学び、それぞれの障害の特徴に沿った生活ならびに地域や社会への参加の制約の実情を把握し、生活支援、社会参加支援を含めた言語聴覚士の役割を理解する。 アクティブラーニングでの学習、グループ学習の方法を習得することでチーム医療の基礎能力を身につける。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】	
到達目標	言語聴覚障がいのある方の困難、不自由さ、苦痛を感覚的に理解し、かつ他者に説明できる。 コミュニケーションにおける言語という記号の役割と機能（スピーチチェーン）を説明できる。 言語聴覚障がいに対する支援（機能回復、生活支援、社会参加支援等）について説明できる。 言語聴覚障がいの種類と種類毎の評価（ICF評価を含む）、支援について説明できる。 言語聴覚障がい学（資格制度を含む）の歴史と概要を説明できる。	
関連科目	言語聴覚障害学演習、ICFとリハビリテーション、地域リハビリテーション学	

成績評価方法・基準	聴講票20%、ALの内容、発表60%、レポート20%とする。いずれも60点/100点満点以上をとって合格とする。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	担当するテーマについての自己学習、グループ学習、発表のために毎回1時間程度の準備を要する。
教科書	教科書：言語聴覚士テキスト 第3版、医歯薬出版
参考書	無し
オフィス・アワー	研究室620 月曜午後～木曜昼までの間の昼休み
国家試験出題基準	VIII-1-A-a [~] c VIII-1-B-a [~] b VIII-1-C-a [~] e
履修条件・履修上の注意	AL=アクティブラーニング、AS=アクティブラーニング・ゼミ
アクティブ・ラーニングの実施	テーマを提示し、ゼミ単位で調査学習を行い、発表する。
ナンバリング	SSs-101

講義科目名称： 言語聴覚障害学演習

授業コード： 1S077

英文科目名称： Seminar in Speech-Language-Hearing Disorders

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
神山 政恵	白坂 康俊	斎藤 吉人	三浦 康子
	丹下 弥生	岡野 由実、遠藤 俊介	酒井 哲郎、及川 翔

授業形態	講義 (1)、演習 (7)	担当者
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 概論 (講義) 各障害の基礎知識について教員が講義し、障害に対する疑似体験の必要性を確認する。</p> <p>第2回 演習 グループワーク (グループ分け・テーマを決める、グループ内の役割、情報収集) AL+AS グループ分けを実施し、疑似体験への準備をする。</p> <p>第3回 演習 グループワーク (主に情報収集・教員への質疑応答) AL+AS 疑似体験の準備として、様々な情報収集を実施する。</p> <p>第4回 演習 グループワーク (疑似体験) AL+AS 疑似体験実施</p> <p>第5回 演習 グループワーク (疑似体験) AL+AS 疑似体験実施</p> <p>第6回 演習 グループワーク (疑似体験のまとめ) AL+AS 教員に質問があれば、質問する。</p> <p>第7回 演習 グループワーク (疑似体験のまとめ) AL+AS 教員に質問があれば、質問をする。各グループ内のまとめを行う。</p> <p>第8回 演習 グループワーク 発表会 グループワークの内容をまとめる。</p>	<p>神山</p> <p>神山・三浦・丹下・白坂・斎藤・岡野・遠藤・酒井・及川</p> <p>神山・三浦・丹下・白坂・斎藤・岡野・遠藤・酒井・及川</p> <p>神山・三浦・丹下・白坂・斎藤・岡野・遠藤・酒井・及川</p> <p>神山・三浦・丹下・白坂・斎藤・岡野・遠藤・酒井・及川</p> <p>神山・三浦・丹下・白坂・斎藤・遠藤・酒井・及川</p> <p>神山・三浦・丹下・白坂・斎藤・遠藤・酒井・及川</p> <p>神山・三浦・丹下・白坂・斎藤・遠藤・酒井・及川</p> <p>神山・三浦・丹下・白坂・斎藤・遠藤・酒井・及川</p>
科目の目的	<p>授業で学んだことが臨床現場で直ぐに生かせる訳ではない。臨床現場に出た場合に、学生の能力だけではなく、様々な現場による制約が生じるからである。そのためには、社会の中で対象者の苦慮や不自由さを疑似体験し、社会参加の困難さを十分理解すること、さらに対象者のニーズを把握することを学修する。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】</p>	
到達目標	<p>①肢体障害、視覚障害、聴覚障害、言語系の障害、発語障害、摂食・嚥下障害の各障害の概要を理解出来る。②各障害の疑似体験を実施する。③各障害の社会生活上の困難さについて説明することが出来る。④各障害を持つ対象者のニーズについて説明することが出来る。</p>	
関連科目	<p>言語聴覚障害学概論、言語聴覚障害診断学、言語聴覚障害臨床論、地域リハビリテーション学、地域参加支援総論</p>	
成績評価方法・基準	<p>グループ・ワークの貢献度 (50%)、毎回のレポート (50%) を基準として100点満点で評価し、総合で60%を合格ラインとする。</p>	

準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義内容、およびグループでの作業を理解し、積極的に疑似体験とグループ・ワークに参加すること。準備学習に必要な時間は30分程度である。
教科書	参考書：「言語聴覚士のための運動障害性構音障害」医歯薬出版
参考書	特に定めない。
オフィス・アワー	研究室622 月曜日午後 火曜～金曜日は担当授業のない時間 不在時はメール連絡
国家試験出題基準	VIII-1-B-a`b VIII-1-C-a`e
履修条件・履修上の注意	AL=アクティブ・ラーニング、AS=アクティブ・ラーニング・ゼミ 資料は1週間前にAAにて配信する。
アクティブ・ラーニングの実施	アクティブ・ラーニングを実施する。
ナンバリング	SSs-102
実務経験のある教員による授業	
実務経験	神山 政恵（言語聴覚士）、白坂 康俊（言語聴覚士）、齊藤 吉人（言語聴覚士）、三浦 康子（言語聴覚士）、丹下 弥生（言語聴覚士）、岡野 由実（言語聴覚士）、遠藤 俊介（言語聴覚士）、酒井 哲郎（言語聴覚士）、及川 翔（言語聴覚士）
授業の概要	肢体障害、視覚障害、聴覚障害、言語系障害、発語障害、摂食・嚥下障害の疑似体験を演習する。日常生活から地域・社会参加の困難を体験し、障害を持つ対象者の苦痛や不自由さについて話を聞き、自ら模擬体験することにより、障害を持つ対象者のニーズを深く理解する。

講義科目名称： 言語聴覚障害診断学

授業コード： 1S078

英文科目名称： Speech-Language-Hearing-Disorder Diagnosis

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
神山 政恵	神山政恵		

授業形態	講義 (8回)	演習 (7回)	担当者
授業計画	第1回	講義 オリエンテーションとモデルプレゼンテーション (失語症)	神山
	第2回	講義 モデルプレゼンテーションの方法と、内容、注意点、診断とICF 診断の流れ SV:白坂・三浦	神山
	第3回	講義 高次脳機能障害の診断の流れ sv:神山	神山
	第4回	講義 知的発達障害の診断の流れ1、 知的発達障害の診断の流れ2 sv:斎藤、遠藤	神山
	第5回	講義 聴覚障害の評価の流れ1 (小児) 聴覚障害の評価の流れ2 (成人) SV:岡野	神山
	第6回	講義 器質性・機能的構音障害の評価の流れ1、器質性・機能的構音障害の評価の流れ2 sv:三浦	神山
	第7回	講義 発声発語・嚥下障害の評価の流れ1、発声発語・嚥下障害の評価の流れ2 sv:丹下	神山
	第8回	講義 非流暢性発話障害の評価の流れ、講義まとめ SV:遠藤	神山
	第9回	グループワーク AS+AL	神山
	第10回	グループワーク AS+AL	神山
	第11回	グループワーク AS+AL	神山
	第12回	グループワーク AS+AL	神山
	第13回	グループワーク (学生によるプレゼンテーション) AS+AL	神山
	第14回	グループワーク (学生によるプレゼンテーション) AS+AL sv:斎藤、及川	神山
	第15回	講義・演習のまとめ、質疑応答	神山
科目の目的	コミュニケーション障害である言語聴覚障害の種類とその原因疾患、各障害の発現メカニズムを理解し、障害の特徴と診断方法を学修し、それらの障害の対象者のQOLの確保や復権に結びつくことを理解する。【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】		
到達目標	①聴覚障害、失語症、高次脳機能障害、器質性・機能的・運動障害性構音障害、音声障害、吃音、脳性麻痺を含む発達性障害の概要を説明できる。②各障害の検査法や診断法について学修する。③単に各障害の類型を記述できるだけでなく、言語処理過程の中での位置づけを正しく認識できる。④最終的には診断・評価はその対象者のQOL確保や復権に結びつくことを理解することが目標となる。		
関連科目	言語聴覚障害学概論、言語聴覚障害学演習、言語聴覚障害臨床論、地域リハビリテーション学、地域参加支援総論		
成績評価方法・基準	グループ・ワークの貢献度 (30%)、レポート：各講義のまとめ (30%)、筆記試験 (40%) で、総合点100点満点で評価し、60点以上を合格とする。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	グループワークの準備に必要な時間は40分程度である。グループワーク内では他者の意見を尊重し、自分からも発信することも大切である。		
教科書	特になし。		
参考書	「ICF国際生活機能分類改訂版」中央法規出版、標準言語聴覚療法「言語聴覚療法 評価・診断学」医学書院		
オフィス・アワー	研究室622 月曜日午後、火曜日～金曜日 担当授業のない時間 不在の時はメール連絡		
国家試験出題基準	VIII-2-A-a~c VIII-2-B-a~c		

履修条件・履修上の注意	AL=アクティブ・ラーニング、AS=アクティブ・ラーニング・ゼミ 資料は1週間前にAAにて配信する。
アクティブ・ラーニングの実施	アクティブ・ラーニングを実施する。
ナンバリング	SSs-103

講義科目名称： 言語聴覚障害臨床論

授業コード： 1S079

英文科目名称： Clinical Speech, Language, and Hearing Disorders

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
丹下 弥生			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 言語聴覚障害臨床におけるNothing about us without us	丹下
	第2回 言語聴覚障害臨床ーリハビリテーションの医療モデルと社会モデル	丹下
	第3回 事例検討（構音障害） グループワーク	丹下
	第4回 言語聴覚障害臨床ー急性期・回復期・生活期・終末期それぞれのリハビリテーション	丹下
	第5回 事例検討（失語症） グループワーク	丹下
	第6回 言語聴覚障害における障害の受容ー心理的課題の解決に必要なもの	丹下
	第7回 事例検討（摂食・嚥下障害） グループワーク	丹下
	第8回 事例検討（生活期の支援） グループワーク	丹下
	第9回 言語聴覚障害臨床におけるリスクマネジメント・接遇	丹下
	第10回 事例検討（高次脳機能障害・認知症） グループワーク	丹下
	第11回 臨床実習の振り返り	丹下
	第12回 言語聴覚障害臨床における倫理的課題 グループワーク	丹下
	第13回 課題レポート作成・発表準備	丹下
	第14回 ゲストスピーカーを迎えて 討議	丹下
	第15回 課題発表・まとめ	丹下
科目の目的	言語聴覚療法における臨床の実際について学ぶ。臨床の現場で想定される課題を知り、自らの問題としてどのように取り組んでいくか考えることを目的とする。 【基本的知識・技術】 【新たな課題を解決しようとする姿勢】 【倫理観】	
到達目標	各言語聴覚障害の基本的な理解がなされた上で、急性期、回復期、生活期、終末期に応じた適切な支援方法の選択ができることを目標とする。	
関連科目	失語・高次脳機能障害支援論、運動性発話障害支援論、摂食・嚥下障害支援論	
成績評価方法・基準	聴講票及びワークシート(60%)、期末レポート(40%)。 総合して60%以上のものに単位を与える	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前に配布する講義資料を通読し、グループワークの準備をする(各回30分程度) 各回の内容を振り返り参考書等にあたって関連部分を強化する。また理解できなかったところは聴講票の質問欄に記入して提出する	
教科書	教科書：特に定めません（講義資料をAAAで配布）	
参考書	参考書：森田秋子、黒羽真美 編集『在宅・施設リハビリテーションにおける言語聴覚士のための地域言語聴覚療法』（三輪書店）	
オフィス・アワー	月～金の昼休み、616研究室	
国家試験出題基準	Ⅱー6ーF	
履修条件・履修上の注意	講義資料はActive Academy Advanceで、当該授業前日から1週間配信します。 各自PCにダウンロードして授業に持参してください	
アクティブ・ラーニングの実施	PBL：臨床のプロセスや展開について学んだあと、ゼミごとにグループワークを実施。 AL：ペアワークやグループディスカッションを多く取り入れて進めます	
ナンバリング	SSs-401	

講義科目名称： 地域リハビリテーション学

授業コード： 1S080

英文科目名称： Community Based Rehabilitation

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
齊藤 吉人	齊藤 吉人		

授業形態	講義15回, AS6回, AT1回		担当者
授業計画	第1回	地域リハビリテーションとは 地域リハの定義、歴史、理念を理解する。	齊藤 吉人
	第2回	地域リハビリテーションとICF ICFの理念とそれに基づく地域リハビリテーションの在り方を理解する。	齊藤 吉人
	第3回	インクルージョンとは何か 社会統合のための思想インクルージョンはどのように生み出されたか、その歴史を理解する。	齊藤 吉人
	第4回	障害者権利条約と合理的配慮 21世紀では初の人権条約として障害者権利条約が2006年に第61回国連総会において採択された。日本政府は国内法の整備に時間を要し2014年ようやく批准が承認された。批准に至るまでの経緯とこの条約で義務づけられた合理的配慮の内容を理解する。	齊藤 吉人
	第5回	これからの日本社会 日本はこれから急速な人口減少社会へと向かっていく。そこで予測されている様々な課題について理解する。	齊藤 吉人
	第6回	地域包括ケアシステム 地域包括ケアシステムとは、要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで続けることができるように地域内で助け合う体制のことである。地域包括ケアシステムは、それぞれの地域の実情に合った医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される体制を目指している。群馬県における取組を知り、目指すべきケアシステムの方向性を理解する。	齊藤 吉人
	第7回	地域リハの現状とSTの役割 地域リハビリテーションに完成型はない。一人一人のこれからの問題として捉える必要がある。そこで、地域リハビリテーションの内容と動向を学ぶ。そして、高崎・群馬・北関東の実情を知り、これからの地域リハビリテーションの課題を考える。	齊藤 吉人
	第8回	地域リハ活動への参加 障がい児者を対象とした地域活動に参加する(AT)。	齊藤 吉人
	第9回	社会資源の活用 アクティブラーニングの結果の発表(AS)。地域参加、地域リハビリテーションにおいて活用可能な社会資源(フォーマル・インフォーマル)はなにか。(担当A班 SV:三浦)	齊藤 吉人 +AS
	第10回	群馬、高崎における地域参加の実情 アクティブラーニングの結果の発表(AS)。地域参加の実情を、実際の高崎、群馬の事例で考える。(担当B班 SV:丹下)	齊藤 吉人 +AS
	第11回	バリアフリーとユニバーサルデザイン アクティブラーニングの結果の発表(AS)。バリアフリーとユニバーサルデザインの理念、現状、課題を考える。(担当C班 SV:白坂)	齊藤 吉人 +AS
	第12回	小児の地域参加 アクティブラーニングの結果の発表(AS)。小児の障がい、発達障がいにおける社会参加の課題を考える。(担当D班 SV:齊藤)	齊藤 吉人 +AS
	第13回	就学支援 アクティブラーニングの結果の発表(AS)。地域参加の実際と課題を就学という視点から検討する。(担当E班 SV:岡野)	齊藤 吉人 +AS
	第14回	就労支援 アクティブラーニングの結果の発表(AS)。地域参加の実際と課題を就労という視点から検討する。(担当F班 SV:及川)	齊藤 吉人 +AS
	第15回	まとめ まとめとレポート課題解説	齊藤 吉人
科目の目的	言語聴覚障がい児者の地域参加を実現するためには、それぞれの機能障害へのアプローチと同時に、生活上の制限に対するアプローチや、障がい児者を取り巻く物理的・制度的バリアーや情報・こころのバリアーの解消に向けたアプローチも必要となる。実際の支援では地域資源(人・制度・環		

	境)の利用が重要な要素であり、実践を行いながら、地域資源の調査や実践的な連携も行っていく。担当教員全員で実施する。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】
到達目標	言語聴覚障がい児者の地域参加を実現するための生活上の制限に対するアプローチや、障がい児者を取り巻く物理的・制度的バリアーや情報・こころのバリアーの解消に向けた方法論を理解し説明できる。
関連科目	ICFとリハビリテーション, チーム医療とリハビリテーション, 言語聴覚障害学概論, 言語聴覚障害学演習, 言語聴覚障害診断学, 見学実習
成績評価方法・基準	ASへの貢献度(30%)、ATの参加報告書(10%)、レポート課題(60%)。100点満点換算全体で60%以上得た者に単位を与える。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前に配布する講義資料の該当部分およびテキストの該当部分を予習する(各回45分程度) 各回の内容を復習する(各回45分程度) アクティブラーニングでは与えられた課題を事前に準備する(1時間程度)
教科書	言語聴覚士テキスト第3版, 医歯薬出版, 2018.
参考書	なし
オフィス・アワー	月～金の昼休み
国家試験出題基準	I-1-A-b~f I-1-C-c I-1-H-a I-1-K-a VII-1-A-a~b VII-1-B-a VII-1-F-a~k VII-1-G-a~d VII-2-A-a~b VII-2-B~F VIII-1-C-e
履修条件・履修上の注意	AL=アクティブ・ラーニング AS=アクティブ・ラーニング・ゼミ AT=アクティブ・トレーニング 講義資料は講義の1週間前までにアクティブ・アカデミーにて配信する。講義当日はPCまたはタブレットで閲覧可能な状態で講義に臨むこと。
アクティブ・ラーニングの実施	ASとATを実施する。
ナンバリング	SSs-104

講義科目名称： 地域参加支援総論

授業コード： 1S081

英文科目名称： General Theory of Community Participation Support

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
三浦 康子			

授業形態	講義及外部講師による講演とゼミ単位でのアクティブラーニング		担当者
授業計画	第1回	地域参加支援総論概要	三浦
	第2回	ゲストスピーカー①（日本ICF協会代表理事長）	三浦
	第3回	GSの講義内容に対するグループワーク AS+AL	三浦
	第4回	ゲストスピーカー②（障害者雇用企業経営者）	三浦
	第5回	GSの講義内容に対するグループワーク AS+AL	三浦
	第6回	ゲストスピーカー③（仮：日本理学療法士協会 エスカレーターマナーアップ推進委員会委員長）	三浦
	第7回	GSの講義内容に対するグループワーク AS+AL	三浦
	第8回	ゲストスピーカー④（芸術とあそび創造協会員：アクティビティケア）	三浦
	第9回	GSの講義内容に対するグループワーク AS+AL	三浦
	第10回	ゲストスピーカー⑤（群馬県言語聴覚士会会長）	三浦
	第11回	GSの講義内容に対するグループワーク AS+AL	三浦
	第12回	困難をかかえた方々の地域参加、共生の街づくりへの取り組みを考える AS+AL	三浦
	第13回	グループワーク AS+AL	三浦
	第14回	テーマに対するゼミ毎の発表	三浦
	第15回	テーマに対するゼミ毎の発表	三浦
科目の目的	<p>労働は障がい者にとって重要な社会参加のひとつである。社会や一般企業の障害者雇用への取り組みを理解し雇用形態の多様化による可能性の拡がりや自立支援法などの活用について、ゲストスピーカーやアクティブラーニングゼミを通して学修する。また、統合教育の必要性に対する理解を深め、教育現場との連携、当事者及び教育関係者からも問題点や具体的対応法などを学ぶ。</p> <p>【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力と協調性】 【人間の個性と尊厳、倫理観】 【知的探求能力】</p>		
到達目標	<p>①具体的地域参加の実践例を知ることによってその重要性と現実を学ぶ。 ②障がいを抱えた方々（児）の社会参加について、限定された立場にとどまらず広い視野でかつ具体的な行動支援の方向性を考えることができる。</p>		
関連科目	地域参加支援演習Ⅰ、Ⅱ		
成績評価方法・基準	ASへの貢献度（50%）、発表内容等の評価（50%）、総合100%として、60%以上取得した者に単位を認定する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	前回のAS活動内容を把握し、必要に応じて地域参加演習Ⅰ、Ⅱの資料を見返し振り返りを行っておくこと。 準備学習に必要な時間は30分程度である。		
教科書	なし		
参考書	関連教科の各教科書、参考書		
オフィス・アワー	月～木、講義及び会議中以外。可能であれば事前にmailなどで確認を取って欲しい。		
国家試験出題基準	I-1 Aa ～f、VII-1 Aa, Df		
履修条件・履修上の注意	ゲストスピーカーを複数招聘しているため特に開始時間を厳守して欲しい。		
アクティブ・ラーニングの実施	AL及びASを実施する。		

ナンバリング

SSs-402

講義科目名称： 失語症学

授業コード： 1S082

英文科目名称： Aphasia

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
三浦 康子			

授業形態	講義と及び一部演習	担当者
授業計画	第1回 失語症・失語症者を知る DVD症例を通して、失語症者の生活に触れ失語症とは何か考える (AL+AS)	三浦
	第2回 失語症の神経学的基盤、失語症の原因疾患	三浦
	第3回 失語の言語症状1 (AL+AS) 日常生活における言語症状を理解する	三浦
	第4回 失語の言語症状2 (AL+AS) 失語の言語症状と周辺症状、随伴症状	三浦
	第5回 失語症候群 古典的分類①	三浦
	第6回 失語症候群 古典的分類②	三浦
	第7回 失語症候群 (AL+AS) 古典的分類以外の失語	三浦
	第8回 失語症の評価と診断1 (AL+AS) 評価の考え方と流れを概観し、失語症検査及び掘り下げ検査等に触れる。	三浦
	第9回 失語症の評価と診断2 (AL+AS) 関連領域の評価、鑑別診断を考える。失語におけるICFによる評価についても理解する。	三浦
	第10回 失語症の訓練と支援1 機能的訓練の考え方と技法	三浦
	第11回 失語症の訓練と支援2 (AL+AS) 機能的訓練の実際と失語症者の生活・参加場面での支援を考える (AL+AS)	三浦
	第12回 失語症の訓練と支援3 (AL+AS) ICFの観点からの失語症者の訓練、支援	三浦
	第13回 失語症者を知る：失語症者の支援・活動 (AL+AS) 失語症者とのコミュニケーション演習	三浦
	第14回 失語症者への支援：地域参加・社会参加・人権擁護 (AL+AS) ゲストスピーカー（失語症者）	三浦
	第15回 失語の予後と地域・社会的支援 (AL+AS) 失語症の回復と環境調整、失語症者への社会、地域支援	三浦
科目の目的	失語症者や家族が直面する困難に対して、言語・コミュニケーションの観点から包括的にアプローチし、問題解決に向けた支援の方法を考えることができる。そのための失語に関する基礎的事項を学ぶ。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】	
到達目標	1. 失語症の定義を理解し他の障害と鑑別することができる。 2. 失語症の言語症状を理解し説明することができる。 3. 失語症の評価方法とリハビリテーションについて概略を理解することができる。 4. ICFの観点から失語症者の問題を捉え、機能的側面だけでなく生活面でのコミュニケーション支援、社会参加や環境調整の方法を考えることができる。	
関連科目	ICFとリハビリテーション、言語学、高次脳機能障害学、局所解剖学、脳神経外科学、神経内科学、リハビリテーション医学、言語系障害演習、失語・高次脳機能障害評価法、失語・高次脳機能障害支援論、AACと教材学	
成績評価方法・基準	授業のレポート提出と内容評価で20点、筆記試験80点、全体を100点満点とし、60点以上を合格とする。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	配布する講義資料及びテキストの該当部分を予習、復習することが望ましい。後期の高次脳機能障害学、また3年、4年次の関連領域の学修や臨床実習にあたっては、基礎となる科目なのでしっかり理解をして欲しい。準備学習に必要な時間は30分程度である。	
教科書	①藤田郁代、立石雅子、菅野倫子編『標準言語聴覚障害学 失語症学第3版』医学書院 ②医療情報科学研究所編『病気がみえるvol.7 脳・神経』メディックメディア	
参考書	①紺野加奈江著『失語症言語治療の基礎』診断と治療社 ②小島和幸編『失語症の評価と治療』金原出版株式会社	
オフィス・アワー	月～木曜日 但し、講義、会議時を除く。(事前確認要)	
国家試験出題基準	IX1-A～E、2-A～K、3-A、Bb、4-A、Ba～g	

履修条件・履修上の注意	資料はAAAにて配信または講義時に配布する。
アクティブ・ラーニングの実施	講義内容に対応させたAS単位でのグループワーク、ディスカッション、発表等によるアクティブラーニングを行う。
ナンバリング	SSt-201

講義科目名称： 高次脳機能障害学

授業コード： 1S083

英文科目名称： Higher Brain Dysfunction

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
神山 政恵	神山政恵		

授業形態	講義（10回）＋演習（5回）		担当者
授業計画	第1回	高次脳機能障害とは AL＋AS	神山政恵
	第2回	中枢神経系の構造・機能1 AL＋AS	神山政恵
	第3回	中枢神経系の構造・機能2 AL＋AS	神山政恵
	第4回	意識障害(評価と訓練を含む) AL＋AS	神山政恵
	第5回	注意障害(評価と訓練含む) AL＋AS	神山政恵
	第6回	記憶障害(評価と訓練含む) AL＋AS	神山政恵
	第7回	視空間認知障害(評価と訓練含む) AL＋AS	神山政恵
	第8回	失認(評価と訓練含む) AL＋AS	神山政恵
	第9回	認知症1(評価と訓練含む) AL＋AS	神山政恵
	第10回	認知症2(評価と訓練含む) AL＋AS	神山政恵
	第11回	行為・動作の障害(評価と訓練含む) AL＋AS	神山政恵
	第12回	前頭葉障害と脳離断症状(評価と訓練含む) AL＋AS	神山政恵
	第13回	高次脳機能障害のICFに沿った評価と支援1 AL＋AS	神山政恵
	第14回	高次脳機能障害のゲストスピーカーの講演 AL＋AS	神山政恵
	第15回	高次脳機能障害のICFに沿った評価と支援2、まとめと質疑応答 AL＋AS	神山政恵
科目の目的	神経心理学と神経学的視点から高次脳機能障害のメカニズムを学び、さらにICFに基づいた、診断・評価、リハビリテーション・支援の実際を学ぶことを目的とする。【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】		
到達目標	1. 脳の機能には複雑な認知機能、随意性や制御を司る機能があることを理解する。 2. 1の概念を知るためには脳の構造と心の動きがあることを理解する。 3. 大脳の損傷により生じる高次脳機能障害の神経心理学的背景や症候を理解し、そのリハビリテーションを学ぶ。		
関連科目	神経内科学、脳神経外科学、局所解剖学、失語症学、失語・高次脳機能障害評価法、失語・高次脳機能障害支援論、AACと教材学、リハビリテーション医学、ICFとリハビリテーション、地域社会学、地域参加支援総論		
成績評価方法・基準	毎回の聴講票の提出20%。演習時のグループワークの貢献度20%、定期試験を60%とし、それらの総合点で60%以上を合格とする。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	グループワークの準備に必要な時間は30分程度である。		
教科書	標準言語聴覚障害学「高次脳機能障害学」第3版、医学書院		
参考書	「病気がみえる」vol.7脳・神経、メディックメディア		
オフィス・アワー	研究室622 月曜日午後 水曜日～金曜日担当授業のない時間 不在時はメール連絡。		
国家試験出題基準	X1～X3		
履修条件・履修上の注意	AL=アクティブ・ラーニング AS=アクティブ・ラーニング・ゼミ 資料はAAにて1週間前に配信する。		
アクティブ・ラー	演習時はアクティブ・ラーニングとアクティブ・ラーニング・ゼミを実施する。		

ニングの実施	
ナンバリング	SSt-202

講義科目名称： 失語・高次脳機能障害評価法

授業コード： 1S084

英文科目名称： Aphasia and Higher Brain Dysfunction Asses...

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
神山 政恵	神山政恵		

授業形態	講義 (5)	演習 (10)	担当者
授業計画	第1回	講義 失語症の総合的検査の概要	神山政恵
	第2回	演習 失語症の総合的検査1 (標準失語症検査の「聴く」1回目 内容把握と演習) AL	神山政恵
	第3回	演習 失語症の総合的検査2 (標準失語症検査の「聴く」2回目 内容把握と演習) AL	神山政恵
	第4回	演習 失語症の総合的検査3 (標準失語症検査の「話す」1回目 内容把握と演習) AL	神山政恵
	第5回	演習 失語症の総合的検査4 (標準失語症検査の「話す」2回目 内容把握と演習) AL	神山政恵
	第6回	演習 失語症の総合的検査5 (標準失語症検査の「読む」) 内容把握と演習) AL	神山政恵
	第7回	演習 失語症の総合的検査6 (標準失語症検査の「書く」1回目 内容把握と演習) AL	神山政恵
	第8回	演習 失語症の総合的検査7 (標準失語症検査の「書く」2回目 内容把握と演習) AL	神山政恵
	第9回	演習 失語症の掘下げ検査の概要説明	神山政恵
	第10回	演習 失語症の掘下げ検査 (トークンテスト、モーラ分解テストなど演習) AL	神山政恵
	第11回	演習 失語症と他の高次脳機能障害の掘下げ検査の概要説明と演習 (コース立方体組み合わせテストなど) AL	神山政恵
	第12回	講義 失語症と他の高次脳機能障害の検査結果の解釈方法	神山政恵
	第13回	講義 検査のまとめ：報告書の書き方 1回目 AL	神山政恵
	第14回	講義 検査のまとめ：報告書の書き方 2回目 (実際に記述してみる) AL	神山政恵
	第15回	講義 失語症・高次脳機能障害の評価方法のまとめ	神山政恵
科目の目的	失語症や高次脳機能障害の障害像を把握する評価法を学び、その手技を習得する。機能低下のみならず、活動制限や社会参加の制約、及び障害受容やQOLについての評価法も含む。評価法の原理を学ぶことにより、障害を持つ対象者の固有の症状を把握する能力を養成することも目指し、失語症や高次脳機能障害の評価に必要な、基礎的な観察力を身に付けるため、聴覚的理解力、読解力、発話能力、書字の各言語症状の観察の視点を学ぶ。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】		
到達目標	失語症の総合的検査の概要・構成を理解し、検査の実施方法と採点方法を学ぶことにより、失語症症状を的確に把握する。さらに、失語症の総合的検査と他の掘下げ検査の特性を学び、適切に用いる方法を学修する。さらに失語症に合併する様々な高次脳検査も評価に含み、検査実施後に報告書を作成し、訓練目的や訓練計画まで導き出すことができるようにする。		
関連科目	神経内科学、脳神経外科学、局所解剖学、リハビリテーション医学、言語聴覚障害評価法、失語症学、高次脳機能障害学、失語・高次脳機能障害支援論		
成績評価方法・基準	毎回の聴講票の提出20%、演習の実施態度20%、定期試験60%として、それらの総合点で60%以上を合格とする。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	演習の準備に必要な時間は30分程度である。		
教科書	「標準失語症検査マニュアル改訂第2版」 新興医学出版社		
参考書	標準言語聴覚障害学「失語症学」第3版 医学書院 標準言語聴覚障害学「高次脳機能障害」第3版 医学書院		
オフィス・アワー	研究室622 月曜日午後 水曜日～金曜日 担当授業がない時間 不在の時はメール連絡		
国家試験出題基準	IV～V		

履修条件・履修上の注意	教科書は必ず持参する事。ストップウォッチも必要。その他必要なものはAAにて1週間前に配信する。
アクティブ・ラーニングの実施	AL:アクティブ・ラーニングで検査の練習を実施する。
ナンバリング	SSt-301

講義科目名称： 失語・高次脳機能障害支援論

授業コード： 1S085

英文科目名称： Aphasia and Higher Brain Dysfunction Supp...

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
丹下 弥生			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 コミュニケーションとは 講義+演習問題</p> <p>第2回 失語症の復習 失語症学、失語・高次脳機能障害評価法で学んだ内容を復習し、言語聴覚士の失語症者に対する支援のあり方について理解する</p> <p>第3回 失語症コミュニケーション支援技法（基本姿勢、理解面を補うスキル） 講義+演習</p> <p>第4回 失語症コミュニケーション支援技法（表出面を補うスキル） 講義+演習</p> <p>第5回 コミュニケーション支援技法（確認のスキル） 講義+演習</p> <p>第6回 コミュニケーション支援技法（話の要点を書き示すスキル） 講義+演習</p> <p>第7回 コミュニケーション支援技法を使った会話演習</p> <p>第8回 高次脳機能障害の復習 高次脳機能障害学、失語・高次脳機能障害評価法で学んだ内容を復習し、言語聴覚士が高次脳機能障害者のコミュニケーションを支援することの必要性を理解する</p> <p>第9回 高次脳機能障害者への対応法①</p> <p>第10回 高次脳機能障害者への対応法②</p> <p>第11回 レシテーション 演習問題、質疑応答</p> <p>第12回 認知症について（認知症とは何か、認知症者や家族が抱える不安、認知症者の行動、BPSDを回避する環境調整）</p> <p>第13回 認知症者のコミュニケーション支援①</p> <p>第14回 認知症者のコミュニケーション支援②</p> <p>第15回 失語症、高次脳機能障害、認知症の方々とその家族が住み良い街づくり 生活上の制限や社会参加の制約について検討し、今私達に出来ること、地域参加支援の方法、課題を考える</p>	<p>丹下</p>
科目の目的	<p>失語症、高次脳機能障害、認知症の方々の地域参加を支援するために、その特性である、目には見えない障害の理解の難しさ、当事者が支援してほしいことを自ら表出する難しさ、不安を理解する。その上で、失語・高次脳機能障害者等の活動の制限や参加の制約を検討し、地域参加支援のあり方について学修する</p> <p>【基本的知識と技術】 【人間力と倫理観】 【コミュニケーション能力】</p>	
到達目標	<p>1. 失語症、高次脳機能障害、認知症の障害特性について理解する</p> <p>2. 失語・高次脳機能障害者およびその家族が抱える困難を理解し、配慮と適切なスキルを持って対応できる</p> <p>3. ICFの観点から、失語・高次脳機能障害者の状態を捉え、生活面でのコミュニケーション支援、社会参加や環境調整の方法を考えることができる</p>	
関連科目	失語症学、高次脳機能障害学、失語・高次脳機能障害評価法、言語系障害演習	
成績評価方法・基準	グループワーク課題(50%)、聴講票(50%)。総合して60%以上のものに単位を与える	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前に配布する講義資料の該当部分を通読し、関連する部分は参考書を読んで強化する(各回30分)。各回の内容と演習を振り返り、理解できなかったところは聴講票の質問欄に記入して提出する(各回30分)	
教科書	教科書：特に定めません(講義資料をAAAで配布)	
参考書	参考書：「改訂失語症の人と話そう」和音編(中央法規) 「高次脳機能障害」橋本圭司著(PHP新書)	

	「マンガ認知症」ニコ・ニコルソン・佐藤眞一著（ちくま新書）
オフィス・アワー	月～金の昼休み
国家試験出題基準	II-6-F IX-2-A~H IX-4-D X-3-A~C
履修条件・履修上の注意	講義資料はActive Academy Advanceで、当該授業前日から1週間配信します。各自PCにダウンロードして授業に持参してください。
アクティブ・ラーニングの実施	第1回、7回、10回、11回：PBL その他の回：ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション、ロールプレイ等を多く取り入れて進めます。
ナンバリング	SSt-302

国家試験出題基準	XI-1-A～D XI-2-A～D XI-3-A～D
履修条件・履修上の注意	毎回の授業の最後に授業の「まとめ」を作成する。1回の「まとめ」の提出に対し1点が与えられる。ただし、正答が60%を超えない場合、「まとめ」とは認めない。毎回の授業終了後、講義資料と「標準的まとめ」をActive Academyにて配信する。定期試験は「標準的まとめ」から出題される。
アクティブ・ラーニングの実施	コミュニケーション体験実習で実施
ナンバリング	SSu-201

アクティブ・ラーニングの実施	ALとして演習を実施する。
ナンバリング	SSu-301

講義科目名称： 言語発達障害支援論

授業コード： 1S088

英文科目名称： Support Methods for Language Development Disorders 対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
齊藤 吉人	遠藤 俊介		

授業形態	講義＋AS：共同形式で実施する。		担当者
授業計画	第1回	発達段階に即した支援 前言語期、単語獲得期	齊藤吉人・ 遠藤俊介
	第2回	発達段階に即した支援 前期構文獲得期	齊藤吉人・ 遠藤俊介
	第3回	発達段階に即した支援 中期構文獲得期	齊藤吉人・ 遠藤俊介
	第4回	発達段階に即した支援 読み書き、学習言語の獲得期	齊藤吉人・ 遠藤俊介
	第5回	障害特性に応じた支援 聴覚障害、自閉症スペクトラム	遠藤俊介・ 齊藤吉人
	第6回	障害特性に応じた支援 知的障害、特異的言語発達障害	遠藤俊介・ 齊藤吉人
	第7回	障害特性に応じた支援 学習障害、ADHD	遠藤俊介・ 齊藤吉人
	第8回	障害特性に応じた支援 脳性まひ・重複障害	遠藤俊介・ 齊藤吉人
	第9回	北関東の療育システムの実際 AS	齊藤吉人・ 遠藤俊介
	第10回	北関東の療育システムの実際 AS	齊藤吉人・ 遠藤俊介
	第11回	北関東の療育システムの実際 AS	齊藤吉人・ 遠藤俊介
	第12回	北関東の療育システムの実際 AS	齊藤吉人・ 遠藤俊介
	第13回	北関東の療育システムの実際 AS	齊藤吉人・ 遠藤俊介
	第14回	北関東の療育システムの実際：発表 AS	齊藤吉人・ 遠藤俊介
	第15回	北関東の療育システムの実際：発表 AS	齊藤吉人・ 遠藤俊介
科目の目的	言語発達障害児1人ひとりの状況とニーズにあった支援方法について学ぶ。 言語発達障害児の指導には発達段階に即した指導と障害特性に応じた指導方法があり、さまざまな指導技法も提唱されている。まず発達段階に即した指導法と代表的な指導・支援方法(語用論的アプローチ、拡大・代替コミュニケーション、TEACCHなど)について、理論的背景とその実際について学び支援の方法を習得する。子ども1人ひとりの状況とニーズを知り、その子に合った支援を行えるよう、各ライフステージにおける支援の方法についても考慮する。また、北関東の療育システムの実際と課題を知るために、学生がグループ単位で現況調査を行い、まとめる演習を実施する。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各種支援方法を概説できる。 言語発達障害児・家族に対する支援や各関連機関との連携を説明できる。 発達段階と障がい特性に応じた指導・訓練を選択できる。 症例を通して、具体的な指導・訓練を立案できる。 		
関連科目	言語発達学、言語発達障害学、言語発達障害評価法、小児系演習		
成績評価方法・基準	成績評価＝ゼミ活動への貢献度(30%)+定期試験成績(70%)。100点満点に換算して60点以上を合格とし単位を与える。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	あらかじめ授業計画に示されている講義内容該当部分を教科書で確認しておく(毎回45分程度)。		
教科書	深浦順一等編：言語発達障害学, 第3版, 医学書院, 2021		
参考書	大森孝一等編：言語聴覚士テキスト, 第3版, 医歯薬出版, 2018 山田弘幸編著：言語聴覚士のための心理学, 第2版, 医歯薬出版, 2020		
オフィス・アワー	月～金の昼休み		
国家試験出題基準	XI-3-A～D		

履修条件・履修上の注意	AL=アクティブ・ラーニング AS=アクティブ・ラーニング・ゼミ 講義資料は講義の1週間前までにアクティブ・アカデミーにて配信する。講義当日はPCまたはタブレットで閲覧可能な状態で講義に臨むこと。
アクティブ・ラーニングの実施	AL及びASを実施する。
ナンバリング	SSu-302

講義科目名称： 病理音声学

授業コード： 1S089

英文科目名称： Pathological Phonetics

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
白坂 康俊			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第一回 発声発語・摂食・嚥下器官形態（正中断面）、機能、神経支配、音声記号</p> <p>第2回 中枢神経系、抹消神経系の機能。機能性、器質性、運動障害性障がいそれぞれの違い</p> <p>第3回 運動障がいのタイプ別の様態</p> <p>第4回 器質性構障がい(舌癌術後、口蓋裂)と機能性構音障がいの様態</p> <p>第5回 母音子音の構音異常の発現メカニズム</p> <p>第6回 鼻咽腔閉鎖不全の構音異常の発現メカニズム</p> <p>第7回 母音子音の構音異常の発現メカニズム</p> <p>第8回 プロソディの異常の発現メカニズム</p> <p>第9回 摂食・嚥下障がいの様態</p> <p>第10回 構音の障がいと摂食・嚥下障がいの関連性</p> <p>第11回 発声発語器官を用いる発語と摂食以外の動作</p> <p>第12回 発声発語器官の障がいをもたらすアクティビティへの影響</p> <p>第13回 発声発語器官の障がいをもたらす社会参加への影響</p> <p>第14回 定型的評価と非定型的評価</p> <p>第15回 評価から支援へ</p>	<p>白坂康俊</p>
科目の目的	<p>運動系の言語聴覚障害を理解する。運動系の障害の共通の発生メカニズムにそって障害類型の分類を理解する。そして、各障害類型における運動性、器質性、機能性の視点からの評価とその特徴にそって治療訓練を行われることを理解する。【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】</p>	
到達目標	<p>発声発語器官の機能が理解でき、それぞれの機能低下によって、どんな症状が起こるか説明できる。症状を与えられた時に、その発現機序がある程度推定できる。機能訓練のプログラムとの関連性を説明できる。</p>	
関連科目	<p>病理音声学。言語学。発声発語・嚥下障害評価法。器質性・機能性発話障害支援論。運動性発話障害支援論。非流暢性発話支援論。摂食・嚥下障害支援論。</p>	
成績評価方法・基準	<p>授業の小レポート（20%）、ALの参加状況とプレゼン内容（20%）、筆記試験（60%）。小レポート、AL、筆記試験（各100点満点）の総合点（重み付けは、上記の比率とする）で評価するが、いずれか一つでも60点未満の場合は、不合格。また、小レポートの未提出（欠席時は除く）があれば、不合格とする。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>予習ならびに、復習としての授業の小レポートそれぞれに30分を要する。</p>	
教科書	<p>テキスト 廣瀬肇他「言語聴覚士のための運動障害性構音障害学」 医歯薬出版 2001年 参考書・参考資料等 授業時に配布する</p>	
参考書	<p>無し</p>	
オフィス・アワー	<p>火曜日12:10分～13:00</p>	
国家試験出題基準	<p>XII 1 ABCE, 2A, 3B, 4A</p>	

履修条件・履修上の注意	
アクティブ・ラーニングの実施	一部、テーマを提示してゼミ単位でディスカッション後、発表する。
ナンバリング	SSv-201

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
三浦 康子	三浦康子	清水充子	

授業形態	講義＋簡易演習 理解を深めるために簡易演習を行いながら、画像・動画などを提供しより具体的に展開する。		担当者
授業計画	第1回	摂食嚥下障がいとは？人にとって食べることの意義。摂食嚥下障がい評価の概要 摂食嚥下障がいをもたらす問題や苦痛。摂食嚥下リハの位置づけ	清水
	第2回	基礎評価の意義とリハ適応、スクリーニングテスト、誤嚥兆候の診方（AL＋AS） 嚥下機能のメカニズムを理解し基礎評価の重要性を学ぶ。	清水
	第3回	問診・情報収集、嚥下器官の機能評価、（AL＋AS） 基本的な摂食嚥下評価の流れを学ぶ。嚥下器官の機能評価では、視診、触診（喉頭 挙上、舌骨の可動性）などについて演習を行う。	清水
	第4回	水飲みテスト・フードテストの解説と演習、咀嚼評価（AL＋AS） 学生同志実際に行うことで手技を確認し、患者役になることでハンドリングや指示 の出し方などの重要性を知る。	清水
	第5回	頸部聴診法（AL＋AS） 呼吸と嚥下のメカニズムを学んだ上で頸部聴診法の手順を理解し演習をおこなう。	清水
	第6回	食事場面の観察・食形態の評価、ICF評価から生活支援、地域参加へ（AL＋AS） 自験例動画を提示し、食事場面評価のポイント・周辺症状について解説する。症例 を通して摂食嚥下障がいにおけるICF評価演習を行う。	清水
	第7回	VF・VE検査（AL＋AS） 評価の実際とVF画像読影のコツを解説する。VF画像解剖図記入ワークおよび解説。	清水
	第8回	発声発語障がいの評価 ①臨床の流れと評価の概要（AL＋AS） 情報の収集、インテークについては、ASごとにディスカッション、発表し、全体で 共有することで理解深める。	三浦
	第9回	②構音の評価 構音検査（AL＋AS） 新版構音検査を中心に内容と実施方法を解説。構音検査実施例を提供し、音声記号 による記述の演習を行う。	三浦
	第10回	③発声発語・摂食嚥下器官検査（1）（AL＋AS） 発声発語器官検査の概要と各器官における評価の方法、解釈を学ぶ。検査機器・用 具、リスク管理など臨床に即した解説を行い演習を展開する。	三浦
	第11回	④発声発語・摂食嚥下器官検査（2）（AL＋AS） 各器官における評価と反射の診方、意義解釈を演習を通して学ぶ	三浦
	第12回	⑤発話特徴の評価（AL＋AS） 運動障害と言語症状の関連を理解する。サンプルテープ聴取による演習を通してそ の発話特徴を学ぶ。	三浦
	第13回	⑥音声障害と評価概要（AS） 音声障がいを概観する（無喉頭・気管切開含む）。GRBAS尺度サンプルテープによる ドリル演習を行う。	三浦
	第14回	⑦評価から診断へ。訓練・支援の展開（AS） 他の障害との鑑別を学ぶ。言語障害においては、機能的評価とともに生活、地域、 社会との関わりを考慮したICF評価が重要となることを理解する。包括的な視点での 訓練、支援の必要性を学ぶ。	三浦
	第15回	⑧総合的評価演習（AL） 提供資料・動画を通して実際に評価用紙に記載し、総合的な視点での評価演習を行 う	三浦
科目の目的	演習を交え運動系障がいの評価を実践レベルで理解する。発声発語と摂食・嚥下は、ほぼ同じ器 官を用いながら、動きや機能が異なる。その差異を理解し、共通の評価と異なる評価を学ぶ。これ によって、機能面へのアプローチも、共通のもの、個別のものが区別でき適切な訓練、支援方法 を選択実施できる。また、機能面の評価だけでなく、活動、参加レベルといった視点での評価につ いても同様に学ぶ。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力 と倫理観】		
到達目標	発声発語障がいならびに摂食・嚥下障がいの検査を理解し、正しく実施できる。 検査結果から問題点を抽出し、基本的な目標と支援プログラムを策定できる。 機能訓練にとどまらず包括的アプローチの重要性を理解する。		

関連科目	局所解剖学、音声学、病理音声学、器質性・機能的発話障害支援論、摂食嚥下障害支援論、運動性発話障害支援論、運動系障害演習
成績評価方法・基準	毎回のレポート等と評価で20%、定期試験80%、全体を100点満点とし60点で合格とする。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	局所解剖学、耳鼻咽喉科学、音声学、病理音声学が基礎となるので、講義前に復習しておくことが望ましい。特に、音声学・病理音声学で学んだ音声表記については、自在に記述できるようにしておくこと。準備学習に必要な時間は30分程度である。
教科書	①廣瀬肇, 柴田貞雄, 白坂康俊著『言語聴覚士のための運動障害性構音障害学』医歯薬出版 ②清水充子編著『言語聴覚療法シリーズ15 改訂 摂食・嚥下障害』建帛社
参考書	①日本音声言語医学会編 『新編 声の検査法』医歯薬出版 ②廣瀬肇監修『STのための音声障害診断マニュアル』インテルナ出版 ③西尾正輝 著『ディサースリア臨床標準テキスト』医歯薬出版株式会社
オフィス・アワー	三浦：月～木曜日 講義中、会議中を除く。可能であればmail等で事前確認の上訪ねて欲しい。 質問に対する回答は、講義中あるいはAAAで全体に回覧する。 清水：質問、疑問点については講義中かAAAで回覧する。
国家試験出題基準	XII1-Ca～d XII2-Ba～d, Ea～e XII3-Aa～c, Ba～d, Ca～g
履修条件・履修上の注意	資料はAAAでの配信と講義時に配布する。 演習を行いながら展開することが多いので、事前に指示した用具は準備しておくこと。
アクティブ・ラーニングの実施	評価法の簡易演習及び講義中の項目に対するゼミ毎のディスカッションを通してアクティブラーニングを実施する。
ナンバリング	SSv-202

講義科目名称： 器質性・機能的発話障害支援論

授業コード： 1S091

英文科目名称： Support Methods for Organic and Functional Spe...

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
齊藤 吉人	白坂 康俊	遠藤 俊介	酒井 哲郎
	清水 崇寛		

授業形態	講義(13回)+演習(2回) オムニバス形式で実施する。		担当者
授業計画	第1回	構音の記録法 演習(発声発語器官の正中矢状断・構音点と構音方法・50単語音声標記)	齊藤吉人
	第2回	構音の記録法 演習(構音点と構音方法・50単語・文章音声表記)	齊藤吉人
	第3回	構音障がい 講義(構音障がいとは何か)	齊藤吉人
	第4回	未熟構音 講義(発達途上の構音の誤り)	齊藤吉人
	第5回	小児の機能的・器質性構音障がい 講義	齊藤吉人
	第6回	小児の機能的・器質性構音障がい 講義	齊藤吉人
	第7回	口唇口蓋裂 講義	遠藤俊介
	第8回	口唇口蓋裂 講義	遠藤俊介
	第9回	訓練の実際 講義	齊藤吉人
	第10回	訓練の実際 講義	齊藤吉人
	第11回	舌癌術後の構音障害 講義	白坂康俊
	第12回	舌癌術後の機能訓練 講義	酒井哲郎
	第13回	舌癌術後の機能訓練 講義	酒井哲郎
	第14回	舌癌術後の生活支援 講義	白坂康俊
	第15回	舌癌の手術、補綴 講義	清水崇寛
科目の目的	系統的構音訓練の原理、臨床における配慮事項、訓練プログラムの立案について焦点を当てて講義および演習を行う。 【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間性と倫理観】		
到達目標	器質性・機能的発話障害の定義、発生機序、種類、特徴および評価・治療体系を理解することができる。		
関連科目	病理音声学・発声発語・嚥下障害評価法・運動性発話障害支援論・非流暢性発話支援論		
成績評価方法・基準	小テスト(40%) および期末テスト(60%)により評価する。100点満点換算で60点以上を合格とし単位を認定する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	あらかじめ授業計画に示されている講義内容該当部分を教科書で確認しておく(毎回45分程度)。		
教科書	1. 本間 慎治編著:改訂機能的構音障害(言語聴覚療法シリーズ7),建帛社,2010出版 2. 齊藤裕恵編著:器質性構音障害(言語聴覚療法シリーズ8),建帛社,2008出版 3. 白坂康俊・熊田政信著:言語聴覚士のための機能的構音障害学,医歯薬出版,2012出版		
参考書	なし		
オフィス・アワー	齊藤吉人 月～金の昼休み 白坂康俊 火～水の昼休み 遠藤俊介 月～金の昼休み 酒井哲郎 月～金の昼休み 清水崇寛 講義日の昼休み		
国家試験出題基準	XII2A～D		
履修条件・履修上の注意	AL=アクティブ・ラーニング AS=アクティブ・ラーニング・ゼミ 講義資料は講義の1週間前までにアクティブ・アカデミーにて配信する。講義当日はPCまたはタブレットで閲覧可能な状態で講義に臨むこと。		
アクティブ・ラーニングの実施	ALとして個別の演習(発声発語器官の正中矢状断・構音点と構音方法・50単語音声表記など)を行う。		

ナンバリング

SSv-301

講義科目名称： 運動性発話障害支援論

授業コード： 1S092

英文科目名称： Support Methods for Motor Speech Disorders

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
酒井 哲郎			

授業形態	講義 座学に加えて、ゼミ単位でのテーマにそったディスカッションと発表などを併用する	担当者
授業計画	<p>第1回 構音障害の支援の概要 アクティブラーニング課題の提示 講義の目的とカリキュラムの概要の説明 運動障害性構音障害の概要と分類の復習. 訓練, 支援の概要の説明. アクティブラーニングの課題の提示を行う</p> <p>第2回 タイプ別訓練法の理論 弛緩性と痙性 弛緩性や痙性, およびUUMNのタイプ別訓練法の概要および理論の説明. 痙性に関しては重複しやすい仮性球麻痺についての説明も行う</p> <p>第3回 タイプ別訓練法の理論 その他の障がい 失調性および運動低下性, 運動過多性, 混合性のタイプ別訓練法の概要および理論の説明を行う</p> <p>第4回 進行性疾患、代償手段、AAC (これらの適応と機能訓練) 進行性疾患についての説明, およびAACの復習 AACの活用として透明文字盤の作成を行う</p> <p>第5回 プロソディの訓練 プロソディの評価および訓練の概要および理論についての説明を行う</p> <p>第6回 構音障害患者の心理的問題とその支援, 地域参加とアクティビティケア 障害受容および家族指導について 地域参加とアクティビティケアについての講義を行う</p> <p>第7回 運動障害性構音障害の評価① ディアドコネシスや舌圧測定など, AMSD以外の評価の説明を行う</p> <p>第8回 運動障害性構音障害の評価② 標準ディサースリア検査 (AMSD) の解説を中心に行う</p> <p>第9回 進行性疾患、代償手段、AAC (これらの適応と機能訓練) 作成した透明文字盤を使用し実習を行う</p> <p>第10回 症例1 発表 痙性麻痺の訓練手技</p> <p>第11回 症例2 発表 弛緩性麻痺の訓練手技</p> <p>第12回 症例3 発表 失調性障がいの訓練手技</p> <p>第13回 症例4 発表 その他の運動性障がいの訓練手技</p> <p>第14回 症例5 発表 器質性構音障害の訓練</p> <p>第15回 症例6 発表 総括</p>	<p>酒井 哲郎</p>
科目の目的	<p>運動障害性構音障害及び器質性構音障害の機能訓練法と活動支援、参加支援の理論、実際的な方法を学習する。 運動障害では、障害をもたらす疾患のタイプ分類にそって神経学、運動学的方法を選択、適応することを学ぶ。器質性の障害においては、原因疾患と様態、手術などの医学的方法との連携を学ぶ。運動障害、器質性障害のいずれも、摂食・嚥下障害を引き起こす可能性が高く、その場合、発声発語の訓練と摂食嚥下の訓練の共通部分と異なる部分を理解してプログラムを立て、手技を実践することを学習する。いずれも、活動支援、社会参加の支援についても社会の側への働きかけも含めて学修する。 【基本的知識と技術】 【知的探求能力】</p>	
到達目標	<p>構音障害における、運動性と器質性の違いを、損傷部位、様態、言語症状、原因疾患等から説明できる。それぞれの評価結果に基づき、訓練理論の違いにのっとり、適切にそれぞれの訓練プログラムを立案し、適切な手技を選択できる。標準的な手技を実践できる。 運動性構音障害と器質性構音障害の違いを踏まえて、ICFにそった評価から支援プログラムを立案できる。</p>	
関連科目	音声学、病理音声学、発声発語・嚥下障害評価法、器質性・機能性発話障害支援論、非流暢性発話支援論、摂食・嚥下障害支援論	
成績評価方法・基準	小レポート20%、試験80%。それぞれ100点満点換算で60点以上で合格。	

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	各回1時間程度の準備を要する。
教科書	「言語聴覚士のための運動障害性構音障害」 広瀬肇他（医歯薬出版）
参考書	「標準言語聴覚障害学 発声発語障害学第3版」 城本修・原由紀編（医学書院） 「発話障害へのアプローチ―診療の基礎と実際―」 廣瀬肇監修（インテルナ出版） 「言語聴覚士の臨床実習テキスト成人編」 深浦順一・爲数哲司・内山量史編著（建帛社）
オフィス・アワー	火曜日を除く12:10～13:00
国家試験出題基準	12. 発声発語・嚥下障害 2 構音障害 E 運動障害性構音障害 a 運動障害性構音障害の発生メカニズムと特徴 b 発声発語器官の形態と機能の検査（検査の目的、方法、評価基準） c 神経学的検査 d 話しことばの特徴と検査、評価（声・発話の特徴についての検査・評価、コミュニケーション能力の評価など） e 医学的アプローチ f 訓練 g 発話補助手段 h チームアプローチ
履修条件・履修上の注意	
アクティブ・ラーニングの実施	患者のビデオを見て、訓練プログラムの立案し、発表する演習をゼミ単位で行う。
ナンバリング	SSv-302

講義科目名称： 非流暢性発話支援論

授業コード： 1S093

英文科目名称： Support Methods for Verbal Fluency Disorders

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
都筑 澄夫			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 吃音、流暢性障害とは 発達性吃音、獲得性吃音、クラタリングの特徴を学習する。	都筑 澄夫
	第2回 吃音の発話症状の特徴 吃音の発話症状にはどのような種類があるかを学習する。	都筑 澄夫
	第3回 吃音の二次的症狀 1 吃音の進展の仕方や、第3層以降に生じる二次的症狀である工夫・回避や情緒的問題について学習する。	都筑 澄夫
	第4回 吃音の二次的症狀 2 二次的症狀の工夫・回避の中身や情緒的側面、進展した吃音者が陥りやすい考え方について具体例を通し学習する。	都筑 澄夫
	第5回 情報収集1 発話症状の収集：吃音検査、吃音にかかわる環境面の情報収集の内容について学習する。	都筑 澄夫
	第6回 情報収集2 日常生活場面の発話への緊張・不安や発話の状態の情報収集について学習する。	都筑 澄夫
	第7回 評価1 発話の評価、養育環境の評価のしかたを学習する。	都筑 澄夫
	第8回 評価2 日常生活場面での発話にかかわる不安や発話の状態の評価について学習する。	都筑 澄夫
	第9回 評価3 発達性吃音、獲得性吃音などの鑑別について学習する。	都筑 澄夫
	第10回 訓練・指導1 間接的訓練の環境調整法、認知行動療法の基本を学習する。	都筑 澄夫
	第11回 訓練・指導2 間接的訓練のメンタルリハーサル法の理論と基礎を学習する。	都筑 澄夫
	第12回 訓練・指導3 メンタルリハーサル法の具体的方法を学習をする。	都筑 澄夫
	第13回 訓練・指導4 直接的訓練の流暢性形成訓練、統合的訓練などを説明する。さらに吃音当事者のグループの役割について学習する。	都筑 澄夫
	第14回 訓練・指導5 吃音の種類と年齢や他の障害の合併の有無により訓練法の選択は異なってくる場合がある。実際に訓練を選択する場合の注意事項について学習する。	都筑 澄夫
	第15回 訓練・指導6 メンタルリハーサル法の訓練の具体的事例を通して全体像をつかむ。	都筑 澄夫
科目の目的	小児ならびに成人の吃音についての特性や評価法、指導・訓練法を学ぶ。吃音の家族指導などの環境調整を行い、直接的な発話指導や間接的な訓練法にて発話への不安や発話の非流暢性の改善方法を学ぶ。また、吃音に他の障害が合併している場合の対処法についても学ぶ。【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	新たな課題、未知の課題に取り組み解決しようとする姿勢をもつことができる。	
関連科目	音声学、学習・認知心理学、言語発達障害学、失語症学	
成績評価方法・基準	定期試験100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1コマ当たり1時間の予習	
教科書	教科書：使用しない	
参考書	【参考書】 池田泰子・坂田善政編著（2024年2月刊行予定）「言語聴覚療法シリーズ7 吃音・流暢性障害」建帛社	

オフィス・アワー	講義前後の時間（場所：非常勤講師室）
国家試験出題基準	4吃音 Aa1)2)3)、Ab、Ac1)2)、Ba, b, c, d, Ca, b, c, d
履修条件・履修上の注意	
アクティブ・ラーニングの実施	実施しない
ナンバリング	SSv-303

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
清水 充子	三浦康子		

授業形態	講義及びアクティブラーニング	担当者
授業計画	1 発声発語・嚥下障害評価法の復習 1 発声発語器官の部位、名称、機能と障害の評価について述べ、基本的な評価が正しく行えることを目指す。 健常例で評価の手順を確認する。	清水充子
	2 発声発語・嚥下障害評価法の復習 2 障害例のビデオ等から模擬評価を行う。	清水充子
	3 専門的評価の技量向上 1 VF（嚥下造影検査）による病態の把握技術を身につける。 症例のビデオから評価方法を学ぶ。	清水充子
	4 専門的評価の技量向上 2 VE（嚥下内視鏡検査）による病態の把握技術を身につける。 症例のビデオから評価方法を学ぶ。	清水充子
	5 摂食嚥下訓練 1 間接訓練について理論と実際を学ぶ。 実技修得を目指した実習を行う。	清水充子
	6 摂食嚥下訓練 2 直接訓練について理論と実際を学ぶ。 実技修得を目指した実習を行う。	清水充子
	7 摂食嚥下訓練 3 直接訓練について、特に代償法を具体的に学ぶ。 実技修得を目指した実習を行う。	清水充子
	8 摂食嚥下障害の安全管理 食事場面の安全管理、口腔ケア、栄養管理について実技を含めて学ぶ。	清水充子
	9 嚥下障害の病態について 1 各疾患による嚥下障害の特徴と対応方法を学ぶ。	清水充子
	10 嚥下障害の病態について 2 各疾患による嚥下障害の特徴と対応方法を学ぶ。	清水充子
	11 専門的評価の技量向上 3 各評価結果から病態を把握し、訓練プログラムを作成する。 グループワークを行う。	三浦康子
	12 専門的評価の技術向上 4 授業10のグループワークの発表を行い、見立てを共有する。	三浦康子
	13 摂食嚥下障害例の生活・社会参加 1 摂食嚥下障害例の生活・社会参加について実例を通して学ぶ	三浦康子
	14 摂食嚥下障害例の生活・社会参加 2 摂食嚥下障害例の家庭・社会での生活について、状況の推定と問題点の把握、問題解決方法についてグループディスカッションを行う。	三浦康子
	15 摂食嚥下障害例の生活・社会参加 3 授業14でのディスカッション内容をグループごとに発表し、思考過程や情報について共有し総まとめを行う。	三浦康子
科目の目的	正常な摂食嚥下のメカニズム、摂食嚥下障害に関する知識について確認し、障害の症状と病態の関係およびリハビリテーションの意味を理解したうえでその評価と訓練の技術を習得し、加えて社会、心理的な支援方法について学ぶ。【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】	
到達目標	正常なメカニズムについて、他者に説明できる。 摂食嚥下障害の基礎的な評価を実際に行うことができる。 摂食嚥下障害の症状から病態を理解し、基本的な訓練を行うことができる技量を身につける。 各種摂食嚥下障害について理解し、障害を持つ児者の状況を生活上の困難についてまで意識することができる。	
関連科目	局所解剖学、発声発語・嚥下障害評価法、運動性発話障害支援論、運動系障害演習	

成績評価方法・基準	聴講票20%、レポート30%、試験50%とする。いずれも60点/100点以上をもって合格点とする。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義前に関連科目の復習、レポート作成に必要な自己学習等にそれぞれ1時間程度の準備を要する。
教科書	改訂摂食・嚥下障害（改定言語聴覚療法シリーズ15）清水充子編著 建帛社
参考書	なし
オフィス・アワー	講義終了後30分間、非常勤講師室にて。
国家試験出題基準	【言語聴覚士】 VII-3-A, B, C, D
履修条件・履修上の注意	講義資料はAAの配信及び講義日に配布する。
アクティブ・ラーニングの実施	必要か所でグループワークと発表を行う。
ナンバリング	SSv-304

講義科目名称： 聴覚障害学

授業コード： 1S095

英文科目名称： Study of Hearing Disorders

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
岡野 由実			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 言語聴覚士と聴覚障がい 聴覚臨床における言語聴覚士の役割と現状。	岡野
	第2回 擬似難聴体験 (AL)	岡野
	第3回 耳の構造と難聴の原因 耳の構造、伝音系・感音系の機能、伝音難聴・感音難聴の原因疾患	岡野
	第4回 聴覚検査とオーディオグラム 標準純音聴力検査等の各種聴覚検査とオーディオグラムの解釈	岡野
	第5回 補聴器と人工内耳 各デバイスの特徴と違い	岡野
	第6回 聴覚領域の抱える社会的課題 (1) (AL+AS) グループワーク	岡野
	第7回 聴覚領域の抱える社会的課題 (2) (AL+AS) グループワーク	岡野
	第8回 グループワークの発表 (1) (AL+AS)	岡野
	第9回 グループワークの発表 (2) (AL+AS)	岡野
	第10回 コミュニケーション支援 聴覚障害者のコミュニケーション方法と支援	岡野
	第11回 活動/参加支援と情報保障 情報保障の種類と聴覚障害者の活動/参加支援を考える	岡野
	第12回 先天性聴覚障がい者との対話 (AL) ゲストスピーカーとの対話	岡野
	第13回 対話のまとめ (AS) ゲストスピーカーとの対話をまとめ感想を発表	岡野
	第14回 後天性聴覚障がい者との対話 (AL) ゲストスピーカーとの対話	岡野
	第15回 対話のまとめ (AS) ゲストスピーカーとの対話を体験して学んだことをグループごとに発表する。	岡野
科目の目的	聴覚障がいをもたらす原因疾患、聴覚障害の種類(感音難聴と伝音難聴)とその様態、聴力型の違いなどについて理解する。こうした疾患の治療法とその限界、補聴器や人工内耳の適応と訓練適応についても理解する。また、発症時期による課題の違いなどを理解し、聴覚障がい者の社会参加についても学ぶ。 【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	聴覚障がいについて理解を深め、聴覚障がい児・者の生活が想像できるようになる。聴覚障がい児・者への支援に携わる言語聴覚士の役割を理解できる。	
関連科目	聴覚検査法、聴覚補償、後天性聴覚障害支援論、先天性聴覚障害支援論、聴覚障害演習	
成績評価方法・基準	中間レポート40%、期末レポート50%、グループワークへの貢献度10%、合計で60%以上得た者に単位を認定する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	擬似難聴体験やグループワークには、講義時間外の時間にも実施することがある。学習時間の目安は約1時間とする。	
教科書	なし(講義資料を随時配布)	
参考書	城間将江、鈴木恵子、小渕千絵 編集『標準言語聴覚障害学 聴覚障害学(第3版)』(医学書院)	
オフィス・アワー	月・火・木曜日 12:10~13:00 場所: 618研究室	
国家試験出題基準	VIII-1~3	
履修条件・履修上の注意	資料はアクティブ・アカデミーにて授業前までに配布(配布期間は1週間)。 AL=アクティブ・ラーニング AS=アクティブ・ラーニング・ゼミ 講義内で知り得た症例の個人情報については、一切口外しないよう留意のこと。 講義開始前までに講義資料を配布する。配布された講義資料の整理を行うこと。	

アクティブ・ラーニングの実施	障害体験、グループ・ディスカッションを通して課題に取り組む、聴覚障がい当事者との対話など、アクティブ・ラーニングを実施。
ナンバリング	SSw-201

	VIII-2B a~k
履修条件・履修上の注意	資料はアクティブ・アカデミーにて授業前までに配布（配布期間は1週間）。配布された講義資料の整理を行うこと。
アクティブ・ラーニングの実施	体験学習によるアクティブ・ラーニングの実施。
ナンバリング	SSw-202

講義科目名称： 聴覚補償

授業コード： 1S097

英文科目名称： Auditory Compensation

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
岡野 由実	氏田 直子		

授業形態	講義 (12) + 演習 (3)	担当者
授業計画	第1回 聴覚補償機器の種類と特徴 補聴器、人工内耳、人工中耳、EAS、ABI、BAHA 第2回 補聴器の種類と特徴 形状の種類、パーツの名称と役割、耳せんの種類 第3回 デジタル補聴器のフィッティング 規定選択法とフィッティングの方法 第4回 補聴器のフィッティング (演習) フィッティングソフトの操作 第5回 補聴器特性測定装置 (演習) 補聴器の特性を測定し結果の解釈 第6回 補聴器の選択 聴力に応じた補聴器 (および耳せん) の選択 第7回 イヤモールドの耳型採型 (演習) 耳型採型の演習 第8回 補聴器適合検査 補聴器適合検査 (2010) の内容と検査法、結果の解釈 第9回 補聴器診療の流れ 実際の耳鼻咽喉科での実践を学ぶ 第10回 人工内耳の構造、機能、種類 (EASを含む) 人工内耳 (およびEAS) の構造、機能、種類 第11回 人工内耳の適応基準と (リ) ハビリテーションの流れ 第12回 人工内耳の調整 (マッピング)、適合評価 第13回 人工内耳のリハビリテーション 後天性聴覚障害者へのリハビリテーション 第14回 人工内耳のリハビリテーション 先天性聴覚障害児者へのリハビリテーション 第15回 まとめ 講義のまとめと国家試験対策	岡野 岡野 岡野 岡野 岡野 岡野 岡野 岡野 岡野 氏田 氏田 氏田 氏田 岡野
科目の目的	聴覚の補償について理解し、その主たる手段としての補聴器及び人工内耳について学ぶ。人工内耳の手術法の理解、補聴器と人工内耳の基本的な違いを知り、それぞれの適応について学ぶ。その上で、補聴器の種類と特性、また特性の測定の方法を学ぶ。聴力の型によって補聴器の選択は異なり、適切な調整についても知識が必要である。人工内耳にも種類があり、特徴の違いを把握する。手術後のマッピングの方法についても学習する。 【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	補聴器と人工内耳の特徴や限界を説明できる。聴覚補償機器の調整に必要な検査や機能について、名称や目的、内容を理解できる。	
関連科目	聴覚障害学、聴覚検査法、後天性聴覚障害支援論、先天性聴覚障害支援論、聴覚障害演習	
成績評価方法・基準	筆記試験80%、講義の参加態度10%、演習への取り組み10%、合計で60%以上得た者に単位を認定する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	学習の目安は各講義後1時間とする。	
教科書	なし (講義資料を随時配布)	
参考書	城間将江、鈴木恵子、小淵千絵 編集『標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 (第3版)』 (医学書院)	
オフィス・アワー	岡野：月・火・木曜日 12:10~13:00 (場所618研究室) 氏田：講義日の講義前後の時間	
国家試験出題基準	VIII-3	
履修条件・履修上の注意	資料はアクティブ・アカデミーにて授業前までに配布 (配布期間は1週間)。配布された講義資料の整理を行うこと。	
アクティブ・ラーニングの実施	実際の機器を用いた体験学習によるアクティブ・ラーニングの実施。	

ナンバリング

SSw-301

講義科目名称： 先天性聴覚障害支援論

授業コード： 1S098

英文科目名称： Support Methods for Congenital Hearing Disorders

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
岡野 由実	北 義子		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 先天性聴覚障がいが発達に及ぼす影響 ライフステージごとの影響	岡野
	第2回 難聴の原因診断 遺伝子診断、CMV検査、画像診断	岡野
	第3回 乳幼児の聴力検査法 自覚的聴力検査と他覚的聴力検査	岡野
	第4回 聴覚補償 小児における補聴器のフィッティング／人工内耳のマッピングの留意点	岡野
	第5回 聴覚の発達、言語・コミュニケーションの評価 聴性行動の発達、聴覚発達質問紙、言語発達検査とコミュニケーション行動の観察	岡野
	第6回 前言語期の指導 コミュニケーションモードの選択、コミュニケーション関係の形成	岡野
	第7回 言語習得期の指導 先天性聴覚障害児の言語発達の特徴、指導の原則	岡野
	第8回 家族支援、障害認識の支援 診断期からの家族支援、きょうだい児支援、学童期～思春期における障害認識の課題	岡野
	第9回 ろう文化とアイデンティティ ろう文化、日本手話、難聴者のアイデンティティ	岡野
	第10回 就学・就労支援（AS） 社会制度と環境調整、聴覚障がい者の社会参加についてグループ・ディスカッション	岡野
	第11回 先天性聴覚障害療育の考え方	北
	第12回 療育の実際（1）前言語期	北
	第13回 療育の実際（2）前言語期から単語期	北
	第14回 療育の実際（3）幼児期から学童期	北
	第15回 家族の役割とまとめ	北
科目の目的	先天性聴覚障害では、言語獲得訓練が必要であり、発達障害として扱われなければならないことを理解し、補聴器や人工内耳の適応、聞き取り訓練と構音訓練を学ぶ。小児の聴覚障害における言語獲得の問題を十分理解し、聴覚評価のみならず、言語を含む発達全体の評価をもとに、言語獲得を促す訓練法を総合的に学ぶ。聴覚障害者の社会参加の在り方については議論を通して深く学ぶ。 【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	先天性聴覚障害による生涯発達への影響を理解できる。聴覚障害児に対する支援プログラムを立案し、言語聴覚士の役割について理解できる。	
関連科目	聴覚障害学、聴覚検査法、聴覚補償、後天性聴覚障害支援論、聴覚障害演習	
成績評価方法・基準	筆記試験90%、講義の参加態度10%、合計で60%以上得た者に単位を認定する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	学習の目安は各講義後1時間とする。	
教科書	なし（講義資料を随時配布）	
参考書	城間将江、鈴木恵子、小渕千絵 編集『標準言語聴覚障害学 聴覚障害（第3版）』（医学書院）	
オフィス・アワー	岡野：月・火・木曜日 12：10～13：00（場所618研究室） 北：講義日の講義前後の時間	
国家試験出題基準	Ⅷ-1	
履修条件・履修上の注意	AS＝アクティブ・ラーニング・ゼミ 講義内で知り得た症例の個人情報については、一切口外しないよう留意のこと。	

	資料はアクティブ・アカデミーにて授業前までに配布（配布期間は1週間）。配布された講義資料の整理を行うこと。
アクティブ・ラーニングの実施	グループ・ディスカッションによるアクティブ・ラーニングの実施。
ナンバリング	SSw-302

講義科目名称： 後天性聴覚障害支援論

授業コード： 1S099

英文科目名称： Support Methods for Acquired Hearing Disorders

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
岡野 由実			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 ライフステージにおける難聴の影響 第2回 後天発症する難聴の原因 平衡機能障害、耳鳴を含む 第3回 各種聴覚検査と聴覚補償 日常生活用具の紹介を含む 第4回 コミュニケーション方法と支援 読話、手話、筆談、ICTの活用 第5回 加齢性難聴と認知症 第6回 就学・就労支援 社会資源と環境調整 第7回 視覚聴覚二重障害（1） 障害の状態と原因疾患 第8回 視覚聴覚二重障害（2） コミュニケーション支援	岡野 岡野 岡野 岡野 岡野 岡野 岡野 岡野
科目の目的	成人聴覚障害の聴覚補償の問題やコミュニケーション確保の問題を中心に学ぶ。また、重度の代償的な方法としての読話や手話などの代償的コミュニケーション手段についても理解する。聴覚障害の社会参加については、先天性の場合と、後天性の場合で状況が異なる。後天性の場合は、現在社会生活を営んでいる場合が多く、できるだけ継続できるように支援する方策を学ぶ。 【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】	
到達目標	後天性聴覚障害による生涯発達への影響を理解できる。発症時期ごとの支援方針の違いを把握し、言語聴覚士の役割について理解できる。	
関連科目	聴覚障害学、聴覚検査法、聴覚補償、先天性聴覚障害支援論、聴覚障害演習	
成績評価方法・基準	筆記試験90%、講義の参加態度10%、合計で60%以上得た者に単位を認定する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	学習の目安は各講義後1時間とする。	
教科書	教科書：なし（講義資料を随時配布）	
参考書	城間将江、鈴木恵子、小渕千絵 編集『標準言語聴覚障害学 聴覚障害学（第3版）』（医学書院）	
オフィス・アワー	月・火・木曜日 12：10～13：00（場所6 1 8 研究室）	
国家試験出題基準	Ⅷ-2	
履修条件・履修上の注意	講義内で知り得た症例の個人情報については、一切口外しないよう留意のこと。 資料はアクティブ・アカデミーにて授業前までに配布（配布期間は1週間）。配布された講義資料の整理を行うこと。	
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし	
ナンバリング	SSw-303	

講義科目名称： 地域参加支援演習 I

授業コード： 1S100

英文科目名称： Seminar I: Community Participation Support

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
齊藤 吉人	白坂 康俊	神山 政恵	三浦 康子
	丹下 弥生	岡野 由実・遠藤 俊介	酒井 哲郎・及川 翔

授業形態	ゼミ単位で、情報収集、企画立案を行い、教員がアドバイザーとして参加する(AS)。		担当者
授業計画	第1回	地域参加の現状と課題の理解 講義	担当者全員
	第2回	地域参加の現状と課題の理解 講義	担当者全員
	第3回	地域参加の現状と課題の理解 講義	担当者全員
	第4回	地域参加の現状と課題の理解 講義	担当者全員
	第5回	コミュニケーション技術の習得 AS	担当者全員
	第6回	コミュニケーション技術の習得 AS	担当者全員
	第7回	グループワーク技術の習得 AS	担当者全員
	第8回	グループワーク技術の習得 AS	担当者全員
	第9回	3年生による実践報告・紹介 講義	担当者全員
	第10回	3年生による実践報告・紹介 講義	担当者全員
	第11回	ワークショップによる課題の抽出 AS	担当者全員
	第12回	ワークショップによる課題の抽出 AS	担当者全員
	第13回	ワークショップによる課題の抽出 AS	担当者全員
	第14回	ワークショップによる課題の抽出 AS	担当者全員
	第15回	ゲストスピーカーによる実践報告 講義	担当者全員
	第16回	ゲストスピーカーによる実践報告 講義	担当者全員
	第17回	ゲストスピーカーによる実践報告 講義	担当者全員
	第18回	ゲストスピーカーによる実践報告 講義	担当者全員
	第19回	外部団体への訪問による調査・研究 AS	担当者全員
	第20回	外部団体への訪問による調査・研究 AS	担当者全員
	第21回	外部団体への訪問による調査・研究 AS	担当者全員
	第22回	外部団体への訪問による調査・研究 AS	担当者全員
	第23回	実際の事業テーマの作成 AS	担当者全員
	第24回	実際の事業テーマの作成 AS	担当者全員
	第25回	実際の事業テーマの作成 AS	担当者全員
	第26回	実際の事業テーマの作成 AS	担当者全員
	第27回	実際の事業テーマの作成 AS	担当者全員
	第28回	実際の事業テーマの発表 AS	担当者全員
	第29回	実際の事業テーマの発表 AS	担当者全員

	第30回 実際の事業テーマの発表 AS	担当者全員
科目の目的	自立ならびに、健常者と同じ地域社会への参加の実現をめざし、受け入れる社会の在り方を考える。言語聴覚士が、コミュニケーションや摂食嚥下についての専門性を生かして地域づくり、街づくりをすることの重要性と方法論を学修する。 ディプロマポリシー：【基本的知識と技術】【コミュニケーション能力】【知的探求能力】【人間力と倫理観】	
到達目標	言語聴覚障害のリハビリテーションにおける地域参加支援の難しさと意義を理解する。 言語聴覚障害のリハビリテーションにおける地域参加支援の方法論を説明できる。	
関連科目	地域参加支援演習II、地域参加支援論	
成績評価方法・基準	AS活動への貢献度(60%)、事業テーマの発表(30%)、AT活動の参加報告(10%)、総合して60%以上の者に単位を与える。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	ワークショップで分担した課題を調査、検討し、事前にグループ内で共有しておく(60分程度)	
教科書	なし	
参考書	なし	
オフィス・アワー	月～金の昼休み	
国家試験出題基準	VIII Ca～e	
履修条件・履修上の注意	AL=アクティブ・ラーニング AS=アクティブ・ラーニング・ゼミ 講義資料は講義の1週間前までにアクティブ・アカデミーにて配信する。講義当日はPCまたはタブレットで閲覧可能な状態で講義に臨むこと。	
アクティブ・ラーニングの実施	ALとASを実施する。	
ナンバリング	SSx-201	
実務経験のある教員による授業		
実務経験	齊藤 吉人(言語聴覚士)、白坂 康俊(言語聴覚士)、神山 政恵(言語聴覚士)、三浦 康子(言語聴覚士)、丹下 弥生(言語聴覚士)、岡野 由実(言語聴覚士)、遠藤 俊介(言語聴覚士)、酒井 哲郎(言語聴覚士)、及川 翔(言語聴覚士)	
授業の概要	自立ならびに、健常者と同じ地域社会への参加の実現をめざし、受け入れる社会の在り方を考える。言語聴覚士が、コミュニケーションや摂食嚥下についての専門性を生かして地域づくり、街づくりをすることの重要性と方法論を学習する。グループ単位で、情報収集、企画立案を行い、教員がアドバイザーとして参加する。	

講義科目名称： 地域参加支援演習Ⅱ

授業コード： 1S101

英文科目名称： Seminar II: Community Participation Support

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
齊藤 吉人	白坂 康俊	神山 政恵	三浦 康子
	丹下 弥生	岡野 由実・遠藤 俊介	酒井 哲郎・及川 翔

授業形態	ゼミ単位で、情報収集、企画立案を行い実施する。教員がアドバイザーとして参加する。		担当者
授業計画	第1回	地域参加と地域参加支援を理解する 講義	担当者全員
	第2回	地域参加の現状と課題を理解する 講義	担当者全員
	第3回	事業計画作成（地域参加支援の対象を選択する） AS	担当者全員
	第4回	事業計画作成（地域参加支援の対象を選択する） AS	担当者全員
	第5回	事業計画作成（地域参加支援の対象を選択する） AS	担当者全員
	第6回	事業計画作成（地域参加支援の対象を選択する） AS	担当者全員
	第7回	事業計画作成（地域参加支援の事業内容の概要を決定する） AS	担当者全員
	第8回	事業計画作成（地域参加支援の事業内容の概要を決定する） AS	担当者全員
	第9回	事業計画作成（地域参加支援の具体的なスケジュールと関係者との調整） AS	担当者全員
	第10回	事業計画作成（地域参加支援の具体的なスケジュールと関係者との調整） AS	担当者全員
	第11回	事業計画作成（地域参加支援の具体的なプログラム作成） AS	担当者全員
	第12回	事業計画作成（地域参加支援の具体的なプログラム作成） AS	担当者全員
	第13回	事業計画作成（地域参加支援の具体的なプログラム作成） AS	担当者全員
	第14回	事業計画作成（地域参加支援の具体的なプログラム作成） AS	担当者全員
	第15回	事業計画作成（地域参加支援の具体的なプログラム作成） AS	担当者全員
	第16回	事業計画作成（地域参加支援のリハーサル） AS	担当者全員
	第17回	事業計画作成（地域参加支援のリハーサル） AS	担当者全員
	第18回	事業実施（事業実施については、授業時間外に学外での実施を設定する場合がある。計6時間程度の実施時間を想定する。） AS	担当者全員
	第19回	事業実施 AS	担当者全員
	第20回	事業実施 AS	担当者全員
	第21回	事業実施 AS	担当者全員
	第22回	事業実施 AS	担当者全員
	第23回	事業実施 AS	担当者全員
	第24回	事業実施 AS	担当者全員
	第25回	ゼミ単位での報告 講義	担当者全員
	第26回	ゼミ単位での報告 講義	担当者全員
	第27回	ゼミ単位での報告 講義	担当者全員
	第28回	ゼミ単位での報告 講義	担当者全員

	第29回 ゼミ単位での報告 講義	担当者全員
	第30回 ゼミ単位での報告 講義	担当者全員
科目の目的	この授業では、地域参加支援演習Ⅰの結果を踏まえ、実際に、学生がグループ単位で、障害のある方を含む社会的に弱い立場の方が、社会や地域に参加するための事業を企画し、実践する。 ここでは、当事者と支援者の言語聴覚士だけではなく、地域で実際に生活する一般の方々との連携が必須である。当事者と支援者、一般の方々の三角形を形成しながら、事業を企画し、相談し、計画し、運営することにより、連携の難しさを知り、それを克服する運営の方法と才覚を知り、実現することによる達成感を学修する。	
到達目標	言語障害のリハビリテーションにおける地域参加支援の意義および方法を理解できる。地域参加の事業を実践し、その成果を理解し、応用できる。	
関連科目	地域参加支援演習Ⅰ、地域参加支援総論	
成績評価方法・基準	AS活動への貢献度(60%)、事業テーマの発表(30%)、AT活動の参加報告(10%)、総合して60%以上の者に単位を与える。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	ASで分担した課題を調査、検討し、事前にグループ内で共有しておく(60分程度)	
教科書	なし	
参考書	なし	
オフィス・アワー	月～金の昼休み	
国家試験出題基準	VIII Ca～e	
履修条件・履修上の注意	AL=アクティブ・ラーニング AS=アクティブ・ラーニング・ゼミ 講義資料は講義の1週間前までにアクティブ・アカデミーにて配信する。講義当日はPCまたはタブレットで閲覧可能な状態で講義に臨むこと。	
アクティブ・ラーニングの実施	ALとASを実施する。	
ナンバリング	SSx-301	
実務経験のある教員による授業		
実務経験	齊藤 吉人(言語聴覚士)、白坂 康俊(言語聴覚士) 神山 政恵(言語聴覚士)、三浦 康子(言語聴覚士)、丹下 弥生(言語聴覚士)、岡野 由実(言語聴覚士)、遠藤 俊介(言語聴覚士)、酒井 哲郎(言語聴覚士)、及川 翔(言語聴覚士)	
授業の概要	「地域参加支援演習Ⅰ」の結果を踏まえ、実際に学生がグループ単位で、障害を持つことを含む社会的に弱い立場の人たちが、社会や地域に参加するための事業を企画し、実践する。ここでは、当事者と支援者である言語聴覚士だけではなく、地域で実際に生活する一般の人たちと連携しながら相互に相談し、計画を立て、運営することにより、連携の難しさ、それを克服する運営の方法を知り、実現することによる達成感を体験する。	

ナンバリング	SSx-302
実務経験のある教員による授業	
実務経験	岡野 由実（言語聴覚士）、齊藤 吉人（言語聴覚士）、遠藤 俊介（言語聴覚士）
授業の概要	次の聴覚障害に関する項目について演習形式で学ぶ。標準純音、語音聴力検査、COR、ピープショウ検査、BOA検査などの各種聴覚検査、検査手順の習熟と結果の評価、補聴器フィッティング及び人工内耳マッピング、幼児聴能及び言語訓練演習、成人聴能訓練とコミュニケーション確保訓練、聴覚障害の構音訓練。

講義科目名称： 運動系障害演習

授業コード： 1S103

英文科目名称： Seminar in Motor Speech Disorders

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
丹下 弥生	神山 政恵	三浦 康子	酒井 哲郎

授業形態	演習	担当者
授業計画	第1回 発声・発語器官の検査演習1	丹下・神山・三浦・酒井
	第2回 発声・発語器官の検査演習2	丹下・神山・三浦・酒井
	第3回 音声障害の言語治療1（病態・検査・評価）	丹下・神山・三浦・酒井
	第4回 音声障害の言語治療2（訓練手法）	丹下・神山・三浦・酒井
	第5回 語音の聴取と表記 基本の語音表記（音声表記による記述）に加え、典型的な構音の誤りや声門破裂等の 特異的な構音の誤りの聴取と表記について学ぶ	丹下・神山・三浦・酒井
	第6回 構音検査演習 1	丹下・神山・三浦・酒井
	第7回 構音検査演習 2 構音検査法のまとめ方を学び実習する	丹下・神山・三浦・酒井
	第8回 構音障害の臨床の流れを考える1 主訴・情報収集・インテーク面接	丹下・神山・三浦・酒井
	第9回 構音障害の臨床の流れを考える2 インテーク面接演習・検査・鑑別診断	丹下・神山・三浦・酒井
	第10回 構音障害の臨床の流れを考える3 症状の発言機序の考察からアプローチ法の決定	丹下・神山・三浦・酒井
	第11回 構音障害の臨床の流れを考える4 評価のまとめ	丹下・神山・三浦・酒井
	第12回 発語失行演習1	丹下・神山・三浦・酒井
	第13回 発語失行演習2	丹下・神山・三浦・酒井
	第14回 発声発語器官の訓練 1 姿勢、頸部肩甲帯、呼吸	丹下・神山・三浦・酒井
	第15回 発声発語器官の訓練2 発声器官、口腔器官、電気刺激法その他の訓練	丹下・神山・三浦・酒井

第16回	発声発語器官の訓練3 鼻咽腔閉鎖機能不全による共鳴異常の訓練	丹下・神山・三浦・酒井
第17回	構音訓練1 音の産生訓練	丹下・神山・三浦・酒井
第18回	構音訓練2 無意味音節から単語・単文・文章への展開、会話への汎化	丹下・神山・三浦・酒井
第19回	標準ディサースリア検査(AMSD)演習1	丹下・神山・三浦・酒井
第20回	標準ディサースリア検査(AMSD)演習2	丹下・神山・三浦・酒井
第21回	摂食・嚥下の評価演習1	丹下・神山・三浦・酒井
第22回	摂食・嚥下の評価演習2	丹下・神山・三浦・酒井
第23回	摂食・嚥下障害への支援演習1	丹下・神山・三浦・酒井
第24回	摂食・嚥下障害への支援演習2	丹下・神山・三浦・酒井
第25回	小児の発話障害への支援 機能性構音障害訓練演習	丹下・神山・三浦・酒井
第26回	成人の発話障害への支援 気管切開後の発話障害・無喉頭音声	丹下・神山・三浦・酒井
第27回	総合実習1 模擬事例について評価のまとめ、目標設定、訓練プログラムの立案について学ぶ	丹下・神山・三浦・酒井
第28回	総合実習2 模擬事例について評価のまとめ、目標設定、訓練プログラムの立案について学ぶ	丹下・神山・三浦・酒井
第29回	総合実習3 模擬事例について評価のまとめ、目標設定、訓練プログラムの立案について学ぶ	丹下・神山・三浦・酒井
第30回	グループワークとまとめの発表	丹下・神山・三浦・酒井
科目の目的	運動系障害の発生機序と病態を理解し、臨床に必要な検査、評価、方針決定、訓練手技、環境調整や社会参加の支援のあり方などの基本的な能力を、一貫した流れの中で修得する。 【基本的知識・技術】 【未知の課題を解決する姿勢】	
到達目標	運動系障害の評価法、訓練法に関する基本的な知識が身についている ICFモデルに即して運動系障害の評価を実施・記録し、またその結果をまとめて訓練プログラムを立案・実施できる 症例報告書の書き方を説明できる	
関連科目	音声学、病理音声学、発声発語・嚥下障害評価法、器質性・機能性発話障害支援論、運動性発話障害支援論、AACと教材学	
成績評価方法・基準	筆記試験(40%)、聴講票(60%)。総合して60%以上のものに単位を与える	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	音声学、病理音声学、発声発語・嚥下障害評価法の知識を踏まえて演習を進めるため、関連する科目について復習・理解をして臨んでください。また各回の演習内容については、技術を習得するための自習・復習が必要です (1時間程度)	

教科書	教科書：特に定めません（必要時に講義資料をAAAで配布します）
参考書	参考書：「発話障害へのアプローチ―診療の基礎と実際―」廣瀬肇監修（インテルナ出版） 「言語聴覚士の臨床実習テキスト成人編」深浦順一・爲数哲司・内山量史編著（建帛社）
オフィス・アワー	月～金の昼休み
国家試験出題基準	II-4-B IV-1-A~L VI-1-A~F VII-1~3
履修条件・履修上の注意	講義資料がある場合はActive Academy Advanceで、当該授業前日から1週間配信します。 各自PCにダウンロードして授業に持参してください
アクティブ・ラーニングの実施	演習はペアワークや、ゼミを単位としたグループ形式で実施します
ナンバリング	SSx-303
実務経験のある教員による授業	
実務経験	丹下 弥生（言語聴覚士）、神山 政恵（言語聴覚士）、三浦 康子（言語聴覚士）、酒井 哲郎（言語聴覚士）
授業の概要	言語系障害演習と聴覚障害演習で得られた知識・技能を用い、検査、評価、診断、方針決定、訓練手技の適応、環境調整、社会参加の支援までを一貫して演習形式で学ぶ。それまでの知識や技術の統合を目的とする。

講義科目名称： 言語系障害演習

授業コード： 1S104

英文科目名称： Seminar in Adult Language Disorders

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
三浦 康子	神山 政恵	丹下 弥生	酒井 哲郎

授業形態	講義及び演習、AS+AL	担当者
授業計画	第1回 言語系障害の概要と臨床の流れ	三浦・神山・丹下・酒井
	第2回 コミュニケーション演習（演習協力者） 健常高齢者とのコミュニケーション	三浦・神山・丹下・酒井
	第3回 情報収集とインテーク面接の方法と実際・鑑別診断 インテーク面接演習	三浦・神山・丹下・酒井
	第4回 記録の取り方・カルテの診方	三浦・神山・丹下・酒井
	第5回 失語・高次脳機能障害 スクリーニング検査	三浦・神山・丹下・酒井
	第6回 失語・高次脳機能障害スクリーニング検査演習	神山・三浦・丹下・酒井
	第7回 総合的失語症検査演習①（SLTA）聴く	三浦・神山・丹下・酒井
	第8回 言語症状の音声表記の方法	三浦・神山・丹下・酒井
	第9回 言語症状の音声表記 演習	神山・三浦・丹下・酒井
	第10回 総合的失語症検査演習②（SLTA）話す	神山・三浦・丹下・酒井
	第11回 総合的失語症検査演習③（SLTA）話す	丹下・三浦・神山・酒井
	第12回 総合的失語症検査演習④（SLTA）読む	丹下・三浦・神山・酒井
	第13回 総合的失語症検査演習⑤（SLTA）書く	三浦・神山・丹下・酒井
	第14回 失総合的失語症検査演習⑥（WAB）	三浦・神山・丹下・酒井
	第15回 総合的失語症検査演習⑦（WAB）	神山・三浦・丹下・酒井

	第16回	総合的失語症検査演習⑧ (WAB)	神山・三浦・丹下・酒井
	第17回	失語症掘り下げ検査 演習	神山・三浦・丹下・酒井
	第18回	検査のまとめ報告書の作成演習	神山・三浦・丹下・酒井
	第19回	失語訓練の考え方と展開	神山・三浦・丹下・酒井
	第20回	失語訓練の方法	神山・三浦・丹下・酒井
	第21回	失語訓練と教材の考え方・演習	丹下・三浦・神山・酒井
	第22回	総合的知能診断検査演習① (WAISⅢ・Ⅳ)	三浦・丹下・神山・酒井
	第23回	総合的知能診断検査演習② (WAISⅢ・Ⅳ)	丹下・神山・三浦・酒井
	第24回	総合的知能診断検査演習③ (WAISⅢ・Ⅳ)	丹下・三浦・神山・酒井
	第25回	高次脳機能障害の検査演習① (WMSR・RBMT)	神山・三浦・丹下・酒井
	第26回	高次脳機能障害の検査演習② (BAD・WCST)	神山・三浦・丹下・酒井
	第27回	高次脳機能障害の検査演習③ (BIT・CAT・TMT)	神山・三浦・丹下・酒井
	第28回	認知症関連の検査演習①	神山・三浦・丹下・酒井
	第29回	認知症関連の検査演習②	三浦・丹下・神山・酒井
	第30回	ICFに沿った失語・高次脳障害者の支援を考える	三浦・神山・丹下・酒井
科目の目的	<p>これまで学んだ各領域の知識を統合し、言語系障がいを中心に一連の臨床の流れを演習を通して学ぶ。個々の検査手技の習熟と科学的な診断根拠や訓練を展開する能力を養う。一方、機能的側面にとどまらず、障がいを抱えつつ社会に生き、生活するひとりの人間として包括的にかかわる視点も重要となる。そのためには、他職種との連携、チームアプローチは必須であり、その手段のひとつとして記録記載や報告書・申し送り書の作成などコミュニケーションスキル、伝達スキルの向上も欠かせない。</p> <p>【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】</p>		
到達目標	<p>①失語・高次脳障害（認知症含む）系の鑑別に必要な評価法を選択でき、基本的な検査手技を修得できている。</p> <p>②検査結果を読み解き機能的訓練プログラムを策定でき、また、生活に則した個別的支援の方向性を考えることができる。</p> <p>③失語・高次脳機能障害系の代表的な訓練方法、支援を理解し模擬実施できる。</p>		
関連科目	基礎医学、臨床医学、心理学などの専門基礎科目群及び失語症・高次脳機能障害学、運動系障害学、聴覚系障害学などの専門科目群すべてが関連する。		
成績評価方法・基準	レポート等の提出物とその評価で30%、演習参加内容及び評価で70%、全体を100%とし60%以上得たものに単位を認定する。		

準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	特に失語症学、高次脳機能障害学、失語高次脳障害評価法、発声発語・嚥下障害評価法は、講義開始までに復習をしておくこと。事前学習に必要な時間は最低30分程度である。
教科書	専門科目の各教科書
参考書	・深浦順一・爲教哲司・内山量史編著『言語聴覚士のための臨床実習テキスト成人編』建帛社 ・各専門領域で使用している教科書、参考書
オフィス・アワー	月曜～木曜のうち講義、会議以外の時間帯。可能であれば事前にmailなどで確認をしてから訪ねて欲しい。
国家試験出題基準	VIII1-Ba～b, IX 1-B～C, IX 2-A～K, IX 3-A～C, IX 4-A～C, X 2-A～K, X 3-A～C
履修条件・履修上の注意	必要資料は、AAA配信または講義時に配布する。 演習時に必要な用具等については随時AAAにて連絡をするので忘れないように持参のこと。
アクティブ・ラーニングの実施	それぞれの検査手順及び実施の演習を行いながら、訓練、支援についてアクティブラーニングを展開する。
ナンバリング	SSx-304
実務経験のある教員による授業	
実務経験	三浦 康子（言語聴覚士）、神山 政恵（言語聴覚士）、丹下 弥生（言語聴覚士）酒井 哲郎（言語聴覚士）
授業の概要	言語障害に関する次の項目について演習形式で学ぶ。失語症、高次脳機能検査、発達検査、構音検査、吃音検査など各種言語検査。さらに、検査手順の習熟と結果の評価、訓練プログラムの立案、言語訓練、構音訓練、発声訓練、吃音訓練などの各種訓練法を学ぶ。

講義科目名称： 小児系障害演習

授業コード： 1S105

英文科目名称： Seminar in Pediatric Communication Disorders

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
齊藤 吉人	白坂 康俊	遠藤 俊介	

授業形態	講義(7回)+演習(23回) オムニバス形式で行う。		担当者
授業計画	第1回	小児領域の検査と支援のあり方 講義	遠藤俊介・ 齊藤吉人
	第2回	発達検査（新版K式発達検査） 講義	遠藤俊介・ 齊藤吉人
	第3回	発達検査（新版K式発達検査） AS	遠藤俊介・ 齊藤吉人
	第4回	知能検査、認知機能検査（WISC、WPPSI、DN-CAS、K-ABC 2） 講義	遠藤俊介・ 齊藤吉人
	第5回	知能検査演習（WISC-IV） AS	遠藤俊介・ 齊藤吉人
	第6回	知能検査演習（WISC-IV） AS	遠藤俊介・ 齊藤吉人
	第7回	知能検査演習（WPPSI-II） AS	遠藤俊介・ 齊藤吉人
	第8回	知能検査演習（WPPSI-II） AS	遠藤俊介・ 齊藤吉人
	第9回	小児の摂食嚥下障害の評価と支援 講義	齊藤吉人・ 遠藤俊介
	第10回	小児の構音障害の評価と支援 講義	齊藤吉人・ 遠藤俊介
	第11回	言語検査（L-Cスケール、LCSA、構文検査） 講義	遠藤俊介・ 齊藤吉人
	第12回	言語検査演習（L-Cスケール、LCSA） AS	遠藤俊介・ 齊藤吉人
	第13回	言語検査演習（L-Cスケール、LCSA） AS	遠藤俊介・ 齊藤吉人
	第14回	読み書き障がいの検査（STRAW-R、URAWSS、ELC） 講義	遠藤俊介・ 齊藤吉人
	第15回	読み書き検査演習（STRAW-R） AS	遠藤俊介・ 齊藤吉人
	第16回	検査・コミュニケーション実習準備 AS（問診準備・検査選定と実施準備）	遠藤俊介・ 齊藤吉人
	第17回	検査・コミュニケーション実習準備 AS（問診準備・検査選定と実施準備）	遠藤俊介・ 齊藤吉人
	第18回	実際の子どもを対象とした検査・コミュニケーション実習 AS	遠藤俊介・ 齊藤吉人
	第19回	AS実習のまとめ AS	遠藤俊介・ 齊藤吉人
	第20回	検査・コミュニケーション実習準備 AS（問診準備・検査選定と実施準備）	遠藤俊介・ 齊藤吉人
	第21回	実際の子どもを対象とした検査・コミュニケーション実習 AS	遠藤俊介・ 齊藤吉人
	第22回	AS実習のまとめ AS	遠藤俊介・ 齊藤吉人
	第23回	検査・コミュニケーション実習準備 AS（問診準備・検査選定と実施準備）	遠藤俊介・ 齊藤吉人
	第24回	実際の子どもを対象とした検査・コミュニケーション実習 AS	遠藤俊介・ 齊藤吉人
	第25回	AS実習のまとめ AS	遠藤俊介・ 齊藤吉人
	第26回	教材・おもちゃの開発 AS	白坂康俊・ 齊藤吉人・ 遠藤俊介
	第27回	教材・おもちゃの開発 AS	白坂康俊・ 齊藤吉人・ 遠藤俊介

	第28回	教材・おもちゃの開発 AS	白坂康俊・ 齊藤吉人・ 遠藤俊介
	第29回	発表 教材・おもちゃの開発 AS	白坂康俊・ 齊藤吉人・ 遠藤俊介
	第30回	発表 AS 教材・おもちゃの開発	白坂康俊・ 齊藤吉人・ 遠藤俊介
科目の目的	小児系の言語聴覚障害に向けて開発されてきた各種検査法や支援技法の演習を通して、小児の臨床で共通して求められるコミュニケーション・スキルを学ぶ。また、おもちゃや絵本の使い方を学び、それらが小児の発達支援において果たす役割を学ぶ。 ディプロマポリシー：【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各種検査法や支援技法の説明と実施ができる。 実際の子どもを対象とした検査で子どもとコミュニケーションができる。 教材や絵本が小児の発達支援において果たす役割を説明できる。 		
関連科目	聴覚障害演習・運動系障害演習・言語系障害演習・卒業研究		
成績評価方法・基準	成績評価はレポート課題(70%)、ASへの貢献度(30%)、100点満点換算で60点以上を合格とし単位を与える。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	ASで分担した課題を調査、検討し、事前にグループ内で共有しておく(60分程度)		
教科書	言語聴覚士テキスト, 第3版, 医歯薬出版, 2018		
参考書	山田弘幸編著:言語聴覚士のための心理学, 第2版, 医歯薬出版, 2020		
オフィス・アワー	月～金昼休み		
国家試験出題基準	XI-1-A～D XI-2-A～D XI-3-A～D		
履修条件・履修上の注意	AL=アクティブ・ラーニング AS=アクティブ・ラーニング・ゼミ 講義資料は講義の1週間前までにアクティブ・アカデミーにて配信する。講義当日はPCまたはタブレットで閲覧可能な状態で講義に臨むこと。		
アクティブ・ラーニングの実施	ALとASを実施する。		
ナンバリング	SSx-305		
実務経験のある教員による授業			
実務経験	齊藤 吉人(言語聴覚士)、白坂 康俊(言語聴覚士)、遠藤 俊介(言語聴覚士)		
授業の概要	聴覚障害、運動系障害、言語系障害の各論に制約されず、各障害類型に共通する臨床上的特徴や課題、スキルなどを演習形式で学ぶ。おもちゃを含む教材の創造的使用やスキルも演習する。		

講義科目名称： 卒業研究

授業コード： 1S106

英文科目名称： Graduation Studies

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	3単位	選択
担当教員	担当者		
白坂 康俊	齊藤 吉人	神山 政恵	浅見 知市郎
	三浦 康子・丹下 弥生	岡野 由実・遠藤 俊介	及川 翔・酒井 哲郎

授業形態	演習	担当者
授業計画	<p>1-5 ガイダンス 論文とはなにか。論文の種類。研究方法。</p> <p>5-15 テーマの決定 テーマの絞込み。そのための情報収集。適切な研究方法の選択・学修</p> <p>15-25 計画書作成 計画書作成。修正。学科内中間発表。</p> <p>25-35 データ収集等 テーマにそってデータ収集、調査、創作。</p> <p>35-45 論文作成・発表 論文の形式にそって作成。適切なデータ分析を含む。学科内の発表。</p>	
科目の目的	<p>卒業後臨床におけるQOL向上の支援という諸課題を自ら解決する能力を学修する。 領域としては、聴覚系、言語系、運動系の全てを、ICFのレベルでは心身機能・身体構造、活動、参加の全てのレベルを対象とする。 新たな課題、未知の課題に取り組む姿勢を学ぶために、調査研究、文献研究、実験研究、創作研究など広範な研究方法を学習する。</p>	
到達目標	<p>担当者の指導の下、テーマを見出し、研究に取り組む。 研究とは、研究の意義、必要性を理解する。臨床や基礎領域の中で課題を抽出し、研究の対象となるか判断できる。 具体的に研究テーマとして、目的設定、研究方法の選択、研究計画の作成ができる。 資料やデータ収集、実験、創作の計画などを実践し、データ等の集計・分析が行える。 これらから考察をし、適切な論文形式で作成ができる。 学科の理念に適合していることを確認できる。</p>	
関連科目	言語聴覚学科の全科目	
成績評価方法・基準	論文（論文の内容に関する口頭試問を含む）100%。100点満点の60点以上で合格とする。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各演習において、1時間程度の準備を要する。	
教科書	教科書無し。	
参考書	無し	
オフィス・アワー	担当者ごとに設定	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	資料、データ収集、考察等基本的に自主的に行うものでアクティブラーニングとなる。	
ナンバリング	SSx-306	
実務経験のある教員による授業		
実務経験	白坂 康俊（言語聴覚士）、齊藤 吉人（言語聴覚士）、神山 政恵（言語聴覚士）、三浦 康子（言語聴覚士）、丹下 弥生（言語聴覚士）、岡野 由実（言語聴覚士）、遠藤 俊介（言語聴覚士）、及川 翔（言語聴覚士）、酒井 哲郎（言語聴覚士）	
授業の概要	卒業後、自ら研究する姿勢と能力を養うことを目的に、専門科目担当教員の指導の下、テーマを定めて研究に取り組む。具体的には、研究の必要性の理解、研究課題の設定、文献検索、具体的研究テーマと目的の設定、研究方法の選択（実験研究、臨床研究）、倫理的配慮、研究計画書の作成、データの収集・集計・分析・考察、論文作成を内容とする。	

講義科目名称： 見学実習

授業コード： 1S107

英文科目名称： Clinical Tours

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
齊藤 吉人	齊藤 吉人	白坂 康俊	神山 政恵
	三浦 康子・丹下 弥生	岡野 由実・遠藤 俊介	酒井 哲郎・及川 翔

授業形態	実習学内準備：1 日間(学内) 実習施設における実習：3 日間(学外) 実習後総括：1 日間(学内)		担当者
授業計画	<p>事前学習</p> <p>1) オリエンテーション(臨床見学実習の目的、内容、課題、留意すべき点などについて理解する。) 2) 自己のコミュニケーション態度に関する学習 3) 客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination)</p> <p>学外実習</p> <p>【必須内容】</p> <p>1) 言語聴覚療法業務の見学および一部実施 2) 実習記録(観察場面の記録およびデイリーノート)</p> <p>【選択課題】</p> <p>1) カンファレンス見学 2) 教材および道具の作成補助</p> <p>事後学習</p> <p>1) 実習報告会(レジュメ作成・報告) 2) 残された課題の整理</p>		<p>齊藤, 白坂, 神山, 三浦, 丹下, 岡野, 及川</p> <p>齊藤, 白坂, 神山, 三浦, 丹下, 岡野, 及川</p> <p>齊藤, 白坂, 神山, 三浦, 丹下, 岡野, 及川</p>
科目の目的	1年次の前期講義が終了した時期に臨床現場の見学を行い、言語聴覚士として座学で学んだ知識・技術を臨床場面での実践と結びつける。また、臨床における言語聴覚療法の流れを、見学あるいは一部補助的に参加することによって体験する。担当教員全員で実施する。【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人として相応しい態度や行動、コミュニケーションをとることができる ・医療従事者を目指す者として、患者・利用者を中心に据えて常に気遣うことができる ・言語聴覚士を目指す者として、対象者との関わりを通して言語聴覚療法に必要な情報を収集し、記録することができる 		
関連科目	言語聴覚障害学概論、言語聴覚障害学演習、言語聴覚障害学診断学、地域リハビリテーション学		
成績評価方法・基準	学外実習(3日間)の評価50%、事前学習(1日間)とまとめ(1日間)の評価50%として、100点満点換算で60点以上得た者に単位を与える。詳細についてはオリエンテーション時に提示する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前学習：1日間 1) オリエンテーション(臨床見学実習の目的、内容、課題、留意すべき点などについて理解する。) 2) 自己のコミュニケーション態度に関する学習 3) 客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination: OSCE)		
教科書	なし		
参考書	なし		
オフィス・アワー	月～金の昼休み		
国家試験出題基準	VIII-1-C-a~c		
履修条件・履修上の注意	AL=アクティブ・ラーニング AS=アクティブ・ラーニング・ゼミ 事前学習・事後学習に使用する資料は前日までにアクティブ・アカデミーにて配信する。当日は各自PCまたはタブレットにて閲覧可能な状態で臨むこと。		
アクティブ・ラーニングの実施	ALとして客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination)を行う。		
ナンバリング	SSy-101		
実務経験のある教員による授業			
実務経験	齊藤 吉人(言語聴覚士)、白坂 康俊(言語聴覚士)、神山 政恵(言語聴覚士)、三浦 康子(言語聴覚士)、丹下 弥生(言語聴覚士)、岡野 由実(言語聴覚士)、遠藤 俊介(言語聴覚士)、酒井 哲郎(言語聴覚士)、及川 翔(言語聴覚士)		
授業の概要	言語聴覚療法対象者がいる施設にて臨床実習指導者の指導・監督の下、臨床実習指導者が行う言語聴覚療法を見学する。言語聴覚療法の実践場面の見学により、言語聴覚士として座学で学んだ知識・技術を臨床場面での実践と結びつけることを目的とする。加えて、社会人としての適切な振舞い以外に、医療従事者としての患者・利用者を中心に据える姿勢・責任感を学ぶ。		

講義科目名称： 観察実習

授業コード： 1S108

英文科目名称： Clinical Observation Practice

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	3単位	必修
担当教員	担当者		
齊藤 吉人	齊藤 吉人	白坂 康俊	神山 政恵
	三浦 康子・丹下 弥生	岡野 由実・遠藤 俊介	酒井 哲郎・及川 翔

授業形態	実習学内準備：2日間(学内) 実習施設における実習：2週間(学外) 実習後総括：3日間(学内)		担当者
授業計画	<p>事前学習</p> <p>1) オリエンテーション (臨床見学実習の目的、内容、課題、留意すべき点などについて理解する。)</p> <p>2) 自己のコミュニケーション態度に関する学習</p> <p>3) 客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination: OSCE)</p> <p>学外実習</p> <p>【必須内容】</p> <p>1) 言語聴覚療法業務の観察および一部実施</p> <p>2) 実習記録 (観察場面の記録およびデシリノート)</p> <p>【選択課題】</p> <p>1) カンファレンス見学</p> <p>2) 教材および道具の作成補助</p> <p>事後学習</p> <p>1) 実習報告会 (レジュメ作成・報告)</p> <p>2) 残された課題の整理</p>		<p>齊藤, 白坂, 神山, 三浦, 丹下, 岡野, 遠藤, 酒井, 及川</p> <p>齊藤, 白坂, 神山, 三浦, 丹下, 岡野, 遠藤, 及川</p> <p>齊藤, 白坂, 神山, 三浦, 丹下, 岡野, 遠藤, 酒井, 及川</p>
科目の目的	2年次の後期講義が終了した時期に、臨床現場にて対象者の心身の状態や行動を観察することにより、疾患による言語聴覚や摂食・嚥下への影響(病態)を適切な表現で記述し、考察する。対象者の情報と観察で得た情報をICFに沿って統合することにより、対象者に対して行われているリハビリテーションの全体像を把握する。担当教員全員で実施する。【基本的知識と技術】 【コミュニケーション能力】 【知的探求能力】 【人間力と倫理観】		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人として相応しい態度や行動、コミュニケーションをとることができる ・医療従事者を目指す者として、患者・利用者を中心に据えて常に気遣うことができる ・言語聴覚士を目指す者として、見学内容を正しく観察し、記録することができる 		
関連科目	言語聴覚障害学概論、言語聴覚障害学演習、言語聴覚障害診断学、地域リハビリテーション学、見学実習、評価実習、統合実習		
成績評価方法・基準	学外実習 (2週間) の評価50%、事前学習 (2日間) と実習後総括 (3日間) の評価50%として、100点満点換算で60点以上得た者に単位を与える。詳細についてはオリエンテーション時に提示する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前学習：2日間 1) オリエンテーション (臨床見学実習の目的、内容、課題、留意すべき点などについて理解する。) 2) 自己のコミュニケーション態度に関する学習 3) 客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination: OSCE)		
教科書	なし		
参考書	なし		
オフィス・アワー	月～金の昼休み		
国家試験出題基準	VIII-1-C-a~c		
履修条件・履修上の注意	事前学習・事後学習に使用する資料は前日までにアクティブ・アカデミーにて配信する。当日は各自PCまたはタブレットで閲覧可能な状態で臨むこと。		
アクティブ・ラーニングの実施	実施しない。		
ナンバリング	SSy-201		
実務経験のある教員による授業			
実務経験	齊藤 吉人 (言語聴覚士)、白坂 康俊 (言語聴覚士)、神山 政恵 (言語聴覚士)、三浦 康子 (言語聴覚士)、丹下 弥生 (言語聴覚士)、岡野 由実 (言語聴覚士)、遠藤 俊介 (言語聴覚士)、及川 翔 (言語聴覚士)、酒井 哲郎 (言語聴覚士)		
授業の概要	言語聴覚療法対象者がいる施設にて臨床実習指導者の指導・監督の下、臨床実習指導者が行う言語聴覚療法を観察あるいは一部実施する。対象者の情報と心身の状態や行動の観察を行い、疾患による言語聴覚や摂食嚥下への影響 (病態) を考え、病歴 (障害歴) を適切な表現を用いて記述できる		

	ようになることを目的とする。さらに、対象者との会話を通して、対象者の全体像を把握し、情報を収集する。
--	--

講義科目名称： 評価実習

授業コード： 1S109

英文科目名称： Clinical Assessment Practice

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	6単位	必修
担当教員	担当者		
白坂 康俊	齊藤 吉人	神山 政恵	三浦 康子
	丹下 弥生	岡野 由実・遠藤 俊介	酒井 哲郎・及川 翔

授業形態	実習		担当者
授業計画	<p>事前学習 1) オリエンテーション（臨床見学実習の目的、内容、課題、留意すべき点などについて理解する。） 2) 自己のコミュニケーション態度に関する学習 3) 客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination)</p> <p>学外実習 評価の見学および評価の実施 一部支援プログラムの立案 実習記録作成</p> <p>事後学習 1) 実習報告会（レジュメ作成・報告） 2) 残された課題の整理</p>		<p>全担当者</p> <p>学外実習指導者</p> <p>全担当者</p>
科目の目的	<p>言語障害の機能的な評価ならびにICFにそった評価が、標準的な条件下で一定の水準で実施できる能力を得る。 実習施設の状況に応じて、ICFの評価を理解する。 評価が、その後の支援プログラム立案と支援の実践にどうつながるか想定できる。</p>		
到達目標	<p>言語障害の病態観察、情報収集ができ、そこから聴覚系、言語系、運動系のいずれの系統の疾患か区別できる。 その上で、障害類型の鑑別ができる。 上記に必要な、検査・評価の選択、実施が停滞なく行える。 検査結果から適切に評価ができ、機能訓練、指導、AACの適応などの立案ができる。 ICFについて理解し、実習施設の範囲内でICF評価ができ、支援計画が立案できる。</p>		
関連科目	基礎科目、専門基礎科目		
成績評価方法・基準	<p>学外実習（5週間・25日間）の評価50%、事前学習（2日間）とまとめ（3日間）の評価50%として、100点満点換算で60点以上得た者に単位を与える。詳細についてはオリエンテーション時に提示する。</p>		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>1) オリエンテーション（臨床見学実習の目的、内容、課題、留意すべき点などについて理解する。） 2) 自己のコミュニケーション態度に関する学習 3) 客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination : OSCE)</p>		
教科書	教科書無し 参考書；これまで使用した教科書、参考書		
参考書	なし		
オフィス・アワー	学内では、各担当者が設定		
国家試験出題基準	VIII 2 Aa-c, 2Ba-c		
履修条件・履修上の注意	事前学習・事後学習に使用する資料は前日までにアクティブ・アカデミーにて配信する。当日は各自PCまたはタブレットにて閲覧可能な状態で臨むこと。		
アクティブ・ラーニングの実施	客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination : OSCE)		
ナンバリング	SSy-301		
実務経験のある教員による授業			
実務経験	白坂 康俊（言語聴覚士）、齊藤 吉人（言語聴覚士）、神山 政恵（言語聴覚士）、三浦 康子（言語聴覚士）、丹下 弥生（言語聴覚士）、岡野 由実（言語聴覚士）、遠藤 俊介（言語聴覚士）、及川 翔（言語聴覚士）、酒井 哲郎（言語聴覚士）		
授業の概要	<p>言語聴覚療法対象者がいる施設にて指導者の指導・監督の下、指導者が行う言語聴覚療法を見学あるいは一部実施する。対象者の身体・行動の観察、情報の収集、病歴（障害歴）記述、検査の実施と所見記述、言語聴覚や摂食嚥下の問題点の列挙と明確化ができるようになることを目的とし、さらにそれらに基づいて言語聴覚療法訓練の目標設定を行うことを試みる。</p>		

講義科目名称： 統合実習

授業コード： 1S110

英文科目名称： Clinical Integrated Practice

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	6単位	必修
担当教員	担当者		
白坂 康俊	齊藤 吉人	神山 政恵	三浦 康子
	丹下 弥生	岡野由美・遠藤俊介	酒井 哲郎・及川 翔

授業形態	実習		担当者
授業計画	<p>事前学習 1) オリエンテーション（統合実習の目的、内容、課題、留意すべき点などについて理解する。） 2) 自己のコミュニケーション態度に関する学習 3) 客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination)</p> <p>学外実習 評価の見学および評価の実施。ICFに沿った心身機能、活動、参加レベルの支援の見学および実施 一部支援プログラムの立案 実習記録作成</p> <p>事後学習 1) 実習報告会（レジュメ作成・報告） 2) 残された課題の整理</p>		全担当者 学外実習指導者 全担当者
科目の目的	言語障害の機能的な評価ならびにICFにそった評価が、標準的な条件下で一定の水準で実施できる能力を得る。 実習施設の状況に応じて、ICFの評価を理解する。 評価に基づき、ICFにそった心身機能、活動、参加レベルの支援プログラムが立案できる。 プログラムにそって、指導者の指導のもとで支援の実践を行うことができる。		
到達目標	言語障害の病態観察、情報収集ができ、そこから聴覚系、言語系、運動系のいずれの系統の疾患か区別できる。その上で、障害類型の鑑別ができる。上記に必要な、検査・評価の選択、実施が停滞なく行える。検査結果から適切に評価ができ、機能訓練、指導、AACの適応などの立案ができる。 ICFについて理解し、実習施設の範囲内でICF評価ができ、ICFにそった心身機能、活動、参加の各レベルで支援計画が立案でき、かつ実習指導者の指導のもとで適切に実践できる。 実習指導者の指導なくして支援プログラムが立案できること、さらに指導のない状況で的確に支援を実践できることは目標としない。 卒業後、現場における研修や指導を受けた際に十分に理解でき、習得できること、その後、一年程度の研修指導を受けた段階で独立して的確に評価と支援ができる段階に至れることを目標とする。		
関連科目	基礎科目、専門基礎科目		
成績評価方法・基準	学外実習（5週間＝25日間）の評価50%、事前学習（2日間）とまとめ（3日間）の評価50%として、100点満点換算で60点以上得た者に単位を与える。詳細についてはオリエンテーション時に提示する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1) オリエンテーション（臨床見学実習の目的、内容、課題、留意すべき点などについて理解する。） 2) 自己のコミュニケーション態度に関する学習 3) 客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination : OSCE)		
教科書	教科書無し 参考書；これまで使用した教科書、参考書		
参考書	無し		
オフィス・アワー	学内では、各担当者が設定		
国家試験出題基準	VIII1Bb		
履修条件・履修上の注意	事前学習・事後学習に使用する資料は前日までにアクティブ・アカデミーにて配信する。当日は各自PCまたはタブレットにて閲覧可能な状態で臨むこと。		
アクティブ・ラーニングの実施	客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination : OSCE)		
ナンバリング	SSy-401		
実務経験のある教員による授業			
実務経験	白坂 康俊（言語聴覚士）、齊藤 吉人（言語聴覚士）、神山 政恵（言語聴覚士）、三浦 康子（言語聴覚士）、丹下 弥生（言語聴覚士）、岡野 由実（言語聴覚士）、遠藤 俊介（言語聴覚士）、及川 翔（言語聴覚士）、酒井 哲郎（言語聴覚士）		
授業の概要	3年次までに学習した知識や技術をベースに、外部臨床実習施設にて実際の臨床場面で言語聴覚士の役割、臨床に必要な最小限の知識ならびに技能を学ぶことを目的とし、以下の学習を体験する。1) 適切な記録の取り方や報告の仕方を学ぶ。2) 言語聴覚療法に係る検査の実施を含む評価、情報収集		

の実際を学ぶ。3)問題点を抽出し、言語聴覚療法におけるリハビリテーションの計画の立案・実践を学ぶ。4)言語聴覚士としての臨床を行う意欲を高める。5)言語聴覚療法の対象者やその家族、多職種との良好なコミュニケーション態度を身に付ける。